

西横野中部地区遺跡群

人見西原遺跡

人見坂ノ上遺跡

人見三本松遺跡

人見上ノ原遺跡

人見上西原遺跡

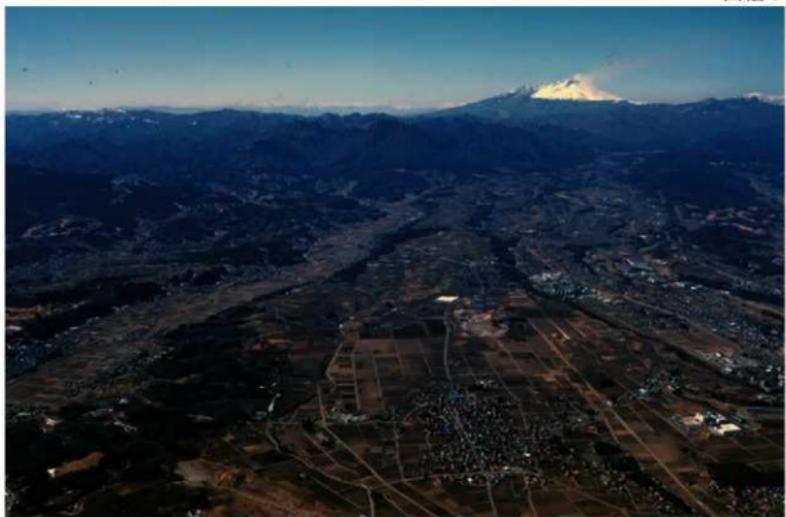
—県営農地整備事業松義中部地区に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書—

《第1分冊》

2017

群馬県安中市教育委員会



西横野中部地区遺跡群 遠景（東より）



人見西原遺跡（手前・中央左）と人見坂ノ上遺跡（中央右端）

図絵 2



人見三本松遺跡 A 区 古墳時代集落と道路状遺構（南東より）



人見三本松遺跡 D 区 区画溝（東より）



人見三本松遺跡C区 T字状に交わる区画溝と道路状遺構（上が北東）



人見三本松遺跡C区 台地縁辺に延びる区画溝（左）と道路状遺構（中央）

図絵4



人見上西原遺跡（手前）と二軒在家原田遺跡 遠景（東より）



人見上西原遺跡（中央）と人見上ノ原遺跡（南より）

図絵 5



人見上西原遺跡 区画溝と古代集落（上が南）



二軒在家原田遺跡 A 区 繩文時代集落（上が西）

図絵 6



二軒在家原田遺跡C区 繩文時代集落（上が北）



二軒在家原田遺跡C区 J-21号住居址（東より）



二軒在家原田Ⅱ遺跡 遠景（東より）



二軒在家原田Ⅱ遺跡 全景（上が北）

図絵 8



二軒在家原田Ⅱ遺跡A区 繩文時代前・中期の住居址群（上が東）



二軒在家原田Ⅱ遺跡H区 繩文時代後期の住居址群（上が西）



二軒在家原田II遺跡A区 1号弧状列石（北より）



二軒在家原田II遺跡H区 配石墓群（東より）

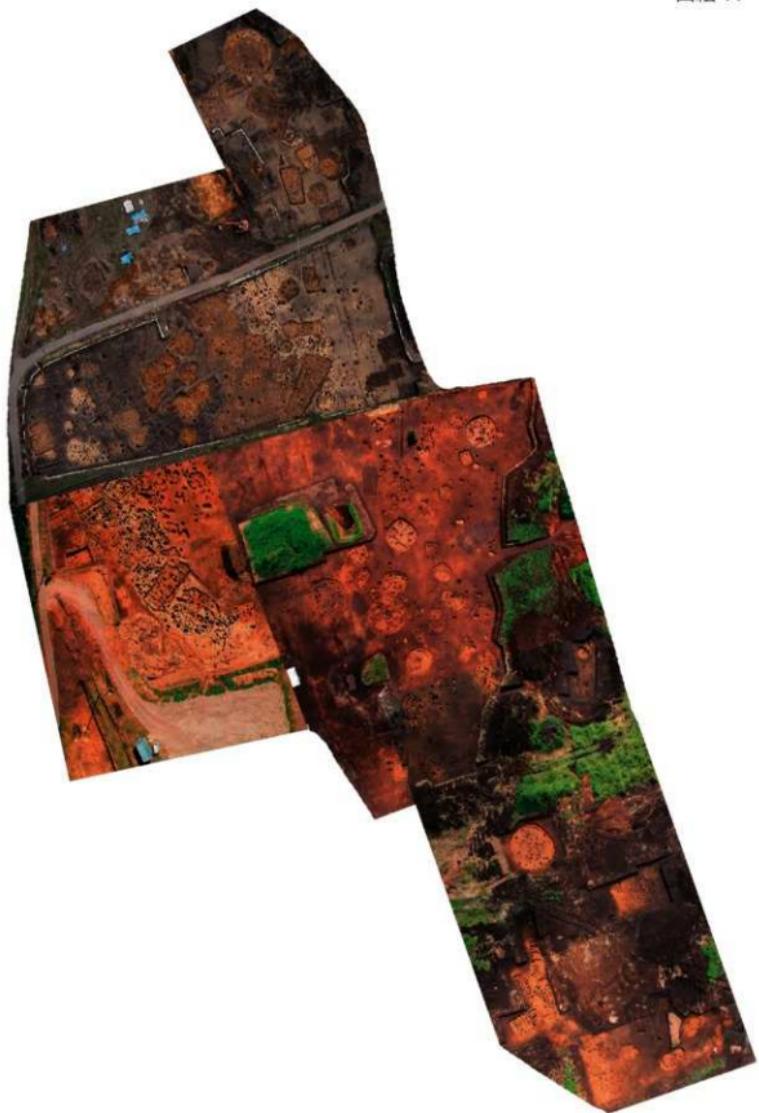
図版 10



二軒在家原田Ⅱ遺跡A区 J-61号住居址 敷石検出状況（南より）



二軒在家原田Ⅱ遺跡A区 J-100号住居址 遺物検出状況（東より）



二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡 調査区全景合成写真（原田B区除く）

図版 12



二軒在家原田頭遺跡 A・B区 弥生時代中期集落（上が北）



二軒在家原田頭遺跡 古代の区画溝（西より）



行田二本杉原東遺跡 古代の区画溝（東より）



行田二本杉原東遺跡 調査区全景（上が北）

口絵 14



人見西原遺跡 A 区 H-13 号住居址出土布留囊



二軒在家原田 II 遺跡 A 区 J-100 号住居址出土縄文土器群

序

群馬県の西部に位置する安中市は奇峰妙義山・清流碓氷川等を有する緑豊かな田園都市です。古来より交通の要衝として栄えた本市には、古代律令体制下の官道である東山道、近世の中山道、そして近代にはアプト式鉄道などがあり、常に様々な文化がもたらされてきました。それら一つ一つが礎となり、現在の安中市が築かれているのです。

さて、ここに報告致します「西横野中部地区遺跡群」は、安中市南部の横野台地上に位置しています。横野台地は本市と富岡市の境界付近に展開する比較的平坦で幅の広い丘陵であり、市内においては主要な畑作地帯の一つです。平成20年度から26年度まで7年間の長きにわたり実施された発掘調査は、この地域に大型機械化農業に適合する優良農地を生み出すための土地改良事業に伴うものです。調査の結果、縄文時代前・中期の大集落（二軒在家原田遺跡・二軒在家原田II遺跡）、県内でも類例の少ない弥生時代中期後半の集落（二軒在家原田頭遺跡）、また古墳時代前・中期の集落（人見西原遺跡・人見三本松遺跡）、律令体制期の道路址（人見三本松遺跡）、古代牧との関係が指摘されている大規模な区画溝と集落（人見坂ノ上遺跡・人見三本松遺跡・人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡、行田二本杉原東遺跡）など、貴重な遺跡・遺構が多数確認されました。

遺跡地からは妙義山をはじめとする西上州の山々、遠く上信越の山々を望むことができます。現在ではこんなにやく・ごぼうを中心いて市内有数の畑作地帯となっているこの地において、古く縄文時代から多くの先人たちの生活が営まれていたことが明らかになったのです。今回の発掘調査により、安中市の原始・古代の歴史に新しい1ページを加えることができました。このように、一つ一つの調査を積み重ね、私たちが生きている現在までの道筋を確認し未来に伝えていくことは、今を生きる私たちの重要な責務であると考えます。調査された遺跡は二度と元の姿に戻すことができません。本報告書が西横野地区的歴史を解明する一助となり、幅広く活用されることを祈念しております。

最後になりましたが、調査に参加された皆様、報告書刊行に至るまでご指導・ご協力をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げ、序と致します。

平成29年3月

安中市教育委員会
教育長 桑原 幸正

例　言

1　本書は群馬県西部農業事務所が計画した「県営農地整備事業松義中部地区」に伴い、安中市教育委員会が平成20年度から28年度に発掘調査および資料整理を実施した、西横野中部地区遺跡群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。発掘調査成果については平成21年度から26年度までの間、年度ごとに調査概要報告書を6冊刊行しているが、本報告の内容をもって正式報告とする。

本書は全4分冊で構成されており、第1分冊に人見西原・坂ノ上遺跡、人見三本松・上ノ原・上西原遺跡。第2分冊に二軒在家原田・原田II遺跡、第3分冊に二軒在家原田頭・行田二本杉原東遺跡の調査報告を、第4分冊に各遺跡の遺構と遺物写真をそれぞれ所収している。なお、本書掲載の本文・図版・写真と、紙面の都合により本書中に掲載できなかったデータは付属DVDに収めた。

2　調査した遺跡の所在地は下記のとおりである。

人見西原遺跡　（遺跡略称N-6） 安中市松井田町人見字西原地内
人見坂ノ上遺跡　（遺跡略称N-6） 安中市松井田町人見字坂ノ上地内
人見三本松遺跡　（遺跡略称N-10） 安中市松井田町人見字三本松地内
人見上ノ原遺跡　（遺跡略称N-12） 安中市松井田町人見字上ノ原地内
人見上西原遺跡　（遺跡略称N-13） 安中市松井田町人見字上西原地内
二軒在家原田遺跡　（遺跡略称N-14） 安中市松井田町二軒在家字原田地内
二軒在家原田II遺跡　（遺跡略称N-16） 安中市松井田町二軒在家字原田地内
二軒在家原田頭遺跡　（遺跡略称N-17） 安中市松井田町二軒在家字原田頭地内
行田二本杉原東遺跡　（遺跡略称N-18） 安中市松井田町行田字二本杉原東地内

3　発掘調査および資料整理は西部農業事務所からの委託金と、農家負担分については国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁補助金、平成20～27年度）、群馬県文化財保存事業費補助金（平成20～27年度）ならびに安中市費により実施した。

4　発掘調査は安中市教育委員会が直営で実施した。調査は作物収穫後の冬に確認調査を開始し、翌年度の秋まで本調査を実施することを基本とし、凡そ下表スケジュールのとおり行った。また、各年度の調査担当者も同表に記した。なお、二軒在家原田遺跡の調査については下記担当者のほか、安中市教育委員会井上慎也と瀧川伸男がこれを補佐した。

調査遺跡名	確認調査期間	本調査期間	調査担当
人見西原遺跡	2008.12.03～2009.03.19	2008.12.03～2009.03.19	安中市教育委員会 千田茂雄
人見坂ノ上遺跡	2009.04.23～2009.11.09	2009.04.23～2009.11.09	毛野考古学研究所 石丸歎史 安中市教育委員会 穂 勝明
人見三本松遺跡	2009.12.01～2010.03.09	2010.04.22～2010.09.28	安中市教育委員会 千田茂雄 毛野考古学研究所 石丸歎史
人見上ノ原遺跡	2010.11.25～2011.03.16	2010.11.25～2011.03.16	安中市教育委員会 穂 勝明
人見上西原遺跡	2010.11.25～2011.03.16	2010.11.25～2011.03.16	安中市教育委員会 齋原龍彦
二軒在家原田遺跡	2010.11.25～2011.03.18	2011.05.12～2011.11.14	毛野考古学研究所 渡間 陽 安中市行政事務課嘱託 穂 勝明
二軒在家原田II遺跡	2011.11.25～2012.03.13	2012.05.01～2012.10.15	安中市教育委員会 齋原龍彦 安中市行政事務課嘱託 穂 勝明
二軒在家原田頭遺跡	2012.12.05～2013.03.25	2013.05.07～2013.09.24	安中市教育委員会 齋原龍彦 安中市行政事務課嘱託 穂 勝明
行田二本杉原東遺跡	2013.12.16～2014.03.20	2014.05.22～2014.07.16	安中市教育委員会 齊原龍彦 安中市行政事務課嘱託 穂 勝明

5 調査組織 安中市教育委員会事務局（平成20年度～28年度）

(平成20年度)

教育長	中澤四郎
教育部長	富澤春寿（～5月） 本多英夫（5月～）
学習の森所長	小島成公
文化財係長（課長補佐）	藤巻正勝（事務総括）
主査	蜂須賀まゆみ（経理担当）
主査（文化財保護主事）	壁 伸明
主査（文化財保護主事）	千田茂雄（調査担当）
主査（文化財保護主事）	深町 真
主査	新井雅彦
主任（文化財保護主事）	井上慎也

(平成22年度)

教育長	中澤四郎
教育部長	本多英夫
学習の森所長	神宮裕子
文化財係長（課長補佐）	藤巻正勝（事務総括）
主査	蜂須賀まゆみ（経理担当）
主査（文化財保護主事）	壁 伸明（調査担当）
主査（文化財保護主事）	深町 真
主査（文化財保護主事）	井上慎也
主事	小此木克之
主事補	菅原龍彦（調査担当）

(平成24年度)

教育長	中澤四郎
教育部長	佐俣信之
学習の森所長	佐藤房之
文化財係長（主幹）	藤巻正勝（事務総括）
主査	原久美子（経理担当）
主査	瀧川仲男
主査（文化財保護主事）	深町 真
主査（文化財保護主事）	井上慎也
主事	小此木克之
主事	菅原龍彦（調査担当）
市行政事務嘱託	壁 伸明（整理担当）

(平成21年度)

教育長	中澤四郎
教育部長	本多英夫
学習の森所長	小島成公
文化財係長（課長補佐）	藤巻正勝（事務総括）
主査	蜂須賀まゆみ（経理担当）
主査（文化財保護主事）	壁 伸明
主査（文化財保護主事）	千田茂雄（調査担当）
主査（文化財保護主事）	深町 真
主任（文化財保護主事）	井上慎也
主事補	小此木克之
（有）毛野考古学研究所	石丸敦史（調査担当）

(平成23年度)

教育長	中澤四郎
教育部長	佐俣信之
学習の森所長	佐藤房之
文化財係長（課長補佐）	藤巻正勝（事務総括）
主査	蜂須賀まゆみ（経理担当）
主査	瀧川仲男
主査（文化財保護主事）	深町 真
主査（文化財保護主事）	井上慎也
主事	小此木克之
主事	菅原龍彦（調査担当）
（有）毛野考古学研究所	浅間 陽（調査担当）
市行政事務嘱託	壁 伸明（整理担当）

(平成25年度)

教育長	中澤四郎
教育部長	佐俣信之
学習の森所長	佐藤房之
発掘調査係長（課長補佐）	千田茂雄（事務総括）
主査	原久美子（経理担当）
主査	瀧川仲男
主査（文化財保護主事）	井上慎也
主事	菅原龍彦（調査担当）
市行政事務嘱託	壁 伸明（整理担当）

(平成26年度)		(平成27年度)	
教育長	中澤四郎（～5月） 桑原幸正（5月～）	教育長	桑原幸正
教育部長	佐俣信之（～10月） 田村昌俊（10月～）	教育部長	田村昌俊
文化財保護課長	須藤 朗	文化財保護課長	須藤 朗
埋蔵文化財係長（課長補佐）	千田茂雄（事務総括）	埋蔵文化財係長（主幹）	千田茂雄（事務総括）
文化財活用係主任	佐野亨介（経理担当）	主査（文化財保護主事）	瀧川伸男（経理担当）
埋蔵文化財係主査	瀧川伸男	主事（文化財保護主事）	菅原龍彦（整理担当）
主査（文化財保護主事）	井上慎也	市行政事務嘱託	壁 伸明（整理担当）
主事（文化財保護主事）	菅原龍彦（調査担当）		
市行政事務嘱託	壁 伸明（整理担当）		
(平成28年度)			
教育長	桑原幸正		
教育部長	田村昌俊		
文化財保護課長（参事）	須藤 朗		
埋蔵文化財係長（主幹）	千田茂雄（事務総括）		
主査	小川知哉（経理担当）		
主査（文化財保護主事）	井上慎也		
主事（文化財保護主事）	菅原龍彦（整理担当）		

- 6 本書の執筆は壁が、全体の編集は主として菅原が行い、鬼形敦子がこれを補佐した。
 なお、「Ⅲ人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡」の1～3については石丸が執筆したものに、菅原が若干の編集を加えた。それ以外の分担については文頭、または文末に執筆者名を記した。
- 7 遺構写真の撮影については各遺跡の調査担当者が行った。遺物写真の撮影は壁・菅原が行い、中里徳子・廣上良枝・鬼形がこれを補佐した。遺構の航空写真撮影は㈱測研、㈱シン技術コンサルが行った。
- 8 基準杭測量、グリッド設定、調査区平面図の作成および遺構測量の一部は㈱測研、㈱大成測量、城峰測量、よしだに委託した。
- 9 遺物整理は壁が全体の統括を行い、鬼形、中里、廣上、菅原が補佐した。なお、縄文・弥生・古墳時代および古代の土器・石器実測とトレース作業の一部を（有）毛野考古学研究所に、二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡の縄文時代石器の分類・観察・写真撮影等については（有）アルケーリサーチに委託した。また、二軒在家原田頭遺跡の弥生時代石器実測およびトレース、観察表とこれにかかる原稿作成は主に井上が行った。
- 10 二軒在家原田頭遺跡の自然科学分析はパリノ・サーヴェイ園に、黒曜石の产地同定分析は㈱バレオ・ラボにそれぞれ委託した。また、石器の使用痕分析は高瀬克範氏、土器付着圧痕のレプリカ法調査については遠藤英子氏から、それぞれ玉稿を賜った。

- 11 出土遺物・資料等は安中市教育委員会が保管している。
- 12 発掘調査ならびに整理作業にあたっては、次の方々・機関よりご教示・ご協力をいただいた。
記して感謝の意を表します。(敬称略・順不同)
- 浅間陽 有山徑世 石丸敦史 遠藤英子 大木紳一郎 小倉淳一 片野雄介 川原秀夫 木下雅康
腰塚徳司 坂口一 坂爪久純 笹沢泰史 清水司 鈴木徳雄 鈴木靖民 関根慎二 大工原豊
高瀬克範 高橋清文 谷藤保彦 土井道昭 外山政子 永井尚寿 長井正欣 長谷川博幸 馬場伸一郎
日沖剛史 深澤敦仁 藤波啓容 三浦京子 右島和夫 水田雅美 南田法正 宮本久子 山口逸弘
山本千春 湯本今朝夫 横尾好之 若狭徹 和久拓照 群馬県西部農業事務所 富岡市教育委員会
松義台地土地改良区 (有)アルケーリサーチ (有)毛野考古学研究所 パリノ・サーヴェイ(株)
(株)パレオ・ラボ ユーキ建設(株)

13 発掘調査・遺物整理從事者

生駒朝男 伊藤あかね 今井保美 岩井英雄 岩坂康男 上原重行 上原上 上原美淑 宇佐美璋一
大沢早知子 大月圭子 大手啓子 鬼形敦子 鬼形栄子 金井美由紀 小野毅 黒田廣美 阪西武
佐藤敦 佐藤いし 佐藤なみ江 佐保三吉 沢田かずえ 塩谷とめ子 清水昭代 清水正 須賀喬
須賀ユミ子 須藤利夫 須藤はるの 須藤豊 染谷綾子 染谷孔明 曽山時夫 鷹野務 高橋修二
高橋文夫 竹井五郎 武田文吉 多胡栄夫 多胡茂子 多胡靜 多胡わぐり 田島せい子 田中吉男
田村信子 田村雄大 遠間宰吉 戸高久暉 富澤佐知江 中里徳子 櫻島太郎 根岸紀和代 野口義則
萩原真一 萩原治枝 橋爪千昭 林知曠 半田あい 半田強 廣上良枝 広瀬洋子 廣瀬良平
藤井みゆき 堀口千里 町田千明 黒田正和 宮口知三 村井田加代子 村瀬希久雄 村椿健 矢島幸一
湯本久江 湯本優志 吉川ひろ子 和田テル子 安中一中および二中の生徒(職場体験学習)

凡 例

- 遺構実測図は1/80を基本としている。これ以外については図中に縮尺を記した。
- 遺物実測図および遺物写真は1/4を基本としている。これ以外については図中に縮尺を記した。
- 遺構図中の北マークは国家座標の北を表している。座標系は世界測地系を使用した。なお、遺構図において大小英数字を組み合わせたグリッド表示(例:A-1、1B-20など)は全遺跡で共通なものではなく、各遺跡ごとあるいは隣接遺跡単位において適用されるものである。
- 土層説明中の記号・略称は次のとおりである。
土層名称及び量の基準:「新版標準土色帖」による。

色調 < : より明るい方向を示す(暗<明)

しまり、粘性 ◎:あり ○:ややあり △:あまりない ×:なし

混入物の量 ◎:大量(30~50%) ○:多量(15~25%) △:少量(5~10%)
※:若干(1~3%) ×:なし

混入物 R P:ローム粒子(溶け込んだ状態) R B:ロームブロック(固まりの状態)
Y P:浅間板鼻黄色軽石

5 土層断面図中の層番に使用したローマ数字は、本遺跡群及び周辺遺跡群における基本土層を示している。ここでは代表的な土層例および各遺跡の標準的な土層模式図を示す。

(西横野中部地区遺跡群 共通基本土層)

層番	土層の特徴									
I	黒褐色土層…いわゆる表土・耕作土（Ia）。特にAn-Aの純層は1bとし、これと区別する。									
II	黄褐色土層…An-Bは混じらず、1108年降下のAn-Bが混入する（IIa）。特にAn-Bの純層は1bとし、これと区別する。									
III	黒褐色土層…An-Bを混入しない土層。上位に4世紀初期降下のAn-Cを含むことがある。弥生時代以降の遺物を包含する。									
IV	黒褐色土層…YPやローム粒子を含む、しまった土層。上面は弥生時代以降の遺構確認面。縄文時代の遺物を包含する。									
V	暗黄褐色土層…いわゆるローム層。									

(人見西原・人見坂ノ上遺跡)

層番	層名	色調	しまり	粒性	器人物				備考	
					R P	R B	An-A	An-B	Cf和	既
I	黒褐色土層10YR	○	×	×	○	×	×	×	×	耕作土
II	黄褐色土層7.5YR	×	×	×	×	○	×	×	×	An-B純層
III	黒褐色土層10YR	3<2	○	○	●	×	×	△	×	○
IV	黒褐色土層10YR	○	○	△	△	○	×	△	×	
V	暗黄褐色土層10YR	○	○	○	○	×	×	×	×	ローム層

(人見三本松遺跡)

層番	層名	色調	しまり	粒性	器人物				備考	
					R P	R B	An-A	An-B	Cf和	既
I	黒褐色土層10YR	○	×	×	○	○	○	○	○	耕作土
II	黄褐色土層7.5YR	×	×	×	×	×	○	○	○	An-B純層
III	黒褐色土層10YR	○	○	●	×	×	△	○	○	
IV	黒褐色土層10YR	○	○	△	△	○	×	△	○	
V	暗黄褐色土層10YR	○	○	○	○	×	×	×	○	ローム層

(人見上ノ原・人見上西原、二軒在家原田・二軒在家原田II遺跡)

層番	層名	色調	しまり	粒性	器人物				備考	
					R P	R B	An-A	An-B	Cf和	既
I	黒褐色土層…いわゆる表土・耕作土（Ia）。An-Aの純層（Ib）は確認されなかった。									
II	黒褐色土層…1108年降下のAn-Bの純層（IIa）。An-Bの純層（IIb）が部分的に、漆喰壁土上段などで確認される。									
III	黒色土層…An-Bを混入しない位の土層。粒性がある。									
IV	暗褐色土層…An-Bを混入しない位の土層。粒性がある。									
V	暗黄褐色土層…いわゆるローム層。									

(二軒在家原田頭遺跡)

層番	層名	色調	しまり	粒性	器人物				備考	
					R P	R B	An-A	An-B	Cf和	既
I	黒褐色土層…いわゆる表土・耕作土（Ia）。An-Aの純層（Ib）は確認されなかった。									
II	黒褐色土層…1108年降下のAn-Bの純層（IIa）。An-Bの純層（IIb）が部分的に、漆喰壁土上段などで確認された。									
III	黒色土層…An-Bを混入しない位の土層。粒性がある。									
IV	暗褐色土層…An-Bを混入しない位の土層。粒性がある。									
V	暗黄褐色土層…いわゆるローム層。									

(行田二本杉原東遺跡)

層番	層名	色調	しまり	粒性	器人物				備考	
					R P	R B	An-A	An-B	Cf和	既
I	黒褐色土層…いわゆる表土・耕作土（Ia）。An-Aの純層（Ib）は確認されなかった。									
II	黒褐色土層…1108年降下のAn-Bの純層（IIa）。An-Bの純層（IIb）が部分的に、漆喰壁土上段などで確認された。									
III	黒色土層…An-Bを混入しない位の土層。粒性がある。									
IV	暗褐色土層…An-Bを混入しない位の土層。粒性がある。									
V	暗黄褐色土層…いわゆるローム層。									

- 6 住居址遺構図中における土坑・ピットなどのスクリーントーンが表す深さは次のとおりである。

○ 0~19cm ● 20~39cm ▨ 40~59cm ■ 60cm以上

- 7 遺物分布図については、各報告遺跡における遺構の帰属時期や性格、また出土遺物の種類や量に違いがあるため、遺跡ごとに完結するよう記号の種類・大きさ等を使い分けている。下表を基本とするが、これ以外については適宜、凡例を添える。

人見西原・人見坂ノ上遺跡

	10g	100g	1.000g	10.000g		10g	100g	1.000g	10.000g
土師器甕系	■	■	■	■	縄文土器	●	●	●	●
土師器环系	●	●	●	●	その他 弥生土器	▲	▲	▲	▲
須恵器甕系	○	○	○	○					
須恵器环系	□	□	□	□					

人見三本松・上ノ原・上西原・二軒在家原田・二軒在家原田II遺跡

	10g	100g	1.000g			10g	100g	1.000g	10.000g
土師器環系	■	■	■	縄文土器	■	●	●	●	●
土師器甕系	●	●	●	その他	▲	▲	▲	▲	
須恵器環系	□	□	□						
須恵器甕系	○	○	○						
須恵器	○	○	○						

二軒在家原田頭遺跡

	10g	100g	1.000g
縄文土器	●	●	●
弥生土器甕系	●	★	★
弥生土器環系	★	★	☆

- 8 出土遺物図版中の ■ は、内黒を表している。

- 9 本文及び表中等で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いている。

浅間A軽石：As-A 浅間B軽石：As-B 浅間C軽石：As-C 浅間板鼻黄色軽石層：As-YP

浅間板鼻褐色軽石群：As-BPGroup

- 10 遺構および遺物観察表内の () は推定値を、< > は残存値を示している。

- 11 本文及び図版中において遺跡名は英数字を用いた前掲の略称のほか、下記のとおり省略して表記している場合がある。

人見西原遺跡	→ 西原遺跡	人見坂ノ上遺跡	→ 坂ノ上遺跡
人見上ノ原遺跡	→ 上ノ原遺跡	人見上西原遺跡	→ 上西原遺跡
二軒在家原田遺跡	→ 原田遺跡	二軒在家原田II遺跡	→ 原田II遺跡
二軒在家原田頭遺跡	→ 原田頭遺跡	行田二本杉原東遺跡	→ 二本杉原東遺跡

12 本報告書における石器の分類および分析視点は安中市における従来の基準に従い、石器の器種・形態および石材組成に主眼を置いている。分類表は下表のとおり。なお、この基準は主として縄文時代石器を対象としているが、状況に応じて弥生時代石器についても一部援用している。これ以外については適宜、凡例を添える。

系列種別	器種系列(類)	種別	器種	技術的特徴	系列種別	器種系列(類)	種別	器種
打撃系列	押圧剥離系列(A類)	石器	石錐 石錐 石錐A類 スクリッパーA類(Sa) リタッチャード・フレイクA類(RFA)	調整に押圧剥離を多用	使用痕系列	形状選択系列(C1類)	圓石 磨石 石皿 硃石	
			剥片類 剥片A類 石錐A類 原石A類			形状非選択系列(C2類)	扁石 台石 砾石	
		石器	打製石斧 石錐B類 スクリッパーB類(Sb) リタッチャード・フレイクB類(RFB)			非機能系列(D類)	石棒・棒状器 多孔石・丸石	
			剥片類 石錐B類 原石B類			機能系列(E類)	石器 磨就石器 剥片E類 石錐E類 磨石E類	
	直接打撃系列(B類)	石器	打製石斧 石錐C類 スクリッパーC類(Sc) リタッチャード・フレイクC類(RFC)	調整に直接打撃を多用	複合技術系列	装身具系列(F類)	石器 磨飾・棒状耳飾 剥片F類 磨石F類	
			剥片類 石錐C類 原石C類			石器 磨就石器 剥片類		
						石器 磨就石器 剥片類		
		石材種別	主な石材(略称)	石材の特徴		石材種別	主な石材(略称)	石材の特徴
I類	黒曜石(Ob) チャート(Ch) 硬質頁岩(HSh) 黒色安山岩(Ban) 瑪瑙・玉髓 流紋岩		硬く粘度が少ない 剥片剥離に適し、锐利	IIIa類 IIIb類 IV類		安山岩(An) 閃綠岩 砂岩(SS) 凝灰岩 結晶片岩(Sc)	軟質で粘度がある 剥離に不適で剥離面は粗い 軟質で粘度がない 剥離に不適でもろく崩れる 硬質、軟質部分がある 管理があり、剥離にはやや不適	
II類	頁岩(Sh) 硬質砂岩 泥岩 輝葉凝灰岩 ホルンフェルス		多少軟質でやや粘度がある 剥片剥離に適するが锐利さは劣る	V類		緑色岩類(GrR) 蛇紋岩(Se)	緻密かつ硬質で粘度がある 剥離にはやや不適 剥離面は粗い 比較的希少な石材 藍碧・滑石・鉛石・石英など	
種別	器種	形態	分類基準と特徴	種別	器種	形態	分類基準と特徴	
A類	石錐	I II	凹基無茎 平基無茎	C1類	圓石	I a I b I c II a II b II c III a III b III c IV a IV b V a V b V c	円形・切り合ひ關係は磨き一凹み 円形・切り合ひ關係は凹み一磨き 円形・凹みのみ 横円形・切り合ひ關係は磨き一凹み 横円形・切り合ひ關係は凹み一磨き 横円形・凹みのみ 棒状・切り合ひ關係は磨き一凹み 棒状・切り合ひ關係は凹み一磨き 四角形・切り合ひ關係は磨き一凹み 四角形・切り合ひ關係は凹み一磨き 不定形・切り合ひ關係は磨き一凹み 不定形・切り合ひ關係は凹み一磨き 不定形・凹みのみ	
		I a I b I c II a II b II c III a III b III c IV a IV b V a V b V c	凹基無茎による精緻な調整 横型・押圧剥離による精緻な調整 横型・押圧剥離による精緻な調整 押圧剥離による精緻な調整 押圧剥離による精緻な調整 直接打撃による精緻な調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以上) 縁邊微細剥離(一边の1/2以下)					
	石匙A類	I a I b II a II b III	面技術法により面削削が済める 微形・急角度調整・断面薄削型・片刃 微形・反曲型・周縁調整・断面レンズ型・両刃	C2類	I II III IV V	円形 横円形 棒状 四角形 不定形		
		I a I b II a II b III	押圧剥離を主体とした精緻な調整 組合せ押圧剥離と合わせ直接打撃による調整 直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以上)		I II III IV V	荒砥 中砥 仕上げ砥		
		I a I b II a II b III	複型・押圧剥離と直接打撃を併用 模型・大形で直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以下)		I II III	石棒 棒狀器 多孔石 丸石		
	B類	I a I b II a II b III	面技術法により面削削が済める 微形・急角度調整・断面薄削型・片刃 微形・反曲型・周縁調整・断面レンズ型・両刃 組合せ押圧剥離と合わせ直接打撃による調整 直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以上)		I II III IV V	加工痕あり 加工痕なし 凹みあり 凹みなし		
		I a I b II a II b III	複型・押圧剥離と直接打撃を併用 模型・大形で直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以下)		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
		I a I b II a II b III	複型・押圧剥離と直接打撃を併用 模型・大形で直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以上)		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
		I a I b II a II b III	複型・押圧剥離と直接打撃を併用 模型・大形で直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以下)		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
		I a I b II a II b III	複型・押圧剥離と直接打撃を併用 模型・大形で直接打撃による調整 縁邊微細剥離(一边の1/2以上)		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
C1類	磨石	I II III IV V	内形 横円形 棒状 四角形 不定形	E類	I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
		I a I b II a II b III	内形・作業面は凹面 横円形・作業面は平坦 横円形・作業面は凹面 不定形・作業面は平坦		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
	石皿	I II III IV	内形 横円形 棒状 四角形 不定形		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
		I a I b II a II b III	内形 横円形 棒状 四角形 不定形		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		
		I a I b II a II b III	内形 横円形 棒状 四角形 不定形		I a I b II a II b III a	小形・断面構造円形 中形・断面構造円形 中形・定角式 大形・断面構造円形		

目 次

第1分冊	
口絵 (1~14)	
序	
例言	
凡例	
目次	
Ⅰ 調査の経緯と経過	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	4
(1) 発掘調査の経過	4
(2) 資料整理の経過	4
3. 調査の方法	4
Ⅱ 西横野中部地区遺跡群の地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境	5
2. 歴史的環境	6
Ⅲ 人見西原・人見坂ノ上遺跡	
1. 人見西原遺跡 A区の概要	13
(1) 遺構の概要	13
(2) 遺物の概要	15
(3) 遺構・遺物の実測図	17
2. 人見西原遺跡 B区の概要	
(1) 遺構の概要	90
(2) 遺物の概要	90
(3) 遺構・遺物の実測図	93
3. 人見坂ノ上遺跡の概要	
(1) 縄文時代の遺構	109
(2) 古墳時代・古代の遺構の概要	110
(3) 遺物の概要	110
(4) 遺構・遺物の実測図	114
IV 人見三本松・上ノ原・上西原遺跡	
1. 遺跡の概要	147
(1) 縄文時代の遺構	147
(2) 古墳時代の遺構	148
(3) 古代の遺構	149
(4) 遺物の概要	151
(5) 遺構・遺物の実測図	153
(6) 中世・近世の遺構	203
(7) 遺構・遺物の実測図	203
V 二軒在家原田・原田 II 遺跡	
1. 遺跡の概要	259
(1) 縄文時代の遺構	259
(2) 古墳時代の遺構	262
(3) 遺物の概要	262
(4) 遺構・遺物の実測図	265
I. 二軒在家原田遺跡	265
II. 二軒在家原田 II 遺跡	649
VI 二軒在家原田頭遺跡	
1. 遺跡の概要	1063
(1) 縄文時代の遺構	1063
(2) 弥生時代の遺構	1063
(3) 古代の遺構	1064
(4) 遺物の概要	1065
(5) 遺構・遺物の実測図	1067
VII 行田二本杉原東遺跡	
1. 遺跡の概要	1123
(1) 古代の遺構	1123
(2) 遺物の概要	1123
(3) 遺構・遺物の実測図	1125

VIII 成果と課題

1. 縄文時代	1130
(1) 縄文時代の調査成果	1130
(2) 縄文時代の石器組成	1134
2. 弥生時代	1155
(1) 弥生時代の調査成果	1155
(2) 二軒在家原田頭遺跡周辺の栗林式期 集落	1156
(3) 二軒在家原田頭遺跡の弥生時代石器群	1159
3. 古墳時代	1182
(1) 古墳時代の調査成果	1182
(2) 横野台地の終末期古墳	1183
4. 古代	1185
(1) 古代の調査成果	1185
(2) 西横野中部地区遺跡群の古代牧関連 遺構	1185

付編 自然科学分析

1. 二軒在家原田頭遺跡の自然科学分析	1191
2. 二軒在家原田頭遺跡出土黒曜石製石器の 産地推定	1204
3. 二軒在家原田頭遺跡・上人見遺跡出土 スクレイパーB類の使用痕分析	1209
4. 二軒在家原田頭遺跡出土土器のレプリカ法 調査	1217

抄録

第4分冊

写真図版

人見西原・坂ノ上遺跡

人見西原遺跡A区遺構	図版1
人見西原遺跡B区遺構	図版12
人見坂ノ上遺跡遺構	図版15
人見西原・坂ノ上遺跡遺物	図版21

人見三本松・上ノ原・上西原遺跡

遺構	図版57
遺物	図版71

二軒在家原田・原田II遺跡

原田遺跡遺構	図版89
原田遺跡土器	図版128
原田遺跡石器	図版243
原田II遺跡遺構	図版308
原田II遺跡土器	図版343
原田II遺跡石器	図版471

二軒在家原田頭遺跡

遺構	図版509
遺物	図版514

行田二本杉原東遺跡

遺構・遺物	図版534
-------	-------

※第2分冊に折図として掲載予定だった第259・262・263・264・268・272・347・356・490・512・566・601・602・610・611・619・629・630・647・650・661・738・739図は紙幅の都合上、付図扱いにて別途収録した。そのため、第2分冊については一部ページ番号が抜けている部分がある。何卒ご了承いただきたい。

I 調査の経緯と経過

1 調査に至る経緯

平成 17 年 5 月、群馬県西部県民局西部農業事務所（以下、西部農業事務所）が計画する県営畠地帯総合整備事業松井田地区（中部・東部・西部）事業（当時）の埋蔵文化財についての照会があった。事業計画は松井田町（現安中市松井田町）と妙義町（現富岡市妙義町）にまたがり、総受益面積は 300 ヘクタール以上にも及ぶ大規模土地改良事業である。加えて、計画地内は分布調査や過去の発掘調査などの結果から、遺跡が存在する可能性が極めて高い地域でもあった。そのため、事業実施に先立ち埋蔵文化財の取り扱いについて事前協議を実施した。前述のとおり事業区域が両町に及び、さらに両町は平成 17 年度末にそれぞれ安中市、富岡市との合併を控えていたため、これら 4 市町と西部農業事務所、県教育委員会との間で定期的に調整会議を行った。

その後、調査予定範囲が両自治体にまたがり広範囲であること、自治体間の調査体制や方法に不足や差異があり十分に効率的な調査が可能か不安要素もあることから、各自治体は県教育委員会あるいは県埋蔵文化財調査事業団への委託を打診した。しかし「県教育委員会による直営調査はあまり前例がない」、「県埋蔵文化財調査事業団への委託は経費がかさむ」といった意見、さらに「県営土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は慣例的に地元自治体が行っている」という意見などを受け、結果として、調査は安中・富岡両市がそれぞれ直営で行うという結論に至り、緊急に調査体制を整えることとなった。

発掘調査の大まかな流れとしては、期間の確保と円滑化を図るために工事実施の前年度に開始し工事開始前に完了すること、調査対象地は道路・水路等の構造物及び切土等によって遺跡が影響を受ける部分とし、耕作物の状況によって影響があると判断された場合は協議の上で調査区を広げ、可能な限り遺跡全体の記録保存に努めることで西部農業事務所と基本合意した。

平成 18 年 7 月に事業認可となり、中部地区は平成 20 年度から調査を開始し、翌 21 年度から工事着工の見通しとなった。当初は平成 25 年度に調査・整理作業共に終了の予定（6 カ年計画）であったが途中、事業変更があったため、最終的な事業計画は発掘調査および整理作業が 27 年度までの 8 年、さらに報告書作成が 28 年度の 1 年間で計 9 カ年となった。以下、調査開始以降の各年度の調査経緯について概要を記す。

平成 20 年 10 月、西部農業事務所から平成 21 年度の工事区域（第 1 工区 A）に係る埋蔵文化財の状況について照会があり、同年 11 月 12 日、群馬県知事から同工事分に係る発掘通知書が提出された。同月、西部農業事務所長と安中市長との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、平成 20 年度の発掘調査を 12 月から開始し、平成 21 年 3 月まで実施した。さらに、平成 21 年度の 4 月から 9 月まで、引き続き 21 年度工事分の発掘調査を実施した。

平成 21 年 4 月 10 日、西部農業事務所から平成 21・22 年度工事部分に係る埋蔵文化財の状況について照会があった。同 11 日、西部農業事務所へ事業地内の土木工事等に係る埋蔵文化財調査計画書を提出。その後、事業計画について協議し、事前の分布調査及び隣接する遺跡の存在等により、本事業区域においても多数の遺跡が存在する可能性が高いことから、工事に先立ち確認調査と並行して埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。同 11 月 9 日、平成 22 年度工事（第 1 工区 B）に係る必要書類（法 94 条関係）が出され、平成 22 年 9 月まで調査を実施した。

平成 22 年 4 月 6 日、西部農業事務所から平成 22・23 年度工事部分（第 1 工区 C・第 2 工区 A）に係る埋蔵文化財の状況について照会があった。同 9 日、西部農業事務所へ事業地内の土木工事等に係る調査計画書を提出。その後、事業計画について協議し、前年度と同じ理由により工事に先立ち確認調査と並行して発掘調査を実施することとなった。同 10 月 27 日、平成 23 年度工事部分（第 1 工区 C・第 2 工区 A）に係る必要書類（法 94 条関係）が出され、発掘調査を平成 23 年 11 月まで実施した。

平成 23 年 4 月 12 日、西部農業事務所から平成 23・24 年度工事部分（第 1 工区 C、第 2 工区 A・B）に係る埋蔵文化財の状況について照会があった。同 14 日、西部農業事務所へ事業地内の土木工事等に係る調査計画書を提出。その後、事業計画について協議し、前年度と同じ理由により工事に先立ち確認調査と並行して発掘調査を実施することになった。同 10 月 31 日、平成 24 年度工事部分（第 2 工区 B-1）に係る必要書類（法 94 条関係）が出され、発掘調査を平成 24 年 10 月まで実施した。

平成 24 年 4 月 2 日、西部農業事務所から平成 24・25 年度工事部分（第 2 工区 B-1・B-2・C）に係る埋蔵文化財の状況について照会があった。同 4 月 10 日、西部農業事務所へ事業地内の土木工事等に係る調査計画書を提出。その後、事業計画について協議し、前年度と同じ理由により工事に先立ち確認調査と並行して発掘調査を実施することになった。同 10 月 19 日、平成 25 年度工事部分（第 2 工区 B-2・C）に係る必要書類（法 94 条関係）が出され、発掘調査を平成 25 年 9 月まで実施した。

平成 25 年 4 月 2 日、西部農業事務所から平成 25・26 年度工事部分（第 2 工区 B-2・C、第 3 工区）に係る埋蔵文化財の状況について照会があった。同 4 月 10 日、西部農業事務所へ事業地内の土木工事等に係る調査計画書を提出。その後、事業計画について協議し、前年度と同じ理由により工事に先立ち確認調査と並行して発掘調査を実施することになった。同 10 月 22 日、平成 26 年度工事部分（第 3 工区）に係る必要書類（法 94 条関係）が出され、発掘調査を平成 26 年 7 月まで実施した。

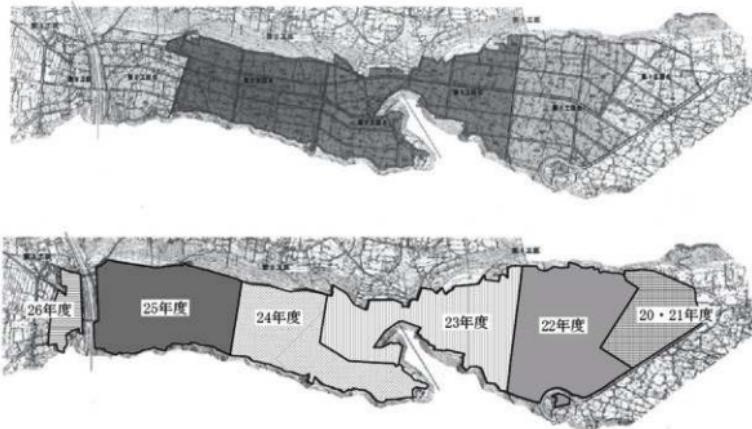
平成 26 年 4 月 3 日、西部農業事務所から平成 26 年度工事部分（第 3 工区）に係る埋蔵文化財の状況について照会があった。同 4 月 11 日、西部農業事務所へ事業地内の土木工事等に係る調査計画書を提出。その後、事業計画について協議し、前年度と同じ理由により工事に先立ち確認調査と並行して発掘調査を実施することになった。調査は 5 月 22 日から 7 月 16 日まで実施し、その後は当該および過年度調査分の資料整理を行った。

平成 27 年 4 月 20 日、西部農業事務所から平成 27 年度の事業実施に伴う調査計画の提出依頼が出された。発掘調査はすでに終了しているため同 23 日、整理作業を中心とした計画書を提出した。同 27 日付で西部農業事務所長と安中市長との間で委託契約を締結し、平成 28 年 3 月 18 日まで作業を行った。

平成 28 年 4 月 13 日、西部農業事務所から平成 28 年度の事業実施に伴う調査計画の提出依頼が出された。発掘調査はすでに終了しているため同 14 日、整理作業を中心とした計画書を提出した。また、同 26 日付で西部農業事務所長と安中市長との間で委託契約を締結し、平成 29 年 3 月 24 日まで作業を行い、同日までに本書である『西横野中部地区遺跡群発掘調査報告書』を刊行した。

調査年度	所収概報	調査遺跡名	確認調査	本調査	工区名称
平成20(2008)年	概報1	人見西原遺跡 人見坂ノ上遺跡	○ ○	○ ○	第1工区A
平成21(2009)年	概報2	人見三本松遺跡	○	○	第1工区B
平成22(2010)年	概報3	人見上ノ原遺跡 人見上西原遺跡 二軒在家原田遺跡	○ ○ ○	○ ○	第1工区C 第2工区A
平成23(2011)年				○	
平成24(2012)年	概報4	二軒在家原田Ⅱ遺跡	○	○	第2工区B-1
平成25(2013)年	概報5	二軒在家原田頭遺跡	○	○	第2工区B-2・C
平成26(2014)年	概報6	行田二本杉原東遺跡	○	○	第3工区

第1表 調査年度および調査遺跡



第1図 工区名称（上）と年度別の調査工区（下）

既刊概報一覧

- 千田茂雄・石丸敦史『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報1』2010 安中市教育委員会
 壁 伸明・石丸敦史『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報2』2011 同上
 菅原龍彦・壁 伸明『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報3』2012 同上
 菅原龍彦・壁 伸明『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報4』2013 同上
 菅原龍彦・壁 伸明『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報5』2014 同上
 菅原龍彦・壁 伸明『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報6』2014 同上

2 調査の経過

(1) 発掘調査の経過

前述のとおり、調査のスケジュールは次年度工事予定工区に係る耕作者に対して、農作物の収穫が終了後1年間の休耕を依頼し、1つの工区の発掘調査を年度の後半（確認調査）と、翌年度の前半（本調査）に分けて実施する、という周期を原則とした。

確認調査はトレンチ調査を主体とし、バックホーを用いて表土掘削を行った後、人力による遺構確認を実施した。遺構の確認された箇所については、さらに周辺を拡張し状況の把握に努めた。確認調査の結果、本調査が必要と認められた場所は、バックホーにより表土掘削を行った。掘削範囲は、基本的に遺構が途切れるまで、または工区境界までとし、最終的な調査区を形成した。

(2) 資料整理の経過

資料整理は発掘調査と並行しながら、さらに発掘調査終了後の平成26年度後半から平成28年度にかけて実施した。主な仕様としては、調査が終了した遺構から順に出土遺物の洗浄・注記作業を行い、その後、出土遺物の分類・計測等を実施し遺物台帳を整備した。また、これら台帳のデータを利用し、特に住居址については各区各層からどれくらいの遺物量があるか視覚的に判別できるよう可能な限り「遺物分布図」を作成し、これを掲載した。土器の復元は完形、あるいは完形に近い個体から優先的に行い、バイサム（樹脂）等で補強・修復した。

接合・復元作業を行った後、復元が完了した遺物については実測・トレースを実施した。遺物整理作業と並行して、遺構図面の整理・修正、図版の作成などを行った。また、発掘調査現場で撮影した遺構写真についても整理を行った。なお、資料整理を行う人員の都合上、遺物実測・トレース、土層断面図作成の一部を委託業務とした。

遺物写真の撮影に際してはデジタルカメラを使用した。図版や表の作成、レイアウト作業などには主としてAdobe社「Illustrator」「Photoshop」「InDesign」を用いた。

3 調査の方法

発掘調査は工事における幹線・支線道路や水路といった構造物や大規模な切土が予定される部分に対して調査区を設定した後、バックホーによって遺構確認面（凡例参照：安中市基本土層のⅢ層下部からⅣ層上面、場所によってはⅤ層上面）まで掘削し、その後人力でジョレンを等を用いて遺構確認を行った。また表土掘削後、グリッドの設定を行った。

グリッドは工区ごとに基本4m×4mで設定し、国家座標（世界測地系）に取り付けた。いずれの工区も北西端を基準とし、東西方向の数字と南北方向のアルファベットを組み合わせて表記した。国家座標値（第IX系）は、各グリッドの北西端を代表としている。遺物包含層から出土した遺物は、4m×4mのグリッドをさらに4分割しa～dを付した小グリッド（2m×2m）での取り上げを基本とした。

検出された遺構については遺構ごとに遺構略称と番号を付け、遺構の内容に応じた精査を行った。

土層断面は、住居址については中央部分に十字の土層観察ベルトを設定し、また溝においては直行する方向を基本とし適宜記録した。土坑やピットは平面プランを確認後、極力半切し土層や遺物の包含状況を記録した。各遺構の土層断面・遺物出土・完掘状況等は、リバーサルおよびモノクロフィルム(35mm)、さらにデジタルカメラで写真撮影を行った。同時に、作業風景なども適宜撮影した。遺構の航空写真撮影は専門業者に委託し、無線操縦ヘリコプターを用いて行った。遺構測量は専門業者への委託と、航空写真からの図化および平板測量での直営方式を併用した。

遺物の取り上げは基本的に遺構ごとに行った。住居址はセクションのラインを基準に16分割し、各層位ごとに分層して取り上げる「分層16分割法」を基本としたが、住居面積や形態に応じて適宜4分割・8分割等に設定し、これを採用した。なお、最下層の遺物は出土状況の写真撮影を行い、個体として復元できる可能性が高い破片群については番号を付して取り上げた。

II 西横野中部地区遺跡群の地理的・歴史的環境

1 地理的環境

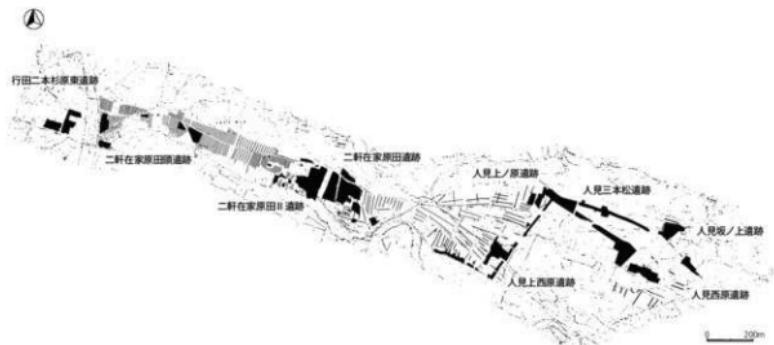
安中市は関東平野の周辺部である群馬県西部に位置している。平成18年3月の旧安中市と旧松井田町の合併により、総面積は276.34km²となった。市内を流れる河川で比較的大規模なものが碓冰川と、その支流の九十九川である。安中市の地形は発達した河岸段丘の種類により、碓冰川および九十九川流域などの丘陵・河岸（下位）段丘、九十九川と碓冰川に挟まれた丘陵・中位段丘、碓冰川南岸の中野谷・西横野地区の上位段丘に分けられる。さらに本市の西から北にかけては本県と長野県境を分かつ標高1,000mを超える山地が連なり、南東部には岩野谷丘陵が広がっている。

本遺跡群が立地する西横野地区は旧松井田町の南東部に位置し、旧安中市境に接している。行政区としては大きく人見・二軒在家・八城・行田地区に分けられる。事業対象地のある地域は「横野台地（丘陵）」と呼ばれ、行田地区付近を源流とする下位段丘を流れる柳瀬川と、妙義地区を流れる高田川に挟まれた、妙義山へ続く碓冰川南岸の上位段丘上にある。この台地は東西に細長く、地形に沿って谷地や平坦地が延び、台地の南北両側は急峻な崖となっているのが特徴である。柳瀬川の支流であり、人見地区周辺に源流のある猫沢川以外は、この丘陵上に目立った河川はないものの、現在でも台地上の所々に湧水が存在する。今回の事業区域中央付近には高田川支流の小河川による開析谷が存在し、この部分において台地の南北幅が極端に狭くなっている。

遺跡群の標高をみると、東端に位置する人見西原遺跡・坂ノ上遺跡付近が約280m、台地のくびれ部周辺にある二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡で約300～310m、上信越自動車道をまたぎ遺跡群中で最西に位置する行田二本杉原東遺跡付近では約330mとなっており、妙義山方向である西に向かって徐々に高くなっていることが分かる。台地上から西方には妙義山・浅間山をさえぎるものなく眺めることができ、それゆえ特に冬期はこれらの山方向から吹き降ろす強風、通称「浅間おろし（妙義おろし）」による砂塵で視界が遮られることもある。



第2図 安中の地形概略と西横野中部地区遺跡群の位置



第3図 西横野中部地区遺跡群における各遺跡の位置

2 歴史的環境

安中ににおいては、これまでの土地改良事業に伴う大規模発掘調査や詳細分布調査などによって、本遺跡の位置する横野台地およびその周辺には多くの遺跡が存在することが分かっている。ここでは、西横野地区周辺を中心とした遺跡の分布状況について概説する。

縄文時代

人見大谷津遺跡、八城二本杉東遺跡で前期前葉関山式期の集落が分布する。当該時期の集落は本遺跡群のある台地の西側ではなく、安中市中野谷・鷺宮地区など台地の中央～東側で多く確認されている。後続する前期中葉有尾・黒浜式期～前期後葉諸磯式期の集落址についても従前、同様の分布傾向であったが近年では本遺跡周辺においても確認例が増加している。

中期後葉～末葉（特に加曾利E III～IV式期）の集落は人見坂ノ上遺跡・人見西原遺跡、人見東原II遺跡・人見枝谷津遺跡、大道南II遺跡（中野谷地区）などに分布する。同地区的砂押遺跡では、中期中葉～後葉（勝坂式～加曾利E II式期）の拠点的な環状集落が確認されている。本遺跡群内では、二軒在家原田・原田II遺跡が前期～後期（特に有尾・黒浜式期、諸磯II式期、加曾利E I～II式期、堀之内式期の遺構が濃密である）にかけての拠点的集落であり、特に加曾利E式期においては環状または馬蹄形状に展開する集落を形成している。また、後期堀之内式期を中心とする弧状列石や、頭位方向を違える配石墓群も検出されている。

弥生時代

前期末～中期前半の集落は台地東側の縁辺部を中心に点在する。本遺跡群周辺では上人見遺跡・中野谷原遺跡において中期前半の再葬墓・集落址が分布する。また、八城二本杉東遺跡でも中期の再葬墓とみられる土坑が確認されている。

中期後半になると集落は台地のやや西側へ移動するが、いずれも小規模であり台地奥にはほとんど進入しない。本遺跡群内の二軒在家原田頭遺跡は台地奥部の小河川源頭部付近に形成され、且つこの地域では確認例の少ない中期後半栗林式期の集落であり、その中心は栗林I式におかれるものと考えられる。また同遺跡では栗林式以前の特徴をもつ土器や、北陸小松式の影響が看取される土器なども一定量存在している。また、本遺跡より若干新しいが、ほぼ同時期の集落址として小支谷を挟んだ南東に位置する富岡市上高田社宮子原遺跡においても比較的大規模な集落展開がみられる。

後期後半樽式期には再び台地の東側を中心に集落が増加し、その多くが古墳時代へ継続する。

古墳時代

前期では、人見大谷津遺跡で樽系・吉ヶ谷系の土器が共伴する集落が確認されている。また、人見東原遺跡においては樽系・吉ヶ谷系・東海系（S字状口縁甕）の土器が共伴する集落が分布する。二軒在家原田II遺跡においても樽系・東海系土器の共伴する集落が確認されている。また、人見西原遺跡（A区）では、いわゆる布留甕と山陰系口縁を有する甕の共伴が認められた。

中期では、人見西原遺跡（A区）・人見三本松遺跡、人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡、加賀塚遺跡などで拠点的な大規模集落が分布する。いずれも石製（模造）品を多く出土するが、特に加賀塚遺跡では石製品の製作工房が確認されている。当該期の横野台地上の集落が石製品の生産拠点であり、集落内の消費のみならず碓氷川流域の古墳への製品供給が想定される。

後期以降では、前述の加賀塚遺跡、大王寺地区遺跡群（=新寺地区遺跡群および松井田工業団地遺跡）において、古代まで継続する集落址が分布する。

台地の北端に位置する磯部2号墳および東接する同3号墳は周辺で最も古いと考えられる古墳であり、特に埴輪をもたないとされる2号墳は5世紀前半まで遡る可能性がある。石製模造品と赤彩のある円筒埴輪を有する3号墳は5世紀後半の築造と考えられる。2号墳は台地の北縁にあり、北側に碓氷川沿いの下位段丘を広く望める立地にある。碓氷川南岸における台地下の当該期集落はいずれも小規

模に散在するが、台地上の石製品生産集落の存在も含め両古墳の築造基盤となったと思われる。

また、台地下の碓氷川南岸にある塚原地区には終末期古墳が濃密に分布しており、松井田工業団地遺跡周辺に展開する集落を母体とした集団との関係が想定される。本遺跡群でも二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡において7世紀以降の終末期古墳が4基検出されたほか、行田二本杉原東遺跡と市境界を挟んだ富岡市側には、同じく終末期のものと考えられる行沢桜塚古墳^{なめざわ}が立地する。いずれも密度は低く、台地下の古墳群とは性格を異にする。

古代

横野台地一帯で大溝・区画溝を主体とした遺構群（中野谷地区遺跡群・松義東部地区遺跡群ならびに市境周辺に点在する富岡市の遺跡群）が検出されている。詳細な性格は不明だが7世紀後半～8世紀前半に掘削された、古代牧に関連する遺構との見方がある。この「牧」は『延喜式』に記述のある上野国の官牧9カ所以外の牧で、私牧あるいは『延喜式』以前に廃絶した牧などとする説があるが、いずれの文献・記録にも表れない未知の遺構である。

また人見大谷津遺跡・人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡・人見三本松遺跡では等間隔の幅を維持しながら直線的に延びる2条の溝が見つかっており、これは東山道駅路から分岐した、郡と郡同土を繋ぐ「伝路」である可能性が指摘されている。掘削時期は大溝に若干先行する、7世紀後半から8世紀初めごろと考えられる。古代東山道のルートについては、本市域においてはおおむね国道18号線旧道に相当する部分と重なって走行していると考えられるが、旧松井田町域から長野県境に至る部分についてはそれぞれ「入山峠」「碓氷峠」を通過する説があり明確でない。

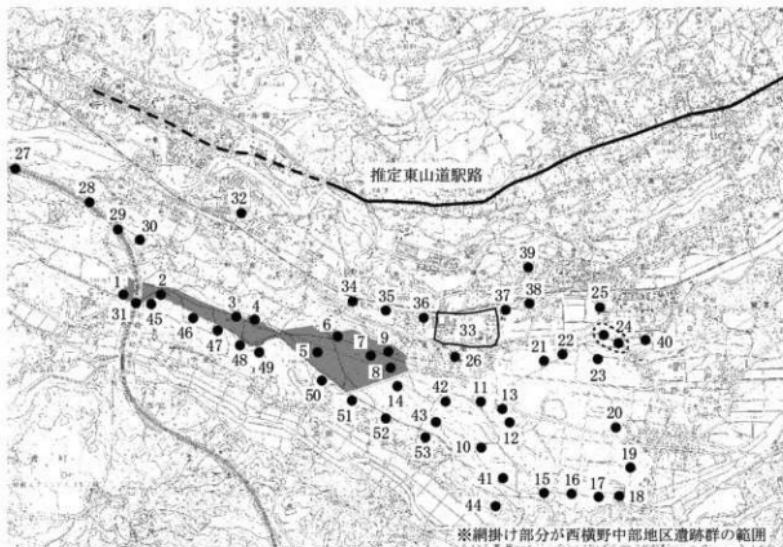
古代の集落は区画溝を主体とする「牧関連遺構」の外側に展開するものを除いて台地上での確認例は少ないが、人見枝谷津遺跡で平安時代の小規模集落が発見されている。その他にも人見三本松遺跡や人見上西原遺跡において、区画溝の内側に9世紀後半以降の住居址が確認されている。

台地下の新寺地区および大王寺地区周辺では、古代「磁部郷」の中心と考えられる多数の住居址と掘立柱建物址で構成される拠点的な集落が確認されている。これらの遺跡は、同時期における他の集落とは比較できないほど多くの墨書・刻書土器や、円面鏡といった官能色の強い遺物のほか、県内でもほとんど出土例のない二彩小壺を有するなどの性格が注目される。

中世以降

台地の北側に入見城・大王寺城といった中世城郭の存在が伝えられるほか、台地上では富岡市の上高田筑前上遺跡周辺にも砦があったとされる。発掘調査の結果、砦に関連する郭や堀切といった遺構は見つかなかったものの、中世以降のものと考えられる掘立柱建物址群が確認されている。

また、人見北原遺跡では妙義山や妙義山麓にある寺社に参詣・参拝するための近世「妙義道」と推定される道路状遺構が見つかっている。1783（天明3）年、本県と長野県境に位置する浅間山が噴火した際、田畑に降下した大量の軽石（浅間A軽石）を土中に埋めたいわゆる「復旧溝」や、山状に掘き集めた「灰掻き山」も遺跡周辺各地で確認されている。



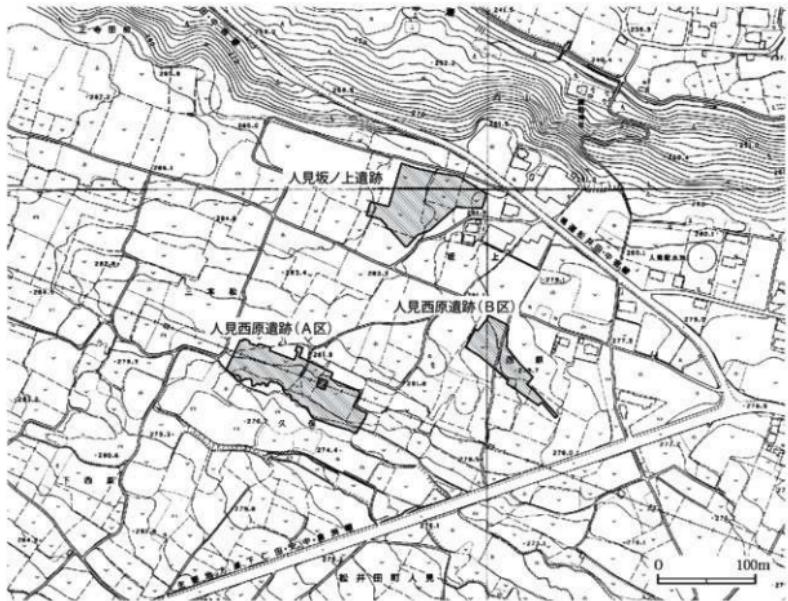
- 1 行田二本杉原東遺跡（古代大溝）
 2 二軒在家原田頭遺跡（縄文前期・弥生中期集落・古代大溝）
 3 二軒在家原田II遺跡（縄文前期～後期集落
 　・古墳中期集落・終末期古墳）
 4 二軒在家原田遺跡（縄文前期～後期集落・古墳中期集落）
 5 人見上西原遺跡（古代集落・古代大溝）
 6 人見上ノ原遺跡（古代集落）
 7 人見三本松遺跡（古墳～古代集落・古代大溝・古代道路）
 8 人見西原遺跡（縄文中期・古墳中期集落）
 9 人見坂ノ上遺跡（縄文中期・古代大溝）
 10 人見枝谷津遺跡（縄文中期・古墳～古代集落・古代道路）
 11 人見東原II遺跡（縄文中期集落）
 12 人見西下原遺跡（縄文中期集落）
 13 人見東原遺跡（古墳初頭集落）
 14 上人見遺跡（弥生中期盛期）
 15 人見大谷津遺跡（縄文初期・古墳初頭集落・古代道路）
 16 西向原遺跡（縄文前期集落・古代大溝）
 17 真光寺原遺跡（古代大溝）
 18 向原III遺跡（古代集落・古代大溝）
 19 上宿南遺跡（古代大溝）
 20 砂押遺跡（縄文中期集落・古代大溝）
 21 上北原遺跡（古代大溝）
 22 原遺跡（弥生中期・古墳後期集落）
 23 加賀塚遺跡（古墳中期・後期集落）
 24 碓部2・3号墳（中期古墳）
 25 田中田・久保田遺跡（古墳中期方圓溝遺構）
 26 人見城・人見谷津遺跡（弥生後期集落・中世城館）
 27 行田梅木平遺跡（縄文前期・後期集落）
 28 行田大道北遺跡（縄文前期～後期集落）
 29 八城二本杉東遺跡（縄文前期集落）
 30 二軒在家二本杉遺跡（縄文後期・古代集落）
 31 行田二本杉遺跡（縄文前期・古墳初頭集落）
 32 二軒在家東光寺遺跡（縄文中期・古代集落）
 33 松井田工芸団地遺跡（大王寺地区遺跡群）
 　（縄文中期・弥生～古代集落）
 34 人見正寺田遺跡（古代集落）
 35 人見中の條遺跡（古代集落）
 36 人見大王寺遺跡（古代集落）
 37 人見北原遺跡・西裏遺跡（縄文中期・古墳～古代集落）
 38 西裏・下新井遺跡・御防辺遺跡
 　（縄文中期・古墳～古代集落・中世館址）
 39 穂積古墳群（終末期古墳）
 40 長谷津遺跡（弥生中～後期集落）
 41 人見東向原遺跡（縄文中期・古墳～古代集落・古代道路）
 42 人見東中原遺跡（縄文中期・古墳～古代集落・古代道路）
 43 人見向原遺跡（古代大溝）
 44 下高田上原遺跡
 　（古墳前期～後期・古代集落・終末期古墳・古代大溝）
 45 中里原遺跡（古代大溝）
 46 中里宮平遺跡（古代大溝）
 47 中里中原遺跡（縄文後期・古代集落）
 48 中里下原遺跡（縄文中～後期・古代集落）
 49 上高田社宮子原遺跡（縄文中期・弥生中期・古代集落）
 50 上高田熊野上遺跡（古墳前期・古代集落・古代大溝・古代道路）
 51 上高田船塚上遺跡（古代集落・古代大溝）
 52 上高田筑前上遺跡（古墳前期～中期・古代集落・古代大溝）
 53 下高田原IV遺跡（終末期古墳・古代集落・古代大溝）
 ※44～53は富岡市の遺跡

第4図 報告遺跡の位置と周辺遺跡（国土地理院「松井田」1:25,000を引用・改変）

第4回掲載遺跡の主な所収文献

- 1～9：本書
10～14：安中市教育委員会『西横野東部地区遺跡群』2014
15：松井田町教育委員会『人見大谷津遺跡』2002
16・17・19～22・41～43：安中市教育委員会『中野谷地区遺跡群2』2004
18：同上『向原Ⅲ遺跡』2007
23：同上『加賀塚遺跡』2007、『加賀塚遺跡2』2011
24：安中市市史刊行委員会編『安中市史第四巻 原始古代中世資料編』2001
25：安中市教育委員会『田中田・久保田遺跡』1992
26：同上『安中市遺跡分布図』2011
27：松井田町遺跡調査会他『行田梅木平遺跡』1998
28・29：同上『八城二本杉東遺跡・行田大道北遺跡』1998
30：松井田町埋蔵文化財調査会『二軒在家二本杉遺跡』1992
31：松井田町遺跡調査会他『行田二本杉遺跡（八城南遺跡）』1997
32：松井田町埋蔵文化財調査会『二軒在家東光寺遺跡』1997
33：松井田町教育委員会他『松井田工業団地遺跡』1990
34～36：松井田町教育委員会『人見中の條・人見中の條2遺跡・人見大王寺遺跡・人見正寺田遺跡』2002
37：同上『人見北原遺跡』1990
38：安中市教育委員会『新寺地区遺跡群』1991
39：松井田町教育委員会『松井田町の文化財』2001
40：群馬県埋蔵文化財調査事業団他『長谷津遺跡』2012
44・53：富岡市教育委員会『松義東部地区遺跡群Ⅰ』2011
49：同上『松義中部地区遺跡群Ⅱ』2014
50：同上『松義中部地区遺跡群Ⅰ』2012
51・52：同上『松義東部地区遺跡群Ⅱ』2012、『松義東部地区遺跡群Ⅲ』2014

人見西原遺跡 人見坂ノ上遺跡



III 人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡

1 人見西原遺跡 A 区の概要

人見西原遺跡 A 区は調査区南側を東西に流れる猫沢川に向かって傾斜する南斜面に位置する。標高は凡そ 277 m ~ 280 m におさまる。

確認された遺構は住居址 50 棟、土坑 3 基、炭窯址 1 基である。

住居址の帰属時期は古墳時代前期から中期前半におさまる。住居址としたものには、竪穴を有し柱穴を配すいわゆる竪穴式住居址と、方形の掘り込みのみをもつものがあったが、調査過程においてはいずれも住居址と呼称した。当該期の遺構は住居址のみであるが、掘立柱建物址等は農耕用のトレンチャー(=耕作痕)が多く入っていたため検出できなかった可能性もある。

(1) 遺構の概要

1. 住居址

時期

古墳時代の住居址は前期に属するものが 23 棟、中期が 15 棟あり、その他は時期不明である。

検出状況

平面プランは標高の低い一帯では明瞭に検出されたが、これは耕作土もしくはこれに由来する流土が堆積していたために、検出面をローム層上面まで下げたことに起因する。それ以外の箇所では、平面プランは必ずしも明瞭に視認できなかったが、竪穴周囲のテラス状遺構が検出されるなど竪穴外の状況が把握されたことに起因するものと考えられる。

明確にテラス状遺構が確認されたものは H-5 号住・H-13 号住・H-41 号住がある。また、H-21 号住・H-23 号住は、いずれも小形住居址であるが、覆土と住居壁面が類似しており、サブトレンチにより住居形態を把握した。切り合い関係をなす住居址は必ずしも多くなく、H-4 号住・H-40 号住、H-6 号住・H-28 号住、H-12 号住・H-49 号住、H-22 号住・H-50 号住で見られた。しかし深度のある竪穴住居址同士が切り合う状況はなかった。

規模

住居平面の長軸×短軸の値によって分類した。A (大形):30 以上、B (中形):20 以上 30 未満、C (小形):20 未満とした。

古墳時代前期では、A:5 棟、B:10 棟、C:9 棟。中期では、A:2 棟、B:7 棟、C:6 棟であった。

古墳時代前期において A に分類されるものは、いずれも前期前半段階に位置づけられる。ただし、その規模は傑出して大形に位置づけられるものではなく、弥生時代からの時期的変遷によるものとも推測されるが、その平面形態はいずれも正方形である。B・C に位置づけられるものは、前期半ばから前期後半を主体とする。特に C に分類されるものについては、平面長方形を呈するものが多い。

古墳時代中期では A に分類されるものは 2 棟に限られる。その他は B・C に分類されるが、平面長方形を呈するものが多い。

住居構造

まず竪穴式住居址は方形の掘り込みをもち、4 本主柱穴を配し、付属施設として貯蔵穴、炉を有する

ものが主体となる。ただし、H-15 号住のように深い竪穴を有するものや柱穴が確認されないものもあった。

前期では、平面方形を呈するがその四隅はわずかに弧を描くものがある。炉は多くのものが柱穴間に設けられ、住居北側もしくは住居西側に位置する。貯蔵穴は住居南東隅に設けられる。北側に炉を設けるものは南東隅柱穴の南側に、西側に炉を設けるものは南東隅柱穴の東側にそれぞれ貯蔵穴を有している。入口ピットは南壁前面東寄りに 1 基設けられる。壁周溝は確認されないものが多いが、全周もしくは部分的に施すものがある。間仕切り溝は H-17 号住でのみ確認された。

中期は、平面方形を呈し、その四隅は角をもつ。炉は柱穴間に設けられ、北側に位置するものが主体となる。西側に炉をもつものは H-45 号住のみである。貯蔵穴は前期と同様に北側に炉があるものは南東隅柱穴南側、西側に炉がある H-45 号住では南東隅柱穴東側に位置する。壁周溝は全周するものが多く、H-1 号住・H-5 号住・H-10 号住・H-30 号住では、間仕切り溝が確認された。

覆土堆積状況

覆土は黒色土を主体とし、おむね自然堆積と想定されるもので、人為的な埋め戻しが明確に把握されたものはなかった。As-B 軽石が覆土上面で確認されたものもあったが、竪穴内にレンズ状に堆積するような状況は認められなかった。

遺物出土状況

遺物は覆土中および床面上より出土している。覆土中から出土した土器はいずれも混入したと想定されるもので、明確に遺棄した状況は見られなかった。覆土最下層および床面上から出土した土器は、貯蔵穴または住居北壁前面から多く出土する傾向が見られた。

石製模造品は H-5 号住で多量に出土しており、覆土最下層および床面下（掘り方）において多く見られる。特に貯蔵穴周辺に集中しているが、床面下（掘り方）出土としたものは入口付近の床面をはがし、そこに遺棄した痕跡が覗えた。すなわち住居構築時に埋納したのではなく、住居廃棄時に遺棄した状況が想定されるのである。H-28 号住では覆土最上層（1 層）より一ヶ所から集中して白玉未成品が出土したが、明確な掘り方を有するピットは検出されなかった。

分布状況

調査区中央に南側の猫沢川からわずかに低地域が入り込むが、その一帯が住居址の集中域となる。古墳時代前期の住居址は調査区全域に広がるが、時期別にみた場合、3 棟程度がユニットとなっていることが分かる。つまり平面的には古墳時代前期の住居址が多く広がっているが、それは長期にわたって住居址が営まれた結果と見ることができる。中期（前半）には大きく西側の一群と、東側の一群に分けられる。西側の一群は H-1 号住・H-2 号住の大形住居が主体となっており、東側の一群には中・小形住居址が広がる。

2. 土坑

土坑は 3 基検出された。D-1 号土坑は大形の風倒木痕と判断される。時期は不明であるが、他の遺構を切っていない。D-2 号土坑・D-3 号土坑は、時期不明であるが、D-3 号土坑から縄文土器片が出土している。

3. 炭焼窯址

小規模な窯址が 1 基検出された（KM-1 号窯）。その構造については不明瞭であったが、標高の高い北奥部で焼土が広く検出された。須恵器片が 1 点出土している。

（2）遺物の概要

1. 縄文時代の遺物

石器

器種組成

土坑・遺物包含層・遺構外から 62 点の石器が出土しており、遺構外出土が主体である。主な器種は、A 類（石鏃・石錐・リタッヂフレイク・剥片・石核）、B 類（打製石斧・スクレイバー・リタッヂフレイク・剥片・石核）、C 1 類（凹石）、C 2 類（台石）である。

各石器の出土傾向は、A 類や B 類が大半を占め、C 類や D 類などの礫石器が極端に少ない。A・B 類の中では、リタッヂフレイク・剥片・スクレイバーなどが多いようである。

石材組成

石材は、黒曜石・チャート・硬質頁岩・頁岩・安山岩・緑色岩類・石英が確認された。A・B 類などの剥片石器には、黒曜石や頁岩が多用されており、石鏃には黒曜石・チャートが使用される。また C 1・C 2 類には安山岩が使用されている。

石器各説

石鏃（1・2） 3 点出土した。いずれも I 形態（凹基無茎）である。1 は小型剥片の周縁に押圧剥離調整が部分的に施される。全体的に粗雑な調整により左右非対称であり、基部調整は抉りが浅い。一方、2 は緻密な押圧剥離調整により仕上げられ、基部調整は抉りが深い。先端部と片脚端部が欠損している。石材は黒曜石・チャートである。

石核 A 類（3） 2 点出土した。部分的に風化面を有する小型品である。打面や作業面を固定せず、転移させて小型剥片を作出したものと思われる。石材は黒曜石である。

打製石斧（4～6） 5 点出土した。II 形態（短冊形）に分類されるが、5 は基部より刃部の幅が広いことから II 1 形態（亜系態）に細分される。使用痕とみられる磨耗痕が 5・6 の一部に認められる。石材は頁岩・緑色岩類である。

スクレイバー B 類（7～13） 10 点出土した。II 形態が主体である。素材剥片の一側縁あるいは二側縁に不連続な両面調整が施される。III 形態は 8・10 の 2 点のみであり、微細剥離痕が剥片の周縁に認められる。いずれも刃部周辺には磨耗痕が見受けられる。石材は頁岩である。

2. 古墳時代の遺物

土師器・須恵器

検出された古墳時代・古代の遺構から土師器・須恵器が出土した。おおむね古墳時代前期・中期、奈良時代所産のものを主体としている。

出土した土器は遺構への帰属性を優先させた。そのため覆土最下層出土で残存率の高いものから選別していった。ただし、覆土上層からの出土もしくは小破片であっても、注目される個体については選択した。また出土量は各遺構、特に住居ごとにバラつきが認められた。そのため遺構の帰属時期を明らかにするため、少量しか出土していない住居跡については小破片でも掲載した。特に時期比定の目安とな

る小形壙などは小破片においても選別するようにした。

以下、特徴的な住居を取り上げ、出土土器の概要を述べておく。

- ・ H-01 号住 S 字彫の系譜を引くと考えられる彫（10）が出土している。その外面調整は、ヘラケズリを施している。小形壙（壺形）・脚部屈折系高壙が伴う。
- ・ H-08 号住 外面をヘラケズリ調整する S 字彫（12・13）が認められる。單口縁彫も同じく外面ヘラケズリを行う。小形壙は壺形を呈するものが主体で、脚部屈折系高壙が伴う。
- ・ H-13 号住 布留彫（1）が出土している。その他の彫には山陰系口縁と呼ばれる S 字彫（3-1）や口縁部に輪積み痕を残し、ミガキ調整を行なう單口縁平底彫（2）が出土している。壺（4）も内面ミガキ調整を行う。また、古墳時代前期に特有の小形器台（5）を伴う。
- ・ H-15 号住 外面ヘラ調整の平底彫（4）に小形壙（1）・脚部屈折系高壙（6）が伴う。壺（5）は弥生土器の系譜をひくと思われるが、内面はヘラナデを施す。
- ・ H-20 号住 肩部外面にヘラケズリを施す S 字彫（1）や口縁部に屈曲部をなすハケメ調整の彫（2）が出土している。また壺（3）はその形態から弥生系譜のものと想定されるが、内面にはヘラナデを施す。小形器種には脚部高のある小形器台（5）がみられる。
- ・ H-27 号住 全体的にハケメ調整を行なうものが主体をなす。單口縁台付彫（15）のほかに口縁部に輪積み痕を残す平底彫（16・17）がある。山陰系口縁を有するもの（19）も出土している。壺はいずれも内面ミガキ調整を行う。小形壙（1）は鉢形を呈し、小形器台も認められる。
- ・ H-29 号住 脚部屈折系高壙がまとまって出土している。小形壙は壺形を呈する。彫は單口縁台付彫（22）などがあるが、いずれも外面ヘラケズリを行っている。
- ・ H-30 号住 S 字彫（7）は、外面ヘラケズリを施す。（8）の台付彫も同様に外面はヘラケズリを施す。口縁部を肥厚させる点や台部を折り返す点は S 字彫との関連性が推測されるが、その器形は体部が球形をなす点は單口縁彫との類似性がみられる。小形器種には脚部屈折高壙がみられる。
- ・ H-32 号住 吉ヶ谷式系の壺（5）が出土している。小形器種には小形高壙が認められる。
- ・ H-41 号住 壺（6）は口縁部に輪積み痕を残し、弥生からの系譜が想定される。内外面ともにヘラナデを施すが、内面にはミガキ調整も見られる。（8）においても同様にミガキ調整が施される。彫（7）はヘラナデ、（5）は單口縁で外面ヘラケズリを施す。小形器台（1）・小形高壙（2）が伴う。

石製品・石製模造品

出土した石製品・石製模造品には白玉・勾玉・管玉・劍形がある。また石核や素材剥片、剥片も多く出土している。素材剥片は、その形態から劍形が想定される「縱長」、勾玉が想定される「方形」、白玉が想定される「タブレット形」に分類した。

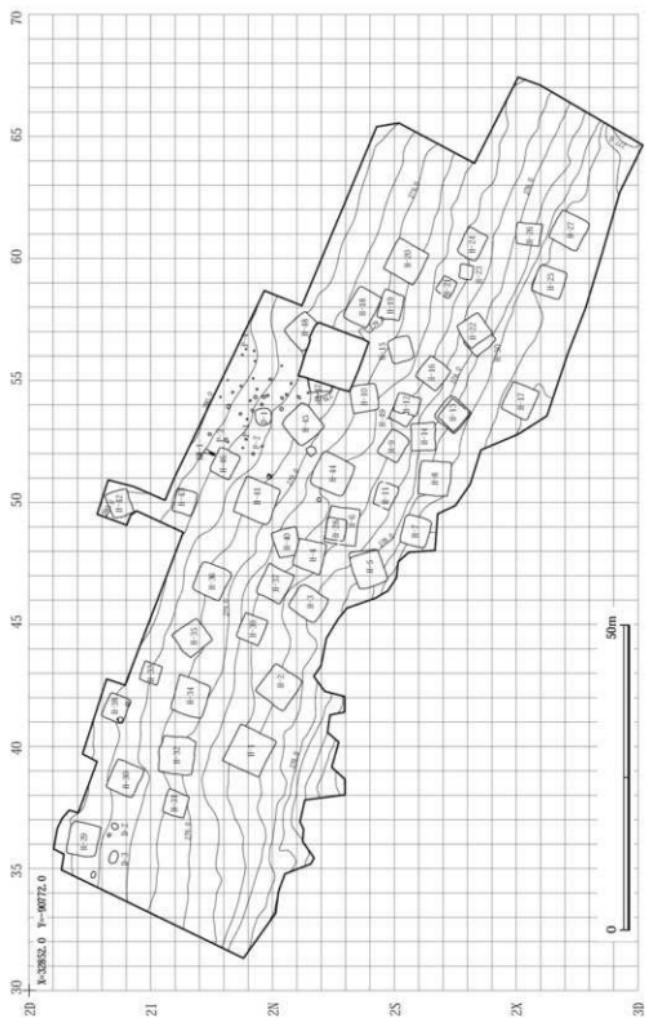
まず白玉は、製品は多くなくそのほとんどが未成品である。多くの未成品は、穿孔時における欠損によると判断される。ただし、H-28 号住では、穿孔による欠損を伴わないにもかかわらず側面研磨を施さず廃棄されている。石材は蛇紋岩系が圧倒的に多く、滑石がわずかに認められる。形態は H-28 号住では大きく、それ以外では小形品が主体となる。

勾玉は完成品および未成品が出土している。未成品は側面研磨まで行い、穿孔は施されていない。

管玉（79）は緑色凝灰岩質で両面穿孔を施す。

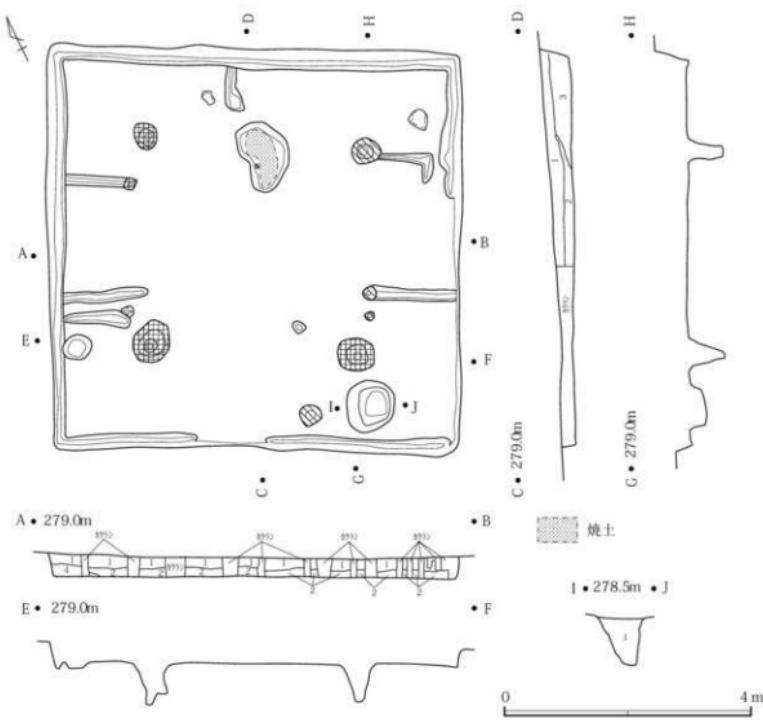
劍形は、穿孔を施すものは 1 点（95）のみである。両面に鏑をもつもの（87・88・95・98）、片面にのみ鏑をもつもの（83・89・92・96・97）、鏑をもたないものに分けられる。

(3) 遺構・遺物の実測図



第5図 人見西原道路 A 区遺構配置図

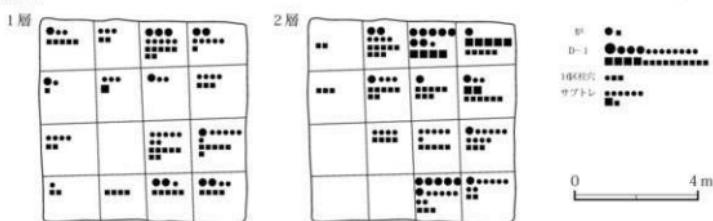
H-1 号住居址



遺構名	組番	種類	色調	しまり	粘性	R P	R B	認人物	Ao C	Ao B	Ao A	備考
H-1住	1	黒褐色土壁10cm	○	○	●	●	×	●	×	×	×	
	2	黒褐色土壁10cm	2>1	○	○	●	●	●	×	×	×	
	3	黒褐色土壁10cm	3>1	○	○	△	●	●	×	×	×	
	4	黒褐色土壁10cm	4>1	○	○	●	●	●	×	×	×	
D-1	1	黒褐色土壁10cm	○	○	△	△	●	●	×	×	×	

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

土器分布



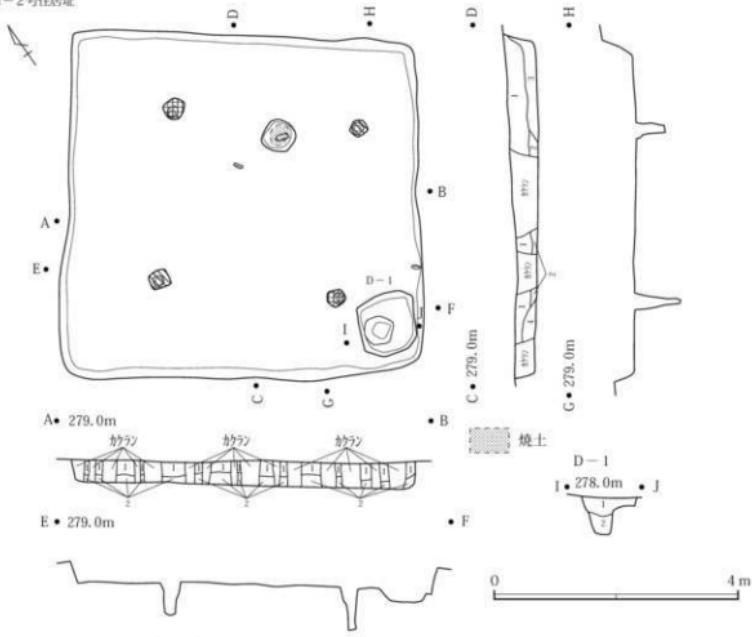
第6図 H-1号住居址実測図(1)

H-1号住居址

石器分布



H-2号住居址

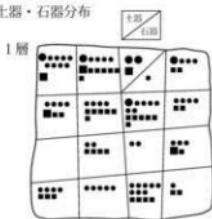


測線名	剖面	縦名	色調	しまり	粘性	試入物					備考	
						R	P	B	B	A	C	
H-2住	1	黒褐色土質10cm	○	○	●	●	●	●	×	×	×	
	2	黒褐色土質10cm	2 < 1	○	○	●	●	●	×	×	×	
D-1	3	黒褐色土質10cm	3 > 1	○	○	△	△	△	×	×	×	
	4	黒褐色土質10cm	4 > 1	○	○	●	△	●	●	×	×	
	1	黒褐色土質10cm	○	○	●	●	●	●	●	×	×	
	2	黒褐色土質10cm	2 > 1	○	○	○	○	○	●	●	●	

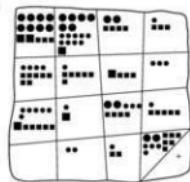
第7図 H-1号住居址(2)・H-2号住居址実測図

H-2 号住居址

土器・石器分布



2 層



土器分布

4 回目穴

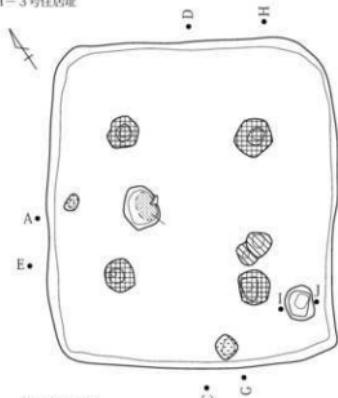
サブトレ

石器分布

サブトレ

0 4 m

H-3 号住居址

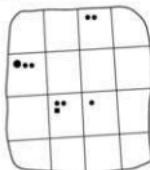


A • 279.0m



G • 278.5m

2 層



0 4 m

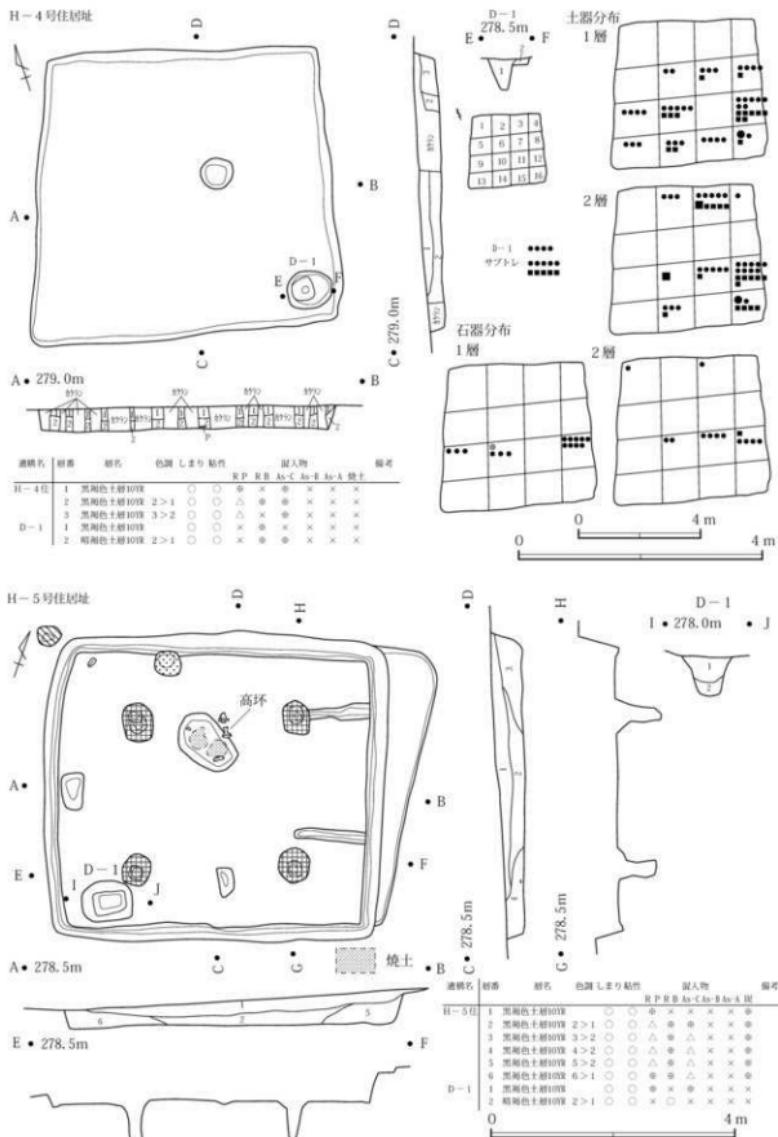
E • 278.5m



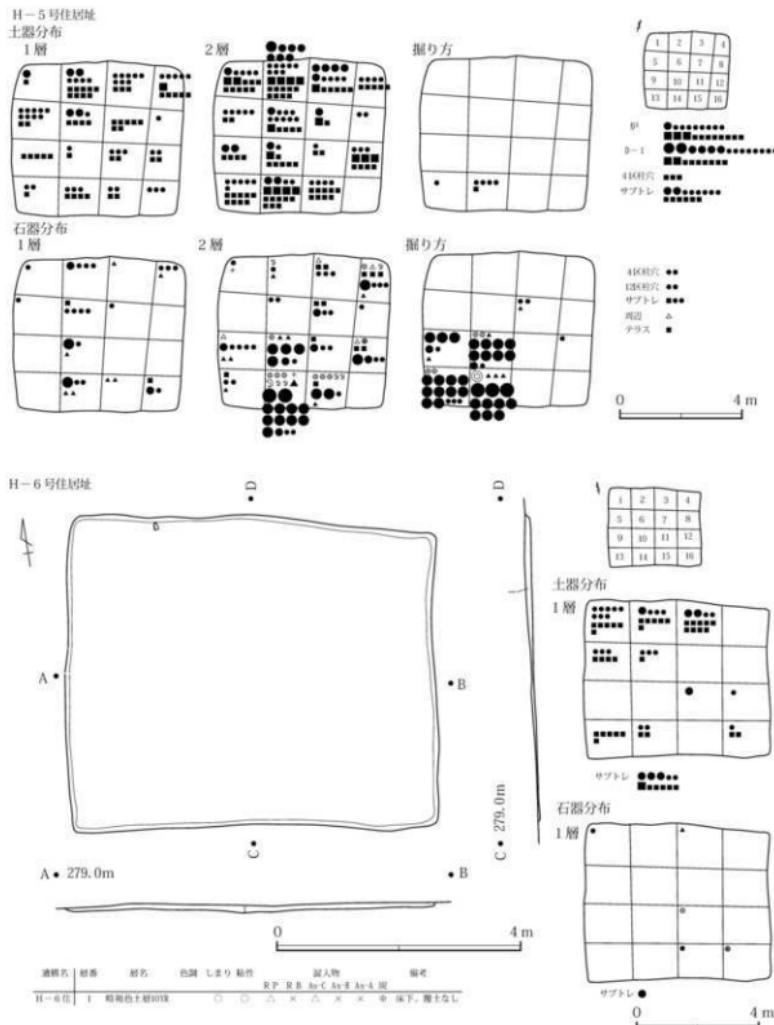
4 m

遺構名	組番	組名	色調	しまり	黏性	R P	R B	Aa-C	Aa-H	Aa-A	埴土
H-3 住	1	黒褐色土層0.9m	○	●	●	○	○	×	×	×	●
	2	黒褐色土層0.9m	Z>1	○	●	○	○	×	△	×	●
D-1	1	黒褐色土層0.9m	○	○	●	○	○	●	●	●	●
	2	褐褐色土層2.5m	1<2	○	×	○	○	●	●	●	●

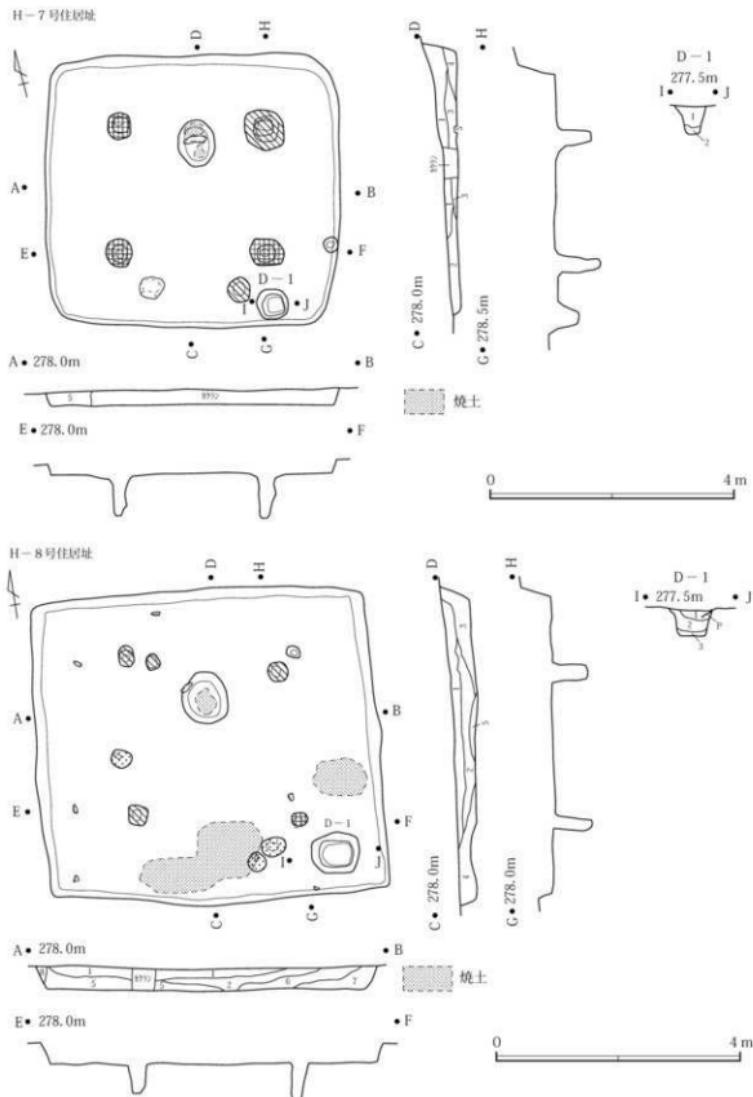
第 8 図 H-2 号住居址 (2)・H-3 号住居址実測図



第9図 H-4号住居址・H-5号住居址(1)実測図



第 10 図 H-5号住居址(2)・H-6号住居址実測図



第11図 H-7号住居址(1)・H-8号住居址(1)実測図

H-7 号住居址

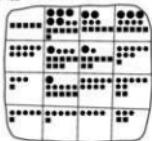
遺構名	組番	組名	色調	しまり	粘性	R	P	R	B	Ab-C	Ab-E	埴土	炭	備考
H-7 住	1	黒褐色土層10YR	○	○	△ ×	△	X	X	×					
	2	褐褐色土層10YR	○	○	△ *	*	X	X	X					
	3	黒褐色土層10YR	3>1	○	○	△ *	*	X	Φ	X				
	4	黒褐色土層10YR	4<1	○	○	△ *	*	X	Φ	X				
	5	黒褐色土層10YR	○	○	△ *	*	X	Φ	X					
D-1	1	黒褐色土層10YR	○	○	△ *	*	X	Φ	X					
	2	黒褐色土層10YR	2>1	○	○	△ *	*	X	Φ	X				

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

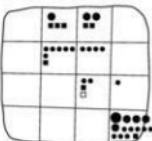
0 4 m

土器分布

1 層

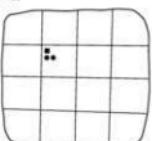


2 層

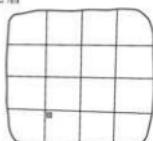


石器分布

1 層



2 層



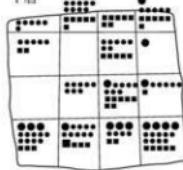
H-8 号住居址

遺構名	組番	組名	色調	しまり	粘性	R	P	R	B	Ab-C	Ab-E	埴土	炭	備考
H-8 住	1	黒褐色土層10YR	○	○	△ *	*	X	X	×					
	2	黒褐色土層10YR	2>1	○	○	△ *	*	X	Φ	X				
	3	褐褐色土層10YR	3>1	○	○	△ *	*	X	Φ	X				
	4	褐褐色土層10YR	4>2	○	○	△ *	*	X	Φ	*				
	5	褐褐色土層10YR	5>1	○	○	△ *	*	△	X	Φ	初期廻土。			
	6	褐褐色土層10YR	6>2	○	○	△ *	*	△	X	Φ				
	7	褐褐色土層10YR	7>5	○	○	△ *	*	△	X	Φ	堅密廻土。			
	8	褐褐色土層7.5YR	8>5	○	○	△ *	*	△	X	Φ	堅材との初期廻土。			
D-1	1	褐褐色土層10YR	○	○	△ *	*	X	Φ	X					
	2	褐褐色土層10YR	2>1	○	○	△ *	*	X	Φ	X				
	3	褐褐色土層7.5YR	3>2	○	○	△ *	*	X	Φ	X				

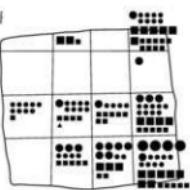
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

土器分布

1 層



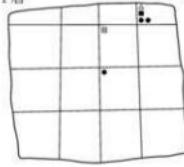
2 層

D-1
1段隔り方
サブトレー
サブトレーリー

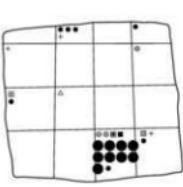
0 4 m

石器分布

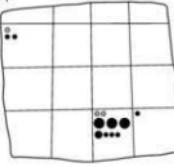
1 层



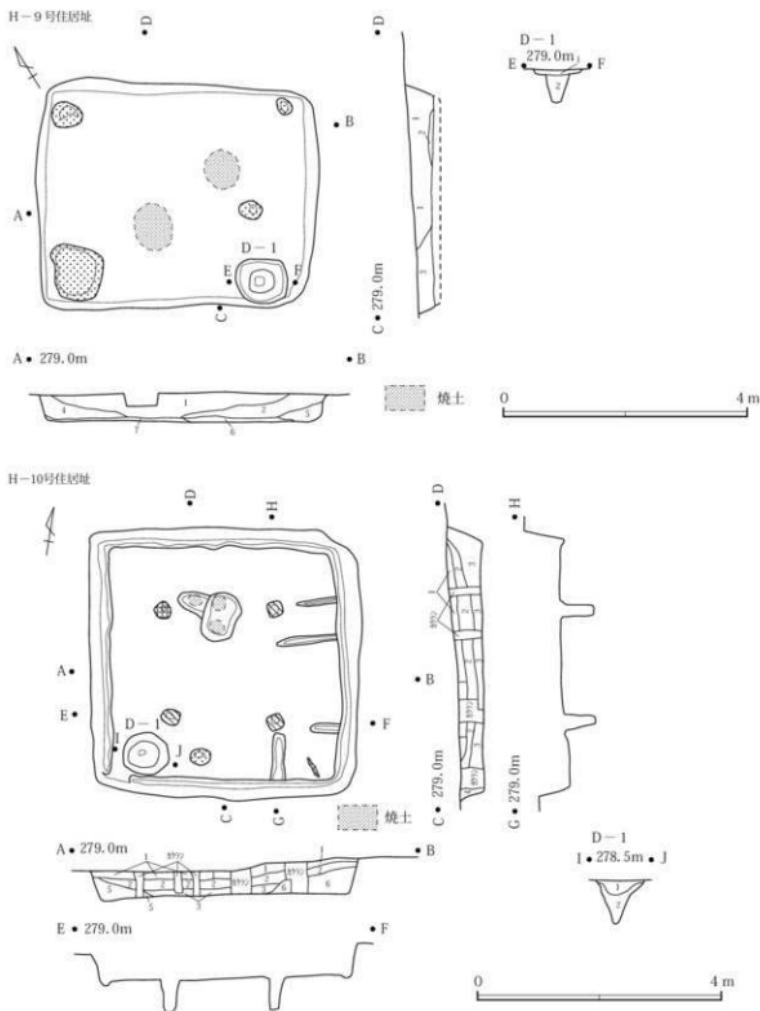
2 層



床下

D-1
サブトレー
サブトレーリー

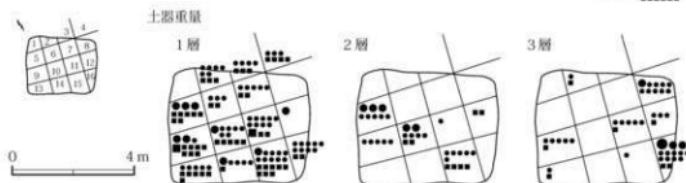
第12図 H-7号住居址(2)・H-8号住居址(2)実測図



第13図 H-9号住居址(1)・H-10号住居址(1)実測図

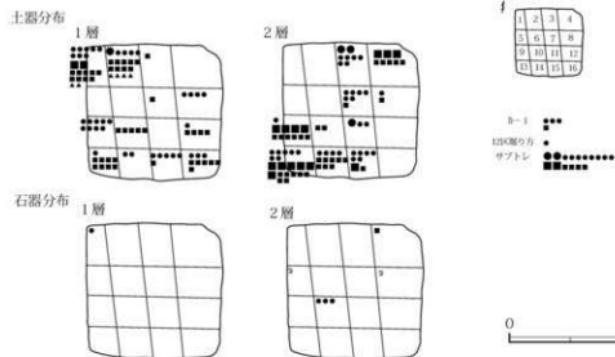
H-9号住居址

遺構名	層番	層名	色調	しまり	黏性	認入所				備考
						R.P.	R.B.	Aa-C	Ay-E	
H-9号	1	明褐色土被10層	○	○	△	●	×	×	×	R-1 2区割り方 106個分布 150個分布 サブトレ
	2	明褐色土被10層	2>1	○	○	●	○	×	×	
	3	明褐色土被10層	3<1	○	○	●	×	×	×	
	4	明褐色土被10層	4>1	○	○	●	●	×	×	
	5	黒褐色土被10層	5<2	○	○	●	×	△	×	
	6	黒褐色土被10層	6<2	○	○	●	×	×	×	
	7	黒褐色土被10層	7<1	○	○	●	●	×	○	
D-1	1	黒褐色土被10層	○	○	○	●	×	×	○	2次床面
	2	明褐色土被10層	2>1	○	○	△	●	×	×	



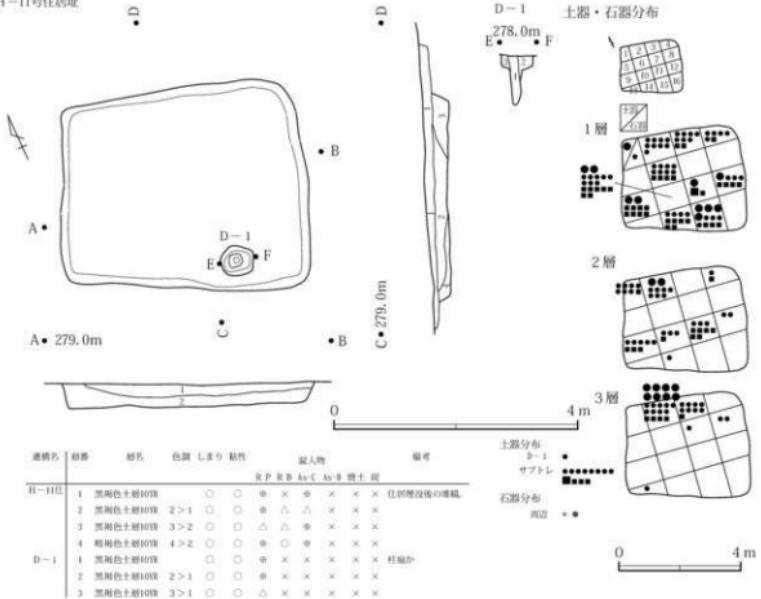
H-10号住居址

遺構名	層番	層名	色調	しまり	黏性	認入所				備考
						R.P.	R.B.	Aa-C	Ay-E	
H-10号	1	黒褐色土被10層	○	○	●	×	●	●	×	堅密土 B-1 130個分布 サブトレ
	2	黒褐色土被10層	2<1	○	○	●	×	×	×	
	3	黒褐色土被10層	3>2	○	○	△	●	●	×	
	4	黒褐色土被10層	4	○	○	●	●	●	●	
	5	黒褐色土被10層	5>2	○	○	○	●	△	×	
	6	黒褐色土被10層	6>2	○	○	○	●	△	×	
	7	黒褐色土被10層	2>1	○	○	△	●	×	×	
D-1	1	黒褐色土被10層	○	○	○	●	●	×	○	堅密土 B-1 130個分布 サブトレ
	2	明褐色土被10層	2>1	○	○	△	●	×	×	

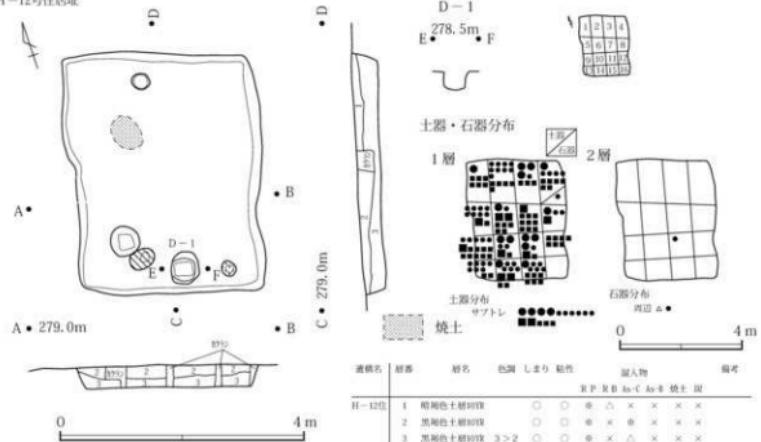


第 14 図 H-9号住居址 (2)・H-10号住居址 (2) 実測図

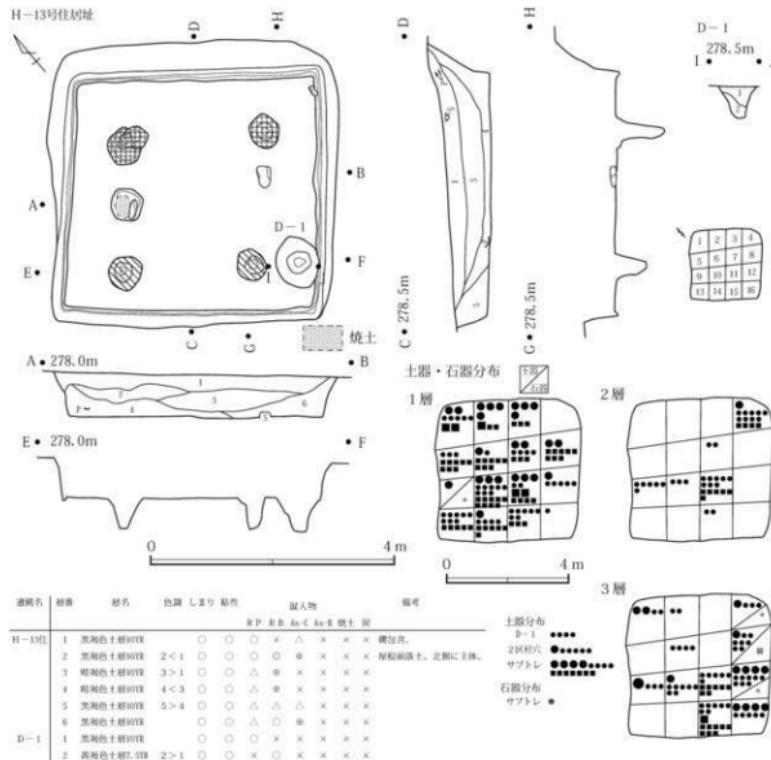
H-11号住居址



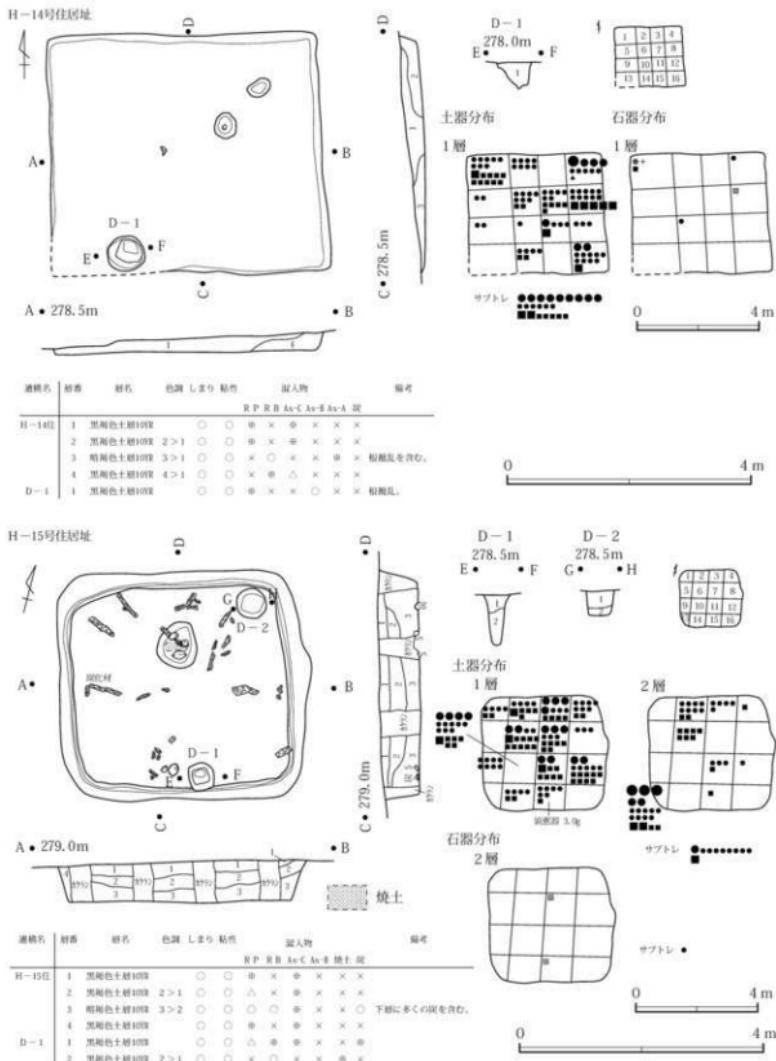
H-12号住居址



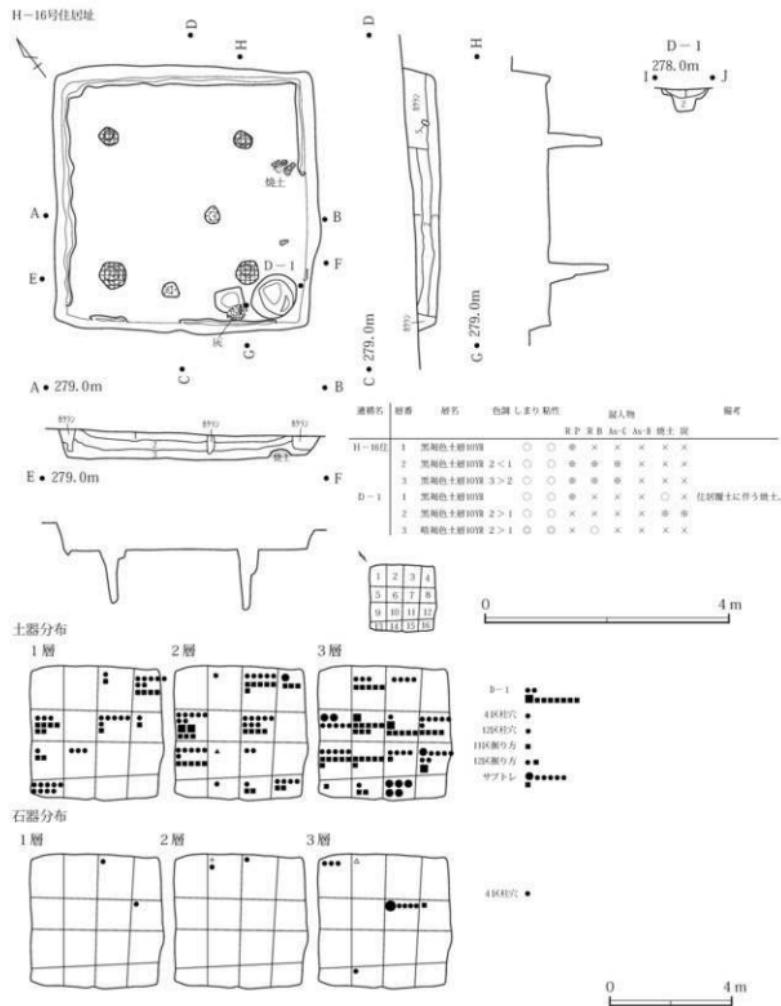
第 15 図 H-11 号住居址・H-12 号住居址実測図



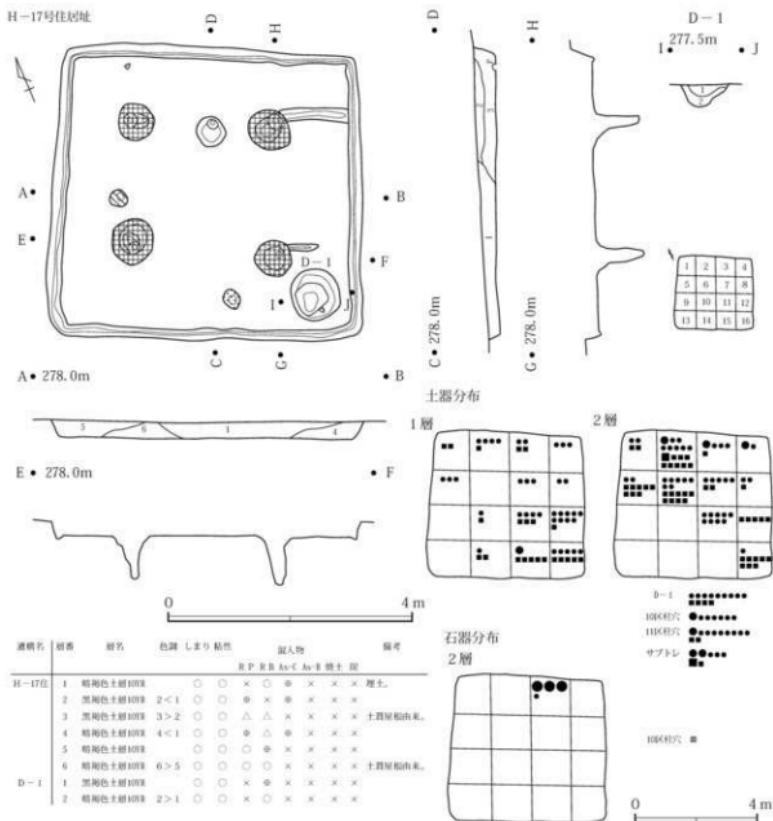
第 16 図 H-13 号住居址実測図



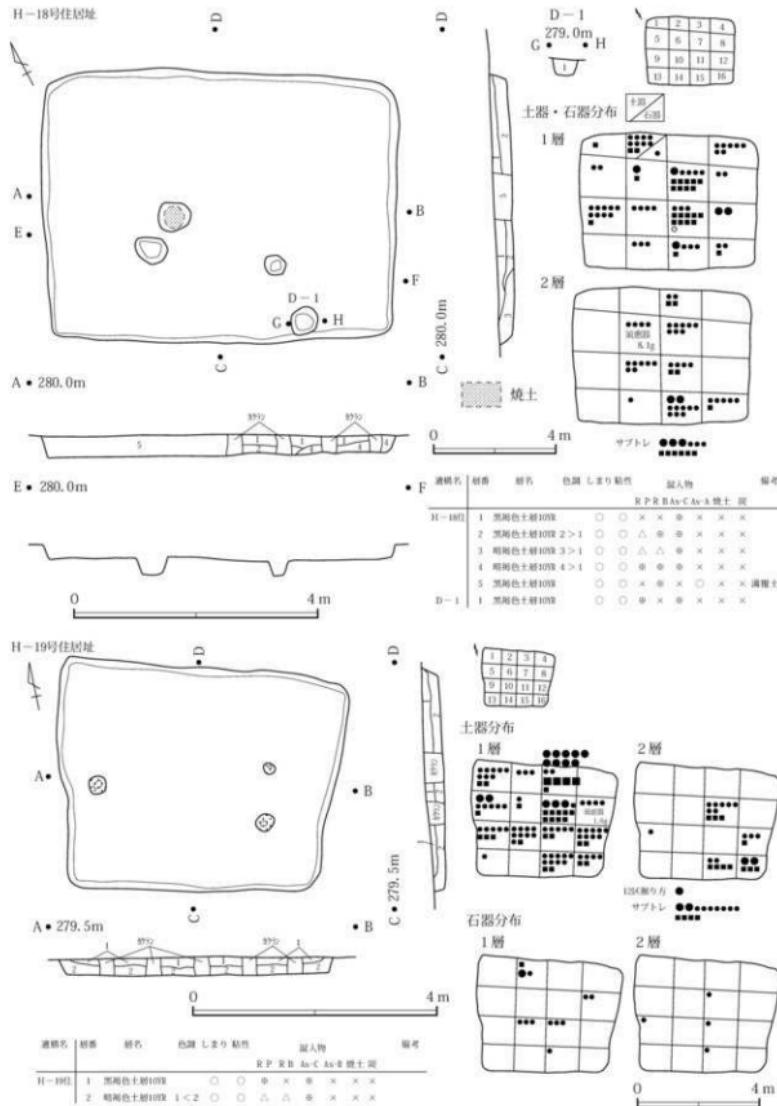
第 17 図 H-14 号住居址・H-15 号住居址実測図



第18図 H-16号住居址実測図

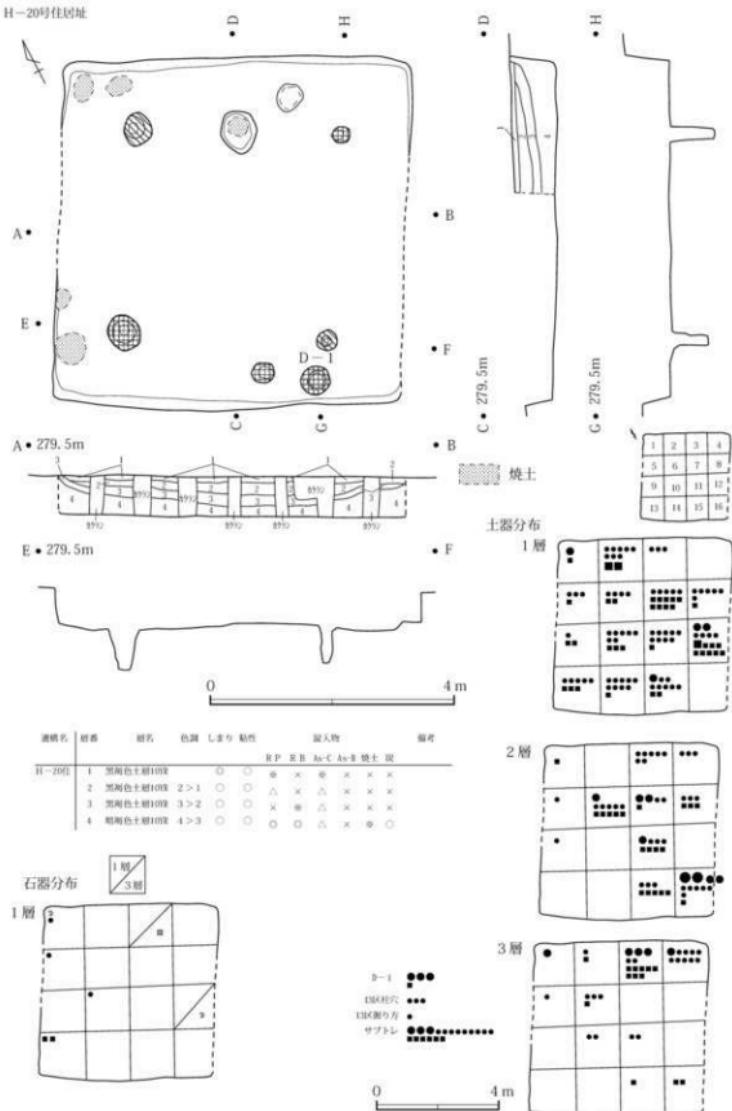


第 19 図 H-17 号住居址実測図

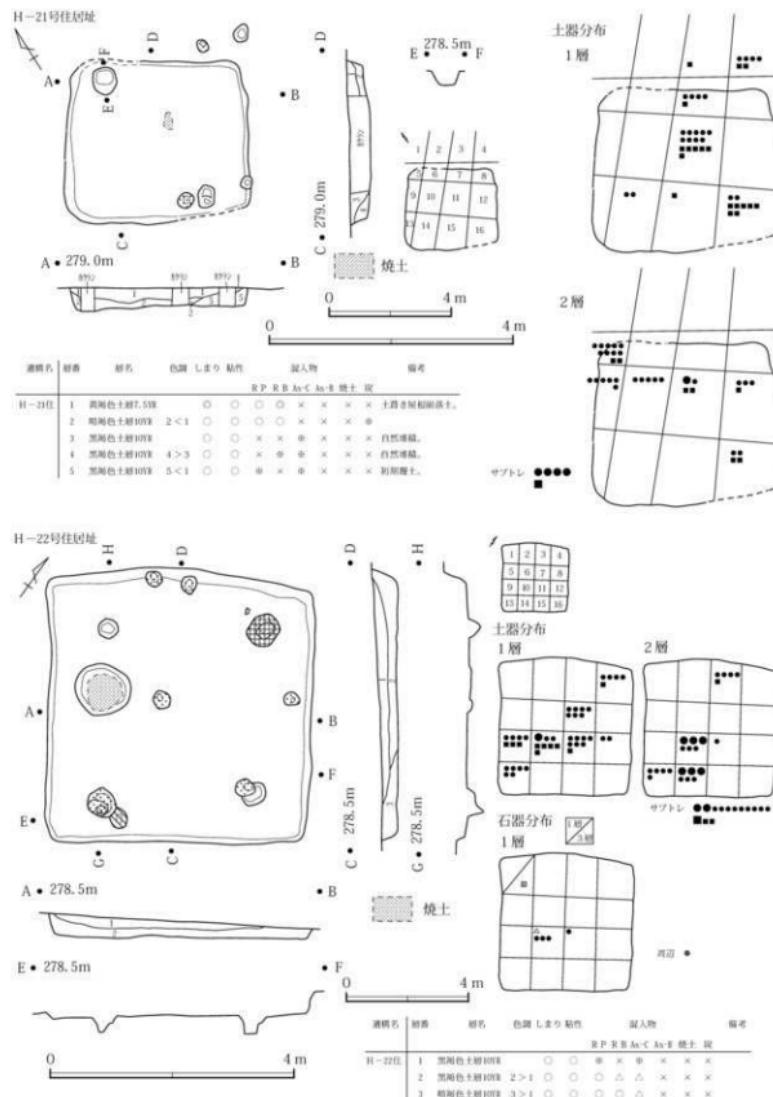


第 20 図 H-18 号住居址・H-19 号住居址実測図

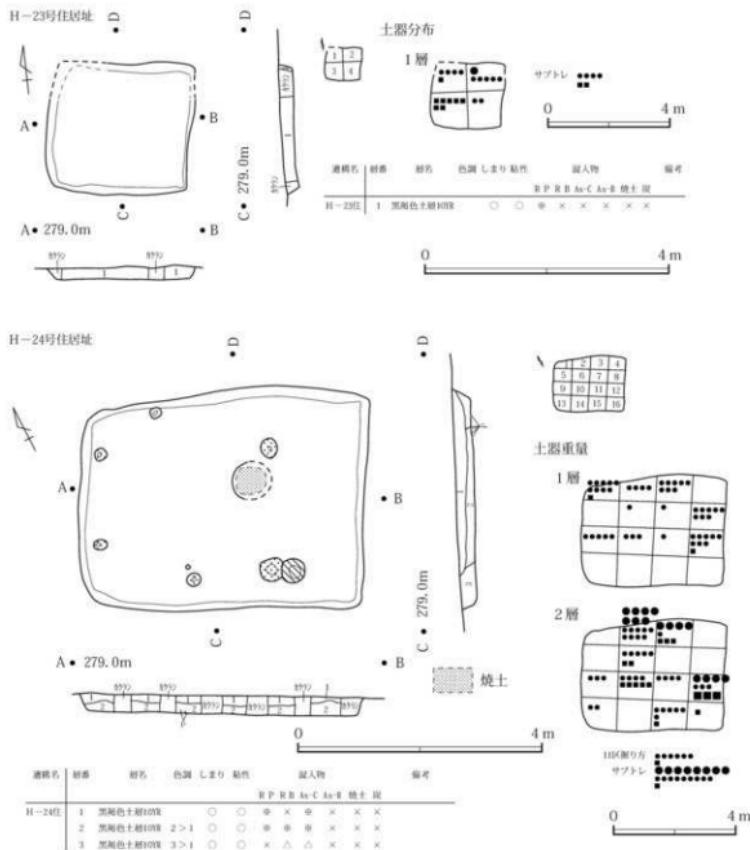
H-20号住居址



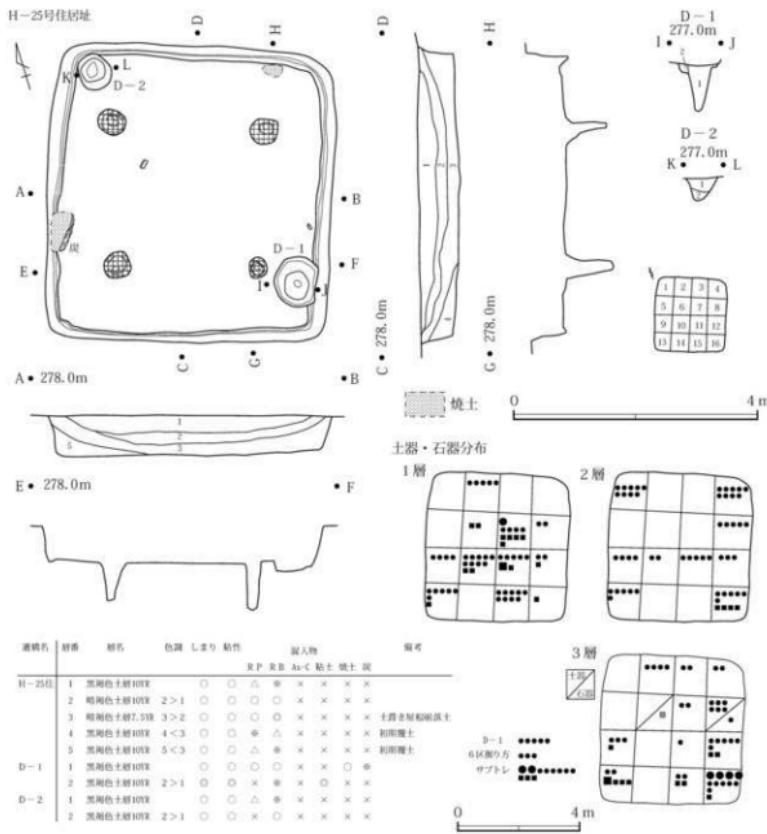
第 21 図 H-20 号住居址実測図



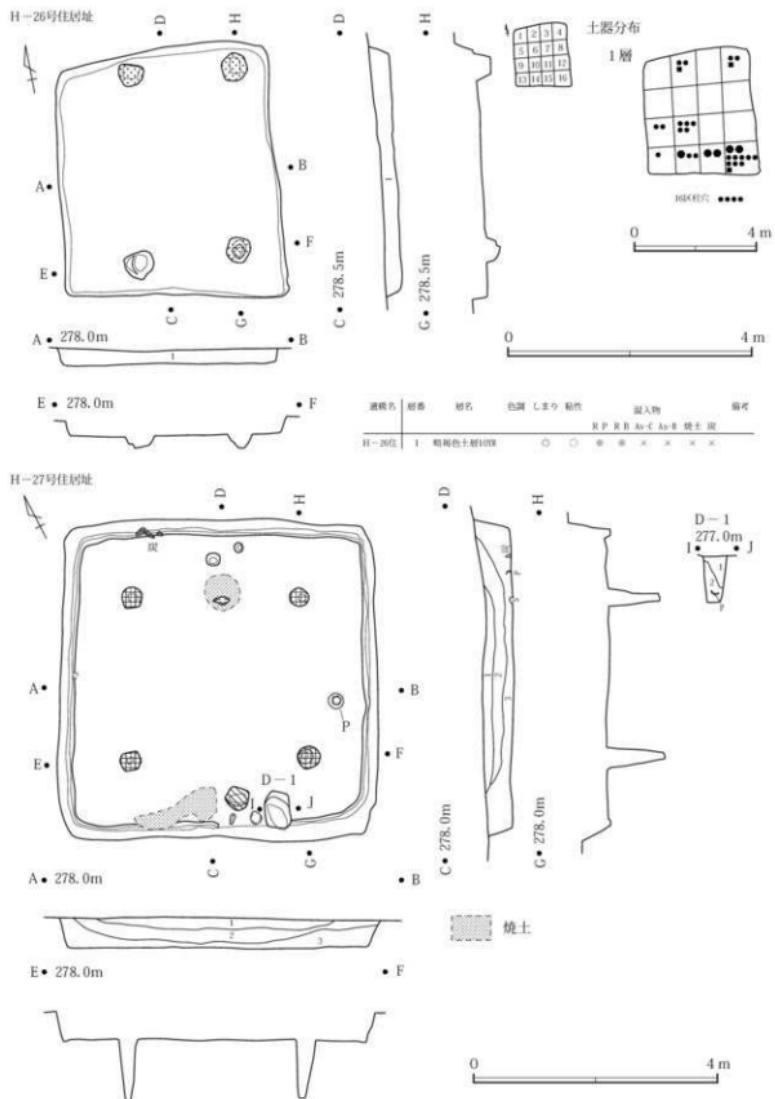
第22図 H-21号住居址・H-22号住居址実測図



第23図 H-23号住居址・H-24号住居址実測図



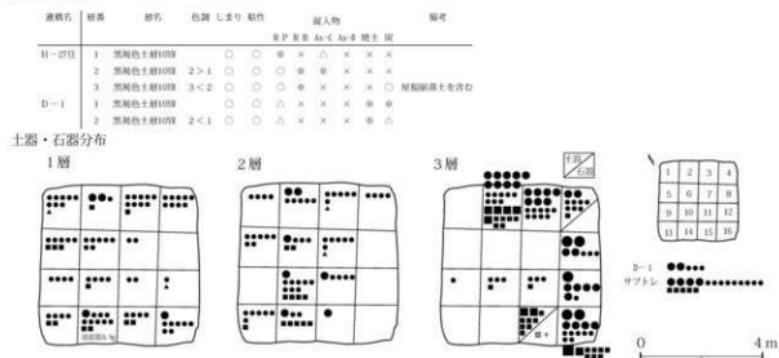
第24図 H-25号住居址実測図



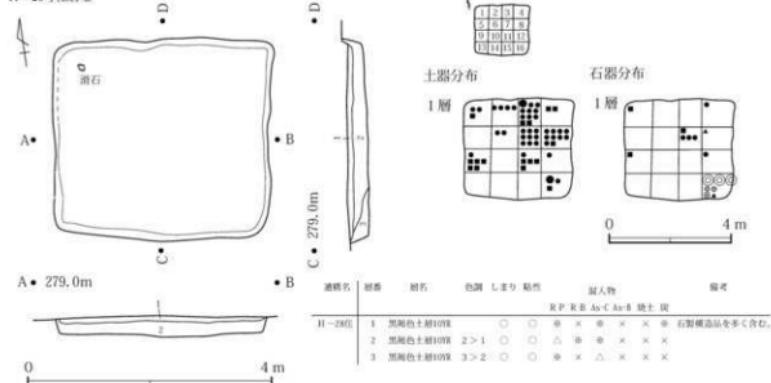
第25図 H-26号住居址・H-27号住居址(1)実測図

人見西原道路 A 区

H-27号住居址

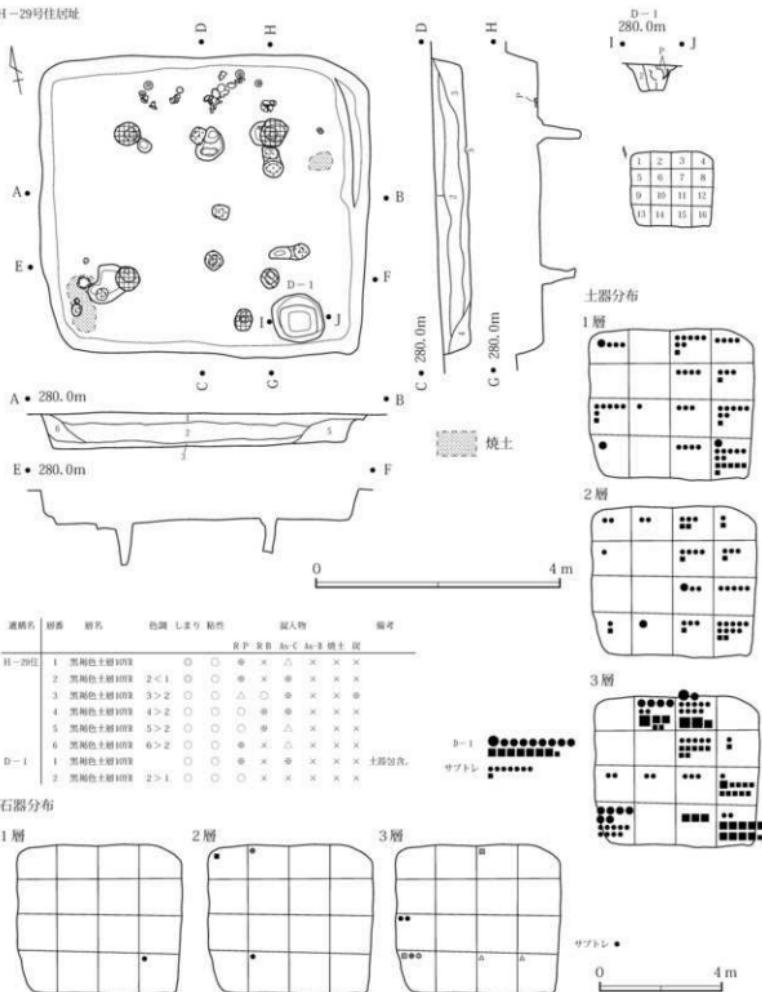


H-28号住居址

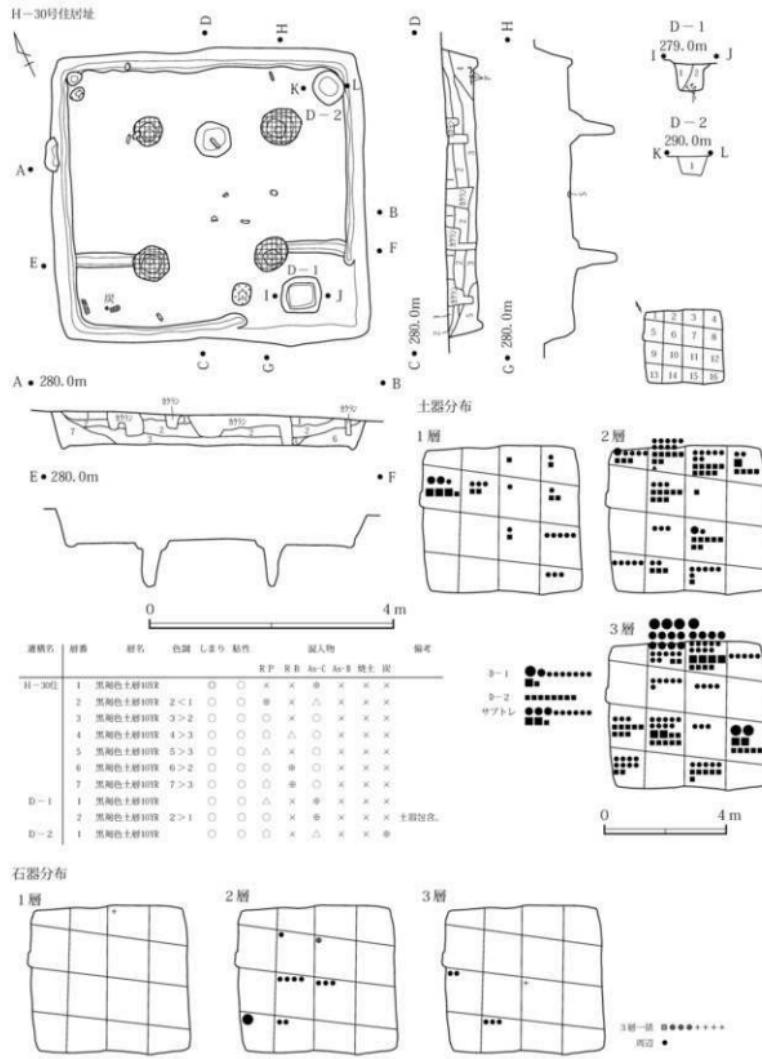


第 26 図 H-27 号住居址 (2)・H-28 号住居址実測図

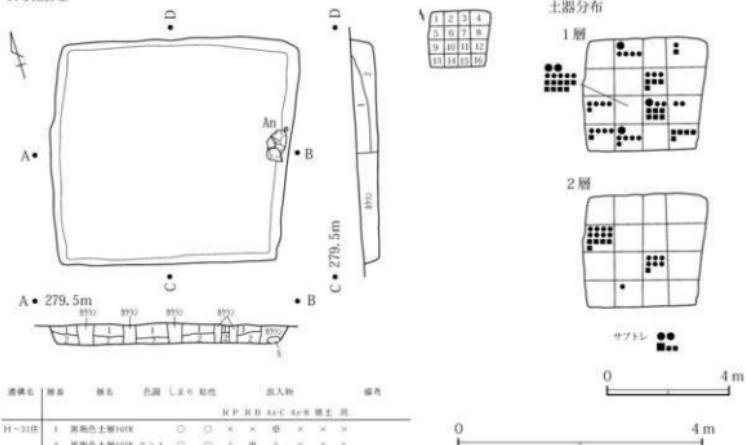
H-29号住居址



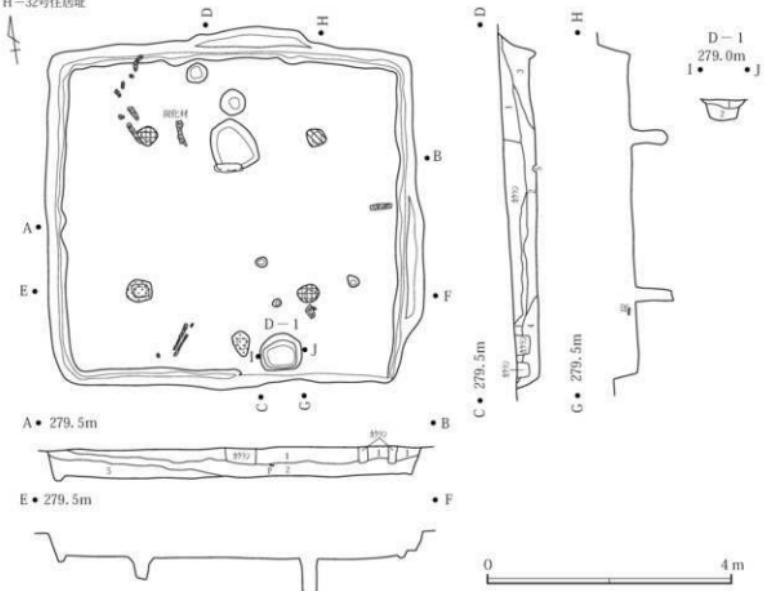
第27図 H-29号住居址実測図



H-31号住居址

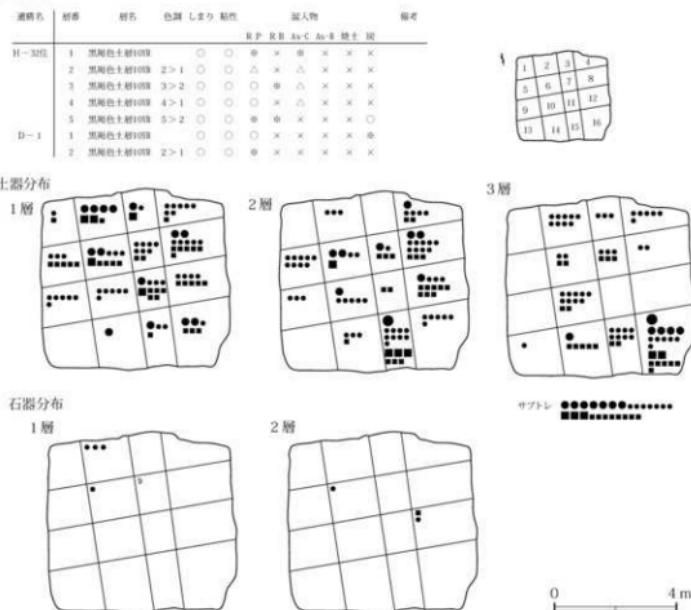


H-32号住居址

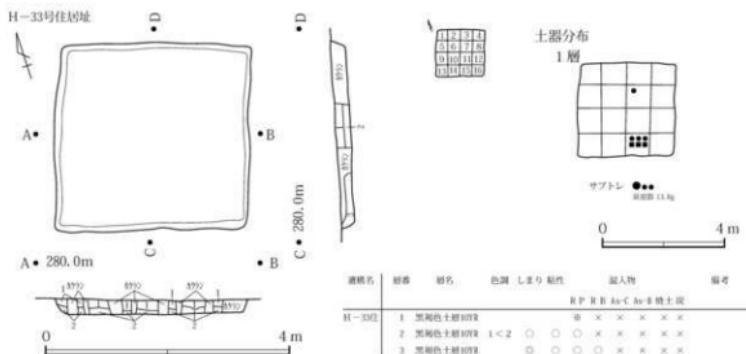


第29図 H-31号住居址・H-32号住居址(1)実測図

H-32号住居址

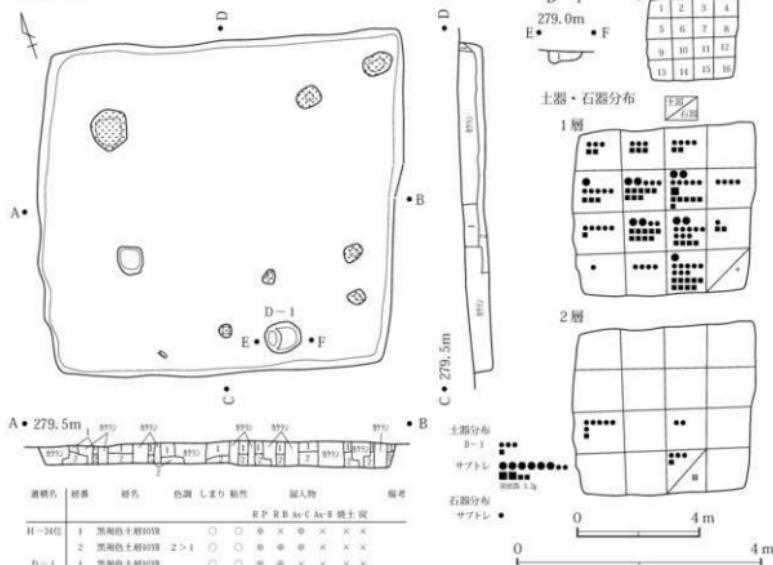


H-33号住居址

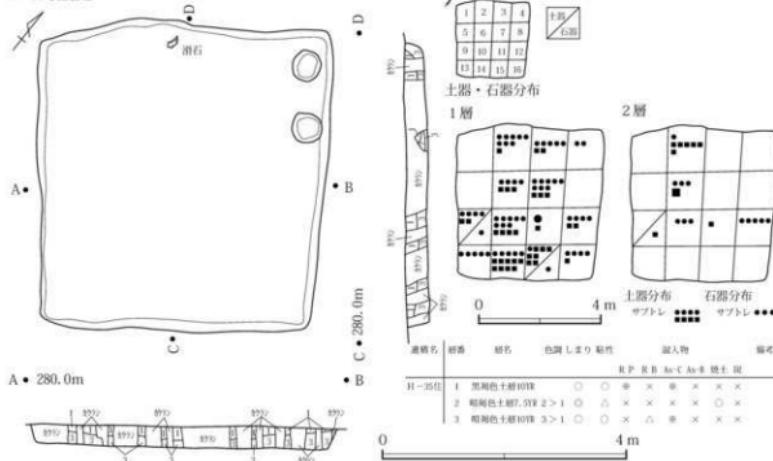


第30図 H-32号住居址(2)・H-33号住居址実測図

H-34号住居址

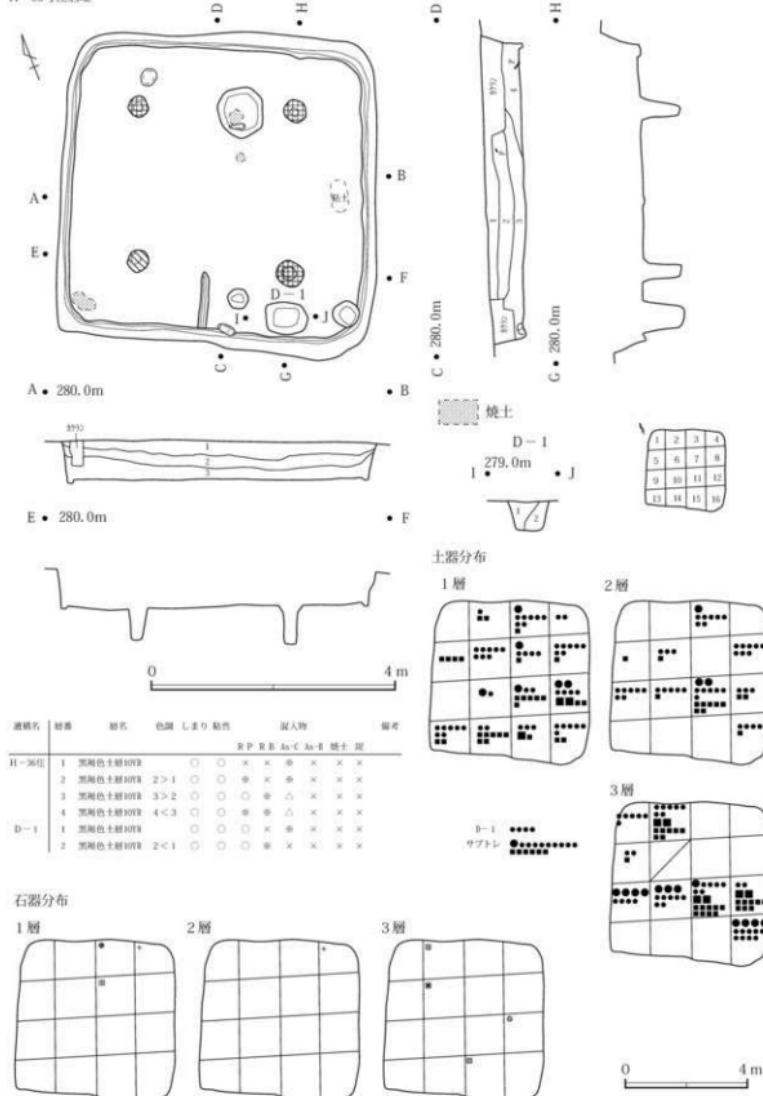


H-35号住居址



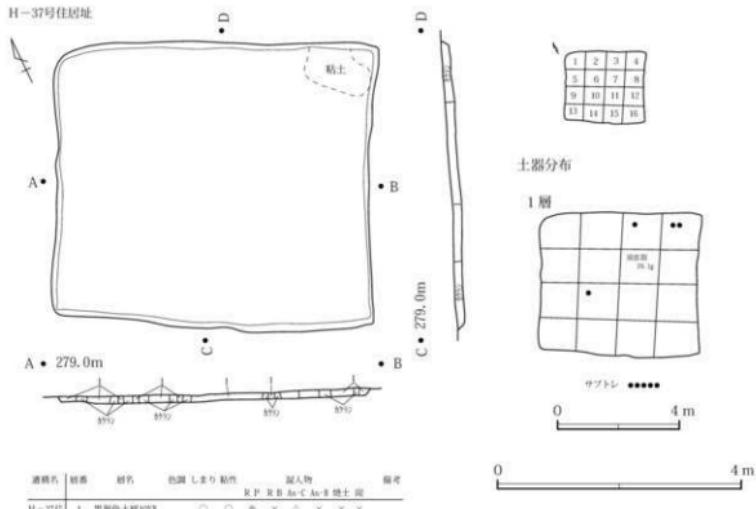
第31図 H-34号住居址・H-35号住居址実測図

H-36号住居址

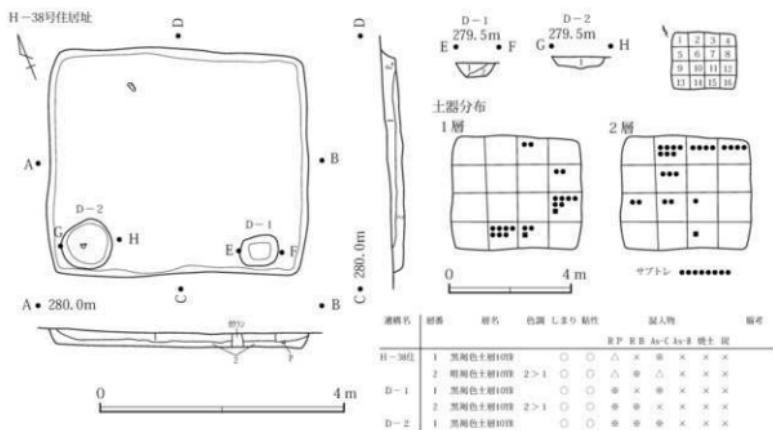


第32図 H-36号住居址実測図

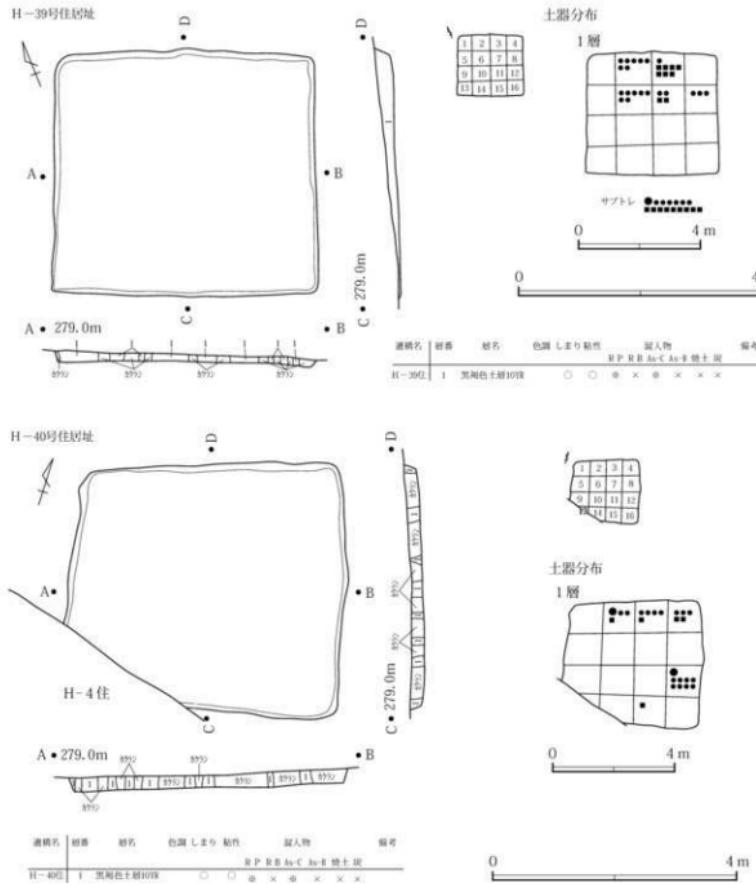
H-37号住居址



H-38号住居址

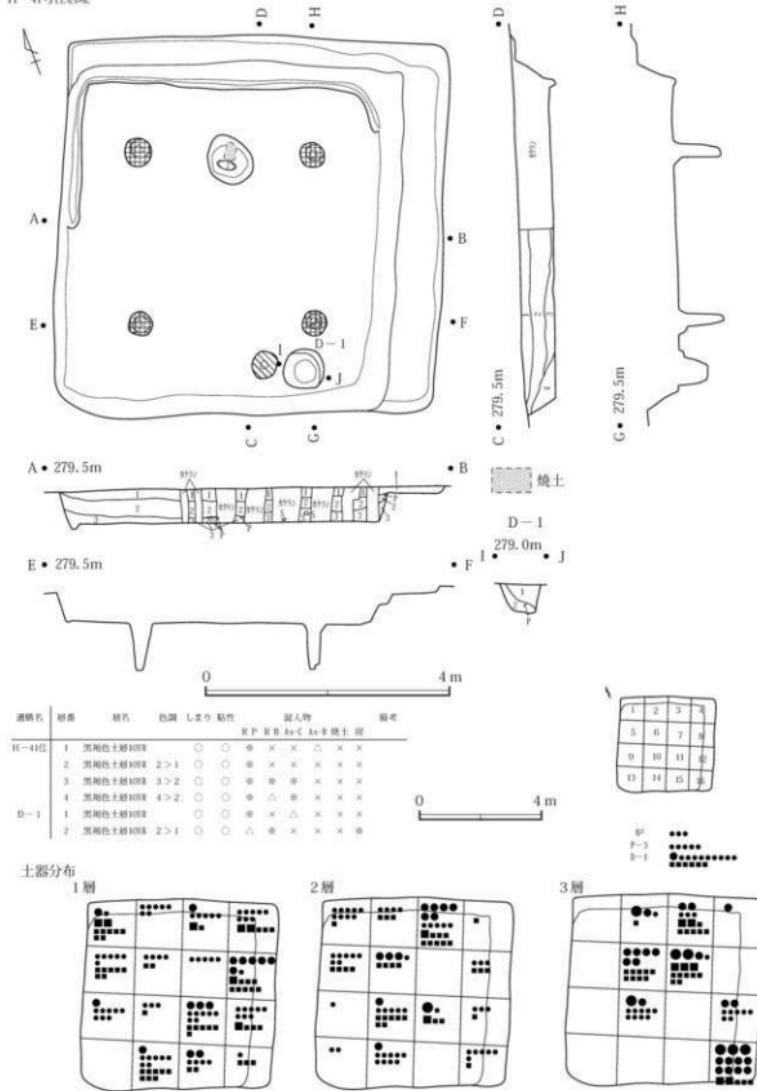


第33図 H-37号住居址・H-38号住居址実測図



第34図 H-39号住居址・H-40号住居址実測図

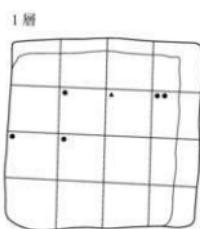
H-41号住居址



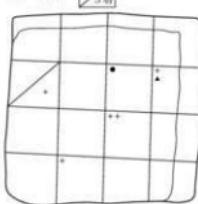
第35図 H-41号住居址(1)実測図

H-41号住居址

石器分布

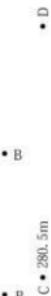
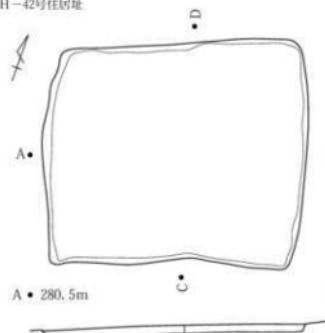


2・3層

2層
3層

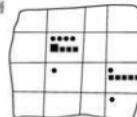
0 4 m

H-42号住居址



土器分布

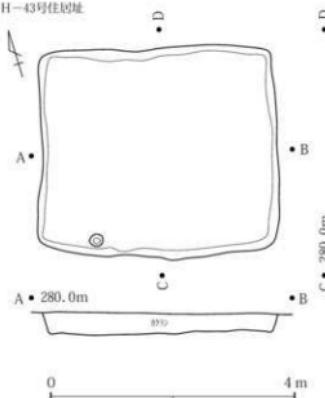
1層



0 4 m

0

H-43号住居址



土器分布

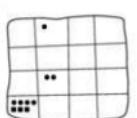
1層



サブトレ



2層

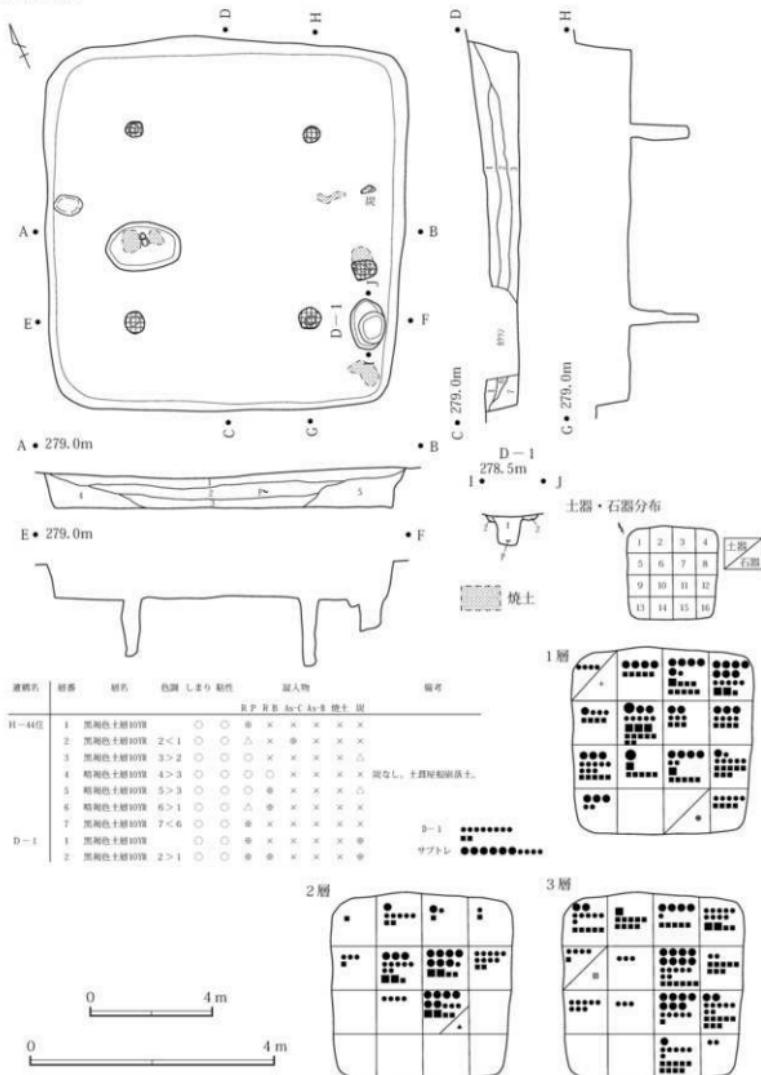


0 4 m

0

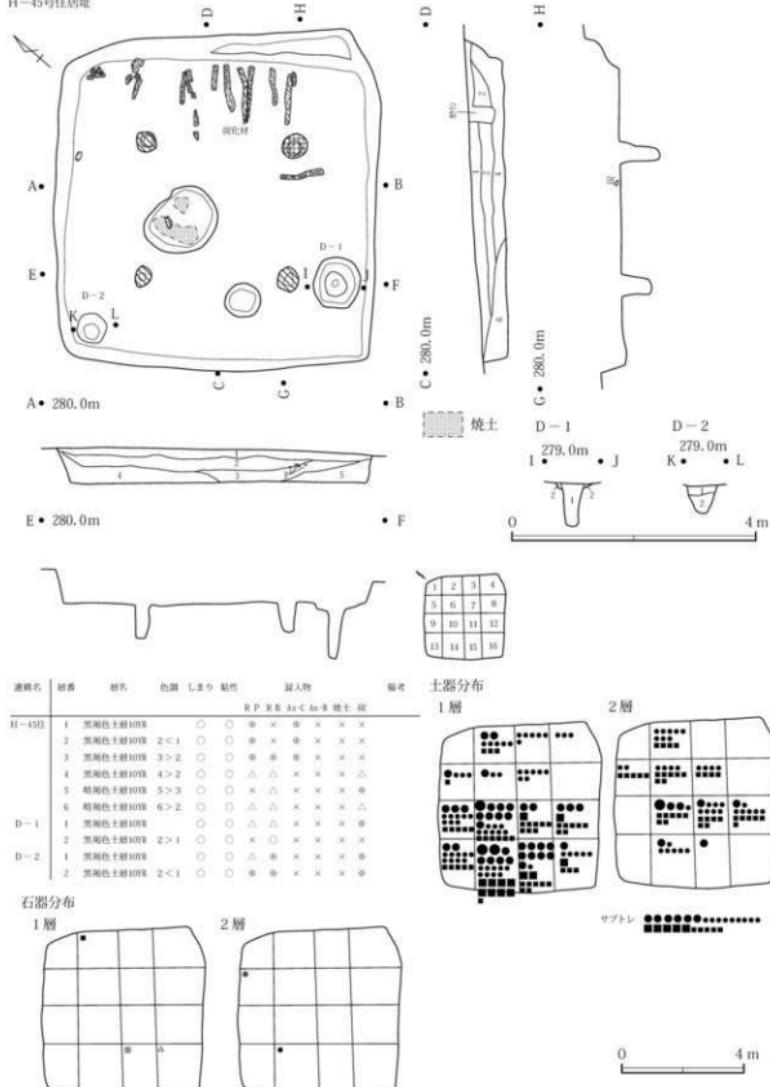
第36図 H-41号住居址(2)・H-42号住居址・H-43号住居址実測図

H-44号住居址

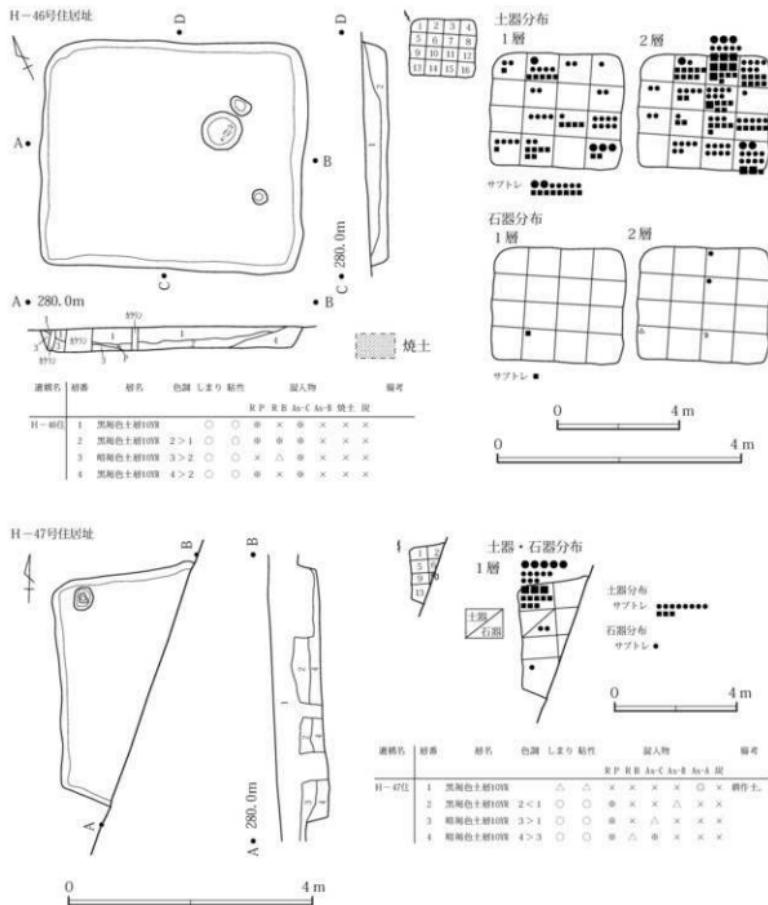


第37図 H-44号住居址実測図

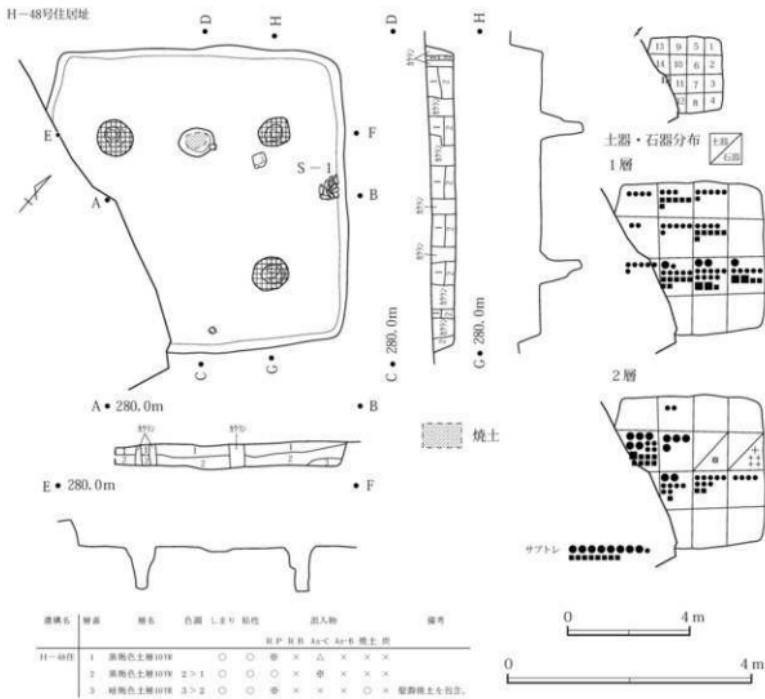
H-45号住居址



第38図 H-45号住居址実測図

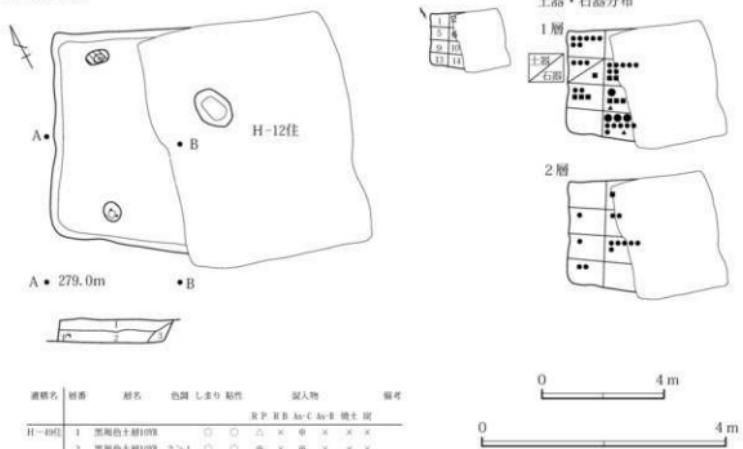


第39図 H-46号住居址・H-47号住居址実測図

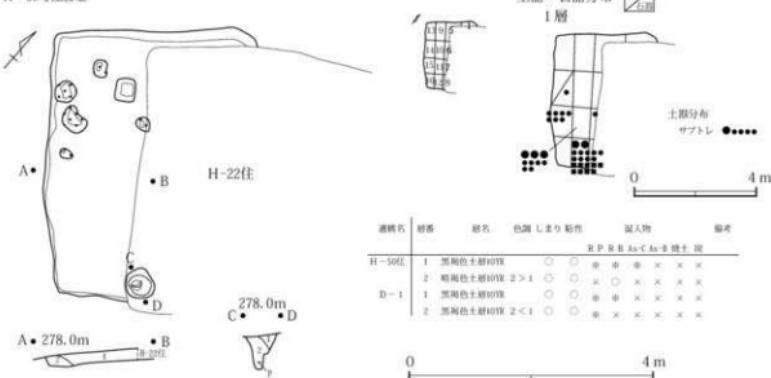


第40図 H-48号住居址実測図

H-49号住居址

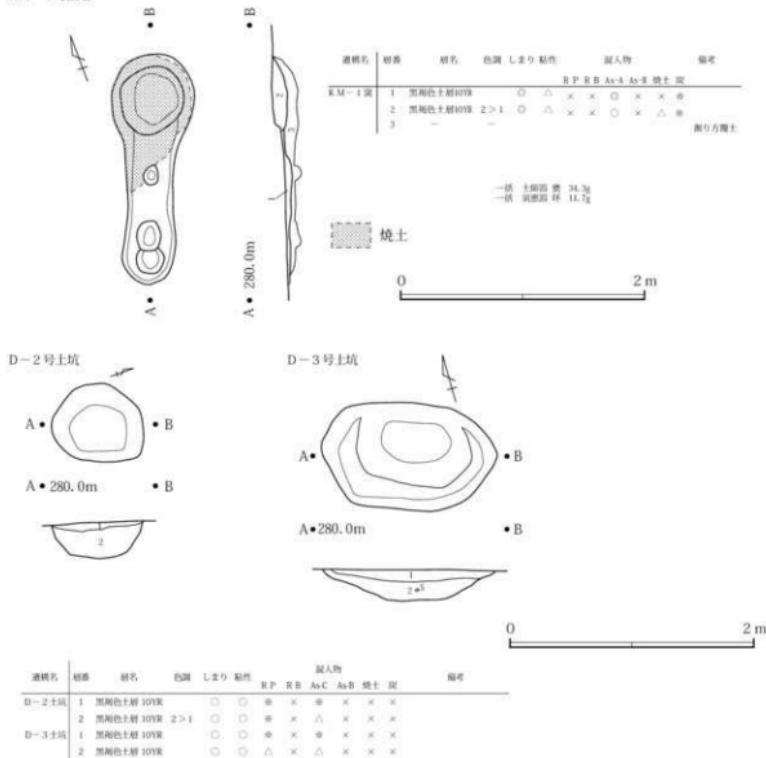


H-50号住居址



第 41 図 H-49号住居址・H-50号住居址実測図

KM-1号窯址



第 42 図 KM-1 号窯址・土坑実測図

住居名	平面形態			規模 (m)		主軸方向	断面			遺物	時期	備考
	規模	形態	長軸	短軸	深さ		断面穴	柱穴	伊・カマ 尺	埋溝	土師 石器 石製	
H-1 住	A	正方形	6.65	6.33	0.62	N<25° E	16区	4	7区	○	○ ○	13～16区は浅く、遺物取り上げ1回のみ。
H-2 住	A	正方形	5.63	5.56	0.54	N<32° E	16区	4	7区	×	○ *	柱穴平面小形。
H-3 住	B	長方形	5.31	4.69	0.48	N<30° E	16区	4	6区	×	△ *	正面柱穴の側にロームと土の混合土が堆積。
H-4 住	B	正方形	4.87	4.57	0.39	N<25° E	16区		7区	×	△ ○	床面不明瞭。
H-5 住	B	長方形	5.97	5.02	0.59	N<17° W	13区	4	6区	○	○ ○	柱居北・西面にテラス。今は新田あり。石製品多量。
H-6 住	A	長方形	6.10	5.06	0.10	N<8° E		×	×	×	△ △	床面はすでに消失か?
H-7 住	B	正方形	4.78	4.38	0.63	N<16° E	16区	4	6+7区	×	△ *	柱穴検出プラン明瞭。
H-8 住	B	正方形	5.53	5.15	0.51	N<8° E	16区	4	6区	×	○ ○	壁際から埴土を多く検出。
H-9 住	C	長方形	4.68	3.61	0.58	N<15° E	16区	×	10区・ 11区	×	△ *	平面検出プラン不明瞭。
H-10 住	C	正方形	4.36	4.26	0.68	N<10° W	13区	4	6+7区	○	△ *	人口ピットあり。柱穴検出プラン小形。
H-11 住	C	長方形	4.68	4.05	0.48	N<8° E	15区	×	×	×	△ *	平面検出プラン不明瞭。

第 2 表 人見西原遺跡 A 区住居址 観察表 (1)

住居名	平面形態			規模 (m)		土軸方向	施設			遺物	時期	備考
	幅員	形態	長軸	短軸	深さ		野炊穴	主柱穴	炉・カマ下	壁溝		
H-12住	C 長方形	3.83	2.93	0.33	N-14° E	15区	×	6区	×	△	申	平成から布留置出土。
H-13住	B 正方形	4.60	4.38	1.04	N-41° E	12°+16区	4	9+10区	○	○	申	1層から布留置出土。
H-14住	C 長方形	4.43	3.76	0.38	N-3° W	13区	×	7区	×	△	申	床面地山面。
H-15住	C 長方形	4.14	3.59	0.70	N-10° W	15区	×	6区	○	○	○	鏡失住居。
H-16住	B 正方形	4.71	4.30	0.61	N-38° E	16区	4	×	○	△	○	住居幾方に部分的に埴土を多く含む。
H-17住	B 正方形	5.01	4.67	0.36	N-23° E	16区	4	6+7区	○	△	申	人口ビットあり。主柱穴は抜き取り。
H-18住	B 長方形	5.81	4.39	0.31	N-27° E	15°+16区	×	10区	×	△	○	複数多点。
H-19住	C 長方形	4.49	3.66	0.31	N-13° E	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構、壁山不明瞭。
H-20住	A 正方形	5.86	5.73	0.71	N-26° E	15区	4	6+7区	×	○	○	鏡失住居。
H-21住	C 正方形	3.07	2.84	0.38	N-42° E	北西隅	×	中央北	×	△	申	自然の落ち込みを埋没後、削削して構築。
H-22住	C 正方形	4.44	4.21	0.40	N-34° W	×	4	14区	×	△	申	伊はH-50住に帰属する可能性あり。
H-23住	C 長方形	2.28	2.06	0.26	N-5° E	×	×	×	×	△	申	床面地山面。
H-24住	C 長方形	4.59	3.53	0.16	N-30° E	×	×	7区	×	△	申	野穴状遺構、平山棟出プラン明瞭。
H-25住	B 正方形	4.80	4.57	0.62	N-19° E	16区	4	×	○	△	○	壁際から埴土を多量に検出。
H-26住	C 正方形	3.95	3.58	0.33	N-8° E	×	4	×	×	△	申	柱穴棟出プラン明瞭。床面・平面棟出プラン不明瞭。
H-27住	B 正方形	5.21	5.06	0.66	N-29° E	15区	4	2+3区	○	○	○	16区土器多量。鏡失住居。
H-28住	C 正方形	3.39	3.22	0.34	N-7° E	×	×	×	×	△	申	1層から石製品が多量に出土。
H-29住	B 長方形	5.32	4.64	0.57	N-11° E	16区	4	7区	×	○	○	2+3区から小形器種多量に出土。
H-30住	B 長方形	5.10	4.53	0.67	N-26° E	16区	4	7区	○	○	○	柱穴棟出プラン大型。
H-31住	C 長方形	4.05	3.58	0.44	N-17° E	×	×	×	×	△	申	東側隣接は複数により
H-32住	A 正方形	6.03	5.72	0.56	N-11° E	15区	4	7区	○	○	○	鏡失住居。
H-33住	C 正方形	3.07	2.93	0.31	N-19° E	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。
H-34住	A 正方形	5.88	5.40	0.34	N-18° E	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。
H-35住	B 正方形	4.94	4.60	0.35	N-35° W	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。
H-36住	B 正方形	5.10	5.06	0.69	N-20° E	15区	4	7区	○	○	○	人口ビットあり。鏡は土器出土。
H-37住	B 正方形	5.03	4.63	0.25	N-28° E	×	×	×	×	△	申	住居中央・北側隅に埴土。
H-38住	C 長方形	4.16	3.63	0.30	N-20° E	13区+16区	×	×	×	△	申	D-1 方形、D-2 円形。
H-39住	C 正方形	4.23	3.96	0.32	N-21° E	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。
H-40住	C 長方形	4.47	4.00	0.22	N-16° W	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。遺物は上層から出土。
H-41住	A 正方形	5.67	5.34	0.54	N-22° E	15区	4	6区	○	○	○	北・西側にテラス。
H-42住	C 長方形	4.26	3.49	0.13	N-17° W	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。
H-43住	C 正方形	3.72	3.42	0.38	N-16° E	×	×	×	×	△	申	野穴状遺構。
H-44住	A 正方形	6.00	5.84	0.92	N-24° E	12°+16区	4	9+10区	×	○	申	壁際から埴土を多量に検出。
H-45住	B 正方形	5.29	5.18	0.70	N-41° W	12°+13°区	4	10区	×	○	申	北壁際に焼成材が見出。
H-46住	C 長方形	4.14	3.64	0.43	N-29° E	○	×	7区	○	△	申	平面棟出プラン明瞭。
H-47住	B 正方形	4.23	3.93	0.38	N-8° W	-	○	○	○	△	申	床面地山面化。
H-48住	B 正方形	4.93	3.50	0.50	N-40° W	-	(3)	10区	○	△	申	壁際に埴土あり。2区にコモ隔石集石。
H-49住	B 正方形	3.60	3.09	0.25	N-25° E	×	×	(2区)	×	△	申	伊はH-12号住調査時に検出。H-49住→H-12住。
H-50住	B 正方形	4.45	4.03	0.30	N-36° W	-	-	-	×	△	△	H-22号住の者が本住居に帰属か。H-50号住→H-22号住。

凡例

平面形態 規模 長軸×短軸の値 A : 30以上。B : 20以上30未満。C : 20未満

形態 長軸値での四分位数長と短軸値でのそれとの差が、住居全長率の何%になるかによって分類した。

長方形 : 25%以上。正方形 : 25%未満

壁溝 ○: 間仕切り溝を伴うもの。△: 壁周溝のみ。×: 壁溝なし

遺物 土器 *: 0~1,000g △: 1,001~5,000g ○: 5,001~10,000g ○: 10,001g以上

石器・石製品 *: 1~10点 △: 11~20点 ○: 21~30点 ○: 31点以上

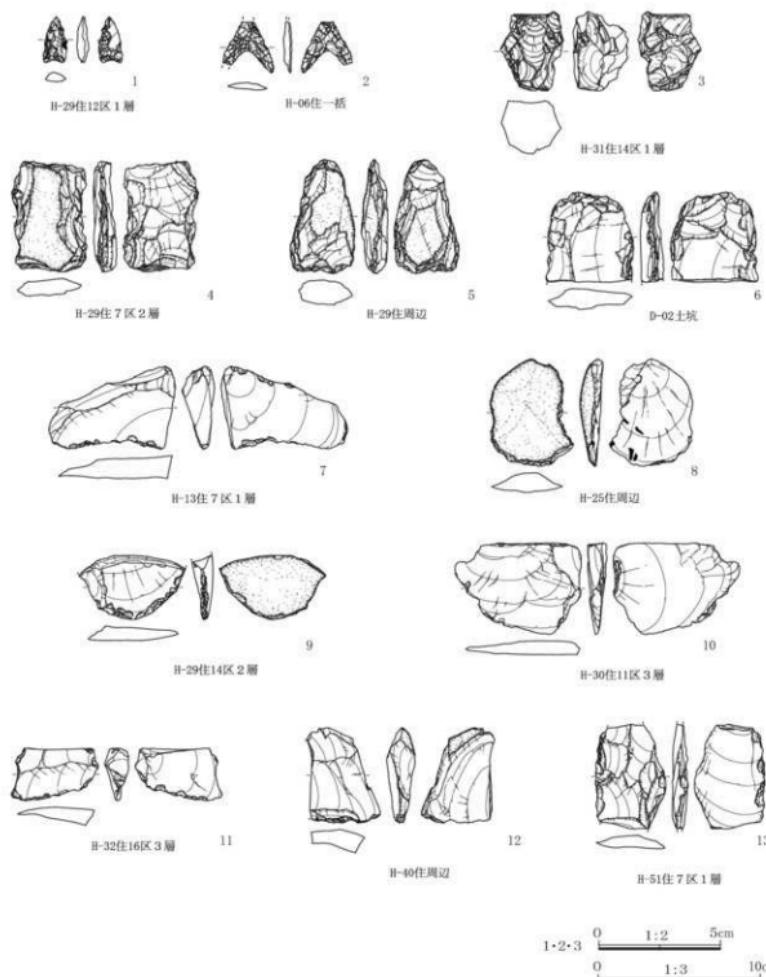
第3表 人見西原道路A区住居址 観察表(2)

土坑名	縦横 (上端)		縦横 (下端)		深さ	平面形態	断面	遺物		時期	備考
	縦横	縦横	長軸	短軸				土器	石器		
D-1	302	294	132	58	117	円形	-	-	-	-	堆積木塙。
D-2	112	94	72	56	46	円形	A	-	-	-	-
D-3	216	132	78	50	43	椭円形	B	縄文前期带 縄文△	-	-	-

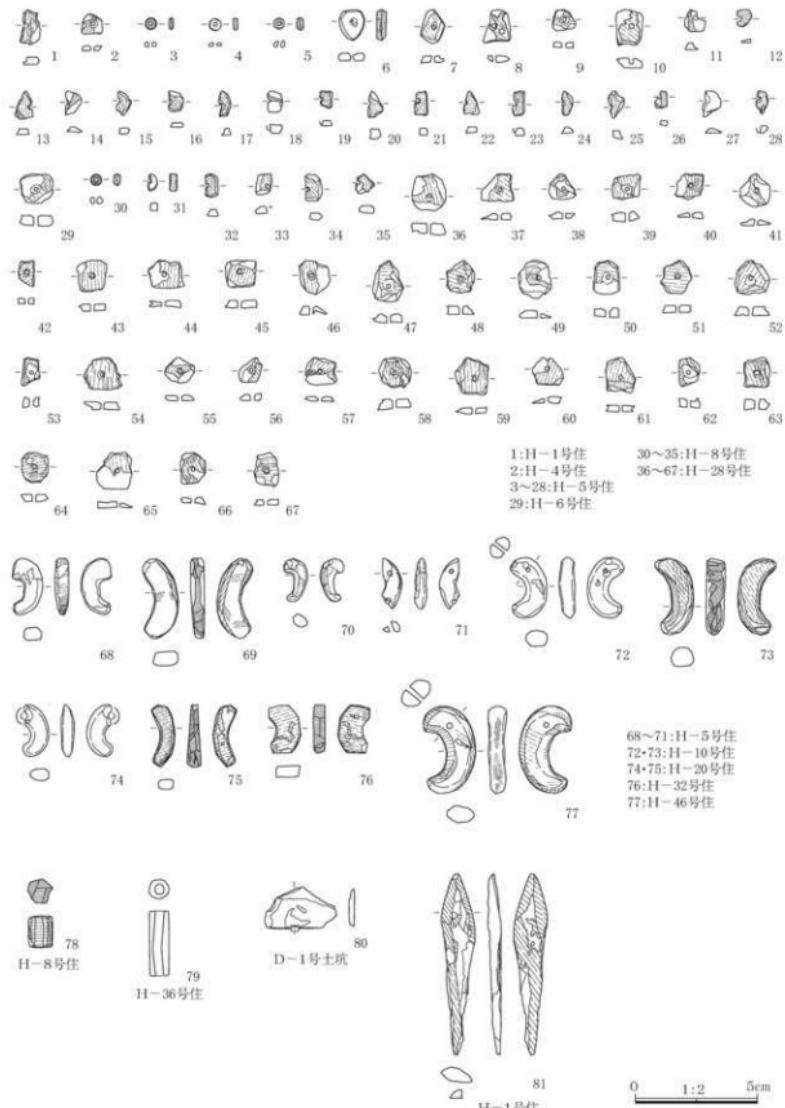
凡例

平面形態 A：底面が矩形のもの B：底面は凸曲するが浅いもの C：底面は平坦で壁が傾斜する逆台形状のもの D：底面は平頭で壁が直立する箱形のもの
遺物 土器 弔：0 ~ 1,000g, △：1,001 ~ 5,000g, ○：5,001 ~ 10,000g, ◎：10,001g 以上
石器・石製品 弔：1 ~ 10 点, △：11 ~ 20 点, ○：21 ~ 30 点, ◎：31 点以上

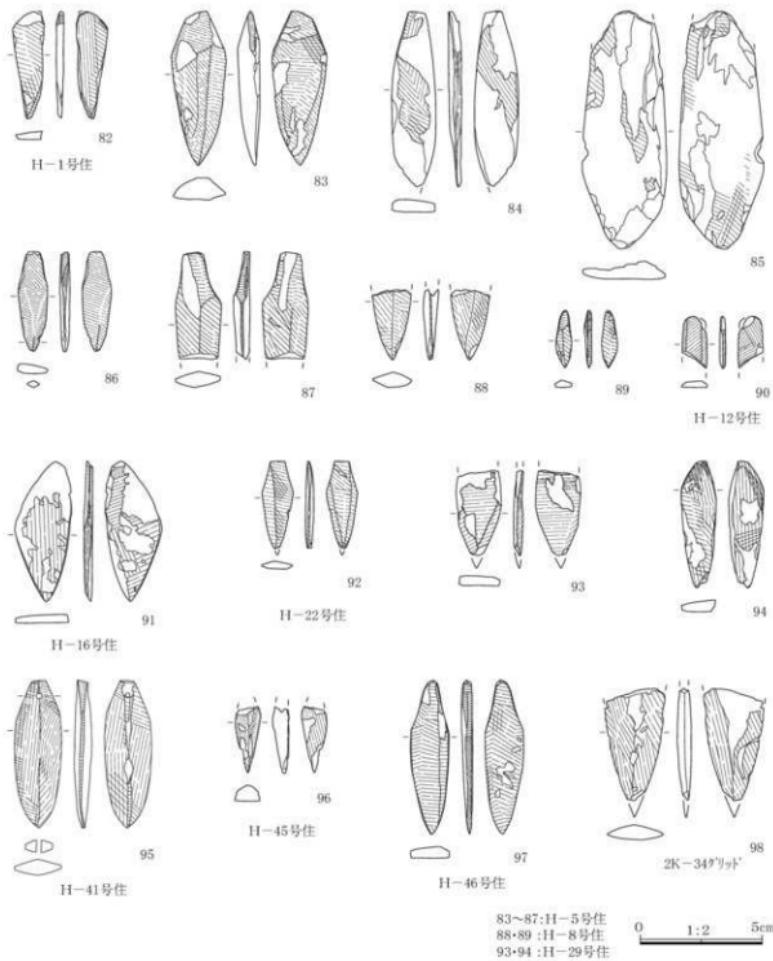
第 4 表 人見西原遺跡 A 区土坑 観察表（1）



第 43 図 人見西原 A 区出土石器実測図



第44図 人見西原A区出土石製模造品実測図(1)



第45図 人見西原A区出土石製模造品実測図(2)

種別		H-住居	土坑	グリッド	計
A類	石器類	石器	2		3
		石器	1		1
		石器A類			0
		SCA			0
		RFA	5	1	6
		柳形石器			0
	剥片類	FLA	8	3	11
B類	石核	石核A類	2		2
	原石	原石A類			0
	打製石斧	4	1		5
C類	石器類	石器B類			0
		SCB	10		10
		RFB	4	1	5
		剥片類	FLB	15	16
	石核	石核B類	1		1
	原石	原石B類			0
C1類	C1類	磨石			0
		凹石		1	1
		石器			0
		球石			0
C2類	C2類	敲石			0
		砾石			0
		台石		1	1
合計		52	2	8	62

遺構名		黒曜石	チャート	破質白岩	眞骨	安山岩	緑色岩類	石英	不明	点数合計	重量合計(g)
		Ob	Ch	HSh	Sh	An	GrR				
H-住居	点数	14	1	1	25	6	1	3	1	52	
	重量(g)	69.1	0.8	47.0	774.8	147.0	53.3	21.7	36.0		1149.7
土坑	点数				2					2	
	重量(g)				59.3						59.3
グリッド	点数	5			1	2				8	
	重量(g)	8.6			10.5	1503.4					1522.5
合計	点数	19	1	1	28	8	1	3	1	62	
	重量(g)	88.1	0.8	47.0	844.6	1650.4	53.3	21.7	36.0		2741.9

第5表 人見西原A区出土石器組成表

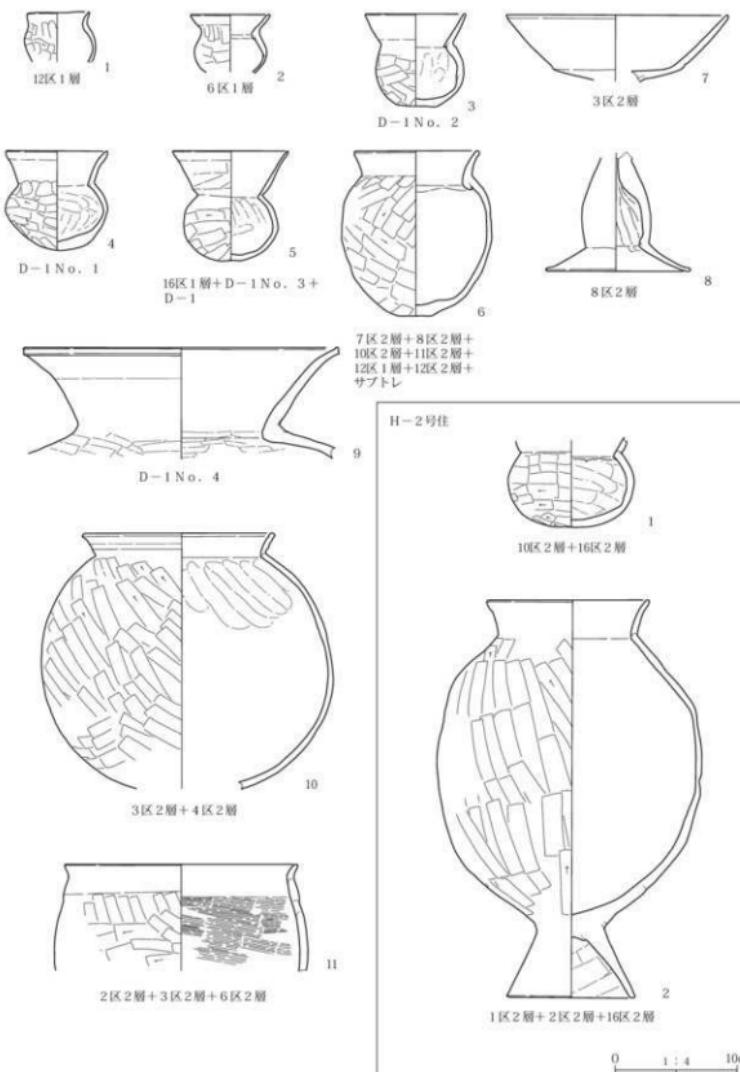
番号	直横名	区	割り方	その他	形態	石材	欠損	被熱	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1	H-1	12	割り方	白玉	未製品 蛇文刃				12.25	7.04	2.99	0.5	
2	H-4	10	1	白玉	未製品 蛇文刃				8.29	8.92	1.78	0.2	
3	H-5	14	2	白玉	蛇文刃				4.57	4.62	1.5	0.1	
4	H-5	14	3	白玉	蛇文刃				4.81	5.51	1.43	0.1	
5	H-5	14	割り方	白玉	蛇文刃				4.2	4.41	2.32	0.1	
6	H-5	15	2	白玉	未製品 蛇文刃				12.55	10.2	3.76	0.8	
7	H-5	15	2	白玉	未製品 蛇文刃				13.62	9.03	3.12	0.5	
8	H-5	15	2	白玉	未製品 蛇文刃				12.99	10.02	2.87	0.6	
9	H-5	14	3	白玉	未製品 蛇文刃				8.82	9.53	2.39	0.3	
10	H-5	10	割り方	白玉	未製品 滑石				14.71	11.22	4.09	1.1	
11	H-5	13	割り方	白玉	未製品 蛇文刃	○			8.69	8.8	2.95	0.2	
12	H-5	13	割り方	白玉	未製品 滑石	○			7.76	6.25	1.25	0.1	
13	H-5	14	3	白玉	未製品 蛇文刃	○			11.75	7.28	2.69	0.3	
14	H-5	14	3	白玉	未製品 蛇文刃	○			9.87	6.57	1.77	0.1	
15	H-5	14	3	白玉	未製品 蛇文刃	○			7.89	5.68	2.58	0.2	
16	H-5	14	3	白玉	未製品 蛇文刃	○			5.96	5.98	1.77	0.1	
17	H-5	10	割り方	白玉	未製品 蛇文刃	○			10.48	5.08	2.32	0.1	
18	H-5	14	3	白玉	未製品 蛇文刃				8.93	5.81	3.46	0.2	
19	H-5	14	割り方	白玉	未製品 滑石				6.62	4.84	1.93	0.1	
20	H-5	14	割り方	白玉	未製品 滑石				10.86	6.22	3.73	0.3	
21	H-5	10	2	白玉	未製品 滑石	○			9.78	5.57	2.76		
22	H-5	14	2	白玉	未製品 滑石	○			9.37	6.2	2.11	0.2	
23	H-5	14	割り方	白玉	未製品 蛇文刃	○			9.94	5.22	3.08	0.2	
24	H-5	14	割り方	白玉	未製品 蛇文刃	○			10.07	4.88	2.38	0.1	
25	H-5	14	割り方	白玉	未製品 蛇文刃	○			10.65	6.46	3.54	0.2	
26	H-5	14	割り方	白玉	未製品 蛇文刃	○			7.76	5.04	1.94	0.1	
27	H-5	14	2	白玉	未製品 蛇文刃	○			10.25	7.24	1.66	0.1	
28	H-5	14	割り方	白玉	未製品 滑石				9.09	4.86	2.8	0.1	
29	H-6	11	1	白玉	未製品 蛇文刃				12.06	13.98	4.35	1.3	
30	H-8	5	割り方	白玉	蛇文刃				4.51	4.53	2.67	0.1	
31	H-8	8	2	白玉	滑石	○			6.64	3.56	2.97	0.1	
32	H-8	15	割り方	白玉	未製品 蛇文刃				8.25	4.87	2.64	0.2	
33	H-8	15	割り方	白玉	未製品 蛇文刃				6.93	5.8	2.86	0.3	
34	H-8	15	2	白玉	未製品 滑石	○			11.16	6.73	2.87	0.2	
35	H-8	15	2	白玉	未製品 滑石	○			6.84	7.18	2.93	0.1	
36	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				15.71	13.83	4.13	1.1	
37	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				13.23	11.4	2.62	0.5	
38	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				10.79	10.34	2.75	0.3	
39	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				9.37	12.53	4.41	0.8	
40	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				10.66	10.33	2.35	0.4	
41	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				12.79	11.97	2.33	0.4	
42	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				10.41	6.62	2.57	0.3	
43	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				12.75	12.28	3.02	0.7	
44	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				13.7	11.32	3.76	0.9	
45	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				12.62	11.15	3.56	0.9	
46	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				13.12	12.29	2.64	0.4	
47	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				16.9	12.22	3.97	1.1	
48	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				11.99	12.87	3.71	0.8	
49	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				13.17	15.54	2.83	0.8	
50	H-28	16	1	幻玉	未製品 蛇文刃				13.65	10.87	3.78	0.9	

第6表 人見西原A区出土石製模造品観察表(1)

番号	遺物名	区	層	その他	形態	石材	欠損	被熱	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
51	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			12.16	13.72	3.09	0.8	
52	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			13.56	14.24	3.57	1.1	
53	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			11.55	7.23	4.41	0.5	
54	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			13.21	14.14	3.41	1.1	
55	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			10.55	9.97	1.57	0.2	
56	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			8.43	11.16	2.6	0.3	
57	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			11.24	12.93	1.98	0.4	
58	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			13.55	12.17	4.55	1	
59	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			14.73	13.32	2.39	0.8	
60	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			11.9	11.88	2.62	0.4	
61	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			14.01	12.17	2.76	0.8	
62	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			10.91	8.52	3.61	0.5	
63	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			11.66	10.76	4.52	1	
64	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			12.37	12.92	2.89	0.6	
65	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			14.56	14.32	3.28	0.8	
66	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			12.67	10.84	2.64	0.5	
67	H-28	16	1		勾玉	未製品 蛇文岩			10.14	13.37	2.54	0.7	
68	H-5	4	2		勾玉	未製品 滑石			23.13	9.07	5.37	2.2	
69	H-5	15	2		勾玉	未製品 滑石			32.47	10.82	5.73	4	
70	H-5	2	2		勾玉	未製品 滑石			17.52	6.22	6.46	1.1	
71	H-5	15	2		勾玉	未製品 蛇文岩	○		20.68	6.78	4.61	0.9	
72	H-10	8	2		勾玉	未製品 滑石			24.95	9.1	6.28	3.1	
73	H-10	9	2		勾玉	未製品 蛇文岩			31.18	9.3	8.23	5.7	
74	H-20	12	3		勾玉	未製品 蛇文岩	○		21.21	7.62	5.25	1.7	
75	H-20	1	1		勾玉	未製品 蛇文岩			25.54	6.12	5.94		
76	H-32	7	1		勾玉	未製品 滑石			19.72	12.8	5.44	2.6	
77	H-46	15	2		勾玉	未製品 蛇文岩			35.54	12.82	7.77	8.6	
78	H-8	15	2		菅玉か	未製品 滑石			13.1	10.66	10.37	2.5	
79	H-36	6	3		菅玉	碌縫 以羽			26.68	8.26	8.28	2.6	
80	D-1				円盤	未製品 滑石	○		30.37	17.18	1.9	1.4	
81	H-1	15	2		纏形	未製品 蛇文岩			74.23	14.31	5.74	5.5	
82	H-1	15	屬り方		刺形	未製品 蛇文岩			43.89	13.04	3.08	2.6	
83	H-5	4	2		刺形	未製品 蛇文岩			62.78	22.91	8.37	14.8	
84	H-5	12	2		刺形	未製品 蛇文岩			72.12	18.58	5.1	9.2	
85	H-5	9	2		刺形	未製品 蛇文岩			95	33.79	6.54	30.9	
86	H-5		周辺		刺形	未製品 蛇文岩			40.88	12.42	3.8	2.6	
87	H-5	3	2		刺形	未製品 蛇文岩	○		43.37	19.35	6.35	6.8	
88	H-8	10	2		刺形	未製品 蛇文岩	○		28.48	15.7	5.52	2.8	
89	H-8	4	1		刺形か	未製品 蛇文岩			23.51	6.74	3.16	0.6	
90	H-12		周辺		刺形か	未製品 蛇文岩	○		21.79	10.56	2.22	0.7	
91	H-16	2	3		刺形	未製品 蛇文岩			57.59	22.64	3.37	6	
92	H-22	10	1		刺形	未製品 蛇文岩			35.73	13.01	2.62	1.6	
93	H-29	15	3		刺形	未製品 蛇文岩	○		34.79	18.98	3.8	3.8	
94	H-29	16	3		刺形	未製品 蛇文岩	○		51.83	14.34	5.75	5.8	
95	H-41	5	3		刺形	未製品 蛇文岩			60.59	19.48	6.12	8.8	
96	H-45	16	1		刺形	未製品 蛇文岩	○		26.86	10.77	6.58	1.8	
97	H-46	13	2		刺形	未製品 蛇文岩			62.6	16.33	4.61	6.4	
98	2K-34				刺形	未製品 蛇文岩	○		46.23	25.63	5.65	7.1	

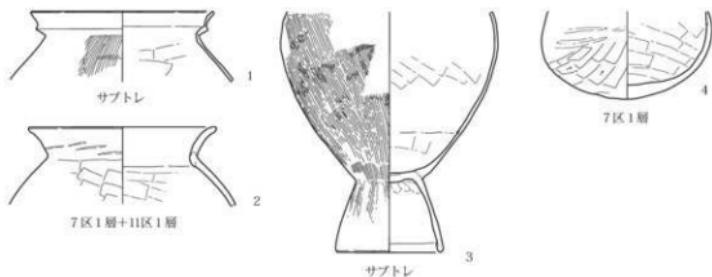
第7表 人見西原A区出土石製模造品観察表(2)

H-1 号住



第 46 図 H-1 号・H-2 号住居址出土土器実測図

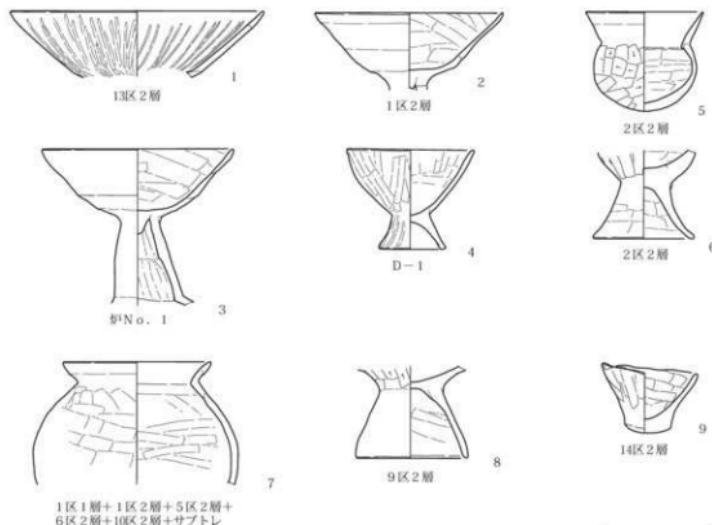
H-3号住



H-4号住



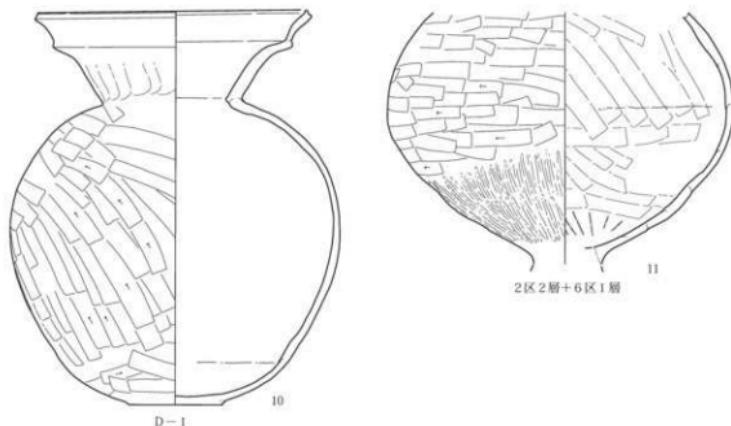
H-5号住 (1)



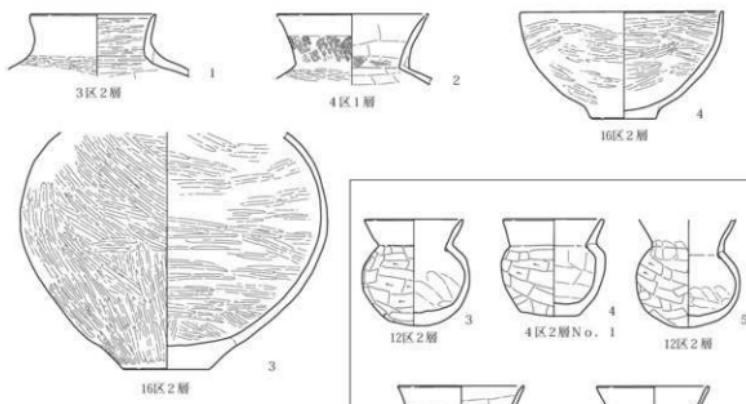
0 1 : 4 10cm

第47図 H-3号・H-4号・H-5号(1)住居址出土土器実測図

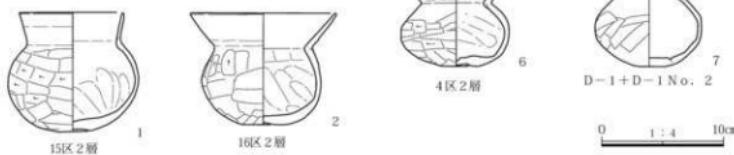
H-5号住(2)



H-7号住



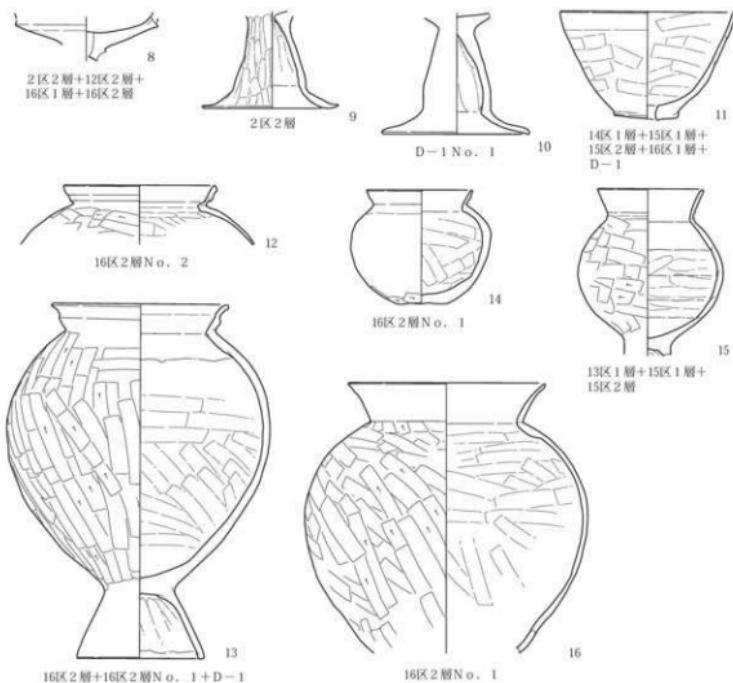
H-8号住(1)



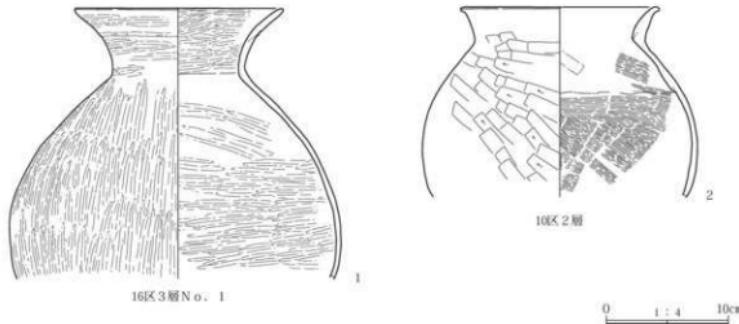
0 1 : 4 10cm

第48図 H-5号(2)・H-7号・H-8号住居址出土土器実測図

H-8号住(2)

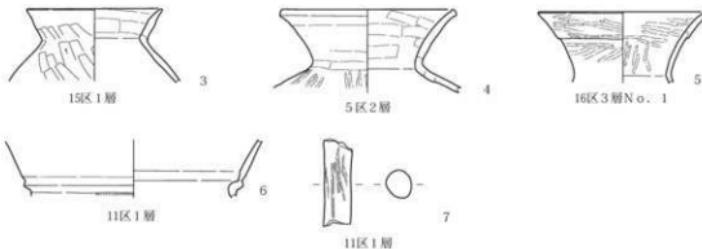


H-9号住(1)

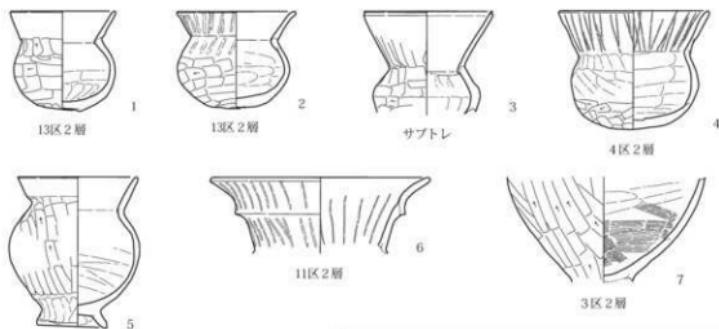


第49図 H-8号(2)・H-9号(1)住居址出土土器実測図

H-9号住(2)



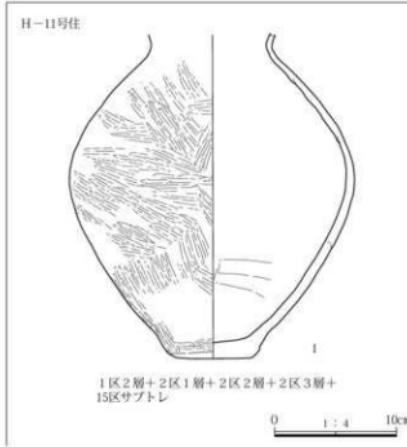
H-10号住



9区1層+9区2層+
10区2層+13区1層+
13区2層+14区2層+
15区2層+サブトレ



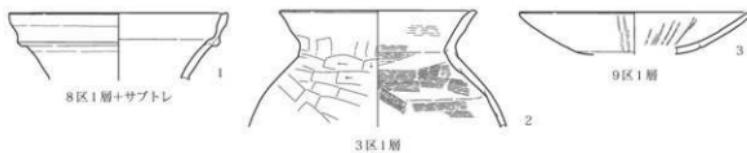
H-11号住



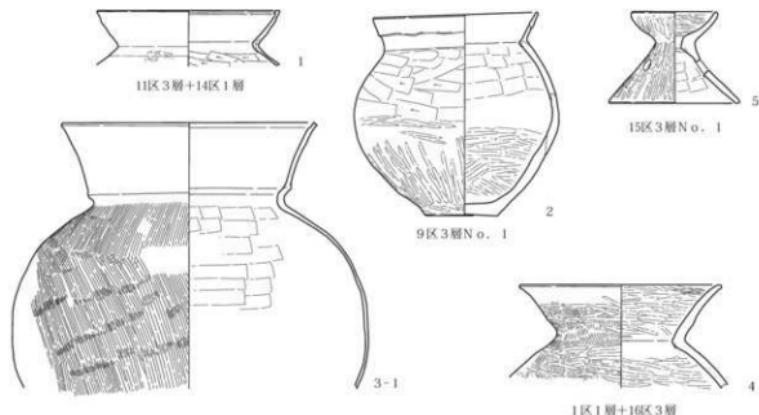
0 1 : 4 10cm

第50図 H-9号(2)・H-10号・H-11号住居址出土土器実測図

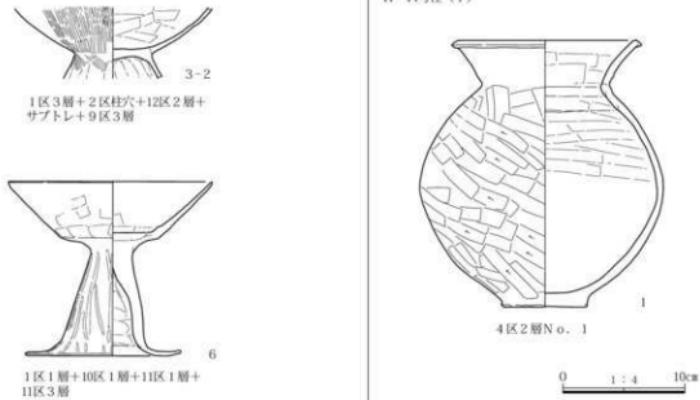
H-12号住



H-13号住

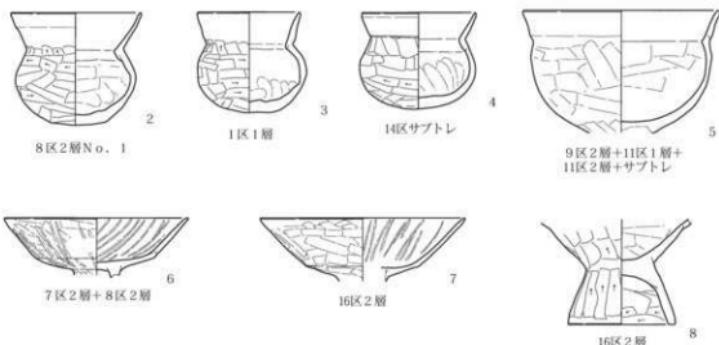


H-14号住 (1)

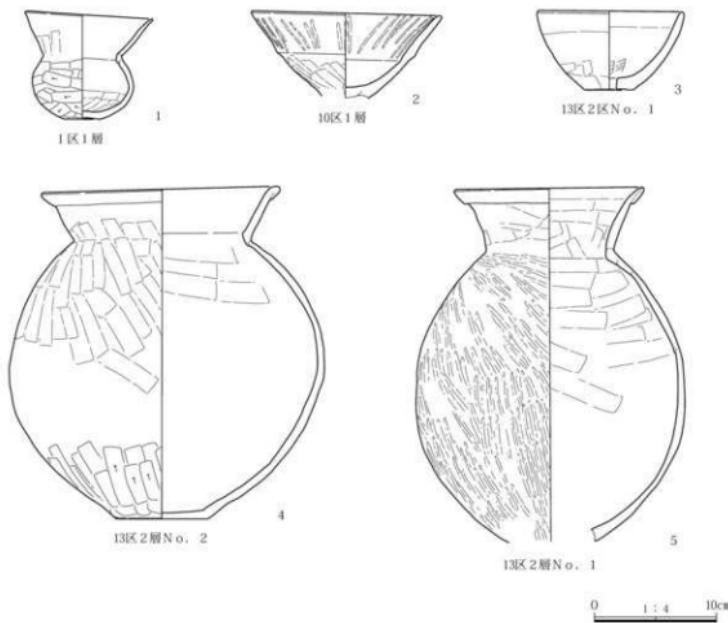


第51図 H-12号・H-13号・H-14号(1)住居址出土土器実測図

H-14号住(2)

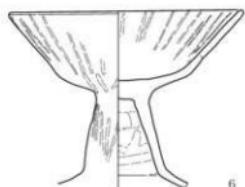


H-15号住(1)



第52図 H-14号(2)・H-15(1)号住居址出土土器実測図

H-15号住(2)

2区1層+6区1層+2区2層+
6区2層+サブトレ

H-17号住

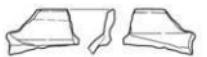


11区1層+11区柱穴



2区3層+2区2層+サブトレ

H-16号住

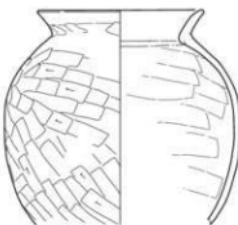


D-1

I



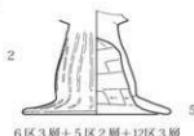
D-1



15区3層+12区3層



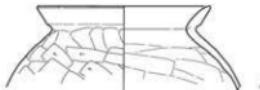
7区3層



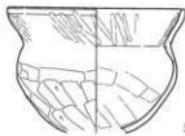
6区3層+5区2層+12区3層



2区1層+4区2層+3区2層

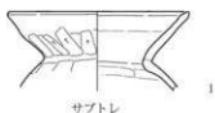


10区柱穴



15区1層+サブトレ

H-18号住



サブトレ

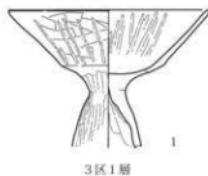


11区1層

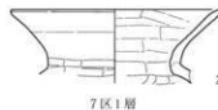
0 1 : 4 10cm

第53図 H-15号(2)・H-16号・H-17号・H-18号住居址出土土器実測図

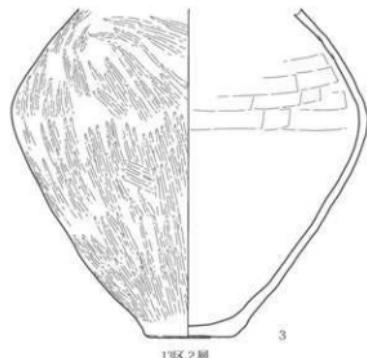
H-19号住



3区1層



7区1層

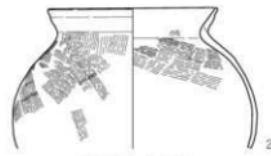


13区2層

H-20号住



7区2肩+サブトレ



3区3層+4区3層



3区3層



3区3層

H-21号住



サブトレ

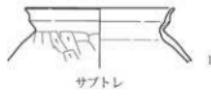


サブトレ

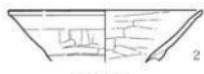


サブトレ

H-22号住

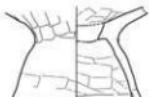


サブトレ



10区1層

H-23号住

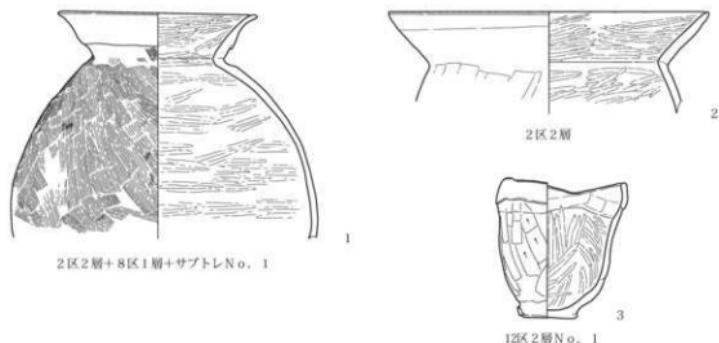


3区1層

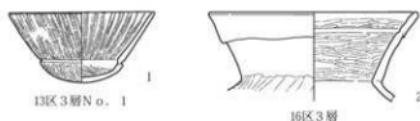
0 1 : 4 10cm

第 54 図 H-19号・H-20号・H-21号・H-22号・H-23号住居址出土土器実測図

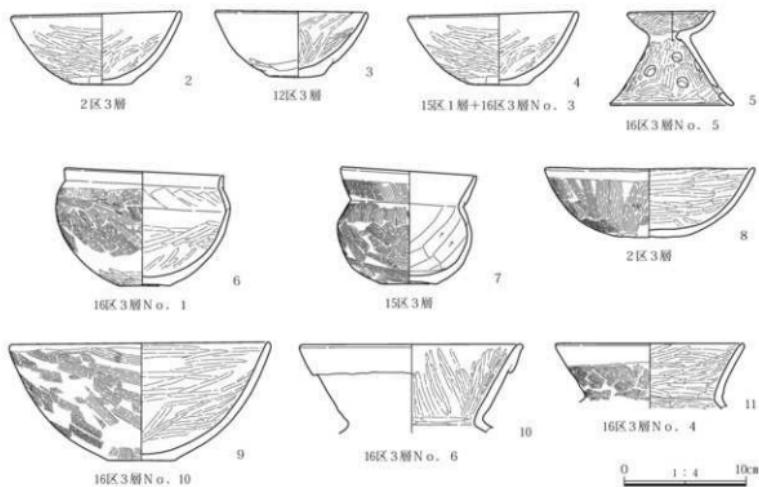
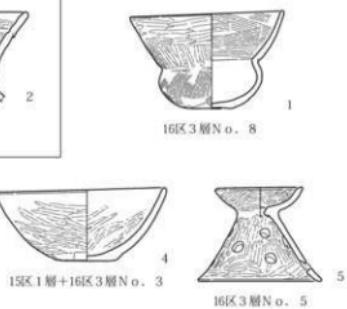
H-24号住



H-25号住



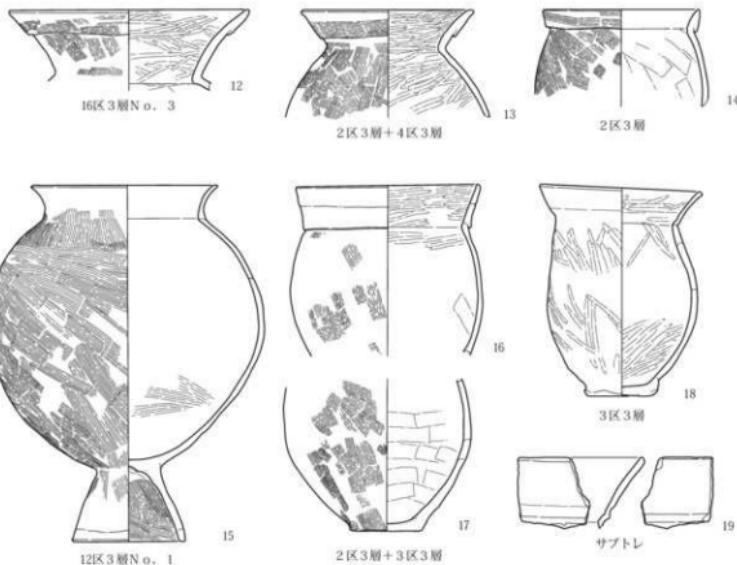
H-27号住 (1)



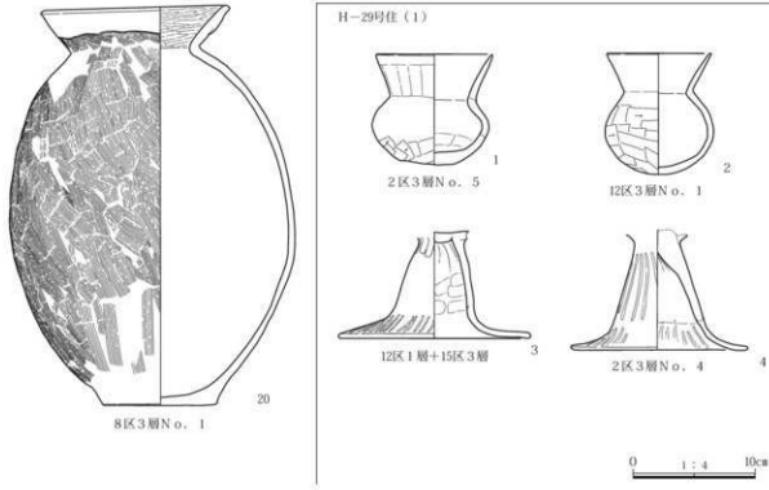
0 1 : 4 10cm

第55図 H-24号・H-25号・H-27号(1)住居址出土土器実測図

H-27号住(2)



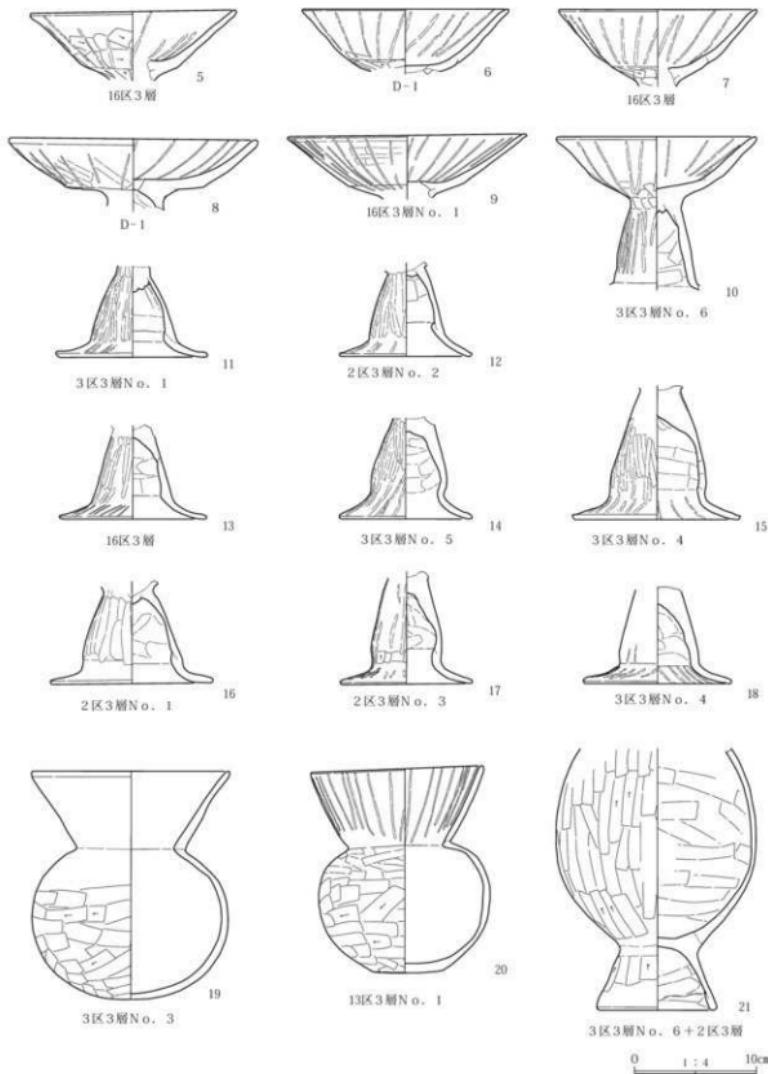
H-29号住(1)



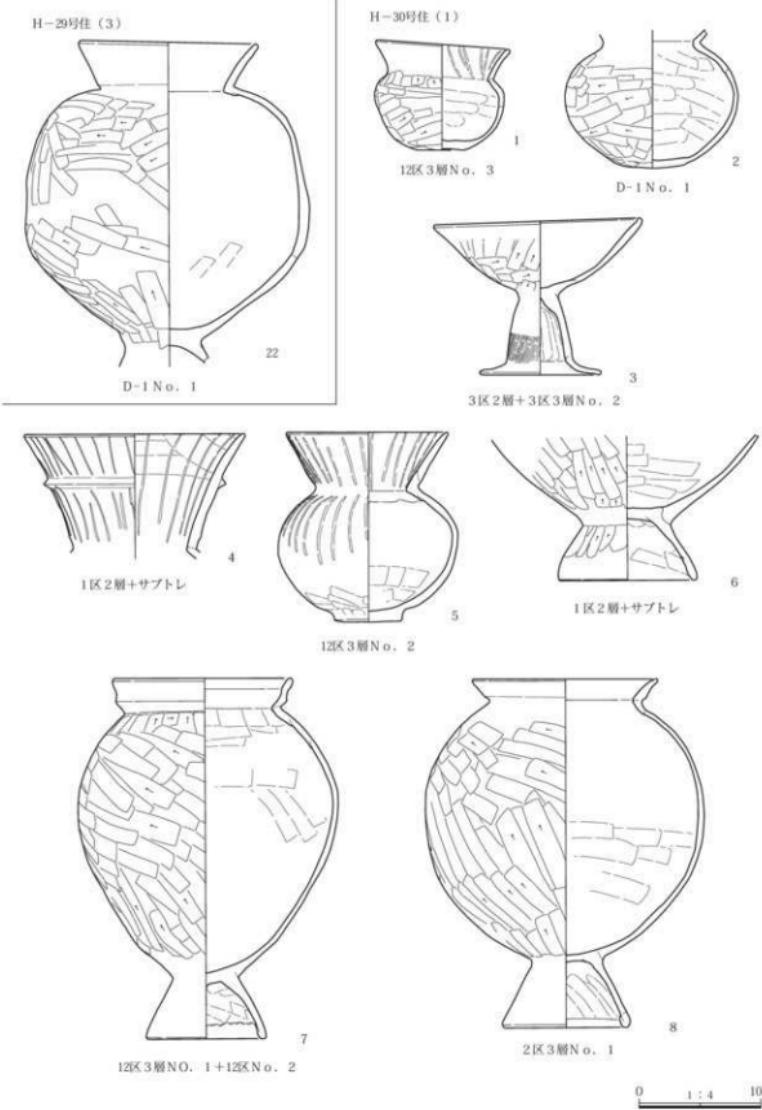
0 1 : 4 10cm

第 56 図 H-27号(2)・H-29号(1)住居址出土土器実測図

H-29号住(2)

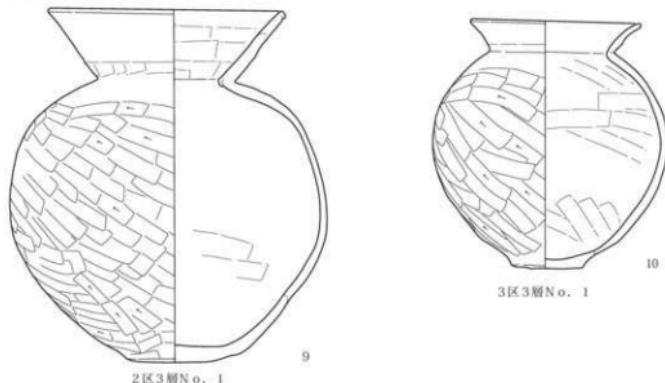


第 57 図 H-29 号 (2) 住居址出土土器実測図

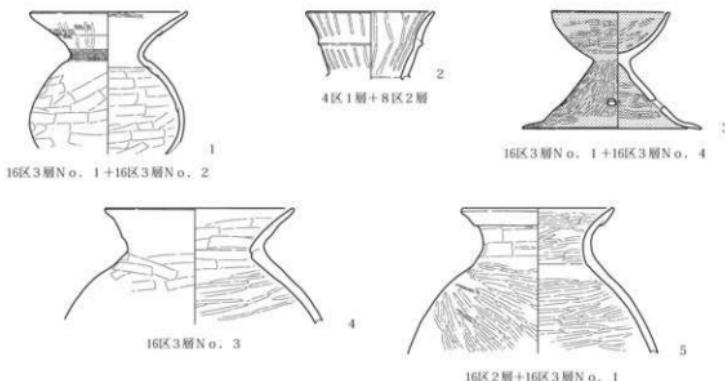


第 58 図 H-29 号 (3)・H-30 号 (1) 住居址出土土器実測図

H-30号住 (2)



H-32号住

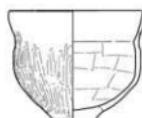


H-34号住

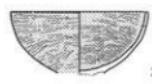


7区1層+6区2層

H-36号住 (1)



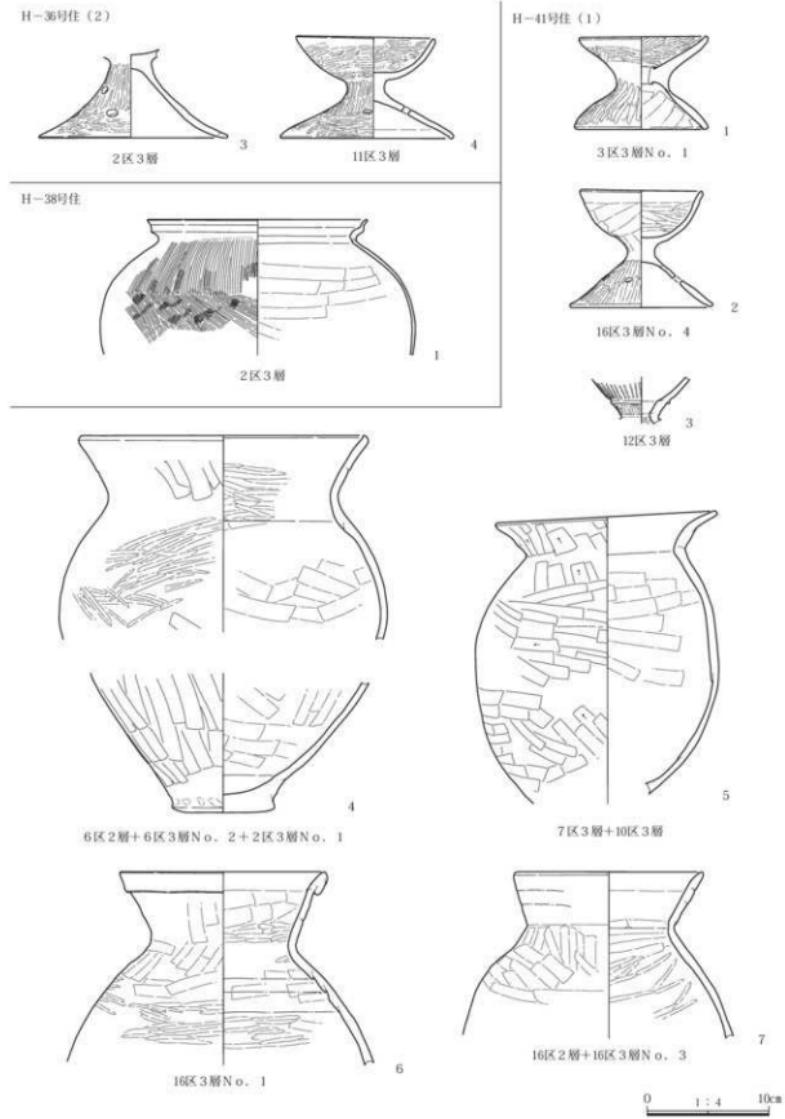
12区3層N o. 2



12区3層N o. 1

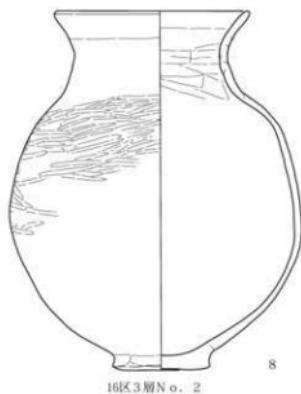
0 1 : 4 10cm

第59図 H-30号(2)・H-32号・H-34号・H-36号(1)住居址出土器実測図

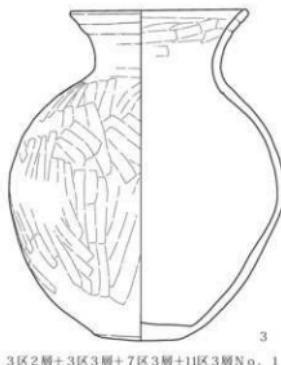


第 60 図 H-36 号 (2)・H-38 号・H-41 号 (1) 住居址出土土器実測図

H-41号住 (2)



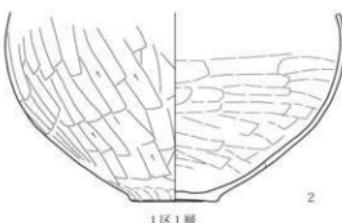
H-44号住



H-42号住



H-43号住



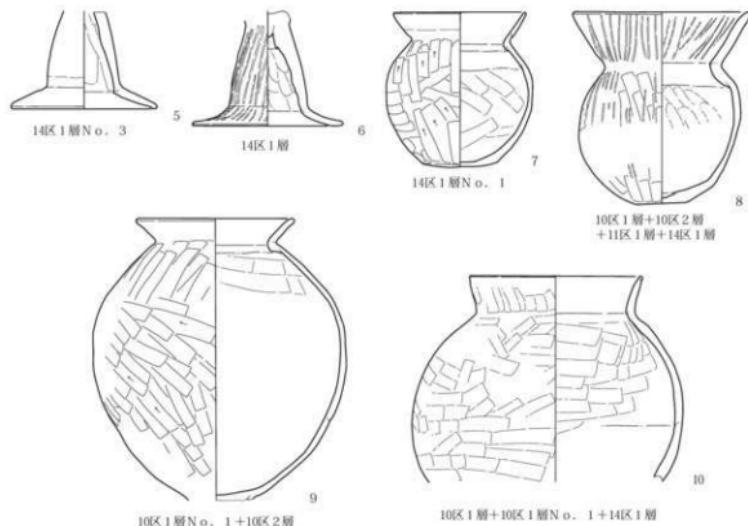
H-45号住 (1)



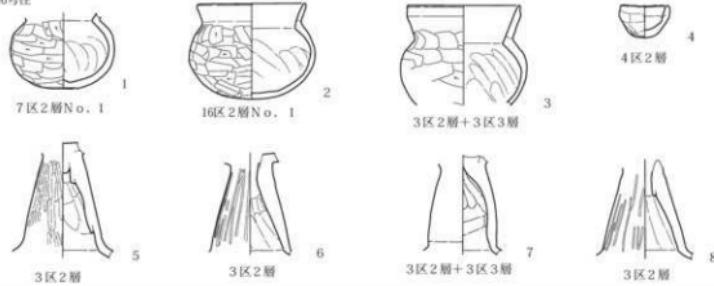
0 1 : 4 10cm

第61図 H-41号 (2)・H-42号・H-43号・H-44号・H-45号 (1) 住居址出土土器実測図

H-45号住(2)



H-46号住

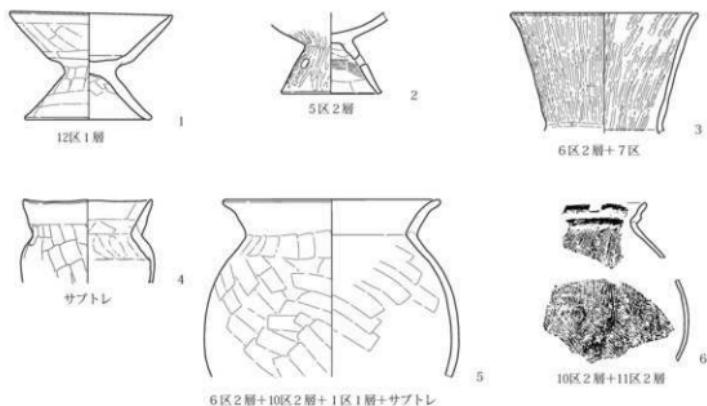


H-47号住



第62図 H-45号(2)・H-46号・H-47号住居址出土土器実測図

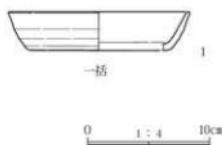
H-48号住



H-50号住



KM-1号窯



0 1:4 10cm

第63図 H-48号・H-50号住居址、KM-1号窯址出土土器実測図

遺構名	番号	区	層	種類	器種	法則		成・整形技法の特徴						備考	重量(g)	
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③耐土	残存	外側	内面		
H-01	1	12	1	土師器	ミニチュア	5.1		[4.0]	普通	明赤褐色	白色・黒 色斑点	口縁～全体 部	体部ケズリ 調整。			37.67
H-01	2	6	1	土師器	ミニチュア	9.5		[4.7]	普通	明赤褐色 に、ぶつ き褐色	白色・黒 色粒	口縁～全体 部	体部ヘラケ ズリ。			27.72
H-01	3	D-1	No.2	土師器	小形罐	8.2	3.1	7.5	普通	明赤褐色 に、ぶつ き褐色	石英・角 閃石	口縁～全体 部	体部ヘラケ ズリ。			119.88
H-01	4	D-1	No.1	土師器	小形罐	8.2		8.2	普通	黒褐色	白色石	口縁	体部ヘラケ ズリ。 口縁部一部 欠損。	体部スピナ ズ。		161.61
H-01	5	16 D-1 D-1	1 No.3	土師器	小形罐	9.5		9.0	普通	黒～に、ぶ き褐色	白色・黒 色石	口縁～全体 部	体部ヘラケ ズリ。	体部スピナ ズ。	正直可	131.05
H-01	6	7 8 10 11 12 17 18	2 2 2 2 2 1 2	土師器	小形罐	9.9	2.5	13.5	普通	明赤褐色	角閃石 閃石	口縁～底部 3/4	体部ヘラケ ズリ。	体部ナデ調 整。		348.41
H-01	7	3	2	土師器	高环	[18.0]		[5.4]	普通	明赤褐色	石英・チ ヤート・ 角閃石	底部 1/2	口縁ナデ調 整。			199.38
H-01	8	8	2	土師器	高环		[11.6]	[9.7]	普通	赤褐色～ 明赤褐色	白色・赤 色粒	脚～底部 2/3	脚～脚部 ナデ調整。	脚部スピナ ズ。		172.24
H-01	9	D-1	No.4	土師器	壺	25.7		[9.1]	普通	明褐色	白色・黒 色粒	口縁～同部 脚	同部ヘラカ ズリ。	同部ヘラナ ズ。		1355.60
H-01	10	3 4	2 2	土師器	壺	15.2		[20.9]	普通	赤褐色～ 黒褐色	白色粒	口縁～全体 部	体部ヘラケ ズリ。	体部スピナ ズ。		792.20
H-01	11	2 3 3 6	2 2 2	土師器	壺	[19.1]		[8.7]	普通	に、ぶ き褐色	白色粒	口縁～全体 部	体部ヘラケ ズリ。	体部ハケ ズ。		141.50
H-02	1	10 16	2 2	土師器	壺	8.8		[7.2]	普通	明赤褐色	白色・赤 色粒	口縁～底部 1/2	体部ヘラケ ズリ。	体部スピナ ズ。		108.26
H-02	2	1 2 16	2 2 2	土師器	台付壺	13.0	10.5	32.6	普通	赤褐色	白色粒	口縁～全体 部	体部ヘラケ ズリ。 脚部 1部 欠損。	体部ナデ調 整。		1502.08
H-03	1	17 18		土師器	S字壺	14.8		[5.8]	普通	黒褐色～ に、ぶ き褐色	白色粒	口縁～肩部 1/3	肩部ハケ ズ。	口縁侧面取 り。		40.66
H-03	2	7 11	1 1	土師器	壺	[15.2]		[6.3]	普通	明赤褐色	石英・黒 色粒・角 閃石	口縁～同部 1/2	同部ヘラ状 工具痕。	同部ヘラナ ズ。		87.61
H-03	3	17 18		土師器	S字壺	8.5	[19.7]	普通	赤褐色 に、ぶ き褐色	白色粒	体～全体	1/2	体部ハケ ズ。	体部ヘラナ ズ。		146.75
H-03	4	7	1	土師器	壺		[17.2]	普通	明赤褐色	白色・赤 色粒	体～底部 1/2	ヘラケズリ 一部ミガキ。	ヘラナデ。	丸底	230.85	
H-04	1	12	2	土師器	S字壺	14.0	[4.1]	[4.1]	普通	黒褐色	白色・赤 色粒	口縁～同部 1/5	同部ヘラケ ズリ。	同部ヘラナ ズ。		22.49
H-04	2	16	1	土師器	壺	[24.0]	[6.2]	普通	褐色	白色粒	口縁部 1/3	ヘラ調整。	ナデ調整。	有段1 種	77.59	
H-05	1	13 D-1	2	土師器	高环	[20.6]	[5.4]	普通	明赤褐色	白色粒・ 角閃石	口縁	1/2	ミガキ。	ミガキ。		125.41
H-05	2	1 2 6	2 1 2	土師器	高环	15.4	[6.0]	普通	明赤褐色	白色・黒 色粒	口縁		ナデ調整。	ヘラナデ。		227.80
H-05	3	18	No.1	土師器	高环	15.5	[12.8]	普通	明赤褐色 ～赤褐色	白色粒・ 角閃石	口縁	1/2	ナデ調整。	同部ヘラナ ズ。		359.74
H-05	4	D-1		土師器	高环	10.3	5.1	8.2	普通	橙～明赤 褐色	白色・赤 色粒	元形 環一部分欠 損	同部ヘラナ ズ。	同部ヘラナ ズ。		132.67
H-05	5	2	2	土師器	壺	9.6		8.2	普通	明赤褐色	黑色・赤 色粒	元形 環一部分欠 損	体部ヘラケ ズリ。	体部ヘラナ ズ。		194.84
H-05	6	2	2	土師器	壺		8.2	[7.2]	普通	褐色	白色・黒 色粒・角 閃石	台部	体部下端ヘ ラケズリ。	台部ヘラナ ズ。		177.48

第8表 A区出土古墳時代土器観察表(1)

遺構名	番号	区	層	種類	器種	基盤		成・整形技法の特徴						備考	重量(g)		
						口径	底径	高さ	①焼成	②色調	③崩土	残存	外面	内面			
H-05	7	I 2 3 6 10 77号	1 2 3 6 2	土師器	甕	12.0		[10.0]	普通	黒褐色～ 褐灰色	白色石	口縁～底部 一部欠損	体部～体部 2/3	体部～ラナ デ。		314.88	
H-05	8	9	2	土師器	甕	9.0	[7.5]	普通	に赤い糊 色	白色粒・ 角閃石	口縁～ 底部 一部欠損	体部～底部 2/3	体部～ラナ デ。	内面へ ラケズリ。	145.20		
H-05	9	14	2	土師器	环形土器	7.8	3.5	5.3	普通	褐色	白色・赤	口縁～ 底部	体部～ラナ デ。	体部～ラナ デ。		96.96	
H-05	10	D-1		土師器	甕	21.9	7.6	32.2	普通	に赤い糊 色	白色粒・ 角閃石	口縁～ 底部	圓滑なテ調整。 体部～ラケズリ。	体部～ラナ デ。	テ調整。	2,497.71	
H-05	11	2 6	2 1	土師器	白付甕			[20.6]	普通	褐色	白色・赤	体部～ 底部	体部～底部 2/3	体部～ラナ デ。	ラケズリ。 体部～下部半 2/3	1,332.26	
H-07	1	3	2	土師器	甕	10.2		[5.15]	普通	褐色～ 褐色	白色・黑 色粒	口縁～斜面部 3/4	斜面部ミガ キ。	口縁部ミガ キ。	斜面部～ラナ デ。	191.71	
H-07	2	4	1	土師器	甕	5.8		[12.3]	普通	褐色～灰褐色 色	白色・黑 色粒	口縁～斜面部 3/4	斜面部ハケ メ。	斜面部ハケ メ～ラナ デ。	斜面部～ラナ デ。	174.04	
H-07	3	16	2	土師器	甕	7.0	[19.4]	普通	明褐色～ 褐色	白色・赤	体部～底部 2/3	口縁～底部 2/3	斜面部ミガ キ。	ミガキ。	ミガキ。	1,055.50	
H-07	4	16	2	土師器	甕	8.75	5.2	16.5	普通	明褐色	白色・透 明白石	口縁～ 底部	一部欠損	ミガキ。	ミガキ。	384.10	
H-08	1	15	2	土師器	小面坦	8.2		9.5	普通	褐色	白色・黑	口縁～ 底部	体部～ラケズリ。	体部～ラナ デ。	体部ヨビナ デ。	208.73	
H-08	2	16	2	土師器	小面坦	11.9		9.1	普通	明赤褐色	白色・黑	口縁～近底部 2/3	体部～ラケズリ。	体部～ラナ デ。	平底	198.54	
H-08	3	12	2	土師器	小面坦	7.8		8.5	普通	明赤褐色 ～褐色	白色・黑	口縁～ 底部	口縁部～ 底部欠損	体部～ラケズリ。	体部ヨビナ デ。	丸底	198.47
H-08	4	4	2No.1	土師器	小面坦	8.1	4.8	7.9	普通	に赤い糊 色	白色粒・ 角閃石	口縁～ 底部	体部～ラケズリ。	体部～ラナ デ。	平底	227.08	
H-08	5	12	2	土師器	小面坦			[8.2]	普通	明赤褐色	白色・黑	口縁～底部 2/3	体部～ラケズリ。	体部～ラナ デ。	体部ヨビナ デ。	丸底	164.98
H-08	6	4	2	土師器	小面坦	10.2		10.0	普通	褐色	白色粒・ 雲母片	口縁～ 底部	口縁部～ 底部欠損	体部～ラケズリ。	体部～ラナ デ。	平底	226.16
H-08	7	D-1 D-1 No.2	土師器	小面坦	(0.1)			10.0	普通	赤褐色	白色・黑 色粒	口縁部～ 底部	口縁部～ 底部欠損	体部～ラケ ズリ。	テ調整。	159.77	
H-08	8	2 12 16 1 2	1 2 1 2	土師器	高环			[3.55]	普通	明赤褐色	白色・黑 色粒	口縁～ 底部	口縁部～ 底部欠損	体部～ラケ ズリ。	テ調整	150.22	
H-08	9	2	2	土師器	高环	11.1	[7.9]	普通	褐色	白色粒	脚部	口縁部～ 底部	口縁部～ 底部欠損	ヒラミガキ 状。	成形痕	1,262.93	
H-08	10	D-1	No.1	土師器	高环		(11.7)	[9.4]	普通	赤褐色	白色粒・ 角閃石	脚部	脚部	脚部ナダ調 整。	脚部ナダ調 整。	179.31	
H-08	11	14 15 1 2 16 D-1	1 1 2 1	土師器	有孔甕	14.0		8.8	普通	明赤褐色	白色粒・ 角閃石	口縁～底部 2/3	口縁部～ 底部	体部～ラナ デ。	体部～ラナ デ。	257.25	
H-08	12	16	2No.2	土師器	甕	12.6	[4.8]	不詳	褐色～ 明黄色	白色・黑 色粒	口縁～斜面部 2/3	斜面部～ 底部	斜面部～ 底部	斜面部～ 底部	S字状 口縁	166.75	
H-08	13	16 16 D-1	2 2No.1	土師器	5字瓶	14.1	10.2	29	普通	可赤褐色 ～赤褐色	白色・黑	口縁～ 底部	口縁部～ 底部	体部～ラナ デ。	体部～ラナ デ。	1,757.90	
H-08	14	16	2No.4	土師器	甕	(8.4)		9.1	普通	褐色	白色・角 閃石	口縁～ 底部	口縁部～ 底部欠損	ヒラミガキ 状。		270.95	
H-08	15	13 15 1 15 15	1 1 2 1	土師器	甕	(8.5)	[13.65]	普通	に赤い糊 褐色	白色・赤 色粒	口縁～ 底部	口縁部～ 底部欠損	体部～ラケ ズリ。	体部ヨビナ デ。	丸付	191.17	
H-08	16	16	2No.1	土師器	甕	(16.1)		[22.4]	普通	明赤褐色 ～明赤褐色	白色・赤	口縁～ 底部	口縁部～ 底部2/3	体部～ラケ ズリ。	体部～ラナ デ。	793.63	

第9表 A区出土古墳時代土器観察表(2)

遺物名	番号	区	層	種類	器種	法則		成・整形技法の特徴					備考	重量(g)		
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③耐土	残存	外面			
H-09	1	16	3No.1	土師器	壺	(17.0)	[22.1]	普通	褐色～黒褐色	白色・黒色	口縁～全体	支手半	ミガキ		1,068.59	
H-09	2	10	2	土師器	壺	(15.8)	[15.5]	普通	明褐色～褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部欠	ミガキ		225.34	
H-09	3	15	1	土師器	壺	(11.0)	[5.9]	普通	にふい褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部欠	ミガキ		84.80	
H-09	4	5	2	土師器	壺	14.0	[6.8]	普通	明褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部欠	ミガキ		336.96	
H-09	5	16	3No.1	土師器	壺	(13.9)	[6.4]	普通	明褐色～にふい褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	複合口縁	55.75	
H-09	6	11	1	土師器	5子壺		[4.7]	普通	褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ		24.13	
H-09	7	11	1	土師器	高环		[7.0]	普通	赤褐色～褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	柱状脚	51.15	
H-10	1	13	2	土師器	小形壺	8.6	8.0	普通	明赤褐色	白色・黒色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	平底	159.90	
H-10	2	13	2	土師器	小形壺	9.6	4.9	7.8	普通	褐色～明褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	平底	204.95
H-10	3	47	1	土師器	小形壺	10.5	[8.5]	普通	明黄褐色	白色・黒色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	口縁部	179.15	
H-10	4	4?	2	土師器	小形壺	12.2	4.0	9.7	普通	暗褐色～褐色	白色・黒色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	口縁部	271.93
H-10	5	9 9 10 13 13 14 13 47	1 2 2 1 2 2 2 2	土師器	台付壺	9.7	5.5	12.25	普通	褐色	白色・黒色	口縁～台部	口縁一部	ミガキ		267.53
H-10	6	11	2	土師器	壺	17.6	[6.2]	普通	明褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁～肩部	ミガキ	右複口縁	108.53	
H-10	7	3	2	土師器	台付壺	(16.2)	[8.6]	普通	明赤褐色～暗褐色	白色・黒色	口縁～台部	上平欠損	ミガキ	ミガキ	238.66	
H-10	8	9 13 13	2 1 2	土師器	高环	20.0	13.0	16.7	普通	褐色	白色・赤色	口縁～台部	口縁上半	ミガキ	左複口縁	685.85
H-11	1	1 2 2 2 15 47	2 1 2 3 ?	土師器	壺		7.1	[26.5]	普通	明褐色～にふい褐色	白色・赤色	口縁～台部	口縁一部	ミガキ	ヘラナード	1,293.54
H-12	1	8 47	1	土師器	壺	(18.0)	[5.5]	普通	にふい褐色～にふい黄褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	右複口縁	80.89	
H-12	2	3	1	土師器	壺	(15.8)	[9.5]	普通	明黄褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ		179.99	
H-12	3	9	1	土師器	高环	(18.8)	[3.4]	普通	褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ		116.39	
H-13	1	11 14	3 1	土師器	壺	15.0	[4.6]	普通	にふい褐色	石英・赤色	口縁～肩部	口縁一部	ミガキ	布面質	35.55	
H-13	2	9	3No.1	土師器	壺	(13.4)	6.0	16.4	普通	暗褐色～明赤褐色	白色・赤色	口縁～肩部	口縁上半	ミガキ		854.65

第 10 表 A 区出土古墳時代土器観察表(3)

遺構名	番号	区	別	種類	器種	基盤						成・整形技術の特徴						備考	重量 [g]
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③断土	残存	外面	内面	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体			
H-13	3-1	1 2 12 #7 ル	3 柱穴 Z	土師器	S字彫	[20.6]		[21.7]	普通	褐色～浅 黄褐色	白色・赤 色鉛・角 閃石	口縁～体部 1/3	体部ハケ ズ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	397.50		
H-13	3-2	9	3	土師器	S字彫	[8.0]	[5.8]	普通	明褐色～ にぶい褐色	白色・赤 色鉛・角 閃石	体～台部 体部上半・ 台部下半 内面	体部ハケ ズ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	72.1 上 台部ユビナ ズ。	126.72		
H-13	4	1 16	1 3	土師器	透	16.4		[6.6]	普通	明褐色	白色・赤 色鉛・角 閃石	口縁～細部 1/3	口縁～底部 ハケ～ミ ガキ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	山筋系 口縁 T2-2と 同一個体	459.49		
H-13	5	15	3No.1	土師器	小形器台	6.9	10.6	7.5	普通	褐色	白色・赤 色鉛・角 閃石	完形	ミガキ。	山筋系ミガ キ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	3孔	171.24	
H-13	6	1 10 11 11 3	1 1 1 1 3	土師器	高环	16.6	12.25	14.3	普通	赤褐色	白色鉛・ 雲母片 鉛・鋸	口縁～脚部 1/3	口縁～底部 ハケ～ミ ガキ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系コピナ ズ。	山筋系コピナ ズ。	382.60		
H-14	1	4	2No.1	土師器	透	14.4	6.8	21.8	普通	褐色	白色鉛・ 角閃石	口縁～底部 1/3	口縁～底部 ハケ～ミ ガキ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	1,273.57		
H-14	2	8	2No.1	土師器	小形坦	10.6		9.2	普通	黄褐色～ にぶい黃 褐色	白色・赤 色鉛・角 閃石	完形	ミガキ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系コピナ ズ。	山筋系コピナ ズ。	240.10		
H-14	3	1	1	土師器	小形坦	8.3		8.2	普通	黄褐色	白色鉛・ 角閃石	完形	ミガキ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系ユビナ ズ。	山筋系ユビナ ズ。	186.90		
H-14	4	14	#7 ハ	土師器	小形坦	9.3		7.9	普通	にぶい褐 色	白色鉛・ 雲母片 鉛・鋸	口縁～底部 1/3	口縁～底部 ハケ～ミ ガキ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系ユビナ ズ。	山筋系ユビナ ズ。	丸底	210.14	
H-14	5	9 11 11 #7 ハ	2 1 2	土師器	鉢	[16.0]		[9.7]	普通	褐色	白色・黒 色鉛	口縁～底部 1/2	口縁～底部 ハラナ	体部ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	台付	299.42	
H-14	6	7 8	2	土師器	高环	15.0		[4.7]	普通	明褐色～ にぶい黃 粉色	白色鉛・ 角閃石	坏部	ヘラナデ～ ミガキ。	ミガキ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	179.97		
H-14	7	16	2	土師器	高环	16.7		[5.2]	普通	黄褐色～ 黄褐色	白色・黒 色鉛	坏部 2/3	ヘラナデ。	ミガキ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	98.36		
H-14	8	16	2	土師器	台付鉢		8.8	[8.6]	普通	褐色～ 黄褐色	白色鉛・ 角閃石	体～台部 体部火照	ヘラケズ リ。	体部ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	257.17		
H-15	1	1	1	土師器	小形坦	10.5	2.9	8.8	普通	にぶい褐 色	白色鉛・ 角閃石 チャート 鉛・鋸	口縁～底部 1/3	口縁～底部 ハラナ	山筋系トーラ ナデ。	山筋系トーラ ナデ。	平底	150.51		
H-15	2	10	1	土師器	高环か	[15.6]		[7.2]	普通	に高・黃 褐色～浅 黄褐色	白色・赤 色鉛・角 閃石	坏部 1/2	ヘラナデ、 ミガキ。	ミガキ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	238.35		
H-15	3	13	2No.1	土師器	有孔鉢	12.1	4.0	6.5	普通	にぶい褐 色	白色鉛・ 石英	口縁～底部 3/4	体部ヘラナ	体部ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	206.14		
H-15	4	13	2No.2	土師器	廣	19.0	7.3	27.0	普通	明赤褐色～ 暗赤褐色	白色鉛・ 角閃石	完形	体部上半 下部	ヘラナデ～ ミガキ。	山筋系トーラ ナデ。	山筋系トーラ ナデ。	取り返 し口縁	2,074.11	
H-15	5	13	2No.1	土師器	透		15.1	[29.0]	普通	明赤褐色 ～橙色	白色・透 通性	口縁～体部 1/2	口縁ナデ調 整	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	1,120.55		
H-15	6	2 6 2 6 #7 ハ	1 1 2 2 2	土師器	高环	[19.3]		[14.5]	普通	にぶい黃 褐色	白色鉛・ 角閃石	体部 2/3	体部上半 下部	ヘラナデ～ ミガキ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。			
H-16	1	D-1		土師器	廣			[3.7]	普通	灰黃褐色 ～にぶい黃 褐色	白色鉛・ 石英・角 閃石	口縁部 1/2	ナデ調整。	ナデ調整。	S字状 L環か	S字状 L環か	18.87		
H-16	2	15 12	3 3	土師器	廣	13.6		[17.5]	普通	にぶい黃 褐色	白色鉛・ 角閃石	口縁～体部 1/2	ナデ調整。	ナデ調整。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	673.96		
H-16	3	D-1		土師器	小形坦			[6.3]	普通	にぶい黃 褐色	白色鉛・ 角閃石	体部	ヘラケズ リ。	ユビナデ。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	163.55		
H-16	4	7	3	土師器	小形坦	6.2		6.4	普通	粉紅	白色・赤 色鉛・角 閃石	完形	ナデ調整。	ナデ調整。	山筋系ヘラナ ズ。	山筋系ヘラナ ズ。	117.62		

第 11 表 A 区出土古墳時代土器観察表 (4)

遺構名	番号	区	層	種類	器種	法則		成・整形技法の特徴						備考	重量(g)			
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③耐土	残存	外面	内面				
H-16	5	6 5 3 2 3	3	土師器	高环			12.2	普通	褐色	云母片・ 黒色・赤 色粒	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	190.31	
H-17	1	II II	1	土師器	ミニチュア	6.20		[2.7]	普通	灰黄褐色	白色・黒 色粒	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	13.57	
H-17	2	2 2 #7.1	3 2	土師器	高环	14.1		[5.7]	普通	にぶい黄 色	チャーブ・白 色粒	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	166.74	
H-17	3	2 4 3	1	土師器	甕			[6.5]	普通	にぶい褐 色	赤色・白 色粒・角 閃石	体～背部 2/3	体～背部 2/3	体～背部 2/3	体～背部 2/3	体～背部 2/3	130.83	
H-17	4	10	桂穴	土師器	甕	[14.3]		[7.1]	普通	灰黄褐色	白色・赤 色粒・角 閃石	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	113.59	
H-17	5	15 #7.1	1	土師器	盆	14.6		[10.38]	普通	にぶい褐 色～赤 色粒	白色・黒 色粒	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	275.68	
H-18	1	#7.1		土師器	瓶	[15.0]		[6.5]	普通	灰黄褐色	白色蛇・ 角閃石	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	165.72	
H-18	2	II	1	土師器	小形壺			[8.7]	普通	にぶい黄 色	白色・赤 色粒・角 閃石	口縁～近底部 1/2	口縁～近底部 1/2	口縁～近底部 1/2	口縁～近底部 1/2	口縁～近底部 1/2	95.42	
H-19	1	3	1	土師器	高环	16.2		[11.4]	普通	褐色	白色・赤 色粒・角 閃石	脚部 3/4	脚部 3/4	脚部 3/4	脚部 3/4	脚部 3/4	257.82	
H-19	2	7	1	土師器	甕	17.0		[6.0]	普通	灰黄褐色	白色・赤 色粒・角 閃石	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	218.63	
H-20	1	#7.1	2	土師器	S字甕	14.0		[5.7]	普通	明赤褐色	白色・赤 色粒	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	220.49	
H-20	2	3 4	3 3	土師器	甕	13.7		[11.5]	普通	にぶい褐 色～明赤 褐色	白色蛇・ 角閃石	口縁～脚部 2/3	口縁～脚部 2/3	口縁～脚部 2/3	口縁～脚部 2/3	口縁～脚部 2/3	321.83	
H-20	3	13	2	土師器	甕			7.2	[26.8]	普通	明赤褐色	白色蛇・ 角閃石	体～底部 1/2	体～底部 1/2	体～底部 1/2	体～底部 1/2	体～底部 1/2	2,153.63
H-20	4	3	3	土師器	甕	16.0		[5.7]	普通	明赤褐色	白色・赤 色粒・角 閃石	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	195.15	
H-20	5	3	3	土師器	小形壺	[13.5]	[6.7]	普通	にぶい褐 色～褐色	白色蛇・ 角閃石	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	口縁～脚部 1/2	76.80		
H-21	1	#7.1		土師器	甕	[14.0]		[5.1]	普通	褐色	白色蛇・ 角閃石	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	56.86	
H-21	2	#7.1		土師器	甕	[9.8]	[6.3]	普通	褐色～明 赤褐色	白色・黑 色粒	口部 1/2	口部 1/2	口部 1/2	口部 1/2	口部 1/2	157.28		
H-21	3	#7.1		土師器	高环	7.4		[3.7]	普通	明赤褐色	白色・赤 色粒	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	49.59	
H-22	1	#7.1		土師器	S字甕	[12.2]		[4.9]	普通	黒褐色	白色蛇・ 雲母片	口縁～脚部 1/8	口縁～脚部 1/8	口縁～脚部 1/8	口縁～脚部 1/8	口縁～脚部 1/8	29.43	
H-22	2	10	1	土師器	高环	[15.8]		[4.2]	普通	明赤褐色～ 黒褐色	白色蛇・ 角閃石	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	25.61	
H-23	1	3	1	土師器	甕			10.3	普通	明褐色	白色・角 閃石	台部 2/3	体部下端 2/3	体部下端 2/3	体部下端 2/3	体部下端 2/3	159.83	
H-24	1	2 8 #7.1	2 1 No.1	土師器	甕	16.4		[18.6]	普通	にぶい黄 色	白色蛇・ 赤色粒・角 閃石	脚部 1/4	脚部 1/4	脚部 1/4	脚部 1/4	脚部 1/4	902.44	
H-24	2	2	2	土師器	甕	[26.2]		[7.3]	普通	にぶい黄 色	白色蛇・ 角閃石	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	口縁～脚部 1/4	328.62	
H-24	3	12	2No.1	土師器	盆	10.0	4.4	11.5	普通	にぶい黄 色	白色蛇・ 角閃石	元形	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	277.10
H-25	1	13	3No.1	土師器	小形壺	12.0		5.8	普通	褐色～ 黒褐色	白色・赤 色粒	元形	ミガキ。	ミガキ。	ミガキ。	ミガキ。	121.10	
H-25	2	16	3	土師器	甕	17.2		[7.3]	普通	褐色	白色・黒 色粒・雲 母片	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	脚部 1/2	337.18	

第 12 表 A 区出土古墳時代土器観察表 (5)

遺構名	番号	区	別	種類	器種	基盤			成・整形技法の特徴						備考	重量(g)	
						口径	底径	高さ	①焼成	②色調	③崩土	残存	外面	内面			
H-27	1	16	3No.8	土師器	小形壺	12.6	3.3	8.0	普通	褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ミガ メ。			185.68	
H-27	2	2	3	土師器	鉢	14.0	5.4	6.0	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ハケ メ。			252.58	
H-27	3	12	3	土師器	鉢	12.5	4.4	5.4	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	体部下端へ ラケズリ。	ミガキ。		175.02	
H-27	4	15	16	3No.3	土師器	鉢	14.0	5.1	7.0	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	完形	体部ミガ メ。	ミガキ。		219.68
H-27	5	16	3No.5	土師器	小形器台	7.9	10.1	7.7	普通	褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ハケ メ。	ミガキ。		128.75	
H-27	6	16	3No.1	土師器	鉢	13.0	4.0	9.7	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	完形	口縁部ナ ラチ。	体部ハケ メ。	体部ミガ メ。	334.66	
H-27	7	15	3	土師器	鉢	11.2	4.5	9.6	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	完形	口縁部ナ ラチ。	体部ハケ メ。	体部上半ヘ ラナチ。	258.63	
H-27	8	2	3	土師器	鉢	17.2		5.7	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ナ ラチ。	体部ハケ メ。	体部下半ミ ガキ。	296.26	
H-27	9	16	3No.10	土師器	鉢	21.4	6.5	9.7	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部 2/3	口縁部ハケ メ。	ミガキ。		288.22	
H-27	10	16	3No.6	土師器	皿	18.4		[7.3]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ナ ラチ。	ナデ調整。	口縁部ミガ メ。	複合口 縁	447.65
H-27	11	16	3No.4	土師器	皿	15.4		[5.3]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁部	口縁部ナ ラチ。	ミガキ。		128.76	
H-27	12	16	3No.3	土師器	皿	19.6		[6.6]	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ハケ メ。	口縁部ミガ メ。	複合口 縁	408.81	
H-27	13	2	3	土師器	皿	14.1		[8.8]	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ナ ラチ。	ミガキ。	複合口 縁	313.43	
H-27	14	2	3	土師器	鉢?	12.9		[7.9]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ハケ メ。	ミガキ。	体部ヘラナ チ。	171.55	
H-27	15	12	3No.1	土師器	台付盤	15.2	9	29.2	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～台付 1/3部～一部 欠損	口縁部ハケ メ。	ミガキ。	台付ハケ メ。	1,085.03	
H-27	16	2	3	土師器	皿	15.2	5.8		普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ハケ メ。	ミガキ。	口縫部ミガ メ。	521.61	
H-27	17	3	3	土師器	皿				普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縫部ハケ メ。	ミガキ。	複合口 縁		
H-27	18	3	3	土師器	小形盤	13.4	5.9	17.3	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/3部～一部 欠損	口縁部ミガ メ。	ミガキ。		473.90	
H-27	19	77	2	土師器	S字攤			[5.8]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縫部 1/2	ナデ。	ナデ。	山筋系 口縫	30.36	
H-27	20	8	3No.1	土師器	皿	15.5	9.3	32.8	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縫部 1/2	体部ハケ メ。	ミガキ。	複合口 縁	2,205.28	
H-29	1	2	3No.5	土師器	小形壺	9.5		9.0	普通	明黄色 褐色	白色粒、赤 色粒、角 閃石	口縫部 1/2	口縫部ミガ メ。	ミガキ。	複合口 縁	251.77	
H-29	2	12	3No.1	土師器	小形壺	8.3		9.8	普通	明黄色 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縫部 1/2	口縫部ハケ メ。	ミガキ。	丸底	175.37	
H-29	3	12	15	1	土師器	高環		15.6	[8.7]	普通	褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縫部上端へ ラケズリ。	複合口 縁	ナデ調整。	丸底	248.74

第13表 A区出土古墳時代土器観察表(6)

遺構名	番号	区	層	種類	器種	法則		成・整形技法の特徴						備考	重量(g)	
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③耐土	残存	外面	内面		
H-29	4	2	3No.4	土師器	高环			14.1	[9.8]	普通	明赤褐色	白色粒、 青雲片	脚部 一部欠損	暗文状ミガキ。 手。		264.18
H-29	5	16	3	土師器	高环	16.9		[5.8]	普通	橙色	白色石、 チャート	白色石、 角閃石	环部 口縁部一部 欠損	ヘラケズリ →ミガキ。		275.28
H-29	6	D-I		土師器	高环	[17.0]		[5.3]	普通	に赤い黄 褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	高环 1/2	ヘラケズリ →暗文状ミ ガキ。			154.78
H-29	7	16	3	土師器	高环	[16.3]		[6.3]	普通	明黄色	白マス、 角閃石	环部 1/2	ヘラケズリ →暗文状ミ ガキ。			137.89
H-29	8	D-I		土師器	高环	20.3		[6.0]	普通	に赤い黄 褐色	白色・赤 色粒、チャ ート	环部	ハラ調整→ 暗文状ミガ キ。			524.77
H-29	9	16	3No.1	土師器	高环	[19.8]		[5.4]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、 青雲片	环部 2/3	ヘラナデ→ 暗文状ミガ キ。			255.23
H-29	10	3	3No.6	土師器	高环	16.5		[12.5]	普通	に赤い黄 褐色→浅 黄褐色	白色粒、 角閃石	口縁～脚部 青雲片	ヘラ～ヘラケ ズリ→暗文 状ミガキ。 脚部ヘラナ デ。			460.00
H-29	11	3	3No.1	土師器	高环	11.9		[7.3]	普通	明黄色	白色粒、 角閃石	青雲片、 白色粒	脚部	ミガキ。	ナデ調査。	201.66
H-29	12	2	3No.2	土師器	高环	10.7		[7.7]	普通	橙色～ 赤褐色	青雲片、 白色粒	脚部	ミガキ。	脚部上端ヘ ラズリ。		155.62
H-29	13	16	3	土師器	高环	11.5		[7.65]	普通	橙色	角閃石、 青雲片、 白色粒	脚部	脚部ミガ キ。	脚部ヘラナ デ。		178.62
H-29	14	3	3No.5	土師器	高环	10.9		[8.1]	普通	黄褐色	白色粒、 角閃石	脚部	ミガキ。	脚部ナデ調 査。		188.68
H-29	15	3	3No.4	土師器	高环	13.1		[10.6]	普通	小褐色～ 明赤褐色	白色・赤 色粒	脚部	ミガキ。	脚部ヘラナ デ。 脚部ミガ キ。		339.53
H-29	16	2	3No.1	土師器	高环	13.4		[8.5]	普通	明黄色	白色・赤 色粒、角 閃石	脚部	脚部ナデ調 査。	脚部ナデ調 査。		261.58
H-29	17	2	3No.3	土師器	高环	10.8		[9.3]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、 角閃石	脚部	ヘラケズリ →ミガキ。	脚部ヘラナ デ。		210.62
H-29	18	3	3No.2	土師器	高环	12.2		[7.9]	普通	に赤い黄 褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	脚部	脚部暗文 状ミガキ。	脚部ナデ調 査。 脚部暗文 状ミガキ。	一部打 ち欠きか な。	221.37
H-29	19	3	3No.3	土師器	直	16.3		[8.7]	普通	に赤い黄 褐色	白色・黑 色粒	口縁～底部 青雲片	体部ヘラケ ズリ。	ナデ。		890.60
H-29	20	13	3No.1	土師器	直	14.2	5.4	[6.9]	普通	橙色	白色・黑 色粒	口縁	口縁部暗文 状ミガキ。 体部ヘラケ ズリ。			700.60
H-29	21	3 2	3No.6 3	土師器	台付壺			9.3	[21.4]	普通	相～明赤 褐色	白色粒、 角閃石	体～台部 1/3 欠損	体部ヘラ ズリ。 台部ヘラケ ズリ。	台部折 り返し	610.00
H-29	22	D-I	No.1	土師器	台付壺	26.8		[26.6]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、 角閃石	口縁～台部 青雲片	体部ヘラ ズリ。 体部欠損	体部ヘラナ デ。		1,800.00
H-30	1	E2	3No.3	土師器	直	11.0	3.5	9.0	普通	赤褐色	白色粒、 角閃石	口縁～底部 青雲片	体部ヘラ ズリ。 体部一部欠 損。	口縫部暗文 状ミガキ。 体部ビナ チ。		200.00
H-30	2	D-I	No.1	土師器	直			[11.3]	普通	橙色	白色・赤 色粒	体部	体部ヘラケ ズリ。	体部ナデ調 査。		390.00
H-30	3	3 2	3No.2	土師器	高环	17.0	[9.8]	12.7	普通	橙色	白色・赤 色粒	口縁～脚部 1/3 脚部一部 欠損	体部ヘラ ズリ。 脚部下端ハ ケズ。	脚部ナデ調 査。		300.00

第 14 表 A 区出土古墳時代土器観察表 (7)

遺構名	番号	区	層	種類	鉢輪	基盤			成・整形技術の特徴						備考	重量(g)
						口径	底径	高さ	①焼成	②色調	③崩土	残存	外面	内面		
H-30	4	1 77-14	2	土師器	直	(18.0)		[10.2]	良好	褐色	白色・黒 色粒	C1輪部 1/2	C1底部 陶文 状ミガキ。 底面輪面状 ミガキ。	C1輪部ハラ ナデ・暗 緑 底ミガキ。 底面輪面状 ミガキ。	有段口 縁	350.00
H-30	5	12	3No.2	土師器	直	13.3	5.6	15.5	普通	褐色	白色粒、 角閃石	C1縁～底部 口縁～底部 1/4欠損	C1輪部 陶文 状ミガキ。 底面下部ハ ラナデ。	C1輪部ハラ ナデ・暗 緑 底ミガキ。 底面下部ハ ラナデ。		590.00
H-30	6	1 77-14	2	土師器	台付廣		11.0	[11.7]	普通	に赤い斑 色・黑色	角閃石	体～口部 休部1/3	休部ヘラケ ズリ。 台部ハラケ ズリ。	休部ハラナ デ。 台部ハラナ デ。		350.00
H-30	7	12	3No.1 12	土師器	S字廣	(14.8)	(9.8)	29.7	普通	に赤い斑 色	白色粒	C1縁～底部 口縁・台部 一部欠損	休部ヘラケ ズリ。	休部ハラナ デ。 台部ハラナ デ。	台部折 り返し	1,350.00
H-30	8	2	3No.1	土師器	直	15.2	28.6	10.0	普通	褐色	白色粒、 角閃石	元形 一部欠損	休部ヘラケ ズリ。	休部ハラナ デ。 台部ハラナ デ。	C1輪部 わざか に斜曲 面折 り返し	1,400.00
H-30	9	2	3No.1	土師器	直	(19.5)	7.8	29.1	普通	褐色	白色・黒 色粒、角 閃石	元形 一部欠損	C1輪部ハラ ナデ。 休部ヘラケ ズリ。	C1輪部 陶文 状ミガキ。 休部ハラナ デ。	有段口 縁	2,450.00
H-30	10	3	3No.1	土師器	直	14.0	5.8	20.4	普通	褐色	白色粒、 角閃石	元形	休部ヘラケ ズリ。	休部ハラナ デ。		1,160.00
H-32	1	16 16	3No.1 3No.2	土師器	直		12.4	[11.4]	普通	明赤褐色	角閃石	C1縁～休部 C1縁～底部 欠損	C1輪部ハラ ナデ・ミガキ。 頂部輪面文 休部ヘラナ デ	C1輪部ハラ ナデ・ミガキ。 頂部輪面文 休部ヘラナ デ	有段口 縁	398.19
H-32	2	4 8	1 2	土師器	直		10.3	[5.5]	普通	赤褐色	白色粒、 雲母片	C1輪部 3/4	輪面状ミガ キ。	輪面状ミガ キ。	有段口 縁	106.56
H-32	3	16 16	3No.1 3No.4	土師器	高环	9.5	(14.6)	9.5	普通	赤色(赤 彩)	白色・赤 色粒、角 閃石	C1縁～脚部 一部欠損	ミガキ。 赤彩。	ミガキ。 赤彩。	4孔	198.92
H-32	4	16	3No.3	土師器	直		(15.7)	[9.6]	普通	褐色	白色・赤 色粒、黒色 粒	C1縁～脚部 1/2	C1輪部ハラ ナデ。	C1輪部ハラ ナデ・ミガキ。	C1輪部 わざか に有段 状	484.08
H-32	5	16 16	2 3No.1	土師器	直	12.2	[11.8]		普通	に赤い斑 色・黑色	白色・赤 色粒、角 閃石	C1縁～脚部 C1縁～底部 欠損	輪面状ミガ キ。	輪面状ミガ キ。	有段口 縁	622.32
H-34	1	7 2	1 2	土師器	跡	(10.6)	4.1	5.9	普通	明黄色 ～暗褐色	白色粒、 角閃石	C1縁～底 部1/2	C1縁～底 部1/2	C1縁～底 部ミガキ。		101.89
H-36	1	12	3No.2	土師器	跡	(10.9)	3.3	8.9	普通	褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	C1縁～底 部3/4	C1縁～底 部3/4	休部ミガ キ。	休部ヘラナ デ。	148.25
H-36	2	12	3No.1	土師器	高环	11.1	[5.1]		普通	赤色(赤 彩)	白色粒、 角閃石	休部 C1縁～底部 一部欠損	ミガキ。 赤彩。	ミガキ。 赤彩。	休部ミガ キ。	109.02
H-36	3	2	3	土師器	高环		(15.4)	[6.7]	普通	褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	休部 C1縁～底部 一部欠損	ミガキ。	ミガキ。	上2 段の孔	247.80
H-36	4	11	3	土師器	高环	11.1	13.8	8.2	普通	明赤褐色	白色粒、 角閃石	C1縁～脚部 C1縁～底部 一部欠損	ミガキ。	ミガキ。	4孔	277.05
H-38	1	2	2	土師器	S字廣	18.0	[8.6]		普通	暗赤褐色 ～明赤褐色	白色・赤 色粒	C1縁～休部 1/3	休部ヘラ ナデ。	休部ヘラ ナデ。		74.22
H-41	1	3	3No.1	土師器	器台	10.6	10.8	7.7	普通	に赤い斑 色	白色粒、 角閃石	元形	ミガキ。	脚受部ミガ キ。		270.00
H-41	2	16	3No.4	土師器	高环	10.0	11.3	9.6	普通	に赤い斑 色	白色・赤 色粒	C1輪部 C1輪端部欠 損	輪面ミガ キ。	輪面ミガ キ。	4孔	220.00
H-41	3	12	3	土師器	直		[3.8]		普通	に赤い斑 色	白色粒	C1輪部 C1輪端部欠 損	輪面ミガ キ。	輪面ミガ キ。	有段口 縁	60.00

第15表 A区出土古墳時代土器観察表(8)

遺構名	番号	区	層	種類	器種	法則			成・整形技法の特徴					備考	重量(g)		
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③耐土	残存	外側	内面			
H-41	4	6 6 2	2 3No.2 3No.1	土師器	甕	16.3	8.2	[16.1] [14.4]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、 角閃石	口縁～体部 上半 底盤下部 底盤 1/3	細部ヘラク スリ、 輪郭ミガ キ、 体部ヘラケ ズリ。	端部ミガ キ、 体部ヘラタ ズ。		850.00	
H-41	5	7 10	3 3	土師器	甕	[18.3]		[24.0]	普通	にふい黄 褐色～灰黄 褐色	白色粒、 角閃石	口縁～体部 上半 底盤下部 底盤 1/3	細部ヘラク スリ、 輪郭ミガ キ、 体部ヘラケ ズリ。	端部ヘラタ ズ。		952.62	
H-41	6	16	3No.1	土師器	甕	17.1		[15.8]	普通	明黄色～ にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～体部 上半 底盤	端部ヘラタ ズ。 輪郭ミガ キ、 体部ヘラタ ズ、ミガキ。	口縁部ナ ダ。		1,031.41	
H-41	7	16 16	2 3No.3	土師器	甕	15.6		[13.6]	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～同部 3/4	端部ヘラタ ズ。	口縁輪 積み型		644.89	
H-41	8	16	3No.2	土師器	甕	16.0	8.0	29.5	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁部ナ ダ。 一部欠損	端部ヘラタ ズ。 輪郭ミガ キ。	端部ヘラタ ズ、ミガキ。		1,859.00	
H-42	1	6	1	土師器	S字甕	13.7		[3.9]	普通	灰褐色～ にふい黄 褐色	白色粒	口縁～肩部 1/3	端部ヘラタ ズ。	輪郭ミガ キ。		28.80	
H-42	2	6	1	土師器	小形壺台	(7.1)	[10.0]	8.0	普通	にふい黄 褐色～ にふい黄色	白色、赤 色粒、黒色 粒	脚部～脚部 1/2 欠損	脚部ミガ キ。	器受部ミガ キ。 輪郭ミガ キ。		120.06	
H-43	1	9	1	土師器	甕	23.3		[5.6]	普通	浅黄色	白色粒、 角閃石	口縁部 1/2	口縁部ミガ キ。 口縁端部・ 口縁屈曲部 へ付工具 跡。	口縁部ミガ キ。		222.63	
H-43	2	1	1	土師器	甕			6.6	[15.4]	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、赤色 粒	体～底部 2/3	体部ヘラケ ズリ。 底部ナデ調 整。	体部ナデ調 整。		545.89
H-44	1	8	3No.1	土師器	甕	10.4	3.7	4.1	普通	にふい黄 褐色	白色粒、 角閃石	口縁～近部 口縁～一部欠 損	体部～底部 ミガキ。 底部ヘラケ ズリ。	底部ミガ キ。		76.00	
H-44	2	2	3No.1	土師器	甕	(11.4)	3.8	8.0	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/2	体～底部 ミガキ。 底部ヘラケ ズリ。	ミガキ。		122.60	
H-44	3	3 3 7 11	2 3 3 3 3No.1	土師器	甕	(14.2)	7.7	27.2	普通	にふい黄 褐色	白色、赤 色粒、角 閃石	口縁～底部 1/2	体部ヘラタ ズ。	口縁部ナ ダ。		1,830.44	
H-45	1	14	1No.2	土師器	甕	9.6	4.8	4.0	普通	灰褐色～ にふい黄 褐色	白色、赤 色粒	口縁	口縁部ナ ダ。	底部ミガ キ。		99.49	
H-45	2	17	1	土師器	甕	12.0		[7.1]	普通	灰褐色	白色、黒 色粒、チ ヤート	口縁～底部 1/2	底部ヘラケ ズリ。	底部ヘラタ ズ。	内面黒 色	106.52	
H-45	3	17	1	土師器	小形壺			[7.4]	普通	灰褐色	白色粒、 角閃石、チ ヤート	口縁～底部 1/2	底部ヘラケ ズリ。	底部ヘラタ ズ。		135.57	
H-45	4	11	1	土師器	小形壺			3.5	[5.5]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、 角閃石	体～底部 ミガキ。	底部ヘラケ ズリ。	ユビナデ。	平底	121.74
H-45	5	14	1No.3	土師器	高甕			12.0	[8.0]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、 角閃石	底部	ナデ調整。	底部ユビナ デ底。		222.42
H-45	6	14	1	土師器	高甕			[12.4]	[9.4]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、 角閃石	底部～ 底部欠 損	輪郭状ミガ キ。	底部ユビナ デ。		237.91
H-45	7	14	1No.1	土師器	小形壺	10.6		12.5	普通	水褐色	白色粒	口縁～底部 1/2	口縁部ナ ダ。 底部ヘラケ ズリ。	体部ヘラタ ズ。		364.12	
H-45	8	10 10 11 14	1 2 1 1	土師器	甕	14.3	4.0	15.7	普通	明褐色～ 褐色	白色、赤 色粒	口縁～底部 1/2	口縁部端面 ミガキ。 底部ヘラケ ズリ。	口縁部端面 ミガキ。 底部ヘラタ ズ。		631.15	
H-45	9	10 10	1 2	1No.1	土師器	台付甕	[13.0]		[23.2]	普通	にふい黄 褐色	白色粒、 角閃石	底部～ 底部欠 損	体部ヘラタ ズ。	底部ヘラタ ズ。	台付甕 表面凹 凸	911.58

第 16 表 A 区出土古墳時代土器観察表 (9)

遺構名	番号	区	層	種類	器種	基盤			成・整形技法の特徴						備考	重量(g)	
						口径	底径	高さ	①焼成	②色調	③崩土	残存	外面	内面			
H-45	10	10 10 14	1 1No.1 1	土師器	甕	14.0	16.9	普通	明赤褐色	白色粒、角閃石	口縁～底部 4/5	口縁部ヘラナ デ。底部ヘラナ デ。	体溝ヘラナ デ。	体溝ヘラナ デ。		1,036.87	
H-46	1	7	2No.1	土師器	小形甕		[6.2]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角閃石	体部	体部ヘラナ デ。	体溝ナテ調 整。	体溝ナテ調 整。		141.02	
H-46	2	16	2No.1	土師器	甕	8.9	7.9	普通	褐色	白色粒、角閃石	口縁部ナ デ。底部ナ デ。	体溝部ナ デ。底部ナ デ。	体溝部ナ デ。底部ナ デ。	体溝部ナ デ。底部ナ デ。		202.54	
H-46	3	3 3	2	土師器	小形甕	(9.3)	[8.1]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角閃石	口縁～底部 1/3	口縁～底部 ラケズリ。	頭～底部ヘ ラナデ。	頭～底部ヘ ラナデ。		104.23	
H-46	4	4	2	土師器	ミニチュア 鉢	4.0	2.7	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角閃石	口縁～底部 3/4	口縁部ヘラナ デ。底部ナ デ。	ナテ調整。	ナテ調整。		18.00	
H-46	5	3	2	土師器	高环		[9.4]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、雲母微片	頭部 1/2	ミガキ。	頭部ナテ調 整。	頭部ナテ調 整。		148.23	
H-46	6	3	2	土師器	高环		[8.3]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、雲母微片	頭部 1/2	頭部	頭部ミガ キ。	頭部ミガ キ。		142.27	
H-46	7	3 3	2 3	土師器	高环		[8.1]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角閃石	頭部	頭部	頭部上半コ ビナデ。頭部下部ヘ ラナデ。	頭部上半コ ビナデ。頭部下部ヘ ラナデ。		124.51	
H-46	8	3	2	土師器	高环		[8.1]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角閃石	頭部 1/2	ミガキ。	ナテ調整。	ナテ調整。		101.90	
H-47	1	1	1	土師器	高环	18.2	[5.6]	普通	に赤い黄 褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	环部底文状 1部欠損	环部底文状 ミガキ。	环部底文状 ミガキ。	环部底文状 ミガキ。		334.67	
H-47	2	1	1No.1	土師器	台付甕	10.6	6.4	13.7	普通	に赤い黄 褐色～淡 褐色	白色・褐 色粒、角 閃石	口縁部ナ デ。底部 1部欠損	口縁部ナ デ。底部 1部欠損	体溝部ナ デ。底部ヘラナ デ。	体溝部ナ デ。底部ヘラナ デ。		302.02
H-48	1	12	1	土師器	高环	[13.4]	10.4	[18.9]	普通	浅黄色～ 褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	口縁部ナ デ。底部 1部欠損	口縁部ナ デ。底部 1部欠損	頭部上端ヘ ラナデ。	頭部上端ヘ ラナデ。		174.02
H-48	2	5	2	土師器	高环		8.2	[6.6]	普通	に赤い黄 褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	頭部下端～ 底部	ミガキ。	頭部ハケ ズリヘラナ デ。	頭部ハケ ズリヘラナ デ。		150.38
H-48	3	6 7	2 ?	土師器	甕	15.4	[9.8]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角 閃石	口縁部 3/4	ミガキ。	ミガキ。	ミガキ。		235.92	
H-48	4	77 ル	1	土師器	甕	[10.6]	[6.8]	普通	に赤い黄 褐色	白色粒、角 閃石	口縁～底部 3/4	口縁部ナ デ。底部 1部欠損	口縁部ヘラ ナデ。	口縁部ヘラ ナデ。		157.67	
H-48	5	6 10 1 77 ル	2 2 1	土師器	甕	[18.0]	[14.5]	普通	に赤い黄 褐色～棕 褐色	白色・赤 色粒、雲 母片、角 閃石	口縁～底部 2/3	口縁部ナ デ。底部 1部欠損	口縁部ヘラ ナデ。	口縁部ヘラ ナデ。		400.64	
H-48	6	10 11	2 2	土師器	5字甕			普通	に赤い黄 褐色～棕 褐色	白色・赤 色粒、黒 色粒	頭部、体 1/12	頭部、体 1/12	ハケヌ。	ナテ調整。		44.73	
H-50	1	14	1	土師器	甕		[5.2]	普通	に赤い黄 褐色	白色・赤 色粒、角 閃石	体部 3/4	体部	ヘラナデ。	ユビナデ。	口1辺 り	71.83	
H-50	2	14 77 ル	1	土師器	甕	11.7	[6.7]	普通	褐色	白色・赤 色粒	口縁部 3/4	口縁部ミガ キ。	頭部ミガ キ。	頭部ミガ キ。		277.00	
KM-01	1	一括		土師器	甕	[15.0]	(11.8)	3.2	普通	褐色	黑色粒	口縁～底部 1/12	底部回転ヘ ラケズリ。	ナテ成形。		11.74	

第 17 表 A区出土古墳時代土器観察表(10)

2 人見西原遺跡 B 区の概要

人見西原遺跡 B 区は、人見坂ノ上遺跡との間を北側から入り込むわずかな谷状地形に面しており、南西方向から北東方向へ向かって傾斜する。標高は凡そ 279 m ~ 280 m を測る。

B 区では縄文時代の住居址 2 棟、竪穴状遺構 2 棟、単独の埋設土器 1 基、土坑・ピットが検出された。遺物包含層が調査区全域に広がっていたため、それらをグリッドで取り上げた後に遺構検出を行った。包含層は深い所で 10cm の厚さで堆積していたが、遺物量はあまり多くなかった。J-1 ~ J-5 については当初、住居址として調査を開始したが、整理段階に至って J-2 ・ J-3 は掘り込みをもつ竪穴状遺構、J-1 ・ J-4 ・ J-5 は包含層に由来する遺物集中地点と判断し、それぞれ欠番とした。

(1) 遺構の概要

1. 住居址

概要

J-6 号住の平面形態は円形を呈し、掘り込みは浅い。柱穴はほぼ方形に配置する。住居中央には埋設土器を設ける。埋設土器は正位の状態で出土した。J-7 号住の平面形態は円形を基調とし、北東方向に張り出しを有する。住居のほぼ中央に石囲炉を設ける。埋設土器が住居南側で 1 点確認された。住居北東壁際には小規模な配石が認められた。

遺物出土状況

J-6 号住では、覆土中より土器片が多量に出土している。いずれも破片が散在した状態で出土しており、完形個体が横倒しになった状況は看取されなかった。J-7 号住では、炉周辺を中心として土器片が多量に出土している。土器片は床面上および覆土中から散在した状態で出土しており、完形個体が横倒しになった状況は見られなかった。また床面下からも土器片が出土している。

2. 埋設土器

埋設土器は 1 基検出された (U-1)。土器は正位の状態で出土している。

3. 土坑・ピット

土坑は 6 基確認されている。D-4 号土坑は銅鏡（不明）が出土しており、中世以降に帰属する可能性が高い。D-5 号土坑は大形で、覆土上層からは多量の焼土が部分的に検出された。縄文時代に帰属すると想定される。その他の土坑について、図化に及んだものは人為的な掘り込みと判断される。覆土中から縄文土器片が出土しているが、その形態等から時期は確定できなかった。

ピットは遺構の多い B 区東側で多く検出された。J-2 西側で直線上に東西に並ぶものが認められたが、農耕用トレッチャによる攪乱のため全容は明確に出来なかった。その他のピットは不規則に点在する。

(2) 遺物の概要

1. 縄文時代の遺物

土器

J-1～3・5～7号住、U-1号埋設土器で加曾利EⅢ～EⅣ式期の土器が出土している。

J-1住1は平縁口縁と想定される深鉢の口縁～胴部片である。単節L R 縄文施文後、口縁部下に横位沈線、胴部に弧状沈線を施文する。口縁部は無文となる。粘土組の輪積み部分には刻みが施される。J-2号住1・2は平縁口縁と想定される深鉢の口縁～胴部片、4～6は深鉢の胴部片である。1・2は隆帯添付後、単節R L 縄文を胴部に施文する。隆帯脇及び口縁部下には幅広沈線を施す。口縁部は無文となる。4・5は弧状の隆帯を添付後、3は単節R L 縄文、4は単節R L 縄文を施文する。いずれも隆帯脇には幅広沈線を施す。5は縦位の条線を施文後、縦位の蛇行する沈線を施している。6は前期後葉の深鉢で単節R L・L R 縄文を羽状に施文する。

J-3住1は平縁口縁と想定される深鉢の口縁～胴部片で、単節R L 縄文施文後、口縁部下に横位の幅広沈線を施文する。口縁部は無文である。2は単節R L 縄文施文後、2本1組の縦位沈線を施す。沈線間には磨り消しが施される。

J-6住1は口縁部が欠損した深鉢である。底部は平底を呈する。外面胴部上位はU字状・渦巻き状、下位は逆U字状・渦巻き状の隆帯を添付し、単節RL 縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施し、隆帯による区画外に磨り消しを施す。2は平縁口縁の深鉢で口縁～胴部上位に単節R L 縄文を施し、中位以下は無文となる。3は平縁口縁と想定される深鉢の口縁～胴部片である。外面は横位隆帯で口縁部と胴部を区画し、胴部には単節LR 縄文を施文する。隆帯脇に幅広沈線を施し口縁部は無文となる。4・5は小型の深鉢である。いずれも口縁部は欠損している。4の底部は平底を呈する。単節L R 縄文施文後、対向するU字状・逆U字状沈線を施し区画する。沈線による区画外には磨り消しを施す。5は単節R L 縄文施文後、逆U字状の沈線を施し区画する。区画内には磨り消しを施す。6は深鉢の胴部片で、単節R L 縄文施文後2本1組の縦位隆帯を添付する。隆帯による区画内には磨り消しを施し、隆帯脇に幅広沈線を施文する。

J-7住1は4単位波状口縁の深鉢である。渦巻き状の隆帯添付後、単節R L 縄文を施文する。口縁部に平行する隆帯上には単節R L 縄文が施文される。外面には一部赤彩された痕跡が残る。2は脚付きの小型深鉢と想定される。単節R L 縄文施文後、2本1組の縦位沈線を施す。沈線による区画内には磨り消しを施す。3は深鉢胴部片で外面は縦位の条線が施文される。U-1号埋設土器は胴部上位に1対の把手が付く鉢である。口縁部は欠損しており、底部は平底を呈していたと想定される。単節R L 縄文施文後、2本1組の逆U字状の沈線を施す。沈線間には磨り消しが施される。口縁部下には横位の幅広沈線が施文される。口縁部は無文と想定される。

遺構外出土遺物は7点図示した。1・2は深鉢の突起部で、1は円柱状、2はS字状の隆帯が添付される。3～6は深鉢の口縁部片である。3は波状、4～6は平縁口縁を呈する。7は深鉢胴部破片で沈線間には磨り消しが施される。1～6は中期後葉～後期初頭、7は中期後葉と想定される。

石器

器種組成

住居址・土坑・遺物包含層から194点が出土した。主な器種は、A類（石鎌・石錐・石匙・スクレイバー・リタッチドフレイク・楔形石器・剥片・石核・原石）、B類（打製石斧・スクレイバー・リタッチドフレイク・剥片・石核・原石）、C1類（磨石・凹石・石皿）、C2類（敲石・砥石・台石）、D類（石棒・多孔石・丸石）、E類（磨製石斧）、F類（軽石）である。

遺構から出土した石器を概観すると、J-5・7号住居址ではA類のリタッヂドフレイク・剥片・石核が多い傾向が認められ、石鏃などの小型石器を製作していた可能性を窺わせる。さらにJ-7号住居址では、B類の打製石斧・スクレイバー・リタッヂドフレイクが各住居跡に比べて多い。C1類やC2類の出土傾向に違いは認められず、D類・E類は全体的に少ないようである。土坑では、A・B類の原石やC2類の台石が出土しているのみである。

遺物包含層では、A・B類が約9割を占めており、剥片A・剥片Bや打製石斧が主体である。

石材組成

石材には、黒曜石・チャート・硬質頁岩・黒色安山岩・頁岩・安山岩・砂岩・凝灰岩・緑色岩類・軽石が使用される。A・B類などの剥片石器には黒曜石や頁岩が多用され、C~E類などは安山岩や緑色岩類が使用されている。

石器各説

石鏃（1~5） 7点出土した。I形態（凹基無茎）が5点、凹基有茎が1点、未成品が1点である。I形態の2・3・4のうち2点は欠損品である。3は小型剥片の周縁に押圧剥離調整が施されるが、全体に粗雑な調整により左右非対称である。凹基有茎の1は基礎部が欠損しているが、緻密な押圧剥離調整により丁寧に仕上げられている。5は未成品であり、小型剥片の縁辺に押圧剥離調整が施される。石材は黒曜石である。

石錐（6） 1点出土した。IIa形態（つまみ有り）に分類される。錐部は細長く、先端や中央部には磨耗痕が認められる。つまみ部の両端部が欠損している。石材は黒色安山岩である。

石匙A類（7） 1点出土した。Ia形態に分類され、平面形状は縱長タイプである。右側上部に浅い抉入加工を施し、つまみ部を作出している。調整方法は丁寧な押圧剥離調整が施される。刃部周辺には微細剥離痕や磨耗痕が顕著である。石材は黒色安山岩である。

スクレイバーA類（8・9） 5点出土した。いずれもIII形態である。8は小型剥片の二側縁に、9は小型剥片の一側縁に微細剥離痕が連続する。石材は黒曜石である。

楔形石器A類（10） 2点出土した。いずれも両側剥離によるもので、形状などから石鏃等の小型石器素材の可能性が考えられる。10は端部が切断されている。石材は黒曜石である。

石核A類（11・12） 9点出土した。部分的に風化面を有する小型品である。打面や作業面を固定せず、頻繁に転移させて小型剥片を作出している。最終剥離段階はかなり小型の剥片剥離を行っている。石材は黒曜石である。

原石A類（13） 2点出土した。全面が風化した剥離面で覆われている。石材は黒曜石である。

打製石斧（14~18） 27点出土した。II形態（短矩形）が主体であるが、16・17・18は中央に浅い抉入部を有している。特に16・18は小型で中央に浅い抉入部を有すなど、類似性が認められる。素材となる剥片に礫皮が残存しているのは18のみであり、大半は連続して剥片剥離したとみられる横長剥片を素材としている。石材は頁岩・安山岩である。

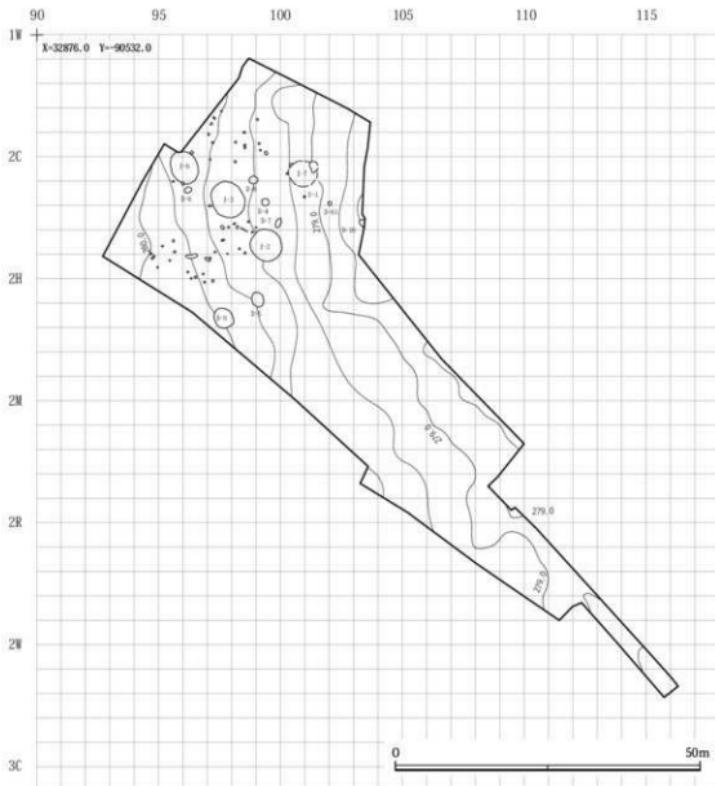
スクレイバーB類（19~22） 14点出土した。素材となる剥片には全て礫皮が残存しており、21を除き縁辺が鋭い薄型剥片が使用される。刃部調整は、直接打撃による加工が部分的に認められる21・22、縁辺に微細剥離痕や磨耗痕が顕著な19・20などに認められる。石材は頁岩・安山岩である。

石核B類（23） 2点出土した。横長の形状を呈する。作業面や打面の固定はみられず、転移しながら中～小型剥片を作出したものと思われる。石材は頁岩である。

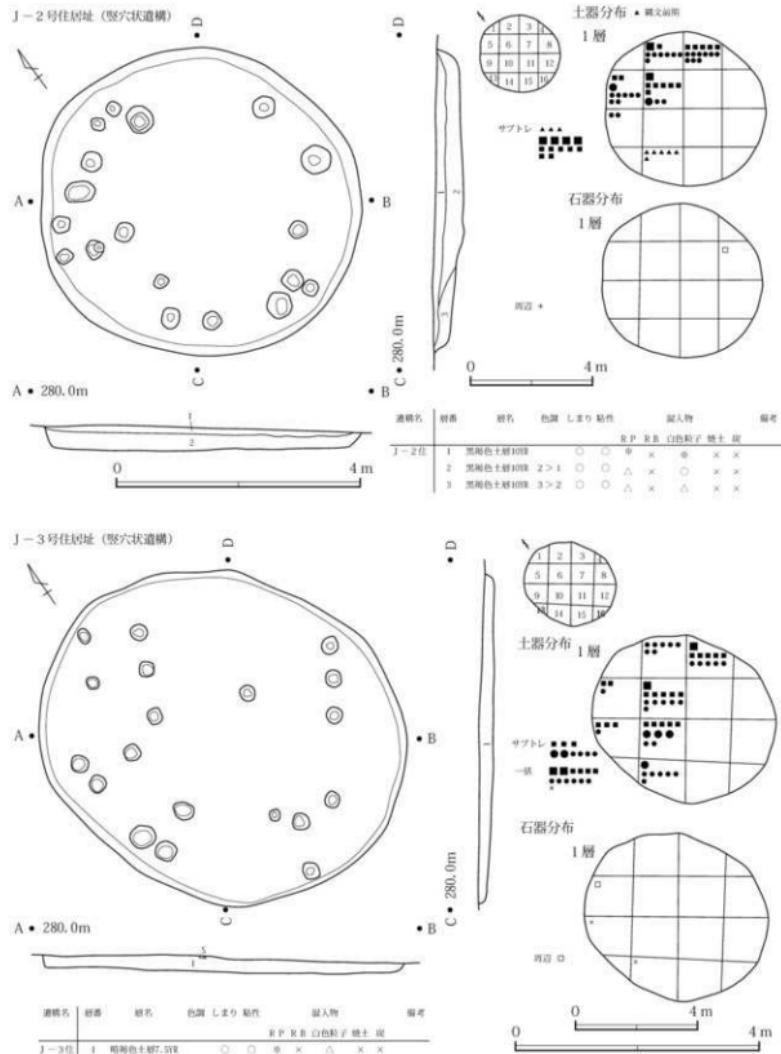
石皿（24） 2点出土した。大型の扁平礫を素材とする。皿面とみられる中央付近は浅く窪んでおり、顕著な磨耗が認められる。欠損品。石材は緑色岩類である。

磨製石斧（26・27） 2点出土した。いずれも定型的な形状を呈しておらず、26は小型礫に部分的な剥離工程後に研磨調整が部分的に施されている。27は大型礫を分割し全体に剥離工程を施し、敲打による棱やエッジの潰し加工が認められる。25は中型の棒状礫に敲打加工が施されており、側面の一部や下面に敲打痕より新しい剥離痕が認められる。いずれも磨製石斧としては製作途中と判断されるが、25は敲石に転用された可能性が考えられる。石材は緑色岩類である。

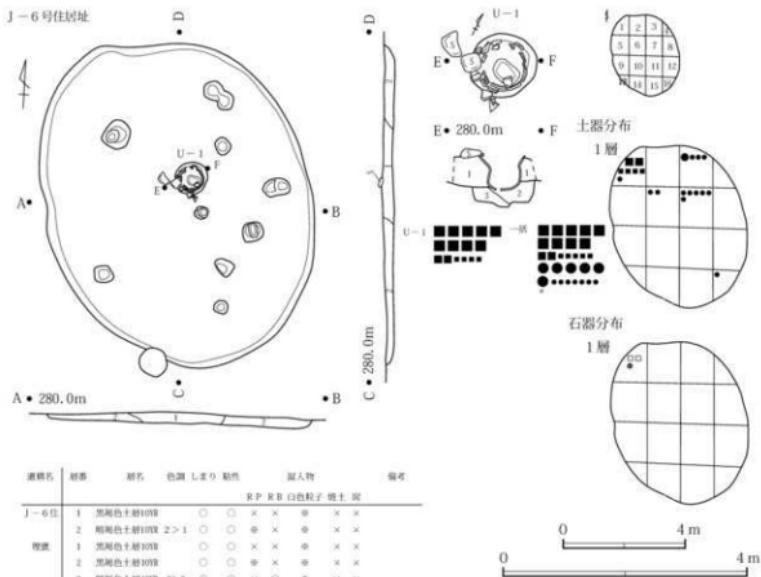
（3）遺構・遺物の実測図



第64図 人見西原遺跡B区遺構配置図

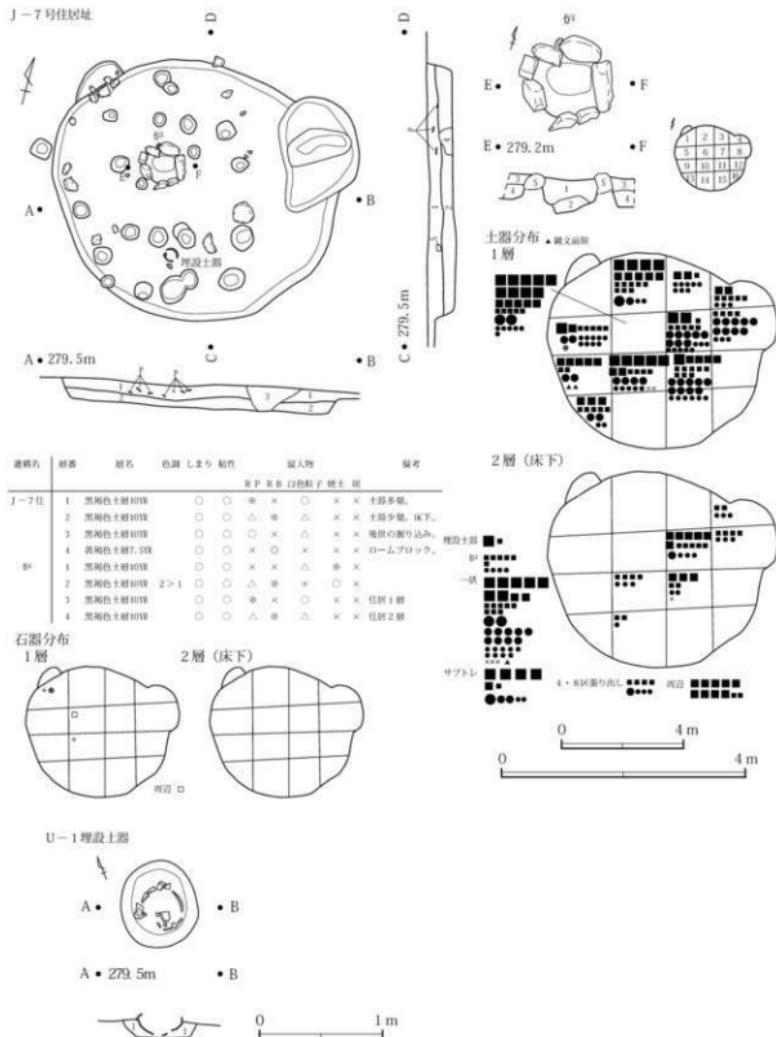


第65図 J-2号住居址・J-3号住居址実測図

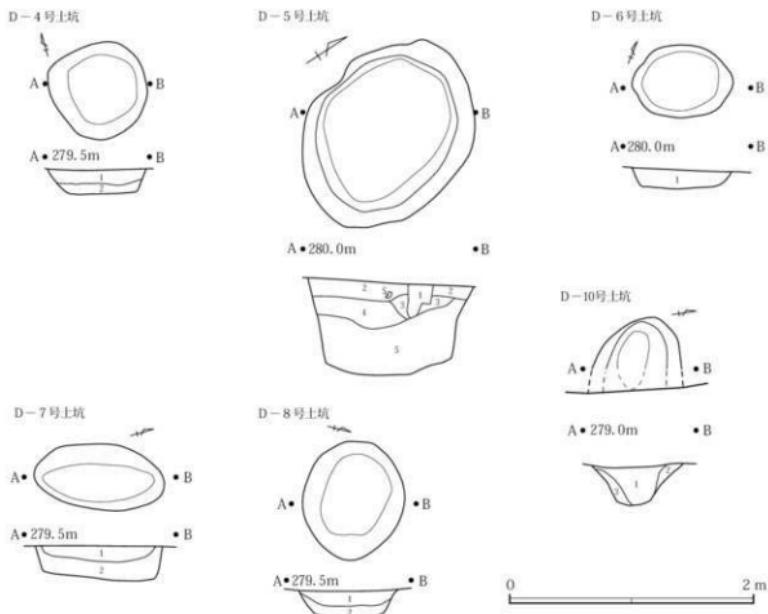


第66図 J-6号住居址実測図

J-7号住居址



第67図 J-7号住居址・U-1号埋設土器実測図



遺構名	剖面	層名	色調	しまり	粒度	遺物						備考
						R P	R B	白鶴類子	A+B	粘土	瓦	
D-4土坑	1	黒褐色土層 7.5cm	○	○	×	○	×	×	×	×	×	埋土
	2	黒褐色土層 10cm	3>2	○	○	※	×	●	×	×	×	
	1	黒褐色土層 10cm	△	○	△	×	●	×	×	×	相疊状	
	2	黒褐色土層 10cm	2>1	○	○	※	×	△	×	×	×	
	3	黒褐色土層 10cm	3>2	○	○	○	●	○	×	○	×	
D-5土坑	4	黒褐色土層 10cm	4>2	○	○	○	△	×	×	×	×	
	5	黒褐色土層 10cm	5>4	○	○	○	○	○	×	×	×	
	1	黒褐色土層 10cm	○	○	※	×	●	×	×	×	×	
	1	黒褐色土層 10cm	○	○	※	×	●	×	×	△		
	2	黒褐色土層 10cm	2>1	○	○	※	×	●	×	×	×	
D-6土坑	1	黒褐色土層 10cm	×	×	×	×	○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層 10cm	2<1	○	○	※	×	×	○	×	×	
	1	黒褐色土層 10cm	○	○	※	×	●	△	×	×	×	
	2	黒褐色土層 10cm	○	○	○	×	○	○	×	×	×	
	3	黒褐色土層 10cm	○	○	△	●	※	×	×	×	×	
D-7土坑	1	黒褐色土層 10cm	○	○	※	×	●	○	×	○	×	
	2	黒褐色土層 10cm	2>1	○	○	※	×	●	○	×	×	
	1	黒褐色土層 10cm	×	×	×	×	○	○	×	○	×	
	2	黒褐色土層 10cm	2>1	○	○	※	×	●	○	×	×	
	3	黒褐色土層 10cm	○	○	△	●	※	△	×	○	×	
D-8土坑	1	黒褐色土層 10cm	○	○	※	×	●	○	○	×	○	
	2	黒褐色土層 10cm	2>1	○	○	※	×	●	○	○	×	
	1	黒褐色土層 10cm	×	×	×	×	○	○	○	○	○	
	2	黒褐色土層 10cm	2<1	○	○	※	×	●	○	○	○	
	3	黒褐色土層 10cm	○	○	△	●	※	△	○	○	○	
D-10土坑	1	黒褐色土層 10cm	○	○	※	×	●	○	○	○	○	
	2	黒褐色土層 10cm	○	○	○	×	●	○	○	○	○	
	1	黒褐色土層 10cm	○	○	○	×	●	○	○	○	○	
	2	黒褐色土層 10cm	○	○	○	×	●	○	○	○	○	
	3	黒褐色土層 10cm	○	○	△	●	※	△	○	○	○	

第68図 土坑実測図

縄文時代住居址

住居名	平面形態	規模 (m) 長軸 短軸 深さ	主軸方向	施設		遺物量		時期	備考		
				柱穴	位置	構造	土器	石器			
J-2住	円形	5.20	5.04	0.54	-	不明	不明	不明	○	竪穴状遺構	
J-3住	不整円形	6.06	5.21	0.31	-	不明	不明	不明	○	竪穴状遺構	
J-6住	椭円形	5.58	4.41	0.19	N-3° W	不明	中央北東	埋設土器	○		
J-7住	楕丸方形	4.96	4.34	0.32	W-17° S	不整配列	中央	石焼炉	○	乗側に張り出し	

凡例

遺物量 土器 ○: 1,000g 以上 ○: 1,000g 未満

石器 ○: 30点以上 ○: 30点未満

土坑

土坑名	規模 (上端) 規模 (下端)	深さ	平面形態	断面	遺物		時期	備考
					土器	石器		
D-4	126	122	90	84	34	円形	C1	古窓出土
D-5	250	182	180	136	103	円形	C2	縄文○ 弥生△
D-6	124	88	96	72	24	椭円形	C1	
D-7	160	80	136	46	41	椭円形	D	縄文 (加賀利E) ○ 縄文○ 土師器△
D-8	148	124	104	78	36	円形	C1	
D-9	342	280	300	260	79	円形	△	縄文 (五箇ヶ台) △ 縄文 (加賀利E) ○ 縄文○
D-10	-	110	-	48	61	円形	A	
D-61	64	62	24	20	38	円形	A	縄文 (加賀利E) △

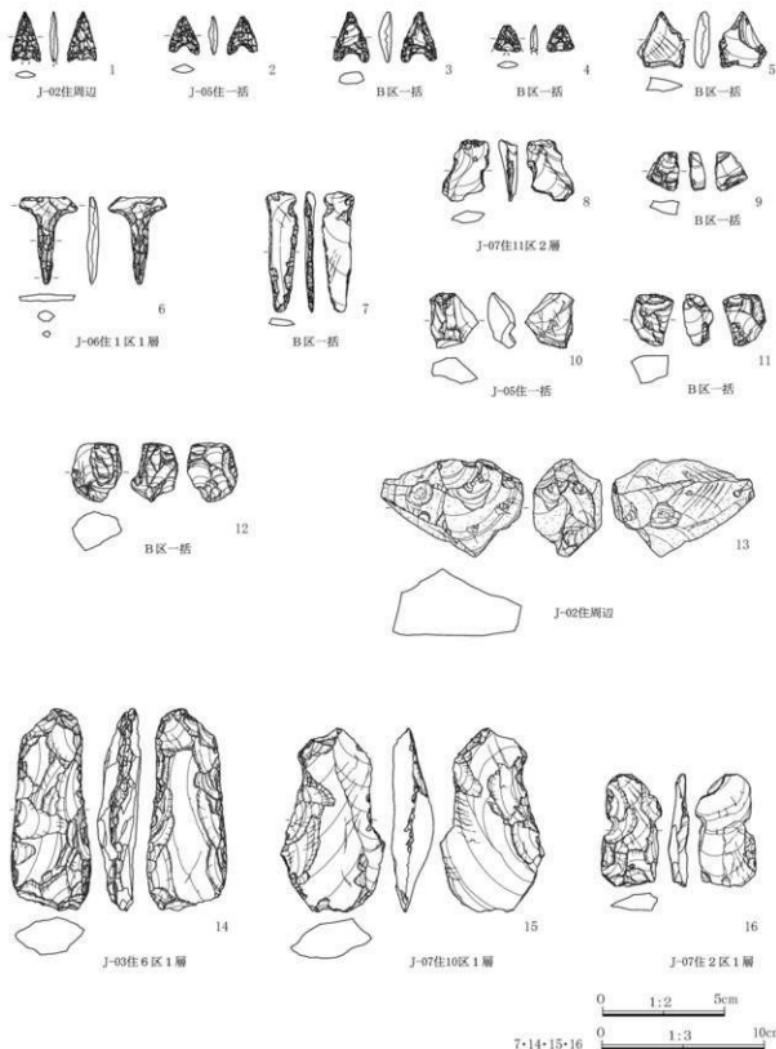
凡例

平面形態 A: 底面が極形のもの B: 底面は済曲するが凹いもの C: 底面は平坦で壁が傾斜する逆台形状のもの D: 底面は平坦で壁が直立する箱形のもの

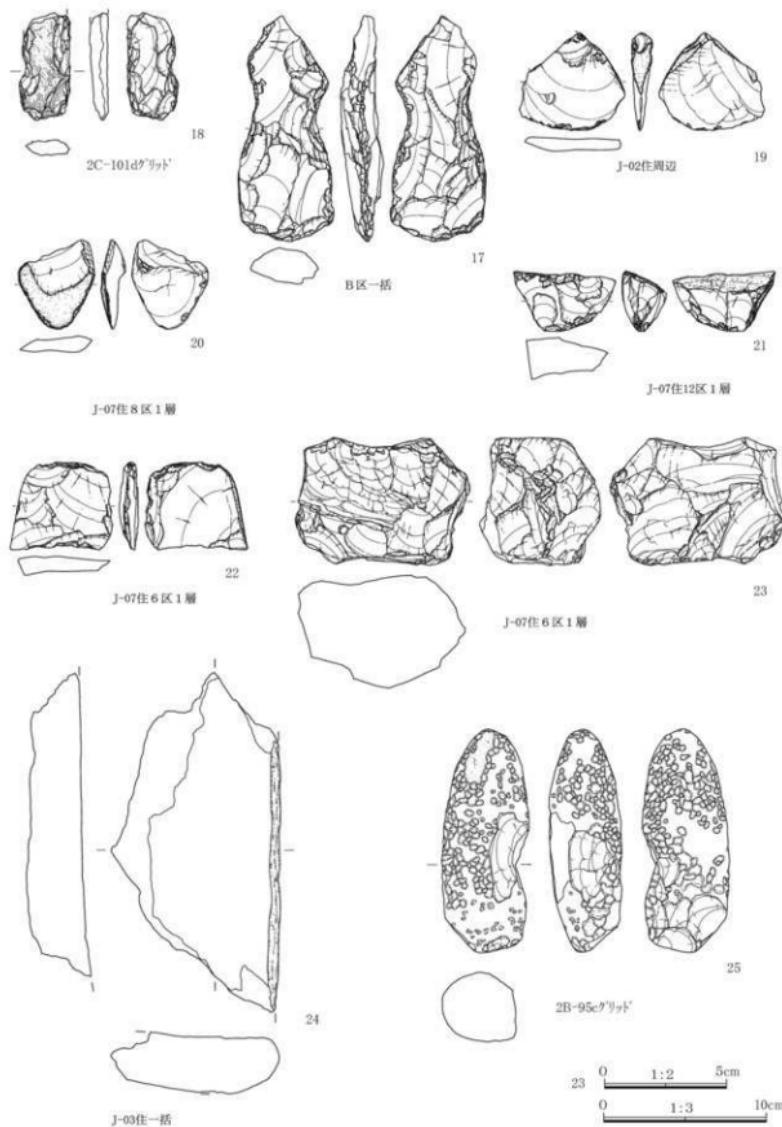
遺物 土器 △: 0 ~ 1,000g, ▲: 1,001 ~ 5000g, ○: 5,001 ~ 10,000g, ◎: 10,001g 以上

石器・石製品 △: 1 ~ 10点, ▲: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◎: 31点以上

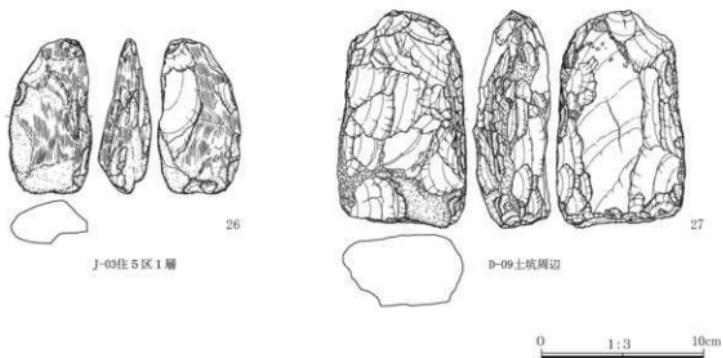
第18表 人見西原遺跡B区住居址・土坑 観察表



第69図 B区出土石器実測図(1)

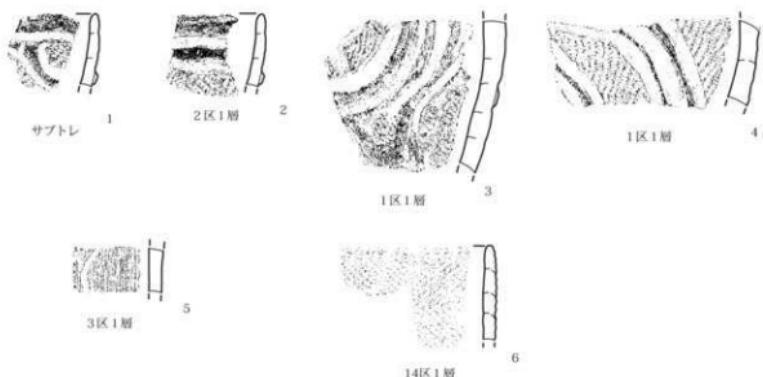


第 70 図 B 区出土石器実測図 (2)



第71図 B区出土石器実測図(3)

J-2号住



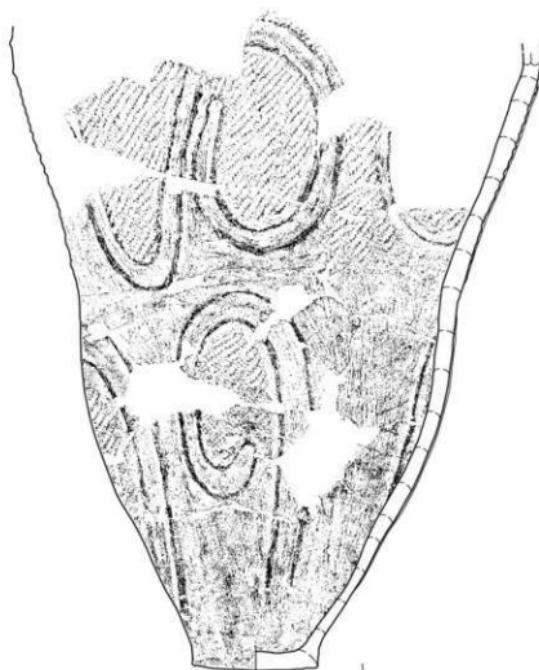
J-3号住



0 1 : 4 10cm

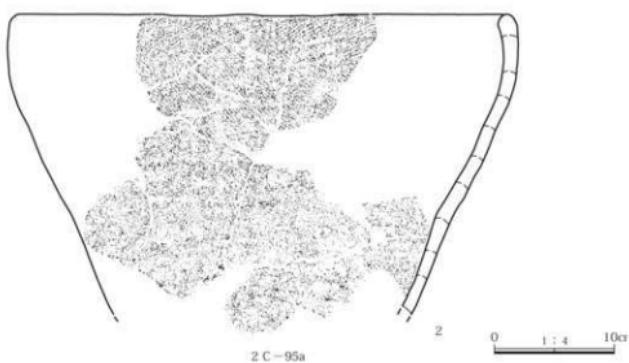
第 72 図 J-2・J-3 号住居址出土土器実測図

J-6号住



埋設土器

1



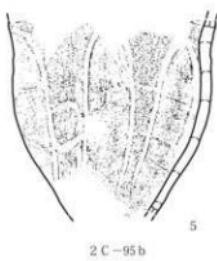
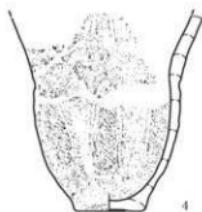
2

Z.C-95a

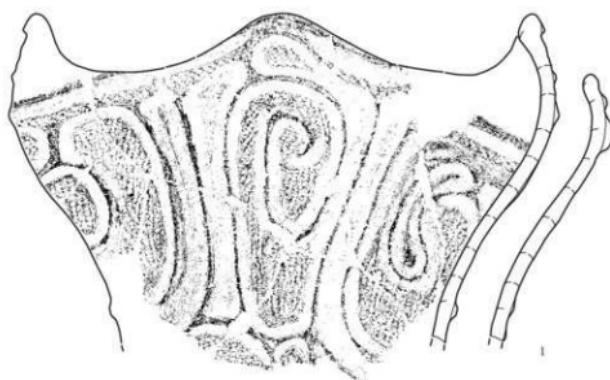
0 1:4 10cm

第73図 J-6号住居址出土土器実測図

J-6号住



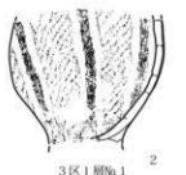
J-7号住



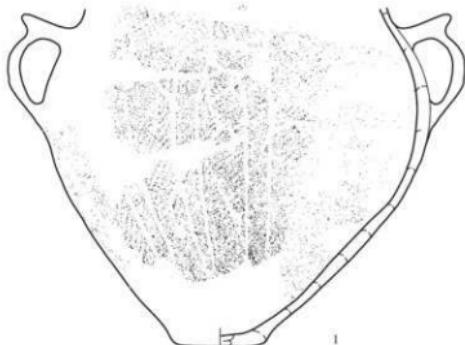
0 1 : 4 10cm

第74図 J-6・J-7号住居址出土土器実測図

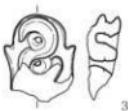
J-7号住



U-1号埋設土器



遺構外



J-1号住9区1層

J-5号住12区1層

J-5号住2区1層

J-5号住1区1層

J-5号住15区1層

0 1:4 10cm

種別		J-02	J-03	J-06	J-07	(J-01)	(J-04)	(J-05)	土坑	グリッド	計
A 類	石器	1						1		5	7
	石器			1							1
	石器 A 類				1				1		1
	SCA					1				4	5
	RF-A		1		3			2		6	12
	楔形石器							1		1	2
	刮片類	FLA	1	1	9	1	2	5		27	46
	石核	石核 A 類	1		2			1		5	9
B 類	原石	原石 A 類	1						1		2
	石器類	打製石斧	1	1	4	1	1	1	18	27	
		SCB	2		4		1		7	14	
		RF-B			2				2	4	
	刮片類	FLB		1	3		2	3	19	28	
	石核	石核 B 類			1				1	2	
	原石	原石 B 類							1		1
C 1 類	磨石				1					3	4
	凹石	C 1 類	1		1						2
	石圓							1			2
	砾石										0
C 2 類	鐵石	C 2 類	1	2	2	1		1	7	14	
	風石								1	1	
	石臼				1			1	2	4	
D 類	石器	石棒							1	1	
		棒状器									0
		多孔石	1								1
E 類	石器類	丸石	1								1
		研製石斧		1		1					2
F 類	石器類	軋石			1						1
		合計	7	10	6	34	2	7	16	4	108
											194

遺構名	黒曜石 Ob	チャート Ch	破質貝岩 HSh	黑色安山岩 Ban	真岩 Sh	安山岩 An	砂岩 Ss	凝灰岩 Tf	緑色岩類 GrR	軋石	個数合計	重量合計 (g)
J-02	2				3	2						7
	点数											1006.4
	重量(g)	51.8			60.0	894.6						
J-03	3				1	4			2		10	
	点数											958.7
	重量(g)	4.7			152.6	5932.4			1304.8			7394.5
J-06	1				1	2				1	6	
	点数											5116.6
	重量(g)	1.3			1.7	17.0	903.0		35.7			
J-07	13			1	1	11	7		1		34	
	点数											1805.3
	重量(g)	15.3		2.8	20.1	568.0	4473.1		37.3			
(J-01)		1				1						2
	重量(g)		38.9				52.5					91.4
(J-04)	2				4	1						7
	点数											596.5
(J-05)	2.2				121.8	472.5						
	点数											8338.6
	重量(g)	9	1		3	3						16
	重量(g)	15.8	43.4		73.3	1672.8						
土坑					3				1		4	
	重量(g)					9143.0			763.4			9906.4
グリッド	47		3	34	19	1	2	2			108	
	点数											8338.6
	重量(g)	139.3		127.4	1332.8	5617.3	77.5	533.3	511.0			
合計	77	2	1	5	57	42	1	2	6	1	194	
	重量(g)	230.4	82.3	2.8	149.2	2325.5	29161.2	77.5	533.3	2616.5	36	35214.4

第 19 表 B 区石器組成表

遺構名	番号	器種	成・整形技法の特徴							時期	
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量 (cm)	⑥器形・文様等の特徴／備考			
J-2 住	1	深鉢	普通	チャート・砂礫 7.5YR6/6	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	直状口縁。外面は弧状の降帯で区画後、單節 RL 繩文を施文する。口縁部は無文。内面は横位のナデ。	加曾利 E III			
J-2 住	2	深鉢	普通	チャート・砂礫 褐色粒	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	波状口縁と想定される。外面は横位降帯で口縁部を区画後、單節 RL 繩文を施文する。口縁部には幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。	加曾利 E III			
J-2 住	3	深鉢	普通	チャート・砂礫 角閃石	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	外面は弧状の降帯を添付後、O段多条 RL 繩文を施文する。降帯脇には幅広の沈線を施す。内面は横位のナデ。	加曾利 E III			
J-2 住	4	深鉢	普通	砂礫・角 閃石	黄灰褐 10YR6/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	外面は弧状の降帯を添付後、單節 RL 繩文を施文する。降帯脇には幅広沈線を施す。内面は横位のナデ。	加曾利 E III		
J-2 住	5	深鉢	普通	チャート・砂礫 褐色粒	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	外面は底位の条線を施文後、蛇行する沈線を施す。内面は底位のナデ。	中期後葉			
J-2 住	6	深鉢	普通	鐵雜・チ ヤード 角閃石	にぶい黄 10YR6/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	平緩口縁を呈していたと想定される。外面は單節 RL LR 繩文を羽状に施文する。内面は横位のナデ。	中期後葉		
J-3 住	1	深鉢	普通	砂礫・褐 色粒	黄灰 2.5Y6/1	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	波状口縁と想定される。外面は單節 RL 繩文を施文。内面は横位のナデ。	中期後葉		
J-3 住	2	深鉢	普通	砂礫・角 閃石	淡黄 2.5Y8/3	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	外面は、單節 RL 繩文施文後、2本1組の底位の沈線を施す。降帯間は磨り消し。内面は横位のナデ。	加曾利 E III		
J-6 住	1	深鉢	普通	砂礫・角 閃石	灰褐 7.5YR6/2	口縁部～ 底 2/3 残存	口径：— 器高：— 底径：—	底部は平底。外面は胴部上位は U 字状・渦巻き状、下位は逆 U 字状・渦巻き状の降帯を添付し、單節 RL 繩文を施文する。降帯脇には幅広沈線を施す。降帯間に磨り消し。内面は横位の磨きを施す。	加曾利 E III ～IV		
J-6 住	2	深鉢	普通	チャート・角 閃石・褐色 色粒	にぶい黄相 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	平緩口縁。外面は胴部上位は單節 RL 繩文を施文。中位～下位は楕円。内面は横位のナデ。	中期後葉		
J-6 住	3	深鉢	普通	砂礫・角 閃石・褐 色粒	にぶい黄相 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	波状口縁を呈していたと想定される。外面は横位降帯で口縁部と胴部を区画する。胴部は單節 LR 繩文を施文する。降帯脇には幅広沈線を施す。口縁部は無文。内面は横位のナデ。	中期後葉		
J-6 住	4	深鉢	普通	砂礫・角 閃石・褐 色粒	にぶい黄相 10YR7/4	口縁部～ 底 2/3 残存	口径：— 器高：— 底径：—	底部は平底。外面は單節 LR 繩文施文後、胴部上位に U 字状、下位に逆 U 字状に沈線を区画する。内面は横位のナデ。	中期後葉		
J-6 住	5	深鉢	普通	チャート・砂 礫・角 閃石	褐 7.5YR7/6	口縁部～ 胴部片 1/2 残存	口径：— 器高：— 底径：—	外面は單節 RL 繩文施文後、逆 U 字状の沈線を施す。沈線間に磨り消し。内面は上位は横位のナデ、下位は底位の磨きを施す。	加曾利 E III ～IV		
J-6 住	6	深鉢	普通	チャート・砂 礫・角 閃石・褐 色粒	にぶい黄相 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	外面は2本1組の底位降帯を添付後、單節 RL 繩文を施文する。降帯脇には幅広沈線を施す。降帯間に磨り消し。内面は横位のナデ。	加曾利 E III		
J-7 住	1	深鉢	普通	チャート・砂 礫・角 閃石・褐 色粒	褐 7.5YR7/6	口縁部～ 胴部片 1/3 残存	口径：(40.5) 器高： <27.1> 底径： —	4単位の波状口縁を呈していたと想定される。外面は渦巻き状の降帯添付後、單節 RL 繩文を施文する。降帯脇には幅広沈線を施す。また、波頭部に平行して添付された降帯上には單節 RL 繩文が施文される。内面は横位のナデ。外面には赤彩の痕跡が現る。	加曾利 E III ～IV		
J-7 住	2	深鉢	普通	砂礫・角 閃石	にぶい黄相 10YR7/3	口縁部～ 底 2/3 残存	口径：— 器高： <15.0> 底径： —	底部は高台状を呈していたと想定される。外面は底位の降帯添付後、單節 RL 繩文を施文する。降帯脇には幅広沈線を施す。胴部下位は無文。内面は胴部上位は横位の磨き、下位は底位の磨きを施す。	中期後葉		
J-7 住	3	深鉢	普通	チャート・砂 礫・角 閃石・褐 色粒	にぶい黄相 10YR7/3	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高： <15.8> 底径： —	外面は底位の各種を施す。内面は上位は横位のナデ、下位は底位のナデを施す。	中期後葉		
U-I 埋設	1	鉢	普通	チャート・砂 礫・角 閃石	にぶい黄相 10YR7/4	口縁部～ 底 2/3 残存	口径：— 器高： <27.3> 底径： —	2つの把手が胴部上位に付く。外面は横位降帯を胴部上位に添付し区画する。胴部は單節 RL 繩文施文後、2本1組の逆 U 字状・底位沈線を施す。口縁部は残存部では無文。内面は横位のナデ。	加曾利 E III		

第 20 表 B 区 繩文土器観察表 (1)

造構名	番号	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量 (cm)	⑥憑形・文様等の特徴・備考	
造構外 (J-1 住)	1	深鉢	普通	チャート・砂礫・角 砂鑿・角 閃石	にふい黄褐 10YR7/3	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	波状口縁と想定される。外面は単節 LR 繩文施文後、縦位の沈線を施す。内面は横位のナデ。	中期後葉
造構外 (J-5 住)	2	深鉢	普通	砂鑿・角 砂鑿・角 閃石	橙 7.5YR6/6	突起部残 存	口径：— 器高：— 底径：—	円柱状突起。外面下位に沈線。	中期後葉～ 後期？
造構外 (J-5 住)	3	深鉢	普通	砂鑿・角 砂鑿・角 閃石・褐色 色粒	浅黄褐 10YR8/3	突起部 4/5 残存	口径：— 器高：— 底径：—	捻軸状突起。外面に S 字状に陰帯を添付し、上下の渦曲する中央に棒状突起による刺突を施す。下位の刺突は内面まで貫通する。	中期後葉～ 後期？
造構外 (J-5 住)	4	深鉢	普通	砂鑿・角 砂鑿・角 閃石・褐色 色粒	にふい黄褐 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	波状口縁。外面は表面凹面に合わせて、陰帯を添付した後、胴部に刺突を施文する。波長下から逆S字状に沈線を施し区画する。区画内は磨り消し。口縁部は無文。内面は横位のナデ。	中期後葉
造構外 (J-5 住)	5	深鉢	普通	チャート・砂礫・角 砂鑿・角 閃石	にふい黄褐 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	波状口縁と想定される。外面は、口縁部に陰帯を山形に添付し、胴部よりやや上に突出することにより小突起を有する形態を示す。胴部は連続する強張の条線を横位に施文する。陰帯には幅広の沈線を施す。内面は横位のナデ。	中期後葉
造構外 (J-5 住)	6	深鉢	普通	チャート・砂礫	橙 7.5YR6/6	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	平縁と想定される。外面は O段多条 LR 繩文施文後、2本1組の斜位の沈線を施す。沈線間及び、口縁部は磨り消しを施す。内面は横位の磨きを施す。	中期後葉～ 後期初頭
造構外 (J-5 住)	7	深鉢	普通	砂鑿・角 砂鑿・角 閃石・褐色 色粒	にふい黄褐 10YR7/3	口縁部～ 胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	平縁と想定される。外面は横位陰帯で口縁部を区画する。口縁部は無文。胴部は 2本 1組と想定される陰帯で区画し、区画内には磨り消しを施す。陰帯間に一部単節 LR 繩文が見られる。内面は横位のナデ。	中期後葉
造構外 (J-5 住)	8	深鉢	普通	砂鑿・角 砂鑿・角 閃石	にふい黄褐 10YR7/3	胴部片	口径：— 器高：— 底径：—	外面は単節 RL 繩文施文後、2本 1組の縦位の陰帯を施す。陰帯間は磨り消し。内面は横位のナデ。	中期後葉

第 21 表 B 区繩文土器観察表 (2)

3 人見坂ノ上遺跡の概要

人見坂ノ上遺跡では縄文時代住居址4棟、古墳時代住居址1棟、奈良時代住居址2棟、溝2条、土坑・ピットが検出されている。また、縄文時代の遺物包含層も確認されたが、その堆積は薄くまた古墳時代以降の遺構が検出されていたため、包含層は調査区東側を中心に掘り下げた。

(1) 縄文時代の遺構の概要

1. 住居址

縄文時代の住居址は4棟あり、そのうち2棟が柄鏡形敷石住居である。J-8号住は南東方向へ張り出し部を設け、住居全面に敷石を施す。ただし住居中央の敷石ははがされ、住居北隅に集積されていた。集積された敷石上には磨製石斧(54)が置かれており、住居の廃棄行為に関係するものと想定される。住居南西壁際の敷石には結晶片岩製の石皿(51)が用いられており、またその北側からは石棒(52)が床面より浮いた横位の状態で出土した。石棒が本来的に立てられていたか否かは判断できなかった。敷石住居の壁際周囲には、拳大の礫が浮いた状態で配されていた。柱穴は壁際をめぐるが、その多くは配石の除去後に検出された。埋設土器は2基あり、張り出し部との結合部および張り出し部先端出入り口部分で確認された。埋設土器はいずれも正位の状態で出土した。

J-11号住は張り出し部全面に敷石を、主体部には配石を施す。さらに、張り出し部の敷石は大形の安山岩で囲んでいる。柱穴は主体部をほぼ円形に囲んでいる。埋設土器は張り出し部先端の出入り口部分で確認された。

J-9号住は配石を施す住居址である。後世の擾乱によってその範囲は明瞭でないが、配石は住居西側に集中し、土器片も多く出土している。

J-12号住は住居やや北西寄りに石囲炉を設ける。炉の底面中央には棒状礫が直立する。住居東側には張り出し部が確認された。

2. 埋設土器

埋設土器は5基確認された。U-2号・U-3号埋設土器は逆位、U-5号・U-6号・U-7号埋設土器は正位の状態で出土している。

3. 土坑

当該期の土坑は住居址周辺で検出されており、大きく2種類に分けられる。一つは平面隅丸方形を呈し、その底面には炭化物が広がるもの(D-12号土坑・D-13号土坑・D-14号土坑・D-15号土坑・D-28号土坑)、もう一つは平面円形を呈し、底中央にピットを穿つものである(D-38号土坑・D-44号土坑)。後者の覆土中からは土器片が多量に出土しており、破碎したものを廃棄したと想定される。

（2）古墳時代・古代の遺構の概要

1. 古墳時代の住居址

古墳時代の住居址は1棟確認された。出土土器から前期初頭に帰属すると判断される。平面正方形で、炉を住居西側に設ける。明瞭な貯蔵穴は確認されなかったが、住居南東側に土坑が1基検出された。覆土中から木柱痕が確認されたが、床面においてその柱穴掘り込みは検出できなかった。

2. 古代の住居址

住居址は2棟確認された。いずれもM-2号溝の東側に位置する。H-51号住は平面正方形を呈し、住居北壁東寄りにカマドを設ける。カマドは住居の壁を掘り込むが、東脇には棚状施設が検出され、その上から小蝶が出土した。柱穴は四方に配されるが北側は深く、南側は浅い。覆土の堆積状況から短期間のうちに埋没したと推測される。

H-53号住は平面横長の長方形を呈する。カマドは住居北側中央に設ける。竪穴内で柱穴は確認されなかったが、竪穴外の南側で確認されたピットは本住居址に近接し、かつ重複しないことから本住居址に伴う可能性もある。住居の南東隅には安山岩の玉石が散在していた。掘り方からは住居中央西側で床下土坑が検出された。

3. 溝

溝は2条検出された。いずれも覆土の堆積状況やその配置などから古代以降のものと判断される。

M-1号溝はほぼ東西に走り、わずかに蛇行する箇所も認められる。これは横野台地上で確認されている牧闘連とされる遺構と同一のものと考えられる。溝の覆土はレンズ状に堆積し、上層にはAs-B軽石が確認された。断面形状をみると上方から椀形に掘り込まれ、そこから垂直もしくは急角度に掘り下げられ、底面はさらに一段落ちている。

溝の壁面からはピットが検出されたが、特に北側で多く認められた。また土橋が1基確認され、覆土堆積途中（溝覆土第5層上）に設けられたものと判断された。上下2面の硬化面が確認され、その幅は細い所で約1mを計測する。上層の硬化面（5層）には3層・7層が土橋盛土として施され、両脇には溝状の掘り込みが認められた（4層）。

M-2号溝はわずかに蛇行しながら南北に走る溝である。断面は逆台形状を呈する。流水の痕跡はなく、その配置から古代の住居址であるH-51号住・H-53号住の集落を区画した可能性が想定される。覆土下層は自然埋没であるが、最上層は人為的な埋土が想定される。

（3）遺物の概要

1. 繩文土器

本遺跡では加曾利EⅢ～EⅣ式期の土器が出土している。

J-8住1は4単位の波状口縁と想定される深鉢で、底部は平底である。外面は波頂部に平行した隆帯を添付し、口縁部と胴部を区画する。胴部には単節LR繩文施文後、U字状・逆U字状・鋸歯状の沈線を施し区画する。区画外には磨り消しを施し、口縁部を区画する隆帯脇には幅広沈線を施文する。2

は底部が平底を呈する深鉢である。2本1組の縦位隆帯を添付後、単節RL繩文を施文する。隆帯間は磨り消しで隆帯脇には幅広沈線を施す。

J-9住1は底部が平底を呈する深鉢である。外面は単節LR繩文施文後、2本1組の縦位沈線間にU字状・逆U字状を1対とした沈線を2組施文する。2本1組の縦位沈線間及び逆U字状沈線による区画内に磨り消しを施す。2・3は同一個体の可能性が考えられる。いずれも単節RL繩文を施し、底部は平底を呈する。J-11住1は平底を呈する深鉢で単節LR繩文が施文される。

J-12住1・6は4単位波状口縁、2が4単位の小波状口縁、5が2単位波状口縁と想定される深鉢である。1は隆帯を渦巻き状に添付後、単節RL繩文を施し、隆帯脇に幅広沈線を配す。2は口縁部に、連続する楕円形の隆帯を横位に添付し区画する。胸部には縦位の条線、隆帯脇には幅広の沈線を施文し、区画内に磨り消しを施す。5は逆U字状の隆帯を添付後、単節LR繩文を施文する。隆帯脇には幅広沈線、口縁部には横位の幅広沈線を施す。6は渦巻き状の隆帯添付後、単節RL繩文を施文する。口縁部直下には波頂部に合わせて横位隆帯が添付される。胸部の隆帯脇には幅広沈線を施す。3は平底を呈する深鉢で頸部に横位隆帯、胸部に2本1組の隆帯をJ字状、U字状に添付する。隆帯脇には幅広沈線を施し、他は縦位の磨きを施す。4は平縁口縁で底部は平底を呈する。胸部には単節RL繩文が施文される。7・8は深鉢の胸部破片で7は条線、8は単節RL繩文が施文される。

D-17号土坑1は平縁口縁の深鉢である。横位・縦位隆帯を添付後、単節RL繩文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。D-38号土坑1は4単位波状口縁の深鉢で単節LR繩文施文後、棒状工具を用いた細い沈線で胸部上位は渦巻き状・Y字状、胸部下位は逆U字状に区画する。区画外には磨り消しが施される。2は上げ底状の底部を呈する深鉢で単節RL繩文施文後、逆V字状の沈線で区画する。区画外及び胸部下位には磨り消しが施される。

埋設土器は6基検出されており、U-2号・U-4号・U-7号は平縁口縁、U-6号は4単位波状口縁、U-3号は平縁口縁で胸部上位に1対の把手が付く。

U-2号は口縁部に渦巻き状及び横位隆帯を添付後、単節RL繩文を施文する。口唇部直下及び隆帯脇に幅広沈線を施し、渦巻き状の文様間は楕円形に区画する。胸部は2本1組の幅広沈線を施文し、沈線間に磨り消しを施す。U-3号は横位隆帯をタガ状に廻らし、口縁部と胸部を区画する。横位隆帯脇には幅広沈線を施す。口縁部は幅広の横位沈線が1条施される。胸部は2本1組の縦位隆帯及び把手を添付後、単節RL繩文を施文する。隆帯脇には幅広沈線、把手直下には2本1組の縦位沈線を施し、沈線間に磨り消しを施す。

U-4号は口縁部に隆帯を添付し、単節RL繩文を施文する。口縁部は隆帯状に楕円形、両端部蘇手状の横位沈線を施し区画する。U-5号は平底を呈し、胸部は単節LR繩文施文後、2本1組の縦位沈線を施す。沈線間及び胸部下位を磨り消した後、端部蘇手状の沈線を上下に施文する。

U-6号は4単位波状口縁を呈する深鉢である。単節RL繩文施文後、幅広沈線により横位・楕円形に区画する。胸部は2本1組の逆U字状の沈線を、沈線間に磨り消しを施す。U-7号は平縁口縁の深鉢で底部は平底を呈する。単節LR繩文施文後、口縁部に横位隆帯、胸部に2本1組の縦位沈線を施す。沈線による区画外及び口縁部は磨り消しを施す。

遺構外では1点図示した。平縁口縁の深鉢で単節RL繩文施文後逆U字状の沈線を施文し、沈線脇には幅広沈線を施す。

2. 石器

器種組成

住居址・土坑・遺物包含層・遺構外などから 345 点の石器が出土した。主な器種は A 類（石鏃・石錐・石匙・スクレイバー・リタッヂドフレイク・剥片・石核・原石）、B 類（打製石斧・スクレイバー・リタッヂドフレイク・剥片・石核）、C 1 類（磨石・凹石・石皿・球石）、C 2 類（敲石・砥石・台石）、D 類（石棒・棒状礫・多孔石）、E 類（磨製石斧）である。

遺構から出土した石器を概観すると、J-8・11・12 号住居址では A・B 類の石鏃・打製石斧・スクレイバーなどが少なく、C 1・C 2・D・E 類などが安定的に認められる。土坑では A～E 類の各器種が認められ、B 類の剥片や C 2 類の敲石が比較的多く出土している。

遺物包含層では A・B 類が約 8 割を占め、A 類は石鏃や剥片、B 類では打製石斧や剥片が主体である。石材組成

石材は黒曜石・チャート・硬質頁岩・黒色安山岩・頁岩・安山岩・砂岩・結晶片岩・緑色岩類・石英が使用される。A 類における黒曜石の占有率は約 9 割と圧倒的に多く、黒色安山岩やチャートなどは在地系の素材であるにもかかわらず希少である。B 類の剥片石器には頁岩や安山岩が認められ、特に頁岩が多用される。C 1・C 2 類には安山岩・砂岩・緑色岩類などが使用され、安山岩が主体である。D・E 類には結晶片岩・緑色岩類などが多用される。

石器各説

石鏃（1～9） 15 点出土した。I 形態（凹基無茎）を主体とし、平基有茎が少量認められる。基部周辺が欠損する 3・8 の形態は不明である。素材は小型剥片を使用しており、押圧剥離による丁寧な調整が施される。5 の基部周辺には装着痕と思われる磨耗痕が認められる。石材は黒曜石が主体であり、チャート・黒色安山岩は僅少である。

石錐（10・11） 4 点出土した。いずれも住居址からで、錐部のみの I a 形態、つまみを有する II b 形態が認められる。10 は極小剥片に丁寧な押圧剥離調整が施される。錐部の断面形態は菱形を呈する。11 は分割した小型剥片の縁辺にやや粗雑な押圧剥離調整が施される。2 点の先端部は使用により磨滅している。石材は黒曜石・頁岩である。

リタッヂドフレイク A 類（12） 15 点出土した。小型剥片の縁辺に微細剥離痕が部分的に認められる。小型石器の素材である可能性が考えられる。石材は黒曜石である。

剥片 A 類（15・2～4） 62 点出土した。いずれも極小であり石器素材とは考えにくい。図示した 3 点は同じ住居址から出土しており、石器製作に伴う調整剥片の可能性が考えられる。石材は黒曜石である。石核 A 類（13～15・1・16～19） 11 点出土した。自然面や風化面を有する小型品が主体である。連続して剥片剥離をしているものは少ない。石材は黒曜石である。

打製石斧（20～35） 39 点出土した。II 形態（短矩形）を主体とする。III 形態（分銅形）や欠損により形態が不明瞭なものが少量認められる。素材には片面に自然面を残す割礫が多用される傾向がみられ、スクレイバー B 類の素材と類似性が認められる。調整方法を見ると、直接打撃によって両側縁を両面加工しているが左右対称に整形するものは少ない。使用による痕跡は刃部や基部に磨耗痕が認められるものが多く、特に 25・27・35 の刃部周辺は顕著に磨耗している。石材は頁岩・安山岩が主体であり、砂岩は僅少である。

スクレイバー B 類（36～49） 24 点出土した。II 形態が主体であり、僅かに I a・III 形態が認められる。

素材となる剥片には横長剥片を使用しているものが多く、縦長剥片や不定形なものは比較的少い傾向がある。また、剥片の多くは背面や側面に自然面を有しており、石器素材における選択性の存在を窺わせる。II形態の刃部調整は片面加工が施されている割合が高い。各形態の刃部には使用痕とみられる微細剥離痕や磨耗痕が認められる。さらに41・42の主要剥離面側の刃部には顕著な磨耗痕が認められており、磨耗範囲に刃部と平行する線状痕が僅かに観察される。石材は頁岩・安山岩・緑色岩類である。リタッチドフレイクB類(50)50点出土した。風化面をもつ縦長剥片を素材とし、両縁辺の先端部分に微細剥離痕が認められる。石材は頁岩である。

石核B類(48)4点出土した。中型の扁平礫を素材とし、両端部に剥離痕が認められる。剥離痕の位置や断面形態などから楔形石器の可能性も考えられるが、作出された剥片は石鎚など小型石器の素材にもなり得ることから、石核B類に分類している。石材は頁岩である。

凹石(53)10点出土した。IIa形態に分類される。表裏面中央の凹穴は、磨耗痕より古く稜は滑らかである。周縁には磨耗痕より新しい、小さな敲打痕や磨耗痕が顕著である。石材は安山岩である。

石皿(51)1点出土した。大型の素材を敲打や研磨により整形しており、縁部が明瞭である。石材は緑色岩類である。

石棒(52)7点出土した。大型の棒状礫を素材とし、敲打工程後の研磨加工により円筒状に整形するが、体部に小さな敲打痕が残存する。上下の先端部は研磨により平坦に加工されている。なお、住居址から出土した時点では体部の中央付近で欠損していた。石材は緑色岩類である。

磨製石斧(54～58)7点出土した。完形品は出土しておらず、基部が欠損しているものや未成品である。55を除き丁寧な研磨加工が施されている。刃部周辺には使用痕とみられる刃こぼれや磨耗痕が観察される。57は研磨調整後の敲打痕が多く認められることから、欠損後に敲石に転用された可能性が考えられる。石材は緑色岩類である。

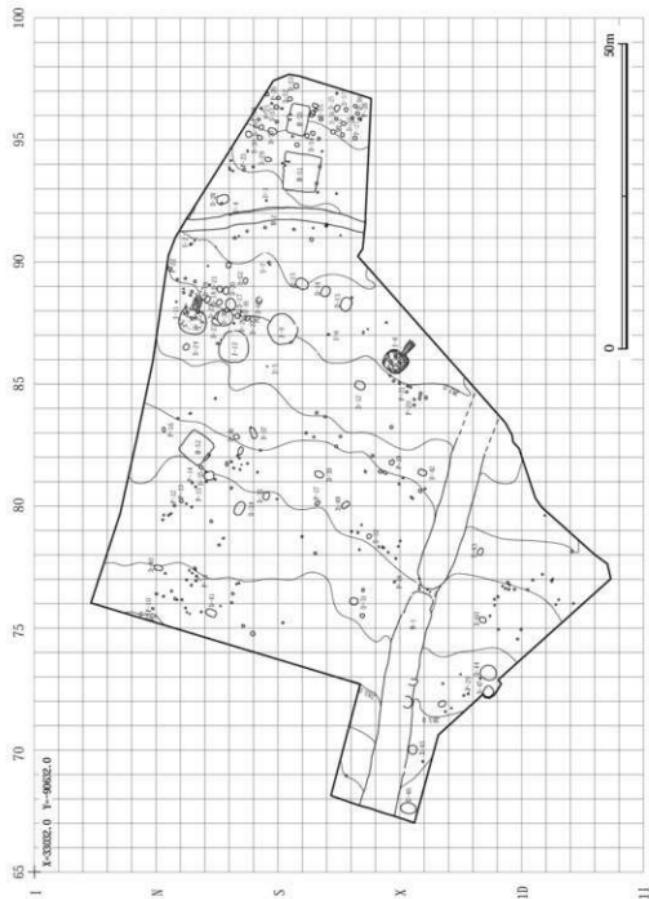
3. 古墳時代・古代の土器

H-52号住 瓢は櫛描波状文を施す弥生系土器(11)が出土している。小形器種は元屋敷系高杯が主体をなしている。出土した土器群は古墳時代前期初頭に位置づけられる。

H-51号住 出土土器量は少ないが7世紀後半段階に位置づけられる土器群である。H-53号住も同様の時期に帰属するか。

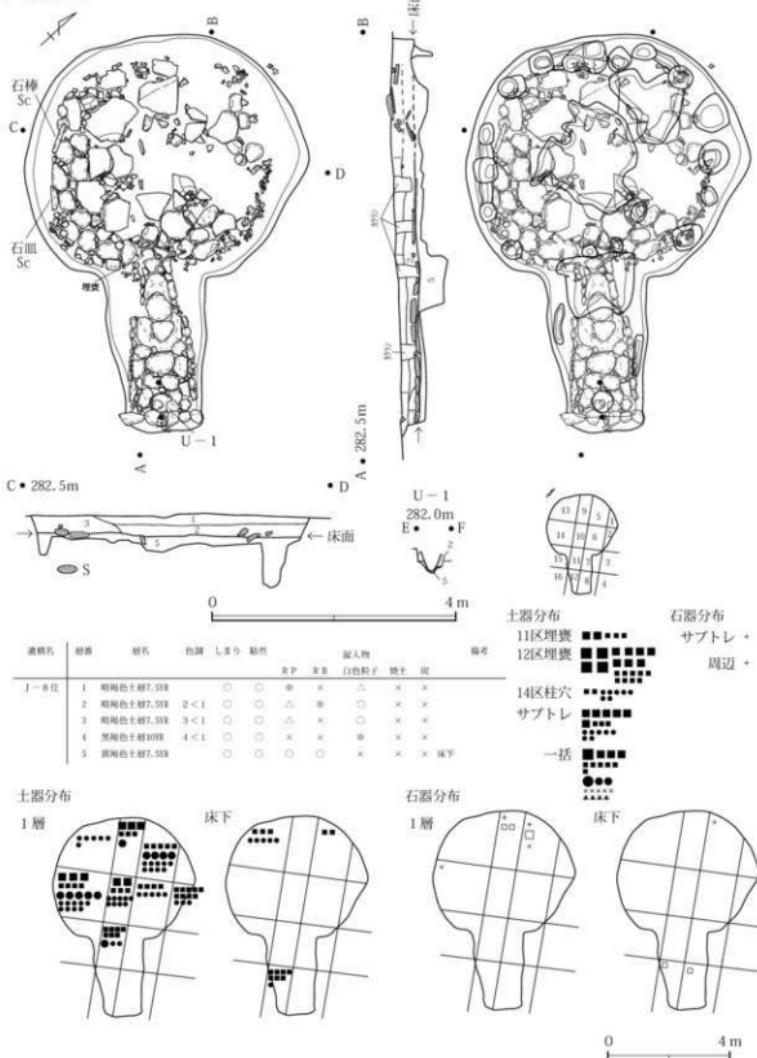
M-2号溝出土土器はいずれも覆土中より出土している。8世紀前半段階のものが主体である。

(4) 遺構・遺物の実測図



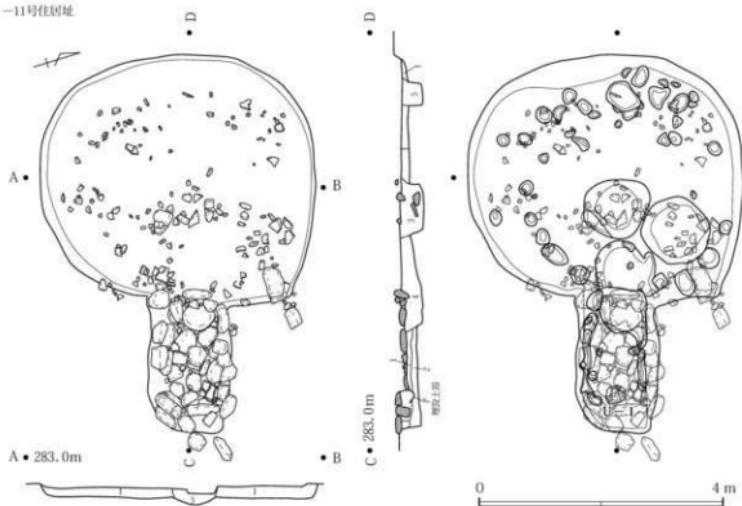
第76図 人見坂ノ上遺跡遺構配置図

J-8号住居址

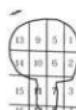


第77図 J-8号住居址実測図

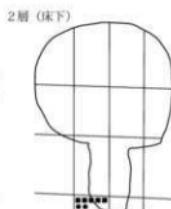
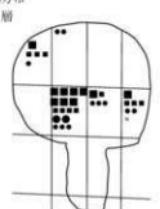
J-11号住居址



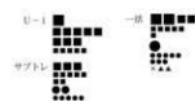
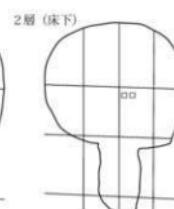
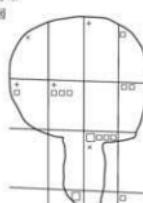
遺構名	組番	層名	色調	しまり	粘性	器人物			備考
						赤P	白P	白色粒子	
<u>J-11住居下</u>									
1		黒褐色土層	10TR	○	●	●	●	△	× ×
2		暗褐色土層	2>1	○	○	△	○	●	×
3		黒褐色土層	3>1	○	○	△	●	△	鉢形方か
4		黒褐色土層	4>3	○	○	●	×	△	床下振り込み
5		黒褐色土層	5<1	○	○	●	●	△	× × 杜穴



土器分布

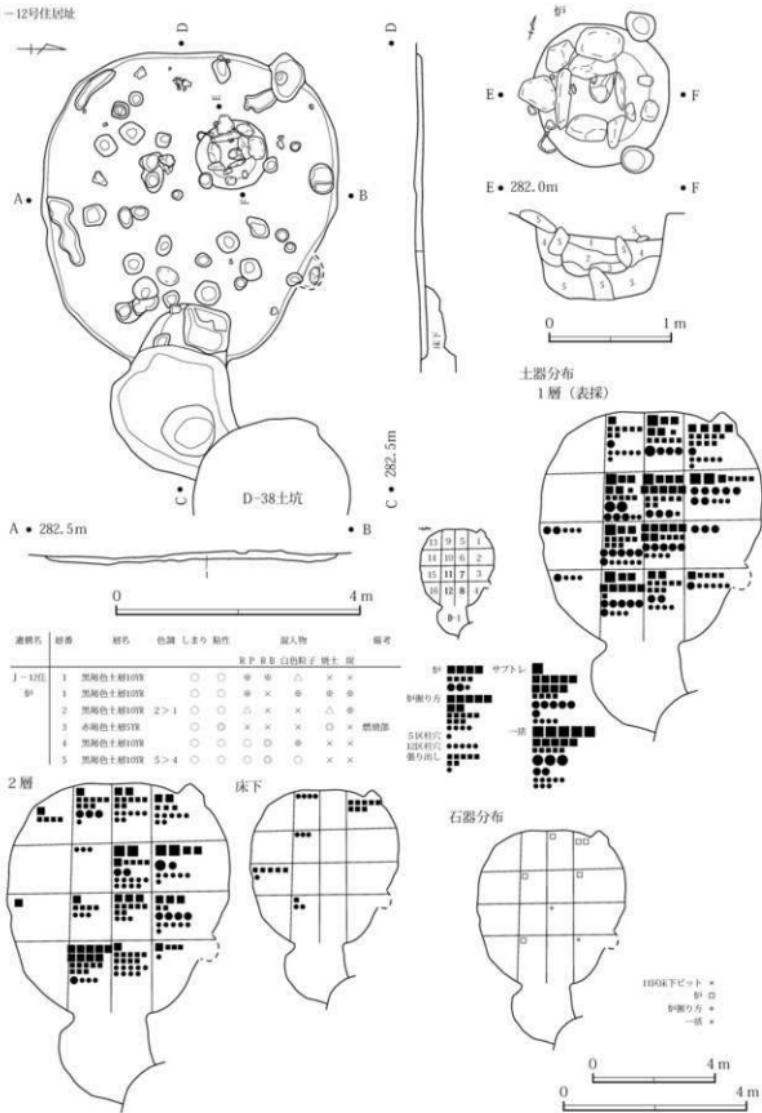


石器分布

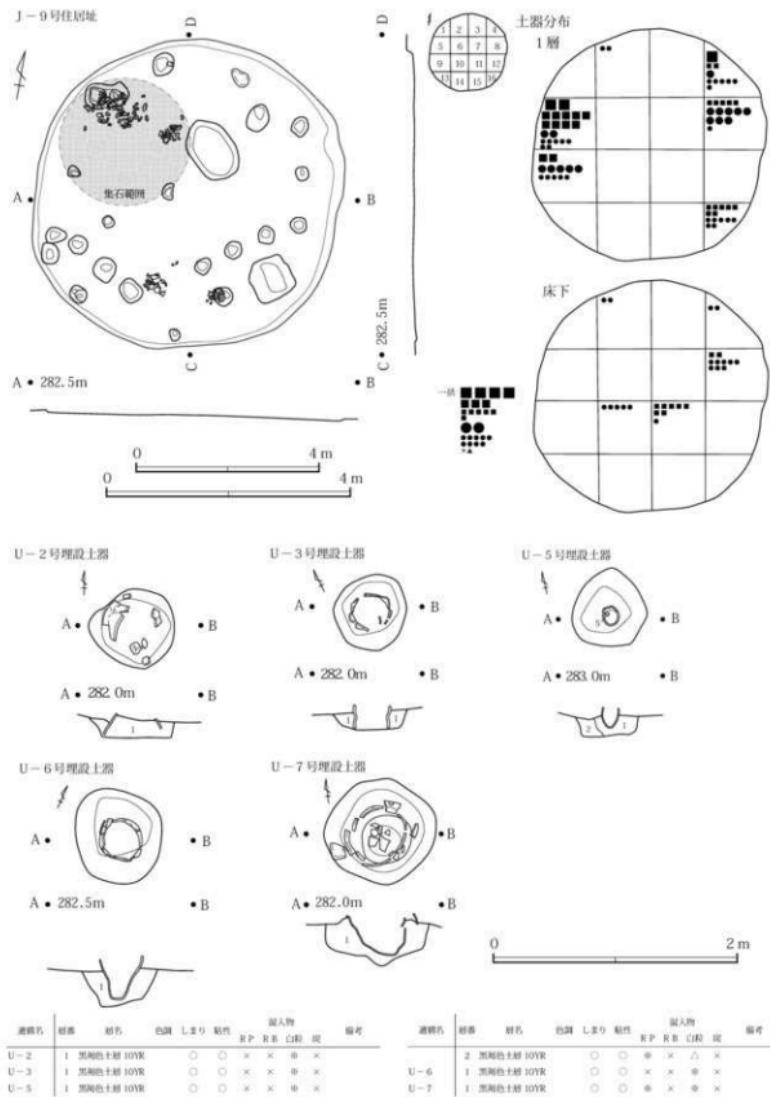


第78図 J-11号住居址実測図

J-12号住居址

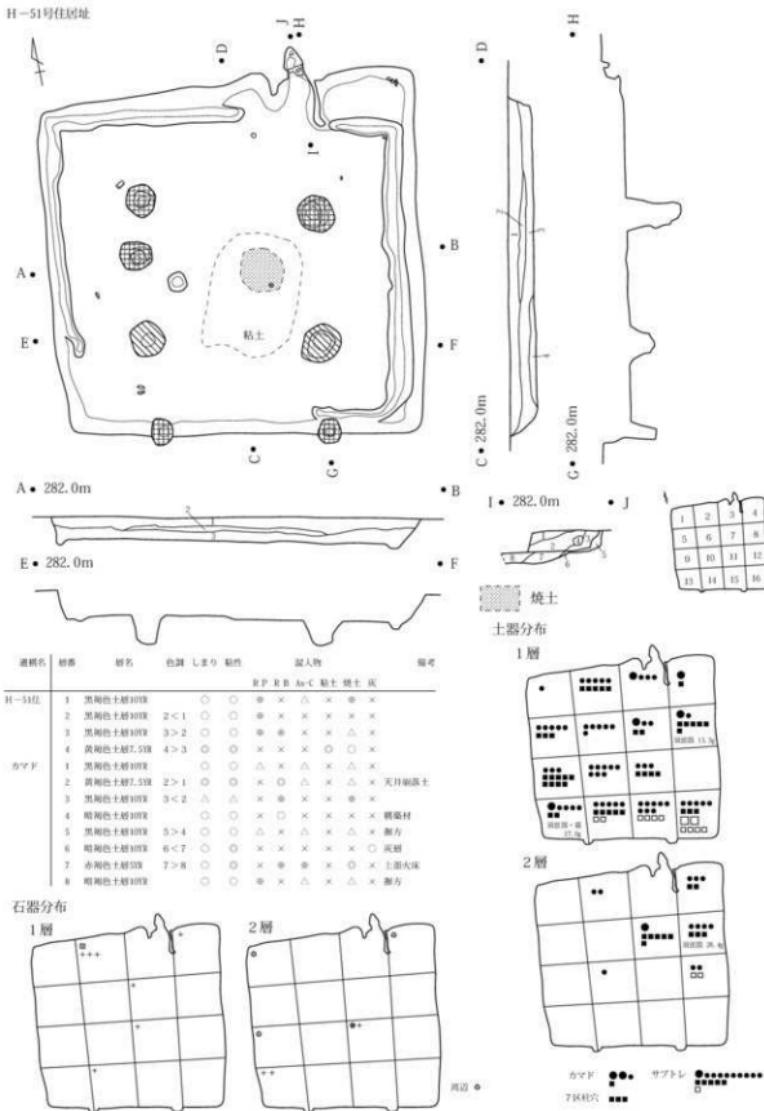


第79図 J-12号住居址実測図



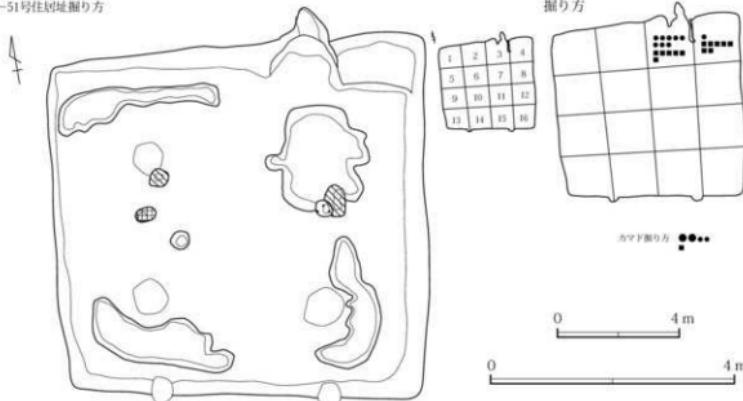
第 80 図 J-9号住居址・埋設土器実測図

H-51号住居址

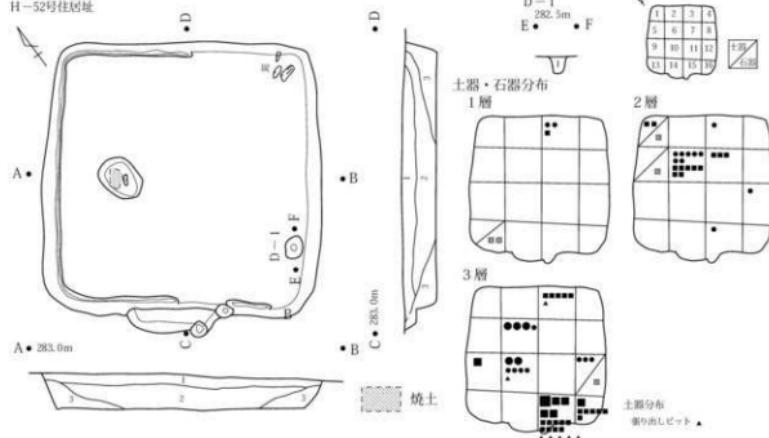


第81図 H-51号住居址(1)実測図

H-51号住居址掘り方

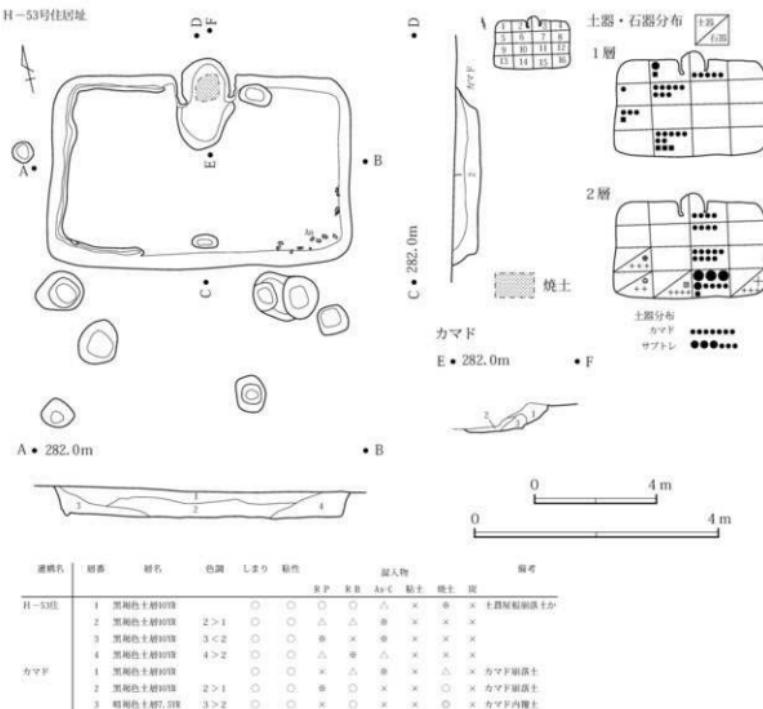


H-52号住居址

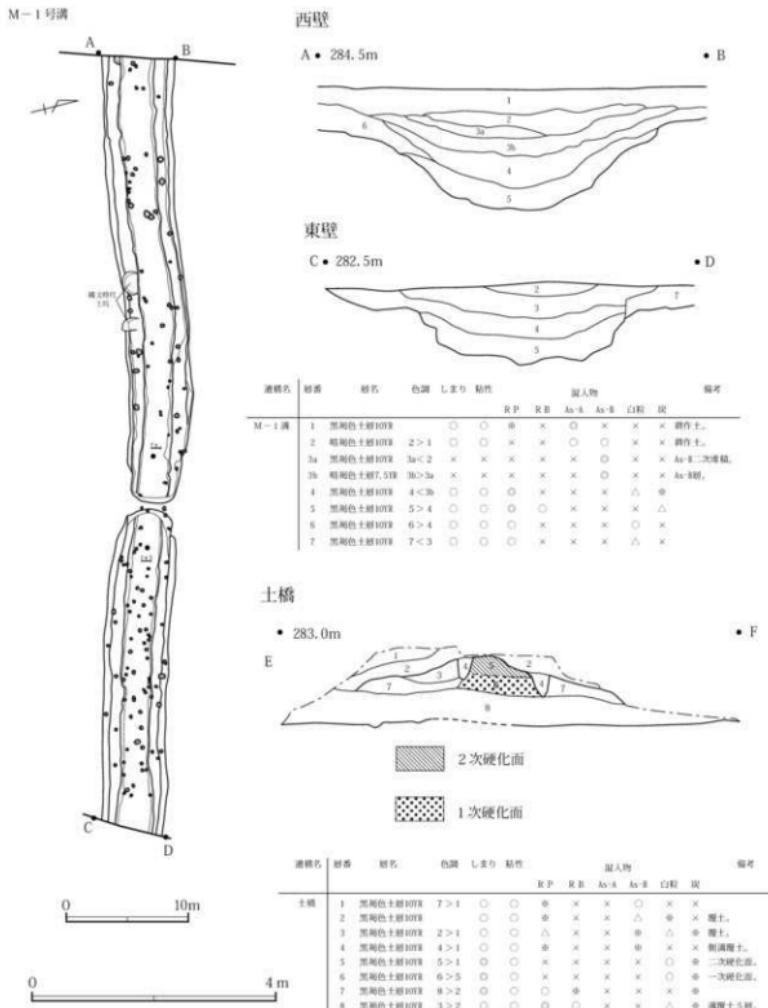


遺構名	剖面	縦名	色調	しまり	粘性	層人物				参考
						R P	R B	Ic C	粘土	
H-52住	1	黒褐色土層10cm	○	○	×	×	△	×	×	
	2	黒褐色土層10cm	2>1	○	○	B	×	○	×	
	3	暗褐色土層5cm	3>2	○	○	B	○	×	×	φ
D-1	1	黒褐色土層10cm	○	○	△	B	×	×	×	

第82図 H-51号住居址(2)・H-52号住居址実測図

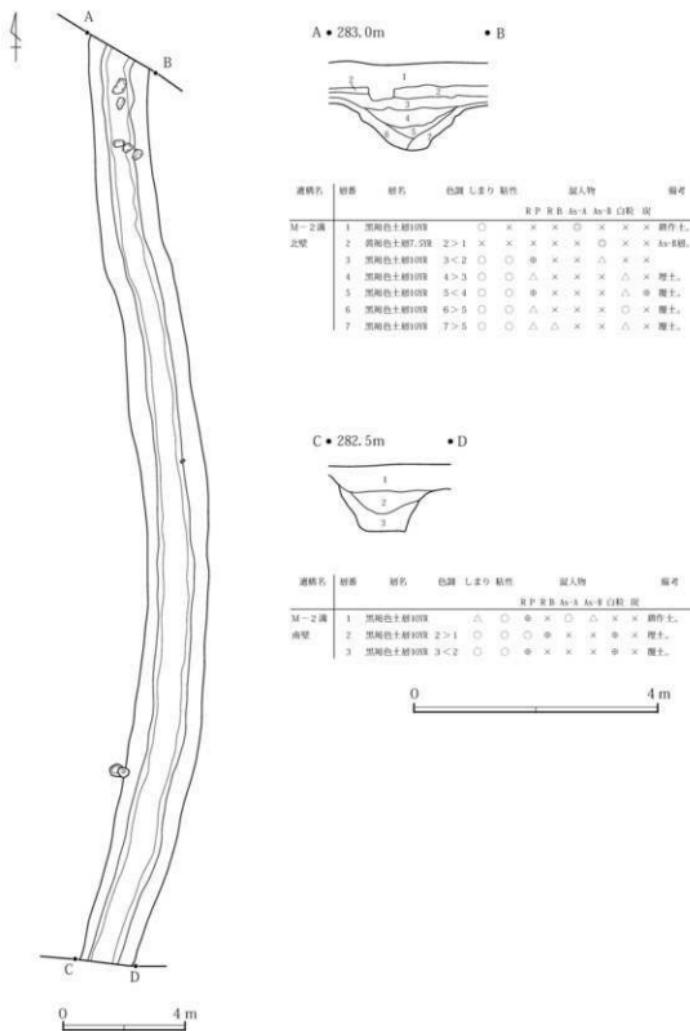


第 83 図 H-53 号住居址実測図

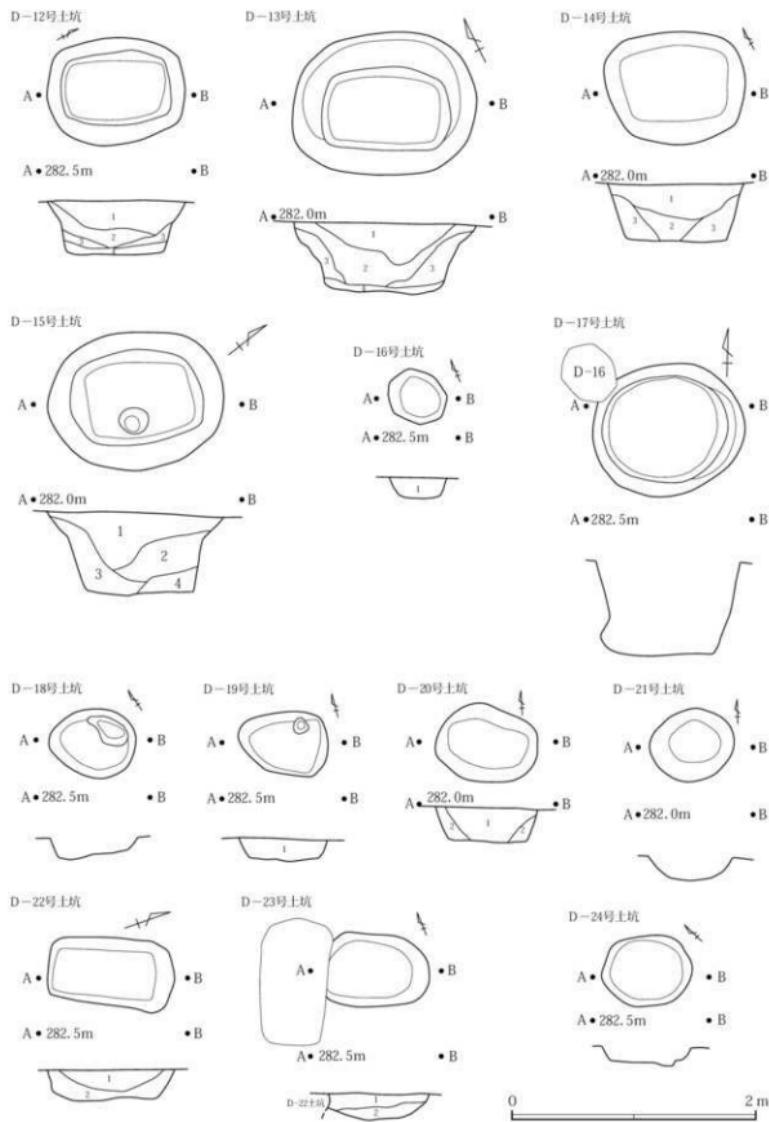


第84図 M-1号溝実測図

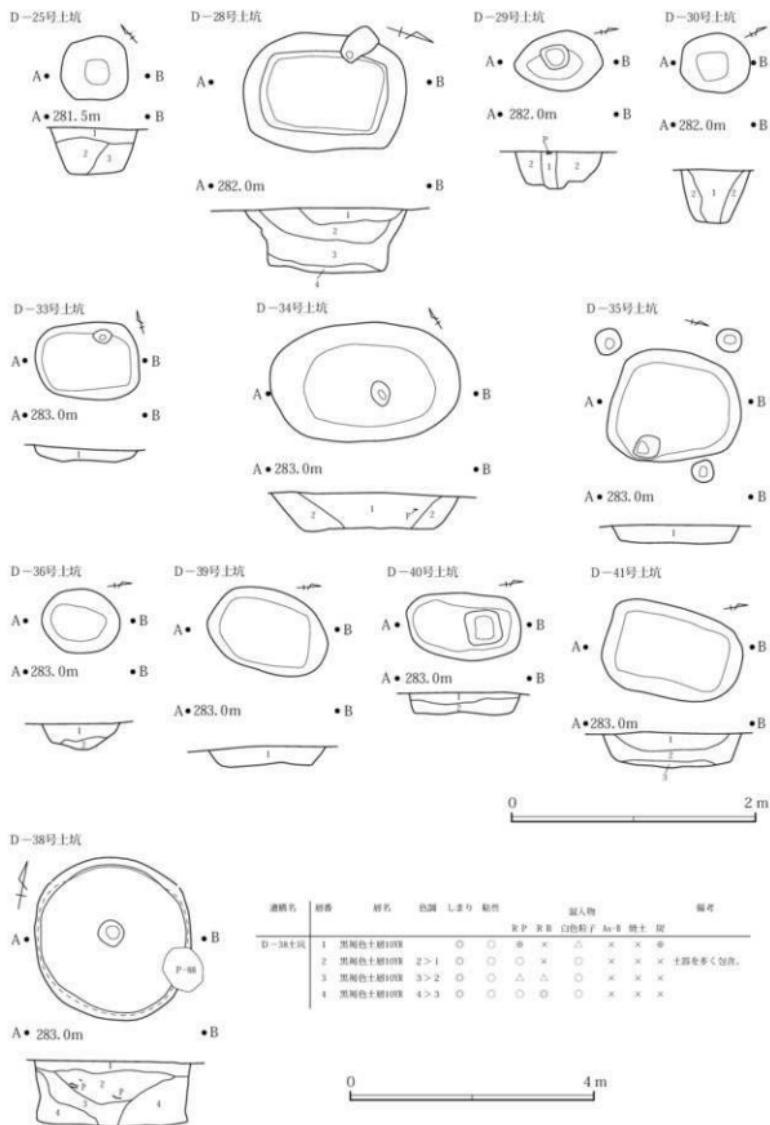
M-2号溝



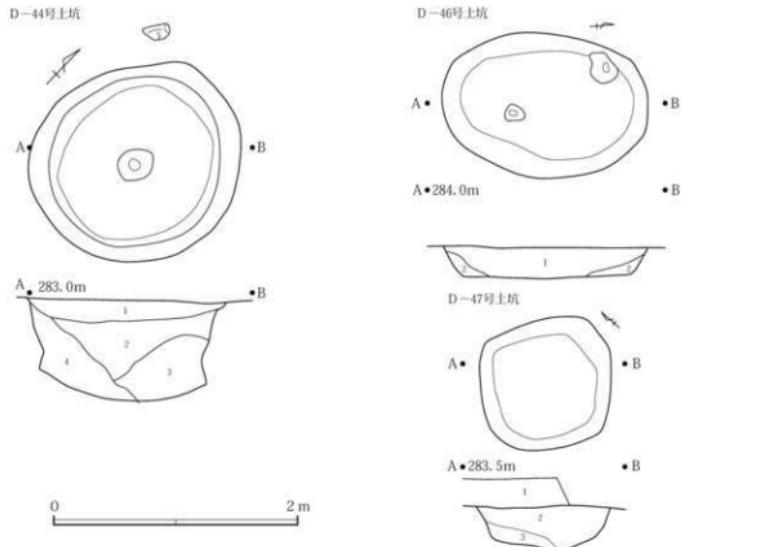
第85図 M-2号溝実測図



第 86 図 土坑実測図 (1)



第 87 図 土坑実測図 (2)



遺構名	層番	層名	色調	しまり	黏性	試人物		備考
						R	P	
D-12 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ × ○	○ × ○	●	×	As B 粘土 泥
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ × ○	○ × ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>2	○ ○	○ △ × ○	○ △ × ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR 4<3	○ ○	○ × ○	○ × ○	●	×	
D-13 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR 4<3	△ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-14 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-15 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-16 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR 4>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-17 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-19 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-20 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-22 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR 4>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-23 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-25 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 2>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-28 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 3<2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR 4<3	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-29 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-30 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-33 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-34 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-35 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-36 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-39 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-40 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-41 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 3>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	4	黒褐色土層 10YR 4<2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-46 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	自然埋没
	2	黒褐色土層 10YR 2>1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
D-47 土坑	1	黒褐色土層 10YR	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	2	黒褐色土層 10YR 2<1	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	
	3	黒褐色土層 10YR 3>2	○ ○	○ ○	○ ○	●	×	

第88図 土坑実測図(3)

縄文時代住居址観察表

住居名	平面形態	規模 (m)			主軸方向	施設			遺物組		時期	備考
		長軸	短軸	深さ		柱穴	位置	構造	土器	石器		
J-8住	柄円形	6.50	4.69	0.38	N-50°W	壁際	不明	不明	○		全面敷石	
J-9住	円形か	5.03	4.97	0.13	—	方形配列	中央東北	不明	○		一部敷石あり	
J-11住	柄円形	6.20	4.53	0.15	N-73°W	壁際	中央	不明	○		強出部全敷石	
J-12住	円形	6.93	4.82	0.16	W	不整配列	中央北西	石圓印	○		東側に張り出し	

凡例

遺物組 土器 ○: 1,000g 以上 ○: 1,000g 未満

石器 ○: 30点以上 ○: 30点未満

古墳時代住居址観察表

住居名	平面形態			規模 (m)			主軸方位	施設			遺物	時期	備考	
	面積	形態	長軸	短軸	深さ	前蔵穴	柱穴	印・カマド	壁溝	土師	石器			
H-51住	A	正方形	6.05	5.55	0.50	N-6°E	×	4	3区	○	△	※	カマド脇に壁状施設あり。	
H-52住	C	正方形	4.42	4.30	0.57	N-44°E	12区	×	10区	○	△		柱頭が上層より確認される。	
H-53住	C	長方形	4.84	2.93	0.44	N-14°E	×	×	2・3区	○	△	○	住居南の柱穴は本住居と関係するものか。	

凡例

平面形態 規模 長軸×短軸の値 A: 30 以上。B: 20 以上 30 未満。C: 20 未満

形態 長軸側での西方全周長と短軸側でのそれとの差、住居全周長の何 % になるかによって分類した。

長方形: 25% 以上、正方形: 25% 未満

壁溝 ○: 仕切り溝を伴うもの ○: 墓間溝のみ ×: 空溝なし

遺物 土器 ※: 0 ~ 1,000g。△: 1,001 ~ 5,000g。○: 5,001 ~ 10,000g。◎: 10,001g 以上。

石器・石製品 ※: 1 ~ 10 点。△: 11 ~ 20 点。○: 21 ~ 30 点。◎: 31 点以上。

土坑観察表 (1)

土坑名	附標 (下端)	規格 (下端)			深さ	平面形態	断面	遺物		時期	備考
		面積	長軸	短軸				土器	石器		
D-12	170	132	124	72	66	橢丸形	C2				縄文
D-13	228	172	138	80	85	橢丸形	C2				縄文
D-14	176	134	140	92	70	橢丸形	C2				縄文
D-15	218	172	136	90	112	橢丸形	C2				縄文
D-16	76	62	52	44	25	円形	C1	縄文 (加賀利E) 半 縄文※			
D-17	190	160	138	122	119	橢円形	C2				
D-18	116	86	84	60	31	円形	C1				根掘足
D-19	112	78	88	60	27	橢円形	C1				
D-20	124	94	98	54	44	橢円形	C1	弥生 土師溶岩			
D-21	114	90	64	50	27	円形	A				根掘足
D-22	160	86	124	58	40	橢丸形	C1	縄文 (加賀利E) ○ 縄文○ 土師溶岩			
D-23	116	-	94	-	26	橢円形	C1	縄文 (加賀利E) ○ 縄文○			
D-24	110	86	88	72	23	円形	C1	縄文 (加賀利E) ○ 縄文○			
D-25	106	78	74	30	60	橢円形	C2	縄文※ 土師溶岩△			HT-OI
D-26	94	80	82	56	20	円形	C1				根掘足
D-27	88	58	56	38	18	橢円形	C1				
D-28	200	140	142	88	77	橢丸形	C2	縄文 (加賀利E) △ 縄文○ 土師溶岩△ 筒型器△			
D-29	110	74	70	38	49	橢円形	C1	縄文 (加賀利E) △ 縄文○ 土師溶岩○ 筒型器△			柱瘤あり
D-30	88	74	40	34	68	円形	C2	縄文 (加賀利E) ○ 土師溶岩△ 筒型器△			根掘足
D-31	134	118	112	82	27	円形	C1				
D-32	82	70	60	56	24	円形	C1	縄文 (加賀利E) ○			自然陥落込み
D-33	130	94	112	70	14	橢丸形	B				

第 22 表 人見坂ノ上遺跡遺構観察表 (1)

土坑觀察表(2)

土坑名	規模(上端)		規模(下端)		深さ	平面形態	断面	遺物		時期	備考
	長軸	短軸	長軸	短軸				土器	石器		
D-34	234	146	162	100	55	橢円形	C1	縄文(加賀利E)○ 縄文△ 土師器等			
D-35	166	136	140	106	21	楕円形	B				
D-36	96	80	68	42	33	円形	A				
D-37	180	74	160	55	29	長楕円形	C1	縄文(加賀利E)△		粗面乱	
D-38	266	254	242	238	150	円形	D	縄文(加賀利E)○ 縄文△ 特殊 土師器等 須恵器等	縄文	底中央にビット	
D-39	150	100	110	78	18	橢円形	C1				
D-40	142	80	120	54	39	楕円形	C1				
D-41	120	112	136	76	43	楕円形	C1	縄文△	縄文		
D-42	138	88	110	60	29	椭円形	A			粗面乱	
D-43	120	80	98	56	30	楕円形	C1			自然落ち込み	
D-44	266	238	196	190	176	円形	C2	縄文(前期)△ 縄文(加賀利E)○ 縄文△ 土師器△	縄文	底中央にビット	
D-45	152	146	128	122	19	円形	C1			自然落ち込み	
D-46	254	176	212	130	40	椭円形	C1	縄文△			
D-47	176	158	128	124	40	円形	A	縄文△			
D-48	142	82	122	52	35	楕円形	C1	縄文(加賀利E)○		粗面乱	
D-49	88	70	50	46	57	円形	C2	土師器△		粗面乱	
D-50	146	104	116	84	20	楕円形	C1	土師器等		柱穴あり	
D-51	82	58	48	34	51	楕円形	C2			粗面乱	
D-52	76	72	20	18	62	円形	A	須恵器等		粗面乱	
D-53	84	74	60	52	34	円形	C1	縄文(加賀利E)△ 土師器等		粗面乱	
D-54	80	66	34	28	61	円形	柱穴状			H-53仕に幅狭△	
D-55	62	48	20	16	46	椭円形	柱穴状	縄文△		H-53仕に幅狭△	
D-56	48	48	26	24	58	円形	柱穴状	縄文(加賀利E)△		HT-01	
D-57	70	62	32	26	47	円形	柱穴状	縄文(加賀利E)△ 縄文△		HT-01	
D-58	74	60	58	40	24	楕円形	柱穴状	土師器△		HT-01	
M-59	62	52	36	28	38	円形	C1	土師器△ 須恵器等		HT-01	
M-60	116	90	98	68	12	円形	B	縄文△		粗面乱	
M-62	102	70	90	54	18	円形	C1			粗面乱	
M-63	102	90	84	66	32	円形	C1	土師器△ 須恵器△		粗面乱	

凡例

平面形態 A：底面が極形のもの B：底面は済溝するが浅いもの C：底面は平坦で壁が傾斜する逆台形のもの D：底面は平坦で壁が直立する箱形のもの

遺物 土器 △ : 0 ~ 1,000g, ▲ : 1,001 ~ 5,000g, ○ : 5,001 ~ 10,000g, ◎ : 10,001g以上

石器・石製品 ※ : 1 ~ 10点, △ : 11 ~ 20点, ○ : 21 ~ 30点, ◎ : 31点以上

溝窓京表

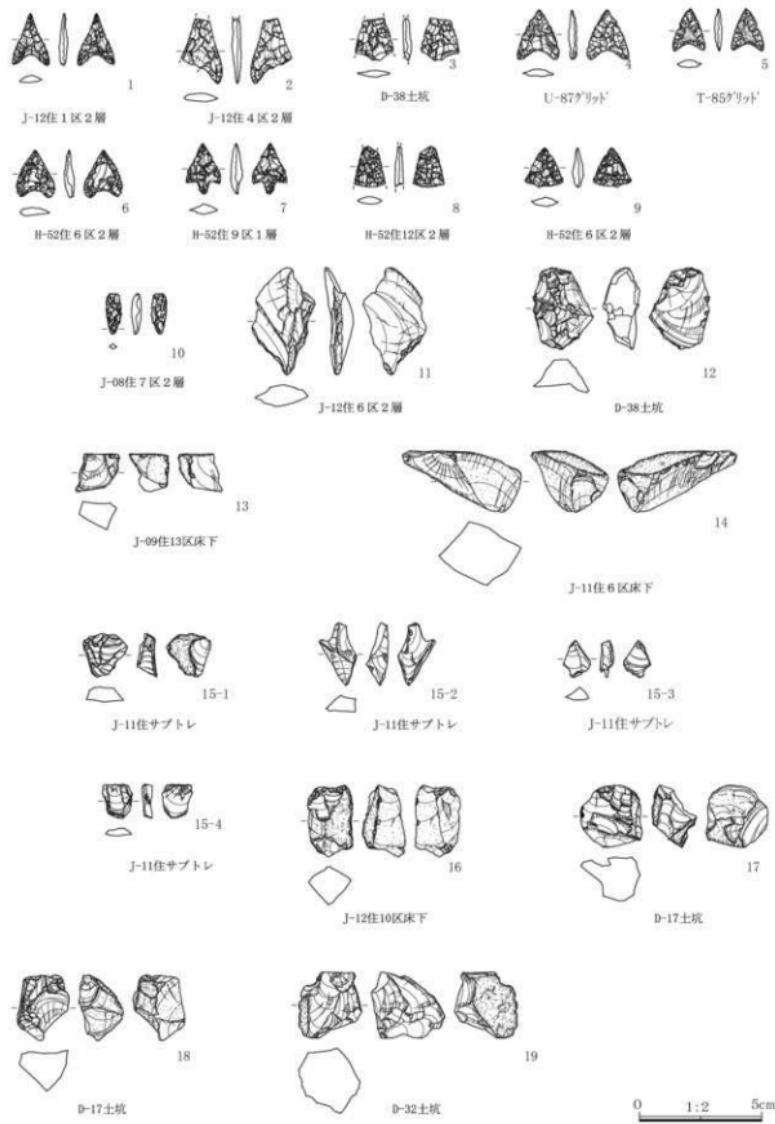
遺構名	断面形態	規模(m)			時期	遺物		備考
		全長 <残存>	幅	深さ		土器	石器	
M-1溝	台形	>7.00	5.0	1.4	古代	×		牧園溝
M-2溝	台形	<30.0	2.2	0.7	古代	△		区画溝

凡例

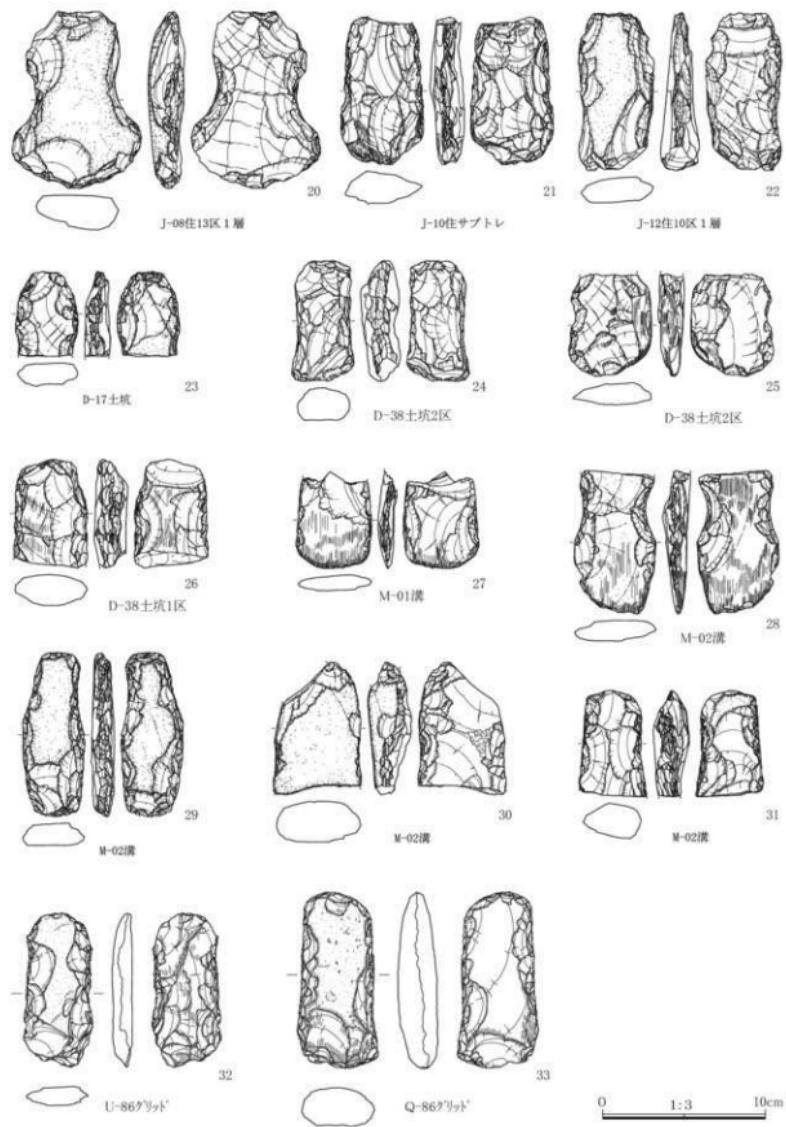
遺物 土器 × : 0g, ※ : 1 ~ 1,000g, △ : 1,001 ~ 5,000g, ○ : 5,001 ~ 10,000g, ◎ : 10,001g以上

石器・石製品 ※ : 1 ~ 10点, △ : 11 ~ 20点, ○ : 21 ~ 30点, ◎ : 31点以上

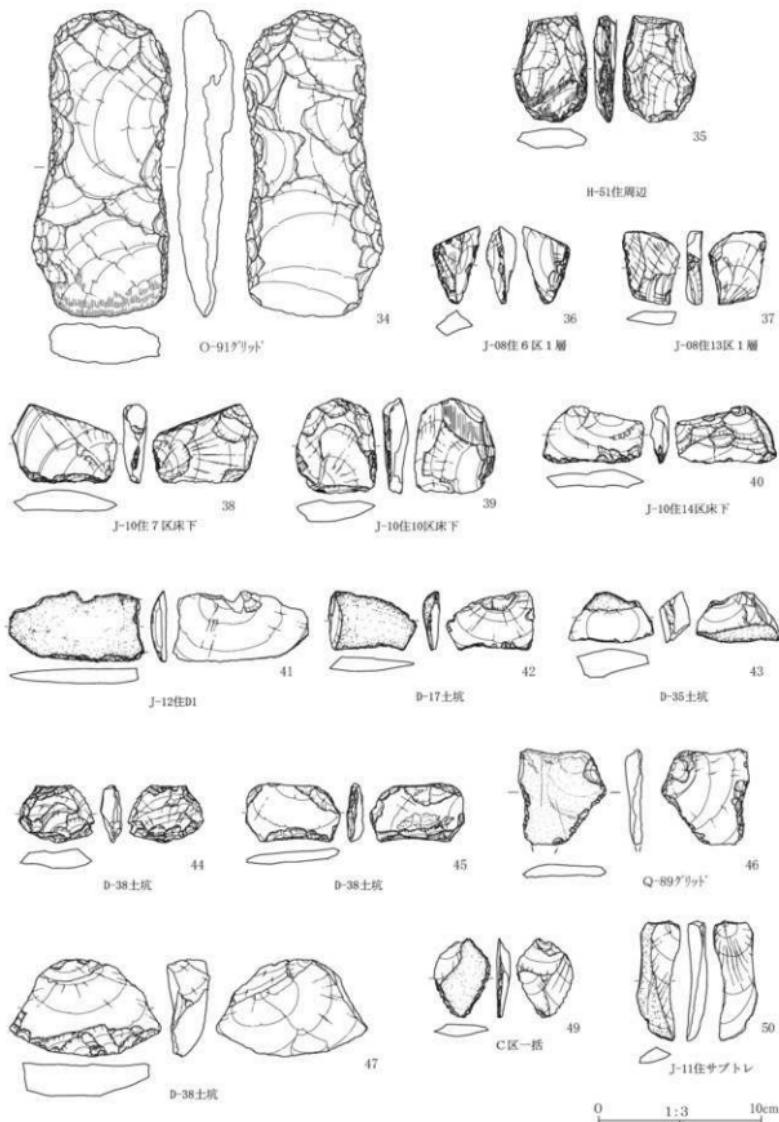
第23表 人見坂ノ上遺跡遺構觀察表(2)



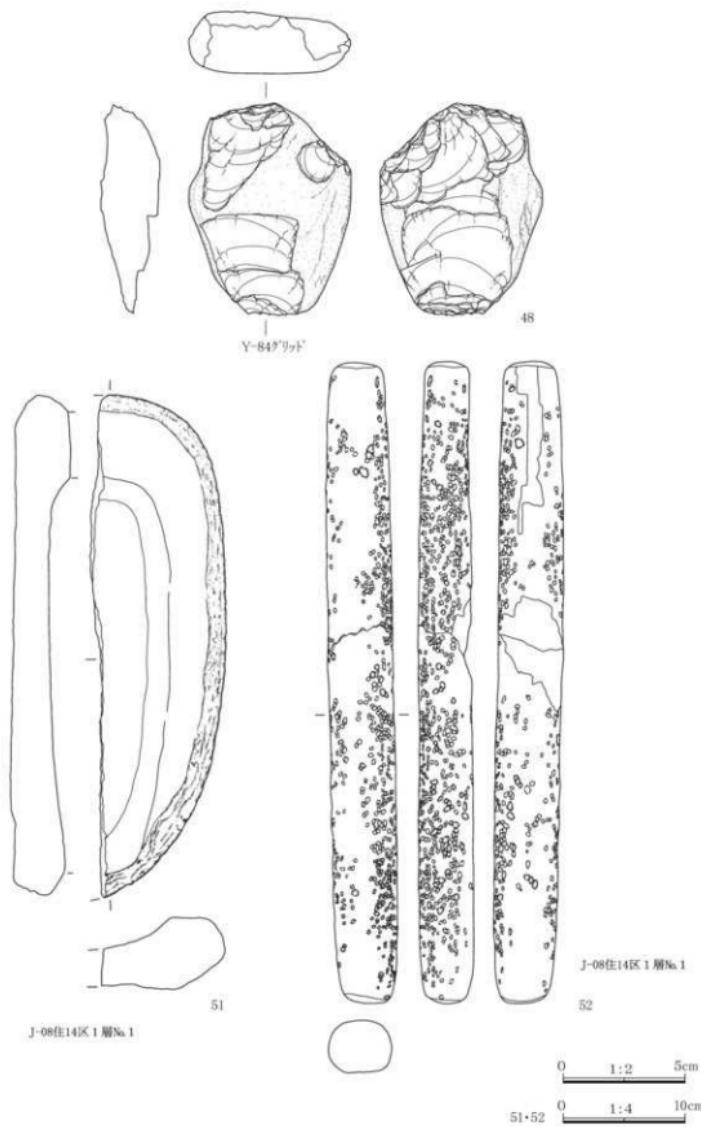
第89図 人見坂ノ上遺跡出土石器実測図(1)



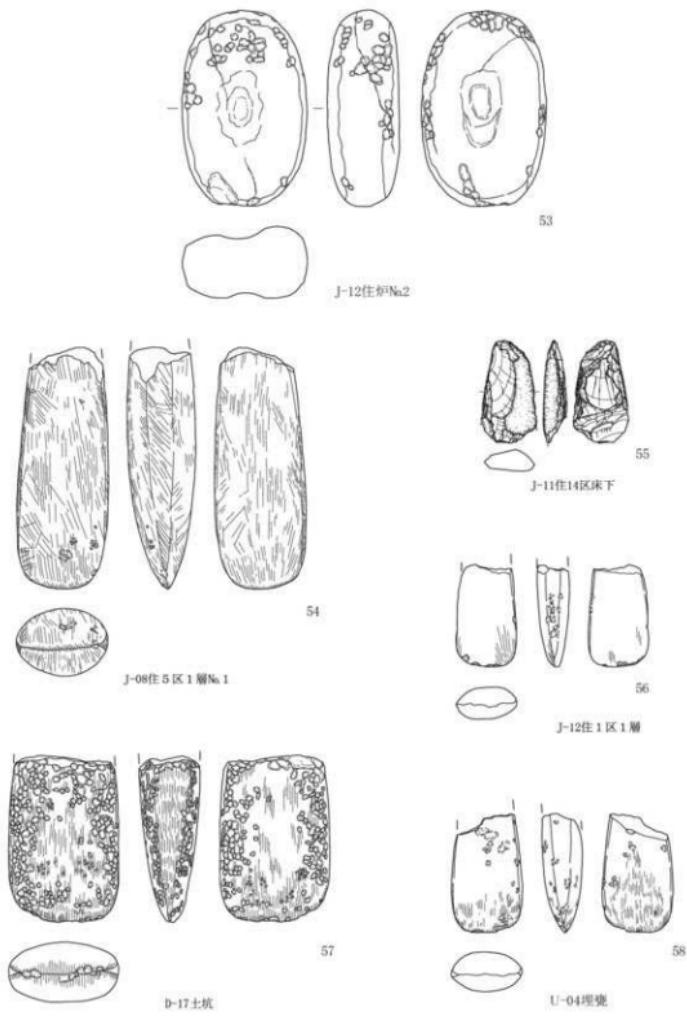
第90図 人見坂ノ上遺跡出土石器実測図（2）



第91図 人見坂ノ上遺跡出土石器実測図（3）



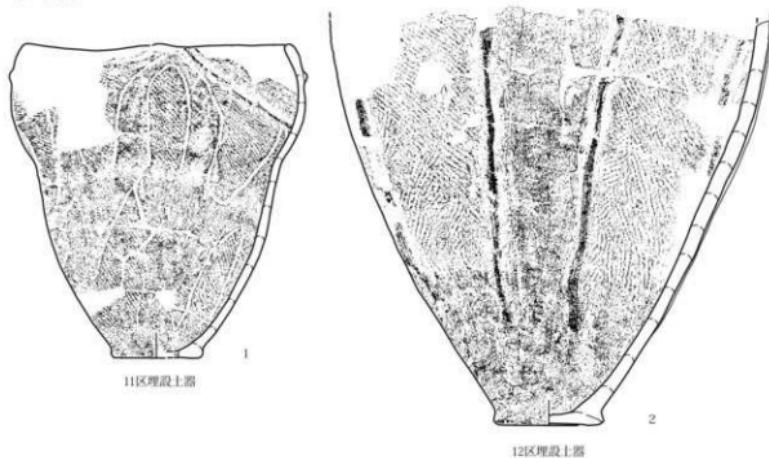
第92図 人見坂ノ上遺跡出土石器実測図(4)



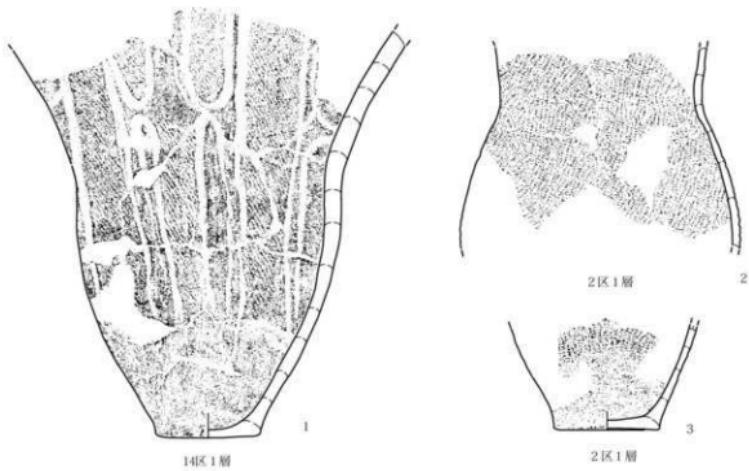
0 1:3 10cm

第93図 人見坂ノ上遺跡出土石器実測図(5)

J-8号住



J-9号住

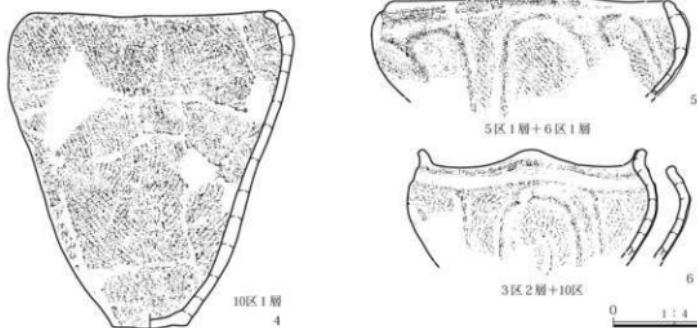
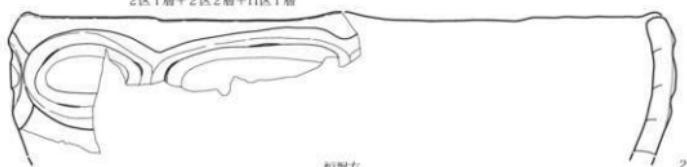
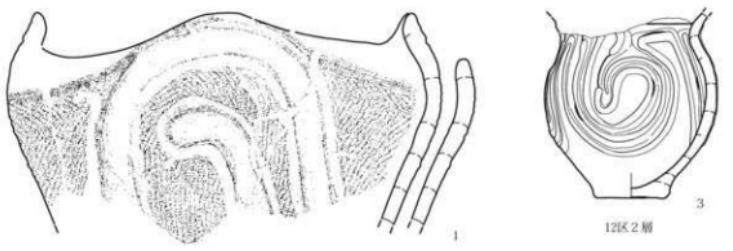


第94図 J-8号・J-9号住居址出土土器実測図

J-11号住



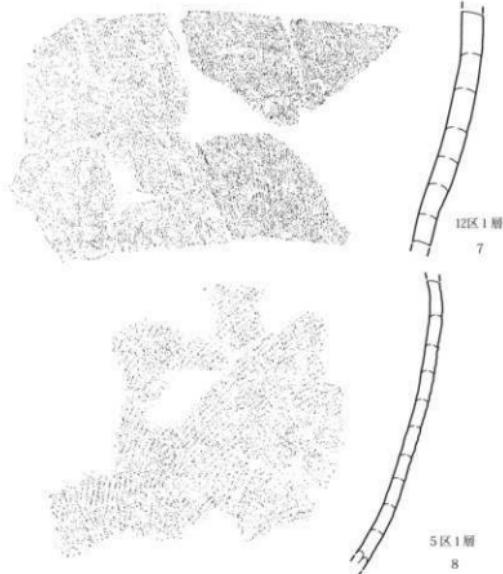
J-12号住



0 1:4 10cm

第95図 J-11号・J-12号住居址(1)出土土器実測図

J-12号住



D-17号土坑



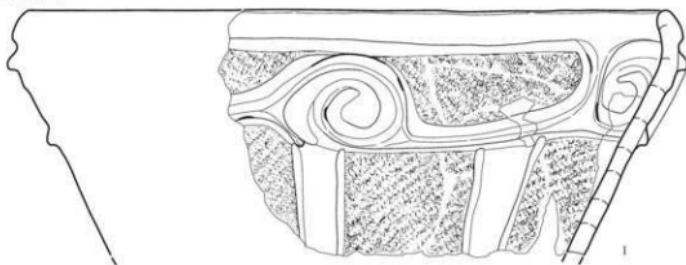
0 1 : 4 10cm

D-38号土坑

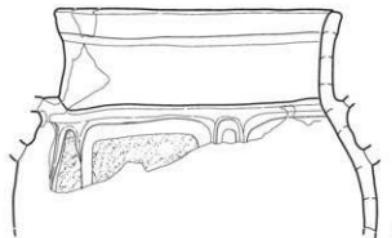


第96図 J-12号住居址(2)・D-17号・D-38号土坑出土土器実測図

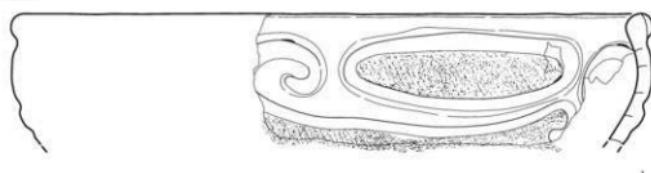
U-2号埋設土器



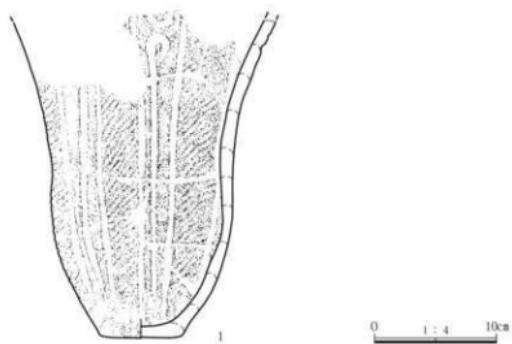
U-3号埋設土器



U-4号埋設土器

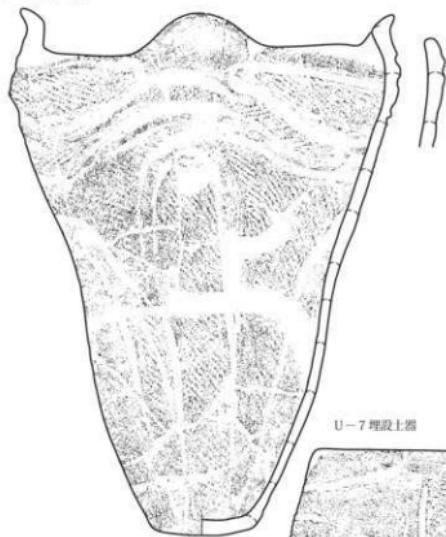


U-5号埋設土器



第97図 U-2・U-3・U-4・U-5号埋設土器実測図

U-6 埋設土器



U-7 埋設土器

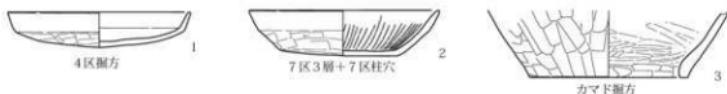


遺構外

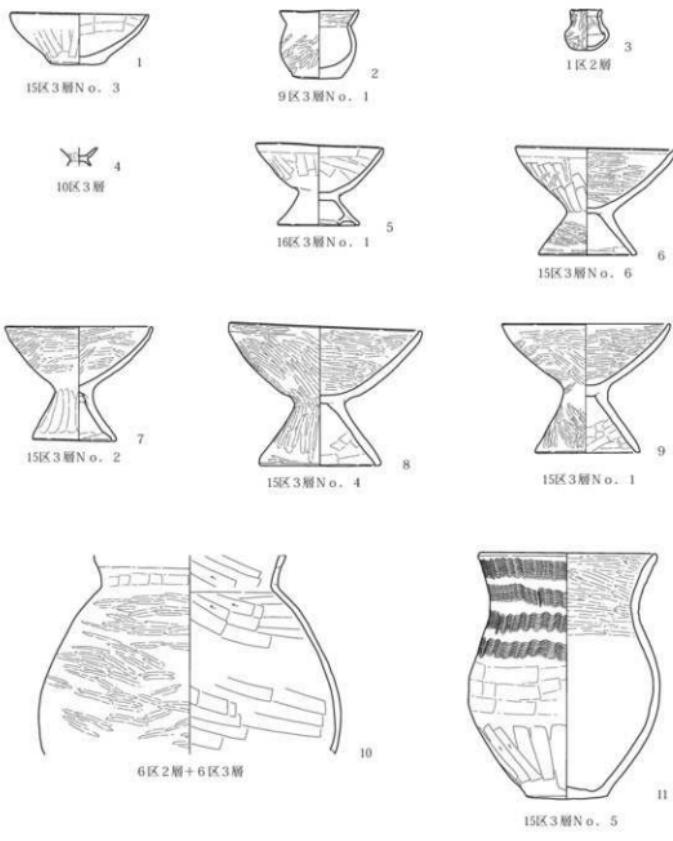


第98図 U-6号埋設土器・遺構外出土土器実測図

H-51号住



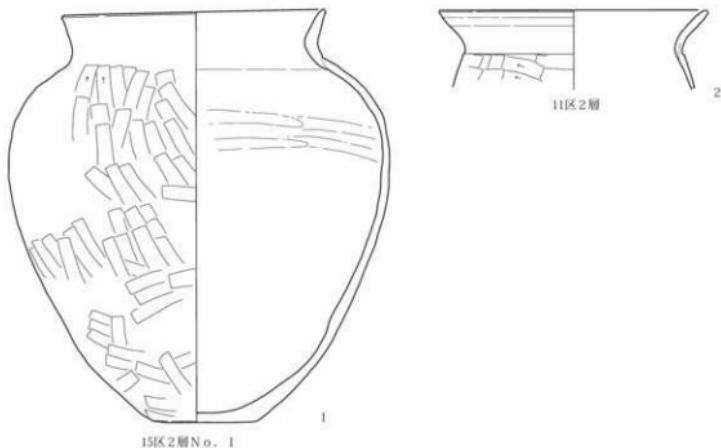
H-52号住



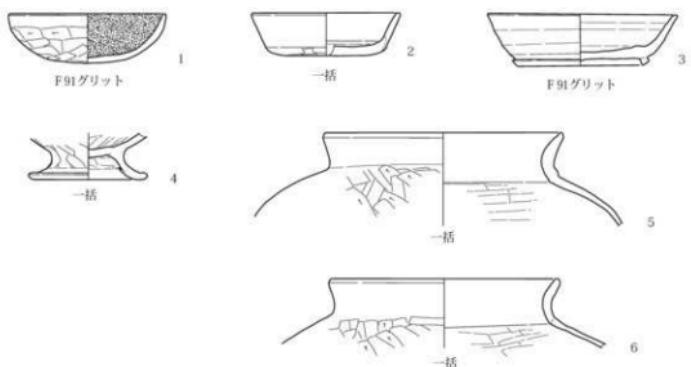
0 1 : 4 10cm

第99図 H-51号・H-52号住居址出土土器実測図

H-53号住



M-2号溝



0 1 : 4 10cm

第100図 H-53号住居址、M-2号溝址出土土器実測図

種別		J-08	J-09	J-10	J-11	J-12	土坑	溝	ビット	埋甕	H-住居	グリッド	合計	
A 類	石器類	石器				2	1				4	8	15	
		石器	1				1	1				1	4	
		石器										1	1	
		石器 A 類							1			2	3	
		SCA												
		RFA	1			3	2	4			1	4	15	
剥片類	FLA	3	4	2	13	2	5	1	1		3	28	62	
	石核	石核 A 類		2		2	2	3			1	1	11	
	原石	原石 A 類				1							1	
B 類	石器類	打製石斧			2	1	2	4	7		1	21	39	
		SCB	2		4		5	5	2			6	24	
		RFB	1			1		2	1			3	8	
		剥片類	FLB	1			10	13	6		8	10	50	
		石核	石核 B 類					2				2	4	
C 1 類	C 1 類	磨石	1		1	1	1	1				2	7	
		圓石	3		2	1	2	1				1	10	
		石器	1										1	
		球石					1					1	2	
C 2 類	C 2 類	敲石	1				3	9				6	19	
		砾石	1					1				1	3	
		台石	7		1	23	4	2				10	47	
D 類	石器	石棒	3			2			1		1		7	
		棒状器					1	1					2	
		多孔石	1				2						3	
E 類	石器類	磨製石斧	1			1	2	1			1	1	7	
	合計		29	6	14	50	41	56	19	1	2	18	109	345

遺物名	黒曜石 Ob	チャート Ch	硬質頁岩 HSh	黑色安山岩 BA	頁岩 Sh	安山岩 An	砂岩 Ss	結晶片岩 Sc	緑色岩盤 GrR	石英 Si	斜方石 I	合計	重積合計 kg
J-08	点数	5				3	18			3		29	
	重量(g)	6.0				2500	10944.4			7309.5		18509.9	
J-09	点数	6										6	
	重量(g)	27.5											27.5
J-10	点数	2				5	7					14	
	重量(g)	1.1				175.9	2050.7					2227.7	
J-11	点数	19				2	27		1	1		50	
	重量(g)	175.4				62.6	41698.1		4264.0	30.7		46230.8	
J-12	点数	6	1		1	9	20	1	1	2		41	
	重量(g)	16.1	0.6		1.2	124.7	31679.1	1994.1	582.8	119.2		34517.8	
土坑	点数	12			1	16	22	1	1	3		56	
	重量(g)	70.1			2.6	289.6	12482.1	56.5	512.0	480.2		13893.1	
溝	点数				3	8	7			1	19		
	重量(g)				127.8	224.4	2691.2				2.5	3045.9	
ビット	点数	1									1		
	重量(g)	0.5										0.5	
埋設土器	点数					1				1		2	
	重量(g)						813.8			131.6		944.7	
H-住居	点数	9				6	3					18	
	重量(g)	10.2				73.4	10.6					94.2	
グリッド	点数	35	1	2	7.0	31	29	1	1	2		109	
	重量(g)	47.0	2.0	72.0	191.4	2144.2	22489.0	11.2	81.2	90.2		25128.2	
合計	点数	95	2	2	12	80	134	3	4	12	1	345	
	重量(g)	353.9	2.6	72.0	323.0	3344.8	12485.3	2061.8	5440.0	8161.4	2.5	144620.3	

第24表 人見坂ノ上遺跡石器組成表

遺構名	番号	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量 (cm)	⑥器形・文様等の特徴/備考	
J-8住	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石	にぶい黄楓 10YR6/4	口縁部～ 胸部4 /5残存	口径：(21.6) 器高：26.6 底径：7.0	4単位の波状口縁を呈していたと想定される。底部は平底。外側は透頂部に平行した隆帯を添付し口縁部と胸部を区画する。胸部には単節LR繩文施文後・U字状・逆U字状・斜面状の波紋を施し区画する。区画内は磨り消し。口縁部を区画する隆帯脇には幅広沈線を施す。内側は横位のナデ。	加曾利EⅢ ～IV
J-8住	2	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	黄楓 10YR8/6	胸部～底 部2/3 残存	口径：— 器高：<33.5> 底径：9.0	底部は平底を呈する。外側は2本1組の輪位輪帶を添付後単節RL繩文を施文。隆帯脇には磨り消し。隆帯脇には幅広沈線を施す。内側は横位のナデ。	加曾利EⅢ ～IV
J-9住	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石	楓 7.5YR7/6	胸部～底 部2/3 残存	口径：— 器高：<33.3> 底径：8.5	底部は平底。外側は単節LR繩文施文後、2本1組の輪位沈線間にU字状・逆U字状を1対とした沈線を2組施す。2本1組の輪位沈線間にU字状・逆U字状を2組施す。外側は単節RL繩文が施される。内側は横位のナデ。	加曾利EⅢ ～IV
J-9住	2	深鉢	普通	チャート・砂礫・褐色粒	にぶい黄楓 10YR7/4	胸部・ 胸部片	口径：— 器高：<17.1> 底径：—	底部は平底。外側は残存部では単節RL繩文が施される。胸部下位は無文。内側は横位のナデ。	中期
J-9住	3	深鉢	普通	チャート・砂礫・褐色粒	にぶい楓 7.5YR	胸部～底 部片	口径：— 器高：<8.6> 底径：8.7	底部は平底。外側は残存部では単節RL繩文が施される。胸部下位は無文。内側は横位のナデ。	中期
J-11住	1	深鉢	普通	チャート・砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄楓 10YR7/4	胸部～底 部1/3	口径：— 器高：<16.7> 底径：7.8	外側は残存部では単節LR繩文を施す。胸部下位は無文。内側は横位のナデ。	中期後葉
J-12住	1	深鉢	普通	チャート・砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄楓 10YR7/4	口縁部～ 胸部1/4	口径：(30.8) 器高：<17.3> 底径：—	波状口縁。外側は隆帯を渦巻き状に添付後、単節RL繩文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を施す。区画内は磨り消し。内側は横位のナデ。	加曾利EⅢ ～IV
J-12住	2	深鉢	普通	チャート・砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄楓 10YR7/4	口縁部～ 胸部片	口径：(52.0) 器高：<11.5> 底径：—	平続口縁。外側は口縁部に横位に連続する格円形の隆帯を添付し区画する。胸部には輪位の条線を施す。隆帯脇には幅広沈線を施し、区画内は磨り消し。内側は横位のナデ。	加曾利EⅢ
J-12住	3	深鉢	良好	チャート・砂礫・角閃石	にぶい黄楓 10YR7/3	胸部～底 部残存	口径：— 器高：<15.1> 底径：6.0	外側は、底部に横位隆筋、胸部に2本1組の輪帶をJ字状・U字状に添付する。隆帶脇には幅広沈線を、口縁部には輪位の幅広沈線を施す。内側は上位は横位の磨き、下位は横位のナデを施す。	中期後葉
J-12住	4	深鉢	普通	砂礫・角閃石	灰黄楓 10YR6/2	ほぼ光形	口径：20.2 器高：25.9 底径：6.2	平続口縁。胸部上位で口縁部は内側に内湾する。外側は単節RL繩文を施文する。胸部下位は無文。内側は横位のナデ。	中期後葉
J-12住	5	深鉢	普通	チャート・砂礫・角閃石	浅黄楓 10YR8/4	口縁部～ 胸部片	口径：(22.6) 器高：<8.0> 底径：—	4単位の波状口縁を呈していたと想定される。外側は逆U字状の隆帯を添付する。単節RL繩文を施文する。隆帯脇には幅広沈線を、口縁部には輪位の幅広沈線を施す。内側は横位のナデ。	加曾利EⅢ ～IV
J-12住	6	深鉢	普通	砂礫・角閃石	淡黄 2.5YR8/3	口縁部～ 胸部片	口径：(18.0) 器高：<9.2> 底径：—	4単位の波状口縁を呈していたと想定される。外側は渦巻き状の輪帶を添付後、単節RL繩文を施文する。口縁部直下には波頭部に合せて横位隆筋が施される。胸部の隆帶脇には幅広の沈線を施される。内側は横位の磨き。	加曾利EⅢ ～IV
J-12住	7	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄楓 10YR7/4	胸部片	口径：— 器高：— 底径：—	外側は、輪位の条線施文後、輪位に波状の条線を施文する。内側は横位のナデ。	中期
J-12住	8	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄楓 10YR7/4	胸部片	口径：— 器高：— 底径：—	外側は単節RL繩文を施文する。内側は横位の磨き。	中期

第25表 人見坂ノ上遺跡縄文土器観察表(1)

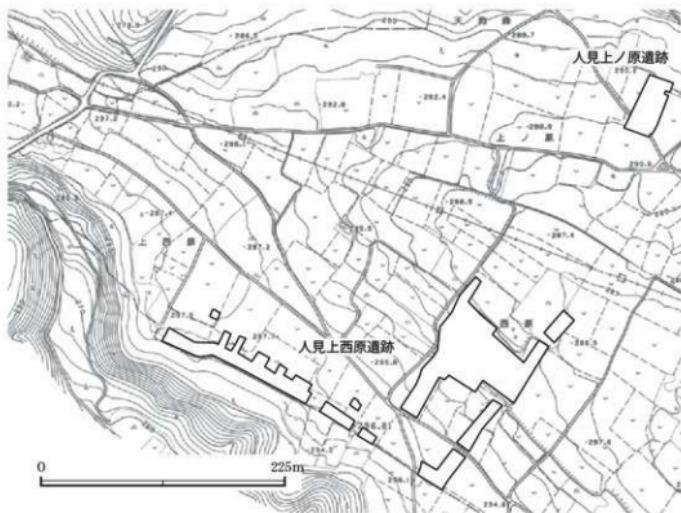
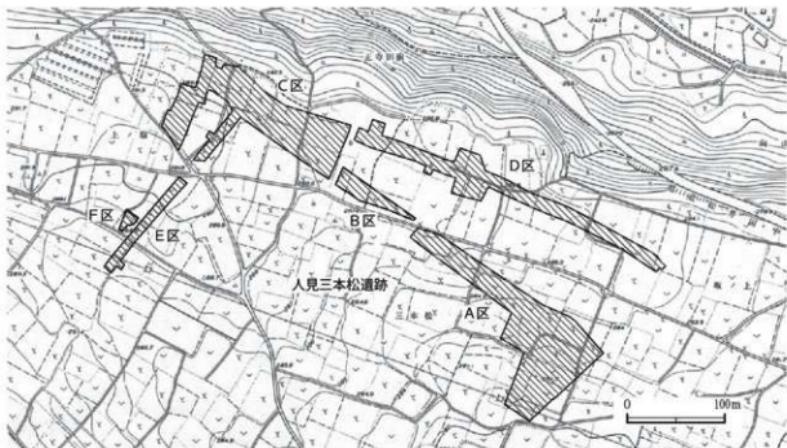
遺構名	番号	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②船上	③色調	④残存	⑤法量(cm)	⑥器形・文様等の特徴/備考	
J-13 住	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄橙 10YR6/3	ほぼ完形	口径 : (30.5) 器高 : 43.0 底径 : 8.4	4 単位の波状口縁。外面は單節 RL 繩文。波状部に合わせて、3 本 1 組の波状の沈線を施す。口縁部の波状部間にには弧状の沈線を施する。3 本 1 組の波状沈線の下位は磨り消し。胴部は 2 本 1 組の逆 U 字状化粧を施す。沈線間は磨り消し。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
D-17 土坑	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径 : — 器高 : — 底径 : —	平縁口縁。外面は横位降帯、縱位降帯を添付後、單節 RL 繩文を施する。降帯脇には幅広沈線を施す。口縁部は無文。内部は横位のナデ。	中期後葉～ 後期初期
D-38 土坑	1・2	深鉢	良好	砂礫・角閃石	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部～ 胴部片	口径 : — 器高 : — 底径 : —	4 単位の波状口縁を呈していたと想定される。外面は單節 LR 繩文施文後、棒状工具を用いた細い沈線で胴部上位は済み溝巻き状、Y 字状に、胴部下位は逆 U 字状に区画する。区画外及び胴部下位は磨り消し。内部は横位の磨き。	加曾利 E IV
D-38 土坑	3	深鉢	良好	砂礫・角閃石	にぶい黄橙 7.5YR6/4	胴部～底 部 2/3 残存	口径 : — 器高 : <11.0> 底径 : (6.3)	底部は上げ底で高台状を呈する。外面は單節 RL 繩文施文後、逆 V 字状の沈線を区画する。区画外及び胴部下位は磨り消し。内部は胴部上位は横位の磨き。下位は縱位の磨きを施す。	加曾利 E IV
U-2 墓設	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部～ 胴部 1/6 残存	口径 : (52.2) 器高 : <20.3> 底径 : —	平縁口縁。外面は口縁部に済み巻き状及び横位降帯を添付後、單節 RL 繩文を施する。口縁部直下及び降帯脇には幅広沈線を施し、済み巻き状の文様間に格円形の凹窓を施する。胴部は 2 本 1 組の幅広沈線を施し、沈線間は磨り消し。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
U-3 墓設	1	鉢	普通	砂礫・角閃石	浅黄橙 10YR8/4	口縁部～ 胴部 1/2	口径 : 22.7 器高 : <18.4> 底径 : —	平縁口縁。胴部上位には 2 つの把手が付いていたと想定される。外面は横位降帯を添付する。横位降帯脇には幅広沈線を施す。口縁部は幅広の横位沈線が 1 条施設される。胴部は 2 本 1 組の把手と添付後、單節 RL 繩文を施す。降帯脇には幅広沈線、把手直下には 2 本 1 組の横位沈線を施す。沈線間は磨り消し。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
U-4 墓設	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	淡黄 2.5YR8/4	口縁部～ 胴部片	口径 : (50.6) 器高 : <10.7> 底径 : —	平縁口縁。外面は口縁部に降帯を添付し、單節 RL 繩文を施する。口縁部は横位降帯に横円形、内端部は手状の横位沈線を施す。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
U-5 墓設	1	深鉢	普通	チャート・ 砂礫・角閃石	浅黄橙 10YR8/4	胴部～底 部 2/3	口径 : — 器高 : <26.0> 底径 : 6.8	外面は單節 LR 繩文施文後、2 本 1 組の縱位沈線を施す。沈線間及び胴部下位は磨り消した後、対応する端部横手状の沈線を施す。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
U-6 墓設	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石・褐色粒	にぶい黄橙 10YR6/3	ほぼ完形	口径 : (30.5) 器高 : 43.0 底径 : 8.4	4 単位の波状口縁。外面は單節 LR 繩文施文後、波状部に合わせて、3 本 1 組の波状の沈線を施す。口縁部の波状部間にには弧状の沈線を施する。3 本 1 組の波状沈線の下位は磨り消し。胴部は 2 本 1 組の逆 U 字状化粧を施す。沈線間は磨り消し。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
U-7 墓設	1	深鉢	普通	砂礫・角閃石	相 7.5YR7/6	口縁部～ 2/3 欠損	口径 : 38.8 器高 : 52.2 底径 : 8.6	平縁口縁。底部は平底。外面は單節 LR 繩文施文後、2 本 1 組の縱位の幅広沈線及び口縁部を区画する幅広沈線を施す。2 本 1 組の横位沈線間は磨り消す。2 本 1 組の横位沈線間は磨り消す。口縁部は無文。内部は横位のナデ。	加曾利 E III
遺構外	2	深鉢	普通	砂礫・角閃石	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部～ 胴部片	口径 : (24.2) 器高 : <10.4> 底径 : —	平縁口縁。外面は逆 U 字状の降帯を添付後、單節 RL 繩文を施す。降帯脇には幅広沈線を施す。内部は横位のナデ。	加曾利 E III

第 26 表 人見坂ノ上遺跡繩文土器観察表 (2)

遺構名 番号	遺物 番号	区	層	種類	器種	法量		成・整形技法の特徴						備考	重量(g)		
						口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	残存	外面	内面			
H-51	1	7	3	土師器	环	15.3		3.7	不良	明赤褐色 黑色粒	白色・赤色 黑色粒	口縁～底 部1/2	口縁部ナデ。 体部ヘラケズ リ。	体部文様瓦 キ。		117.11	
H-51	2	4	陶方	土師器	环	(14.8)		2.85	不良	明赤褐色 黑色粒	白色・赤色 黑色粒	口縁～底 部1/3	口縁部ナデ。 体部ヘラケズ リ。	ナデ調整か。		74.35	
H-51	3	カマド	陶方	土師器	瓶			12.8	[5.4]	普通	明赤褐色 黑色粒	白色・黒色 黑色粒	体部下部 1/4	体部ヘラケズ リ。	体部ミガキ。 底部ヘラケズ リ。		106.31
H-52	1	6	2	土師器	甕			[16.25]	普通	白色～明 褐色	白色粒、角 閃石	面～体部 1/3	頭部ヘラケズ リ。 体部ミガキ。	頭部ヘラケズ リ。	口縁部 輪縮み 板	365.88	
H-52	2	15	3No.1	土師器	高环	13.7	8.5	10.55	普通	明赤褐色 黑色粒	白色・黒色 黑色粒	完形 口縁～一部 欠損	ミガキ。	坏部ミガキ。 脚部ヘラナデ。		325.42	
H-52	3	15	3No.2	土師器	高环	12.0	6.7	9.3	普通	白色	白色・赤色 黑色粒	完形	口縫部ヘラ ナデ。	坏部ミガキ。 脚部ヘラナデ。		185.39	
H-52	4	15	3No.4	土師器	高环	15.8	9.7	11.4	普通	白色	白色粒、角 閃石	完形 口縁～一部 欠損	ミガキ。	坏部ミガキ。 脚部ヘラナデ。		518.93	
H-52	5	15	3No.6	土師器	高环	13.0	7.8	8.8	普通	白色	白色・赤色 粒、角閃石	完形	口縫部ナデ。 口縫部ヘラケズ リ。	坏部ミガキ。 脚部ヘラナデ。 →一部ミガキ。 脚部ミガキ。		238.06	
H-52	6	16	3No.1	土師器	高环	10.3	6.5	6.5	普通	明赤褐色	白色粒、角 閃石	完形 口縫～一部 欠損	口縫部ナデ。 坏部ヘラナデ。	坏部ヘラナデ。 口縫部輪縮 (中心開き)		150.37	
H-52	7	15	3No.3	土師器	环	11.2	4.5	4.15	普通	明赤褐色	白色・赤色 粒、角閃石	口縫～底 部7/8	体部ヘラナデ。 口縫部ヘラナ デ。			121.55	
H-52	8	9	3No.1	土師器	ミニ チュ ア 鉢			6.4		普通	明赤褐色	白色・赤色 粒、角閃石	完形	体部ミガキ。	口縫部ミガキ。		88.93
H-52	9	1	2	土師器	ミニ チュ ア 鉢			2.5		普通	明赤褐色	白色・黒色 粒	完形	ミガキ。	一部ミガキ。 手づくね		17.39
H-52	10	10	3	土師器	ミニ チュ ア 付 蓋					普通	明赤褐色	白色・黒色 粒	体部下部 ～脚部	ナデ。	ナデ。 手づくね		5.27
H-52	11	15	3No.5	舟生	甕	14.7	6.7	20.1	普通	に白・粉 色・褐色	白色粒、角 閃石	完形	口縫部櫛編き波 状文 体部上半ヘラナ デ 体部ドリヘラケ ズリ。	口縫部ミガキ。		889.14	
H-53	1	15	2No.1	土師器	甕	21.2	7.6	33.8	普通	明赤褐色 ～に白 赤褐色	白色粒。チ ヤート	完形 一部欠損	体部ヘラケズ リ。	体部コビナデ。		3,075.56	
H-53	2	11	2	土師器	甕	(22.0)		16.51	普通	明赤褐色	白色・赤色 粒、角閃石	口縫～脚 部1/4	脚部ヘラケズ リ。	ナデ調整。		84.25	
KM-I	1	一括	須恵器	环	(15.0) (11.8)	3.2			普通	灰色	黑色粒	口縫～底 部1/2	底部削輪ヘラケ ズリ。	ナデ成形。		11.74	
M-2	1		土師器	甕		19.8		[7.5]	普通	褐色	白色・赤色 粒、雲母微 片	口縫～脚 部1/2	脚部ヘラケズ リ。	脚部ヘラナデ。		483.82	
M-2	2		土師器	甕		19.0		[5.6]	普通	に白・黄 褐色	白色・赤色 粒	口縫～脚 部1/2	脚部ヘラケズ リ。	脚部ヘラナデ。		332.20	
M-2	3	F91grid	土師器	环	(13.0)	4.1			普通	褐色	白色・赤色 粒、角閃石	口縫～脚 部1/2	体部ヘラケズ リ。	脚上上げ。		89.86	
M-2	4		土師器	环		9.7	[3.8]		普通	に白・黄 褐色	白色粒、云 母微片	口縫～脚 部1/2	脚部ヘラケズ リ。	脚部ヘラナデ。 脚部ヘラナデ。		146.30	
M-2	5	F91grid	須恵器	环		15.6	10.3	4.4	普通	灰褐色～灰 白色	白色・黑色 粒	口縫～台 部1/2	ロクヒ成形。	ロクヒ成形。		300.08	
M-2	6		須恵器	环	(12.3) (9.0)	3.5			不良	灰白色	白色・褐色 粒	口縫～底 部1/2	底部ヘラケズ リ。	ナデ成形。		30.74	

第27表 人見坂ノ上遺跡古墳時代以降土器観察表

人見三本松遺跡
人見上ノ原遺跡
人見上西原遺跡



IV 人見三本松遺跡・人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡

1 遺跡の概要

人見三本松遺跡 猫沢川に開析された谷の北側緩斜面にあり、人見坂ノ上遺跡の北西に位置する。遺構の分布は凡そ標高 279 m ~ 290 m におさまる。

確認された遺構は縄文時代の住居址 1 棟、古墳時代の住居址 16 棟、古代の住居址 9 棟、古代から中世にかけての溝 9 条などである。弥生時代の遺構は確認されなかったが、調査区内で若干の土器片が散見されたほか、C 区の溝覆土中から石鍬 2 点が出土している。

住居址の帰属時期は、縄文時代のものは前期後葉、古墳時代は前期末から中期、古代は 8 世紀から 9 世紀前半を中心としている。なお、古墳時代の住居址群は東に接する人見坂ノ上遺跡の集落とほぼ同時期の所産であることから、同一の集落と考えられる。また、掘立柱建物址などは未確認であるが耕作による攪乱のため検出できなかった可能性がある。溝の走行方向および断面形状は人見坂ノ上遺跡で検出されたものと良く似ている。また、約 10m の距離をあけて並行する道路状遺構も検出されている。

人見上ノ原遺跡 人見三本松遺跡と東側で隣接し、標高は 289 ~ 290 m である。

確認された遺構は古代の住居址 3 棟であり、いずれも 8 世紀から 9 世紀前半に帰属する。人見三本松および人見坂ノ上遺跡の住居址群の集落の一部である。

人見上西原遺跡 猫沢川の源頭部付近に位置する。調査区の中心は開析谷の南側緩斜面にあり、人見三本松遺跡や人見上ノ原遺跡とは小沢を挟んだ対岸の位置関係にある。標高は 286 m ~ 297 m である。

確認された遺構は縄文時代の住居址 1 棟、古代の住居址 9 棟、古代から中世にかけての溝 3 条などである。帰属時期は縄文時代の住居址が中期後葉、古代の住居址は 10 世紀後半と考えられる 1 棟を除き、8 世紀から 9 世紀の所産と考えられる。溝 3 条のうち 2 条は人見坂ノ上・人見三本松遺跡で検出されたものと良く似ており、両溝は調査区の南西において T 字状に接続する。また、浅く形状も安定しないものの、底面に硬化面を有する溝も検出されている。

以下、人見三本松・上ノ原・上西原の 3 遺跡の遺構の要を併せて、時期別に記す。

(1) 縄文時代の遺構

1. 住居址

三本松遺跡では A 区で諸磯 c 式期の住居址 1 棟、D 区で時期不明の竪穴状遺構 1 基がそれぞれ確認された。本遺跡では A 区 ~ D 区を中心に前期 ~ 後期の土器・石器が一定量出土しているが、遺構の確認には至っていない。J - 1 号住は平面楕円形で壁周溝が巡り、内側に柱穴とみられる深いピットを等間隔に配す。T - 1 号竪穴状遺構は本来円形であったと仮定すれば直径約 3.6 m となる。

上ノ原遺跡では縄文時代の遺構は確認されておらず、出土遺物もごくわずかであった。

上西原遺跡では加曾利 E 式期の住居址 1 棟が検出された。その他遺構は確認されなかったが、調査区の南東部を中心として中期を主体とする土器群が一定量出土している。J - 1 号住は平面楕円形で、中央から南側にかけて浅いピットが 4 基確認されたが、これらは柱穴とは考えにくい。遺物は住居中央から東側に集中していた。

2. 埋設土器

埋設土器は2基確認された。三本松U-1号、上西原U-1号埋設土器はともに正位の状態で出土している。いずれも加曾利E式期である。

3. 土坑

三本松遺跡C区で2基確認された。D-12・D-13ともに平面円形で断面は逆台形を呈す。出土遺物はないが、覆土中にロームやYP、炭化物と焼土などを含む点が他の土坑と異なる。

(2) 古墳時代の遺構

1. 住居址

時期

三本松遺跡A区で12棟、C区で1棟、D区で3棟の計16棟が確認された。うち、A区の住居址群については東接する人見西原A区と一連のものであり、台地上の猫沢川北側に展開する前期から中期にかけての集落の西端に相当すると思われる。上ノ原・上西原遺跡では当該期の遺構は確認されなかった。検出状況

三本松H-1号住は平面正方形を呈す。床面広範に炭化材と焼土が認められることから、焼失住居の可能性がある。H-3号住は一辺5.8mの隅丸正方形を呈し、本遺跡内で最大規模である。壁際に複数の焼土塊が確認された。H-6号住は明確な主柱穴や壁周溝をもたない。南東コーナー部の貯蔵穴周辺から布留甕が出土している。

住居址の平面形は基本的に正方形を呈すが、H-6および21住はやや長方形に近い形状であった。H-1・3・11・12号住の4棟は床面あるいは覆土中に炭化材や焼土が多くみられ、焼失住居の可能性がある。古代の溝跡に切られる住居は若干見られたが、住居同士の重複はなかった。

規模

人見西原遺跡A区の分類基準(55頁参照)によれば、前期ではA:1棟、B:3棟、C:7棟。中期ではA:0棟、B:2棟、C:1棟に分類された。時期不明の2棟についてはそれぞれB・Cがそれぞれ1棟であった。

住居構造

人見西原・坂ノ上遺跡と同様に方形の掘り込み、4本の主柱穴、貯蔵穴と炉を有するといった特徴をもつ住居址が主体である。炉は柱穴間に設けられる例が多いが、H-5住のように炉を中心には据え柱穴を壁近くに配置するものもある。貯蔵穴は住居の南東、または南西に設けられる。壁周溝は6棟で確認された。いずれも全周するものと考えられる。間仕切り溝は検出されなかった。

覆土堆積状況

人見西原・坂ノ上遺跡と同様で、人為的な埋め戻しが明確に把握されたものはなかった。また、A-s-B軽石が竪穴内にレンズ状に堆積するような状況は認められなかった。

遺物出土状況

遺物は覆土中および床面上より出土している。覆土中から出土した土器はいずれも混入物と想定されるが、明確に遺棄した状況は見られなかった。覆土最下層および床面上から出土した土器は、貯蔵穴ま

たは炉の周辺に多く見られた。H-6住では貯蔵穴近くから布留痕が2点確認された(217頁194図)。いずれも頸部以上を欠損するが、器壁は薄くヨコハケを密に施す。

分布状況

三本松遺跡A区を中心に展開する、前期末から中期にかけての住居址群は前述のとおり西原遺跡A区と一連のものであり、その西端部分に相当する。密集度は西原遺跡と比較してやや希薄となるが、いずれも重複することなく適当な間隔を保つ。時期別にみた立地の差異については明らかでないが、おむねH-1~H-5住を中心とする北群と、H-6~H-9住の南群を中心に展開するようである。

2. 土坑

土坑は三本松遺跡住居址群の南側を中心に10基確認された。平面は円~楕円形、断面は浅い椀形もしくは逆台形状を呈す。遺物は土師器甕・壺の小片が出土したが、いずれも図化には至らなかった。

(3) 古代の遺構

1. 住居址

時期

古代の住居址は三本松遺跡で9棟、上ノ原遺跡で3棟、上西原遺跡で9棟の計21棟が確認された。いずれも台地南北端の斜面沿いと調査区の西端において、それぞれ東西・南北に走る大規模な区画溝の外側に分布しており、凡そ8世紀前半から9世紀前半に位置づけられる。

検出状況

大半の住居址は平面正方形を呈し、長方形と考えられるのは三本松H-24住と上西原H-6住の2棟のみである。また、三本松H-25住は西壁に張出部を有する「L字形」であった。本住居址の張出は当初、別遺構である可能性も考えたが、覆土の堆積状況に重複が見られない点や床面が全体的に平坦である点などから1棟と判断した。一方でH-13住の床面は平坦でなく、中央西寄り付近で明瞭な段差が設けられている。

最大規模はH-16住で、カマドの痕跡と想定される焼土集中部が住居東壁で1力所、南壁で2力所検出された。本住居址も重複の可能性を想定したが、各壁面が比較的直線的に整っている点、床面が平坦な点などから1棟と判断した。対して、三本松H-23住や上西原H-9住などは比較的小規模である。

カマドの痕跡は上ノ原H-2・3住を除く住居址で確認された。これら2棟は竪穴状遺構である可能性も考慮しておきたい。明確な主柱穴をもつ住居址はなかったが、上西原H-1・2住は中央付近に2基のピットが東西に並んでいた。壁周溝が確認できたのは三本松H-19・25住のみであった。住居同士が重複している例はみられない。

規模

人見西原遺跡A区の分類基準によれば、A:0棟、B:1棟、C:15棟、D:5棟に分類された。小規模な住居址については他規模のものと比較して、群を形成せず単独に存在する傾向がみられる。

住居構造

遺存状態にもよるが、全体として掘り込みは浅く平面正方形からやや長方形を呈す。カマドは北東から南東に付設するものが多い。貯蔵穴と考えられる土坑は、おむねカマドの焚口を正面にして右側の

壁際に設ける例が多いが三本松H-14・16住のように左側に設ける例もある。古墳時代の住居址に比べて四隅は丸みを帯び、住居規模も縮小している。

土層堆積状況

古墳時代とあまり変わらない。黒色土を主体としあむね自然堆積と想定されるもので、人為的な埋め戻しが確認されたものはない。As-B 軽石が覆土上面で確認されたものもあったが、竪穴内においてレンズ状堆積がみられた例はなかった。

遺物出土状況

遺物は覆土中および床面上より出土している。全体的に遺構の遺存が悪く、遺物の取り上げに際して分層できなかったものもあるが、覆土最下層および床面上からの出土遺物はカマドや貯蔵穴周辺に集中していた。出土遺物中における土師器・須恵器の比率（重量）は圧倒的に前者が多いが、住居址群中で最も新しい10世紀前半の所産と考えられる上西原H-6住は須恵器（酸化焰焼成）の量がこれを上回る。
分布状況

古墳時代と当該時代の住居址との大きな違いは、前者の立地が比較的、やや南傾斜である台地内部を指向するのに対し、後者は台地の縁辺および区画溝の「外側」に多くみられる点。さらに、棟数の多少はあるが古墳時代の住居址は凡そ1カ所に集中しているのに対し、古代の住居址は単独かつ区画溝からあまり距離が離れず、これと並行するように展開している点である。これらのことから住居と区画溝は密接な関係の下、ともに計画的に配置された構築物であったことが想定される。

2. 溝跡

三本松遺跡で検出された2条1組の直線的に延びる溝（M-1・2およびM-7・8溝）は、本遺跡と東接する西横野東部地区遺跡群において「古代道路」として報告されている遺構の延長にあたる（以下、道路状遺構と呼称する）。10mの距離を保ちながら延びるこれら2本の溝は、現在までに確認されただけでも総延長2.5km以上になる。2組の溝は、切り合い関係からM-7・8溝が古くM-1・2溝が新しいと考えられるが、両者とも人為的に埋め戻された形跡はない。調査区西北端において走行方向をより北に変え、そのまま台地の北斜面を調査区外へ下っていくものと思われる。斜面を下った溝の推定延長線上には現在、切り通し状の平坦面が確認できるが、両者の直接的関係は不明である。

三本松M-6溝と上西原M-3溝はそれぞれ台地の北と南の縁を、地形に沿うように走る大規模な区画溝である。また、三本松M-9（=上西原M-1）溝は南北の溝に対して直角に接続し、これらを繋ぐものである。溝の断面形は上位から中位にかけてはやや緩やかに傾斜し、中位から底面にかけては角度を急にするものが多い。さらに、堀底を中心にして、おおよそ左右対称ではあるが部分的にどちらかの傾斜角度が異なる所も確認されている。このように溝の断面が「左右非対称」であることが仮に意図的なものであるならば、それは溝の「内側と外側」を意識した結果とも考えられる。出土遺物は三本松M-6溝から鉄斧が、上西原M-1およびM-3溝から墨書き器が検出されている。

溝の構築（=掘削）時期は、まず三本松C区においてM-1・2およびM-7・8溝（道路状遺構）とM-6および上西原M-3、M-1溝（区画溝）の両者に切り合いかが確認され、前者が古いと判断される。上西原M-1溝では、中位から下位にかけての覆土中から7世紀末～8世紀初めごろの小型高环が出土している。これらのことから区画溝の構築・掘削は8世紀以降であり、溝に切られる道路状遺構はそれ以前に造られ、区画溝によって分断された時期までは、その機能を失っていたと考えられ

る。また、区画溝の多くは覆土上面に A s - B 軽石のレンズ状堆積が確認できることから、12世紀初めには既に溝の大半が埋まっていたことが分かる。

3. 炭焼窯址

上西原遺跡において M - 2 溝中で 1 基確認された。平面長方形で、縁辺と中央に浅い溝を有する。標高の高い北東部分は一段掘り下げられており、その南側に炭化材が集中していた。

(4) 遺物の概要

1. 繩文土器

本遺跡では前期中葉から後期後葉までの遺物が出土しているが、その多くはグリッドなどからの小片である。三本松 J - 1 住 1・2 は集合沈線を横位矢羽状に施し口端部に耳状、体部に棒状やボタン状貼付文を付す諸磈 c 式古段階の深鉢である。上西原 J - 1 住は加曾利 E III 式と考えられるが、1・6 のように波状口縁で口縁部文様帯を有するものと、2・3 のように口縁部に横位沈線を配し下部に U 字あるいは逆 U 字の区画文を施す一群が共伴する。三本松遺跡 3L - 155 グリッド 102 は安行 3 a 式の深鉢波頂部と推定されるが、本遺跡群において晩期の遺構は未確認である。

2. 古墳時代・古代の土器

古墳時代の住居址は前末期から中期初めに位置づけられる。三本松 H - 6 住（1・2）は布留甕である。外面肩部は横ハケ、体部以下は斜めハケ、内面はヘラケズリを施す。同住居のほかの土器に比べて器壁は薄く、精製された印象を受ける。H - 12 住 7 は複合口縁の壺である。外面、斜ハケ後ヘラナデを施す。また、頸部下に井桁状の焼成前線刻を描く。8 は山陰系口縁をもつ S 字甕の可能性がある。

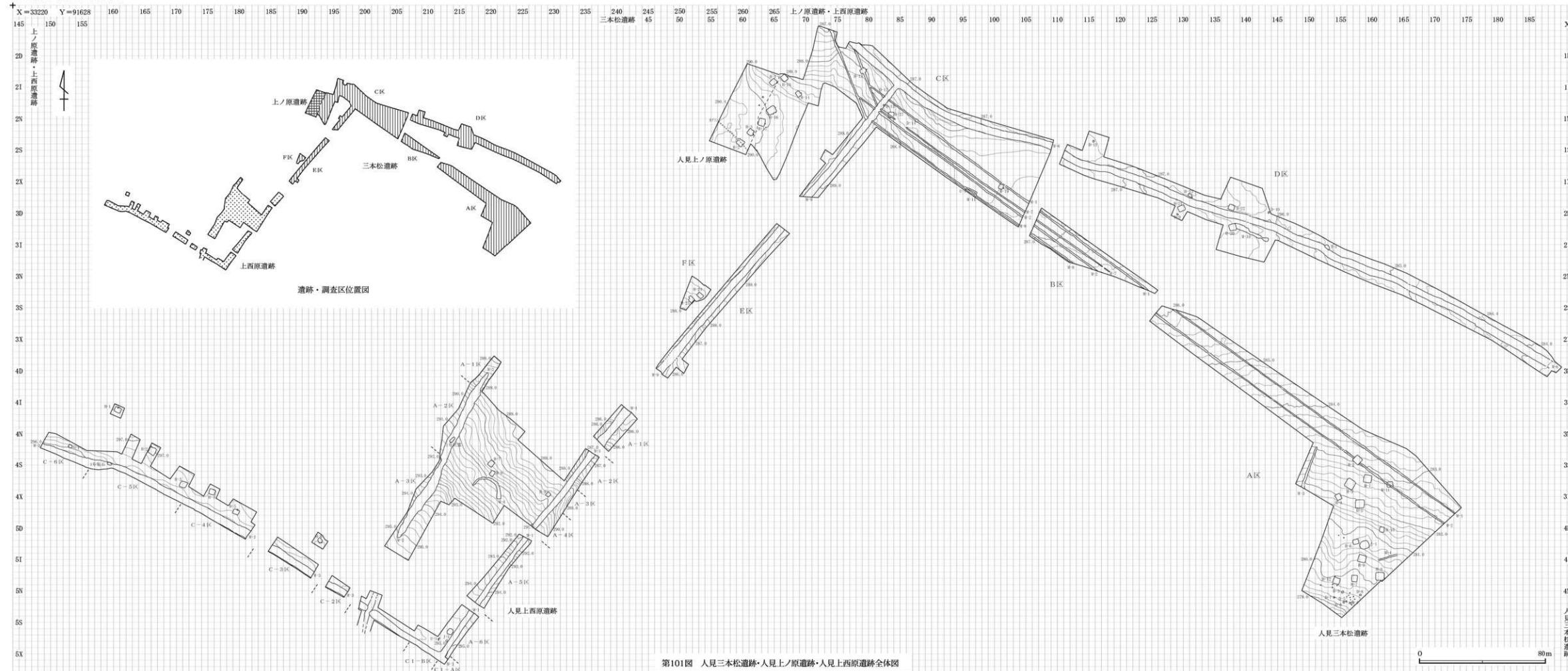
上西原 M - 1 溝の堀底から円筒埴輪片が 2 点出土している。焼成は良好で、3 条 4 段構成以上と推定される。突帶の断面がやや低い台形～M 字形であることから 6 世紀後半ごろの所産と考えられる。

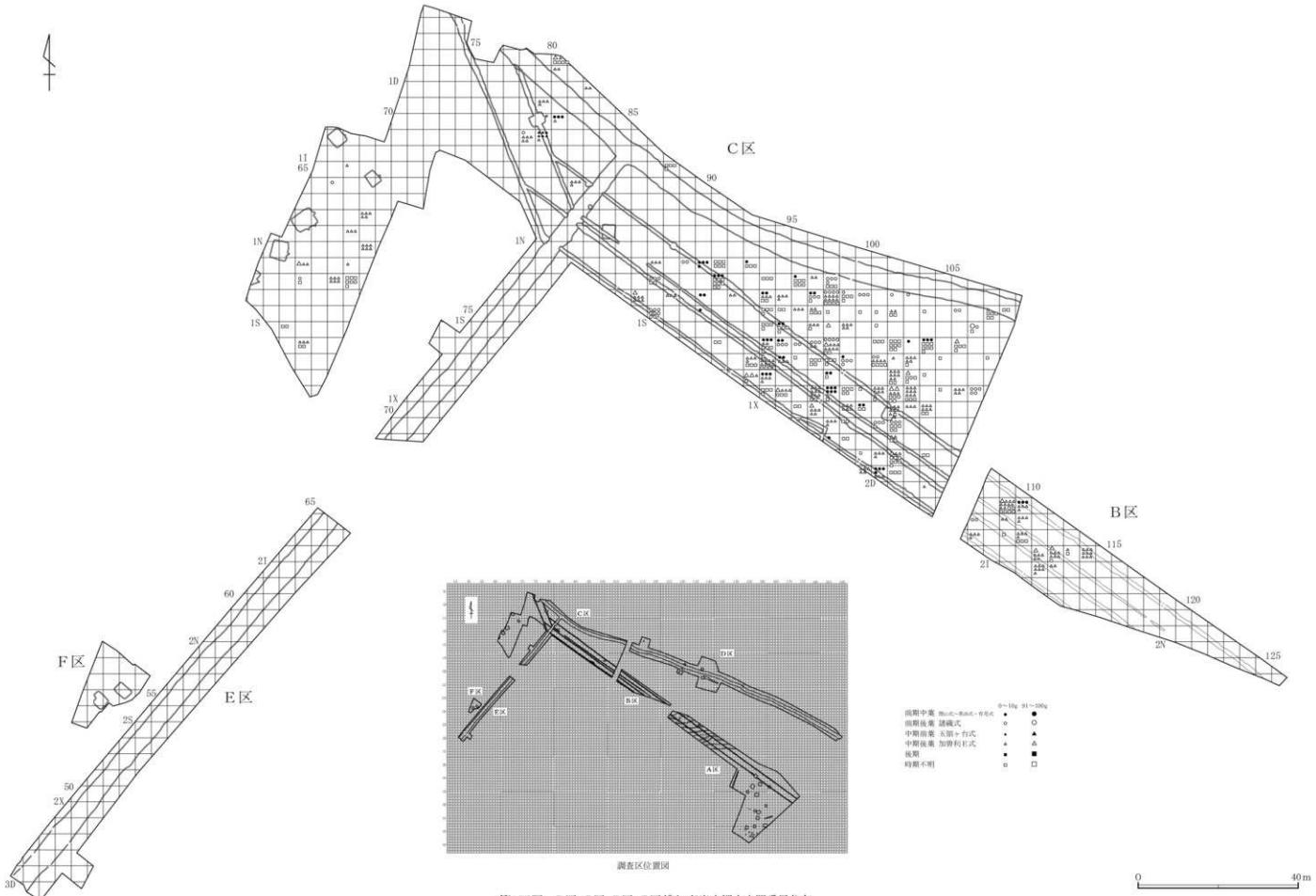
古代の住居址と溝跡は奈良・平安時代に位置づけられる。三本松 H - 17 住 6、H - 19 住 7 は口縁部断面が「コ」の字状となる甕である。H - 24 住 3 は脣部球状の甕である。外面は縦位ヘラケズリを施す。H - 25 住 2 の环は底部ヘラ切り。上ノ原 H - 3 住 3 は断面「コ」の字口縁に至る途中段階の甕と考えられる。上西原 H - 2 住 1 の环は底部が湾曲し口縁は直立する。口径 12.4cm。H - 3 住 2 は口縁が強く外反する甕である。外面は縦位ヘラケズリ。H - 6 住 3 は突出度の高い高台を有する塊、5～7 は断面三角形の釣を有する羽釜である。

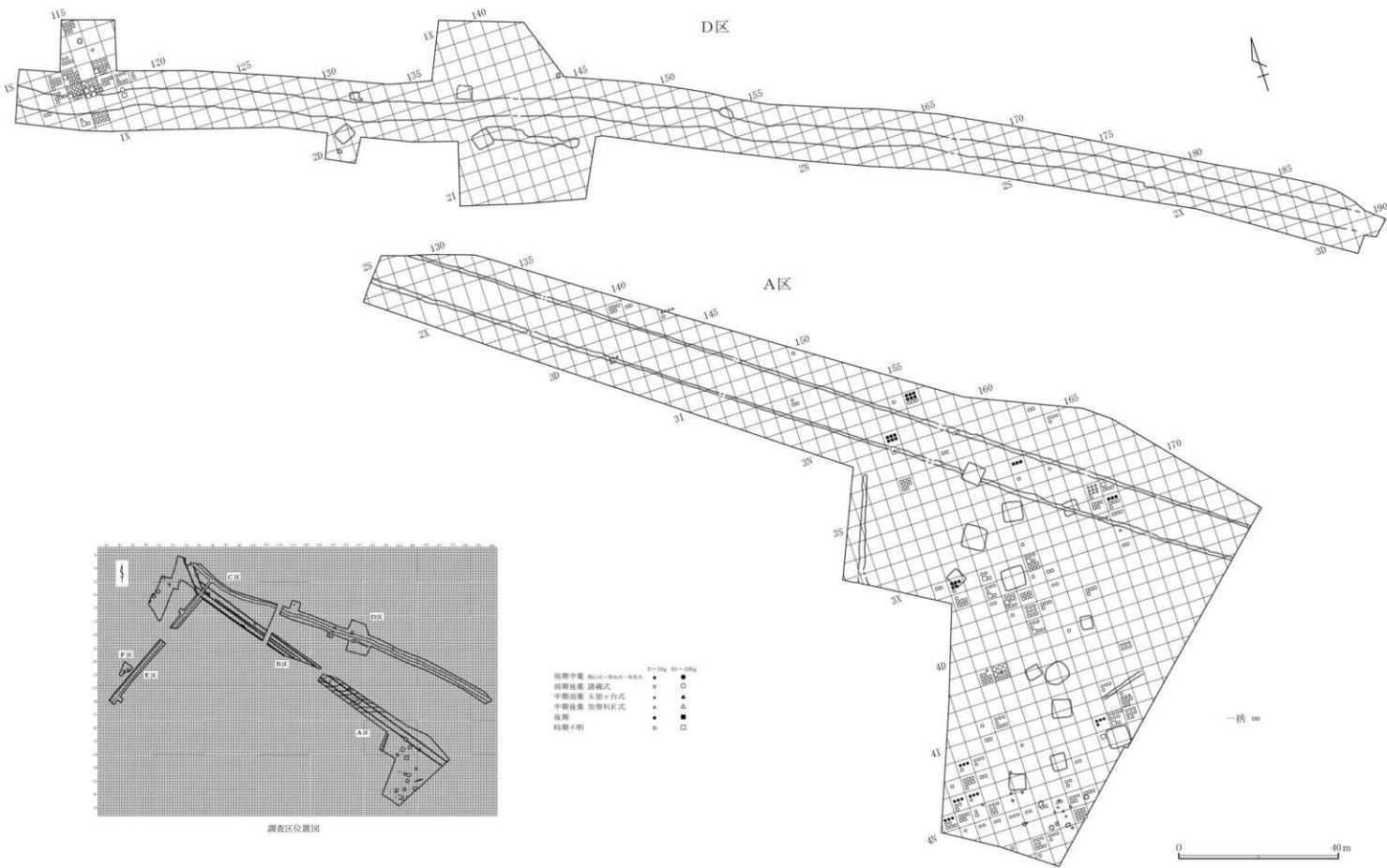
溝跡には古代を中心とした土器がみられる。上西原 M - 1 溝 A - 5 区 1 は外面ヘラケズリの小型高环である。溝の西側斜面、中～下位の覆土中から出土した。墨書土器は 2 点確認されている。M - 3 溝 C - 1 B 区 3 は底部回転糸切りの須恵器环である。外面上方にそれぞれ「大」「用」と読める文字が書かれている。同 C - 4 区 1 は底部ヘラケズリの土師器环で内面体部は放射状、底部はらせん状の暗文を描く。外面底部に「前」と読める文字が書かれている。

同 M - 2 溝 A - 3 区 1・2 は底部ヘラケズリの土師器环である。内面体部および底部に放射状・らせん状の暗文を施す。

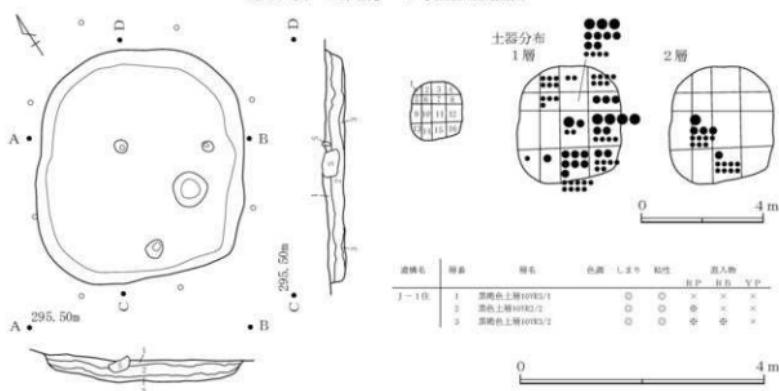
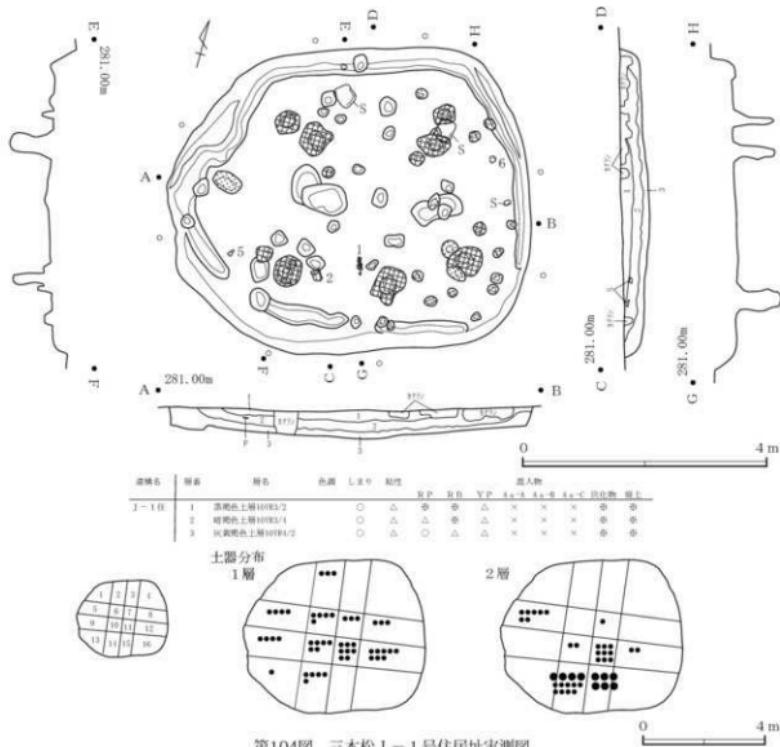
(5)遺構・遺物の実測図

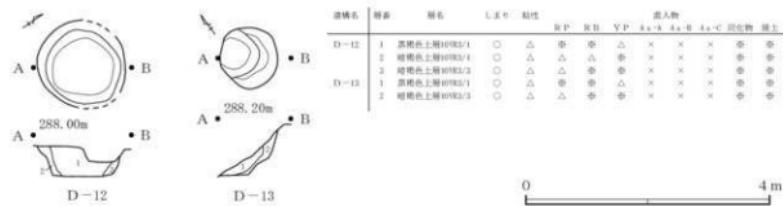




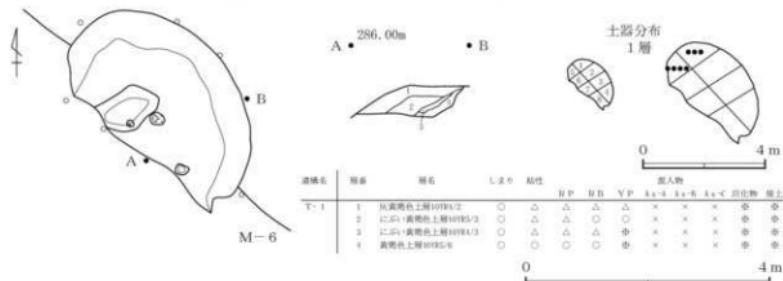


第103図 A区・D区グリッド出土繩文土器重量分布

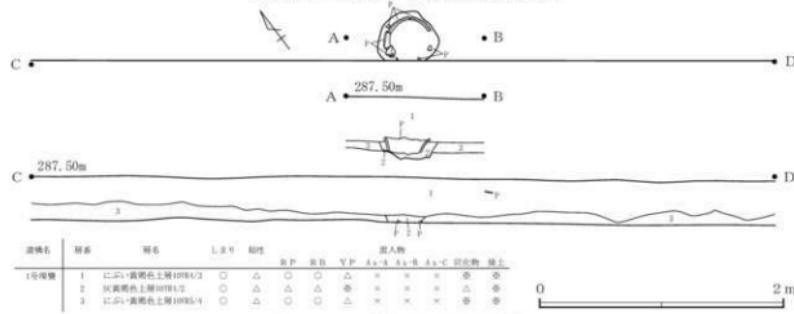




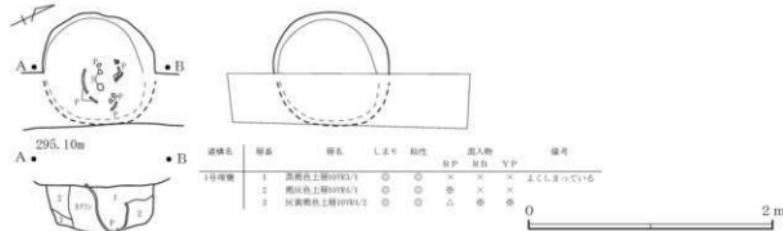
第106図 三本松D-12・D-13号土坑実測図



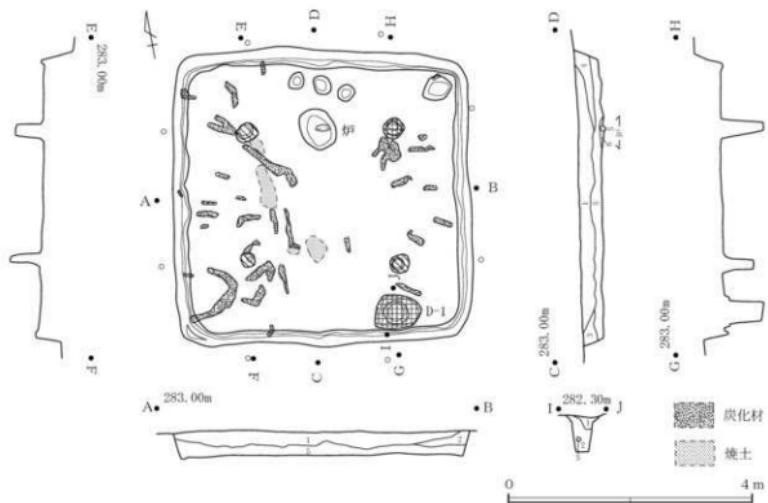
第107図 三本松T-1号竪穴状遺構実測図



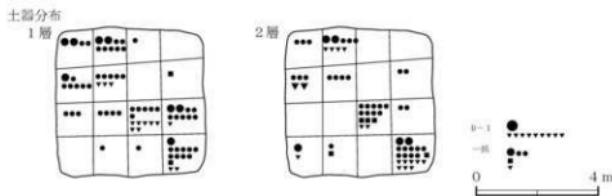
第108図 三本松I号埋設土器実測図



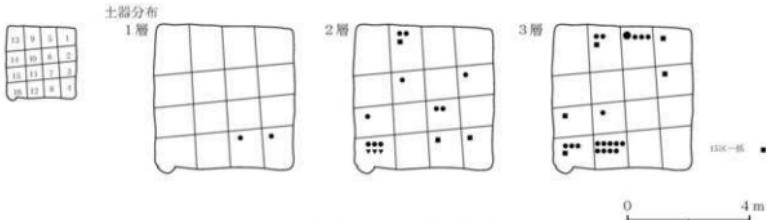
第109図 上西原1号埋設土器実測図



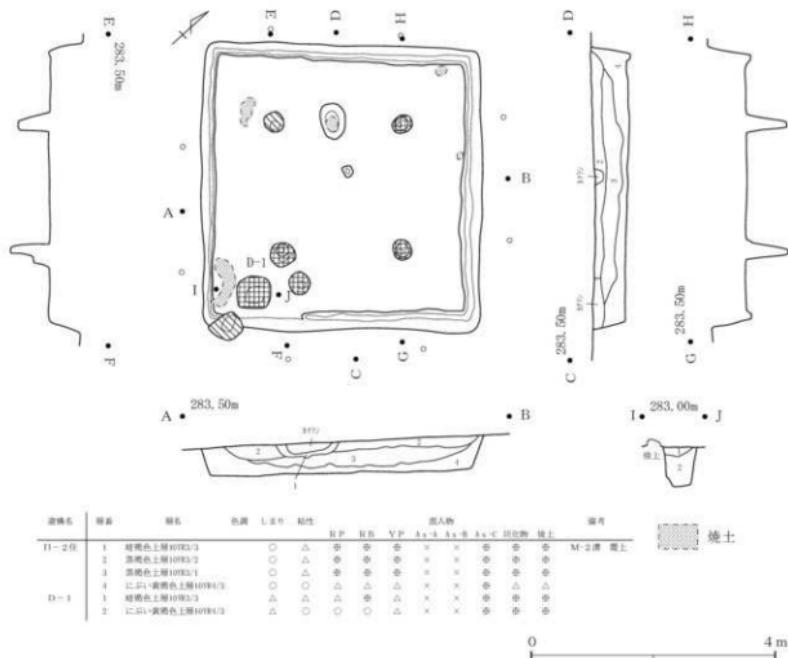
遺構名	層番	測量	色調	L.まき	粘性	測定物						備考	
						R.P.	R.B.	V.P.	k.s-A	k.s-B	k.s-C	回数	
H-1住	1	黒褐色土層10YR3/2	△	△	※	△	△	×	×	△	△	△	
	2	褐色土層10YR3/2	△	△	△	△	△	※	×	△	△	△	
	3	褐色土層10YR3/4	○	△	△	△	△	※	×	△	△	△	
	4	褐色土層10YR3/4	△ < 3	○	△	△	△	※	×	△	△	△	同様地
	5	褐色土層7.5YR3/4	○	△	△	△	△	※	×	△	○	△	同様地
	6	褐色土層7.5YR3/2	△	○	△	△	△	※	×	△	△	△	同様地
	7	褐色土層10YR3/2	△	△	※	△	△	※	×	△	△	△	同様地
D-E	2	褐色土層10YR3/4	△	○	△	△	△	△	×	△	△	△	同様地



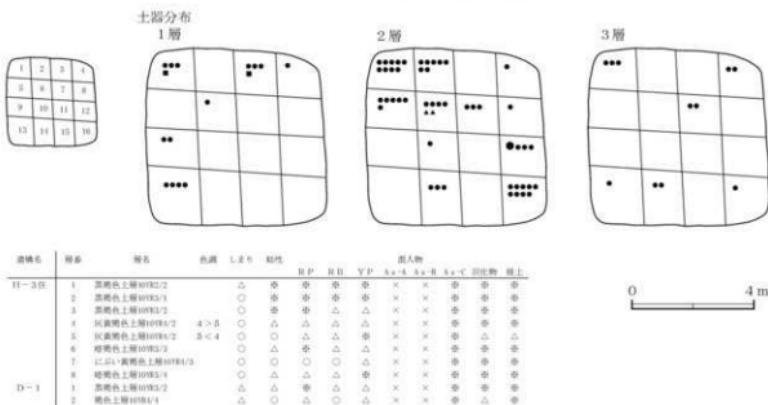
第110図 三本松H-1号住居址実測図



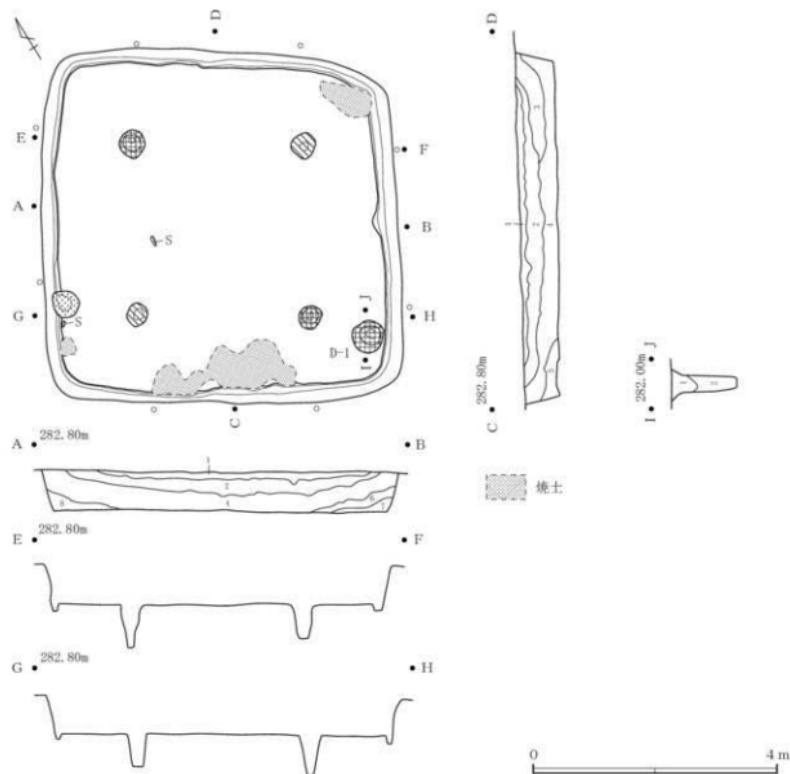
第111図 三本松H-2号住居址実測図(1)



第112図 三本松H-2号住居址実測図(2)



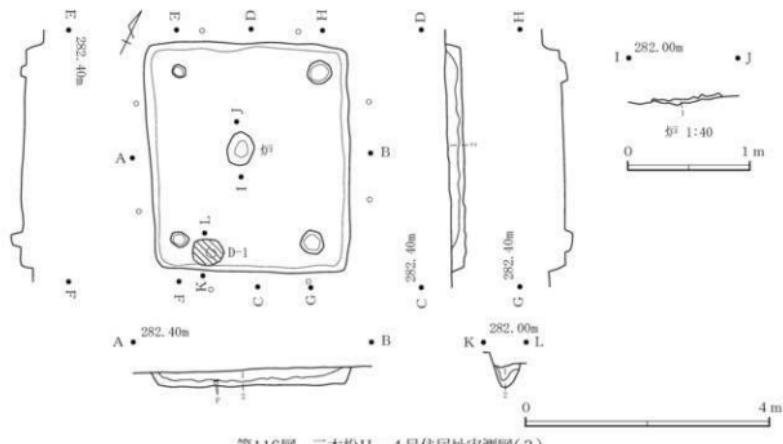
第113図 三本松H-3号住居址実測図(1)



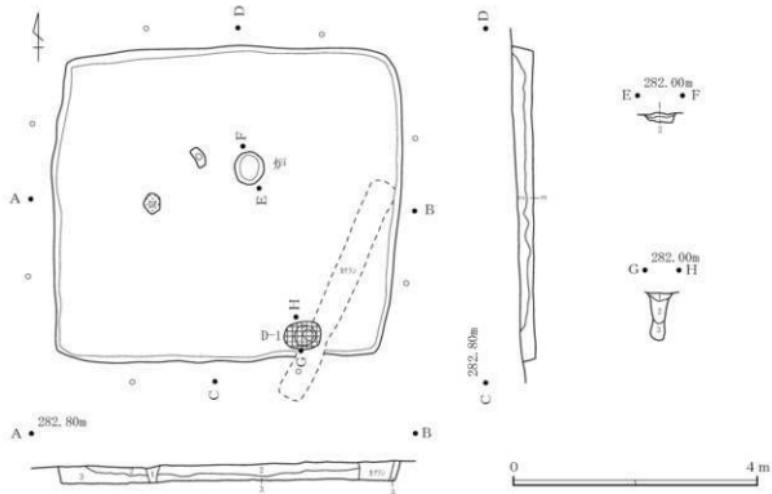
第114図 三本松H-3号住居址実測図(2)



第115図 三本松H-4号住居址実測図(1)

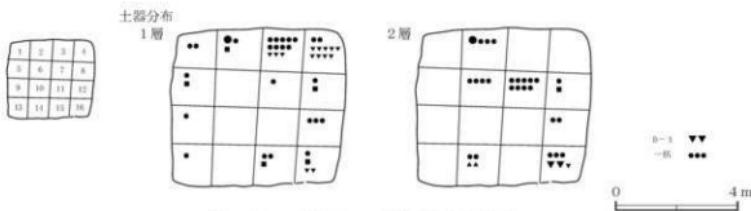


第116図 三本松H-4号住居址実測図(2)

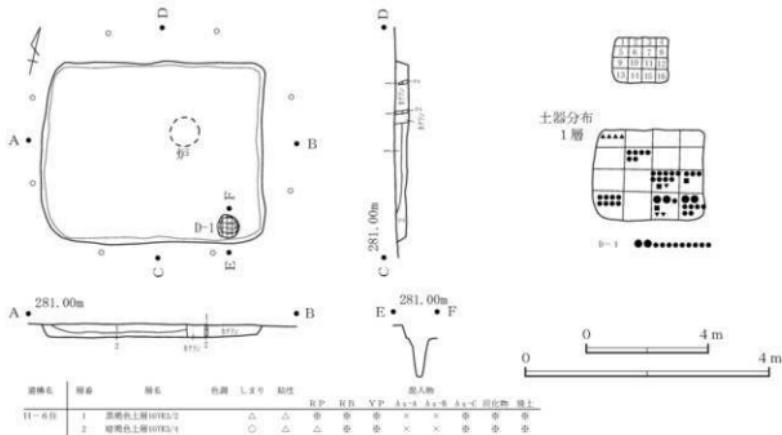


遺物名	層番	層名	色調	L.まき	粘性	埋入物						参考	
						H.P.	R.B.	V.P.	A.s-a	A.s-b	A.s-c	泥化物	
H-5住	1	黒褐色土層10W3/2	△	△	●	●	●	●	×	×	●	●	H-5住より削L.s+D.sトモ引退場
	2	同黒褐色土層10W3/2	△	△	●	●	●	●	×	×	●	●	H-5住 墓上
H-5	1	同黒褐色土層10W3/2	△	△	△	△	△	△	×	×	●	○	H-5住 墓上
	2	同黒褐色土層10W3/2	○	○	○	○	○	○	×	×	●	△	H-5住 墓上
D-1	1	黒褐色土層10W3/2	△	△	●	●	●	●	●	×	●	●	
	2	同黒褐色土層10W3/2	△	△	●	●	●	●	●	×	●	●	
	3	同黒褐色土層10W3/2	△	○	○	○	△	●	●	●	●	●	

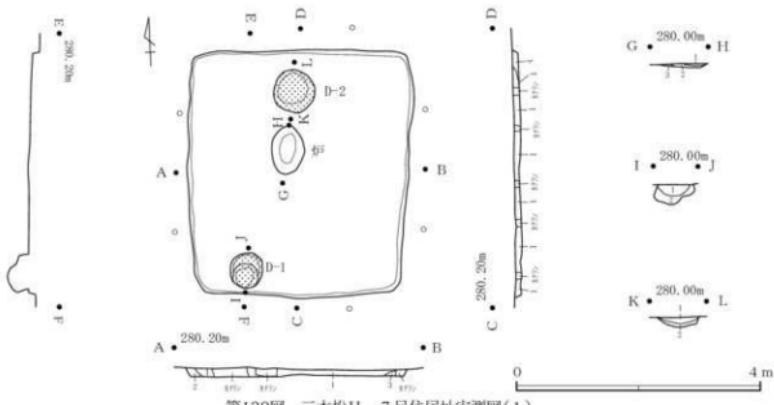
第117図 三本松H-5号住居址実測図(1)



第118図 三本松H-5号住居址実測図(2)



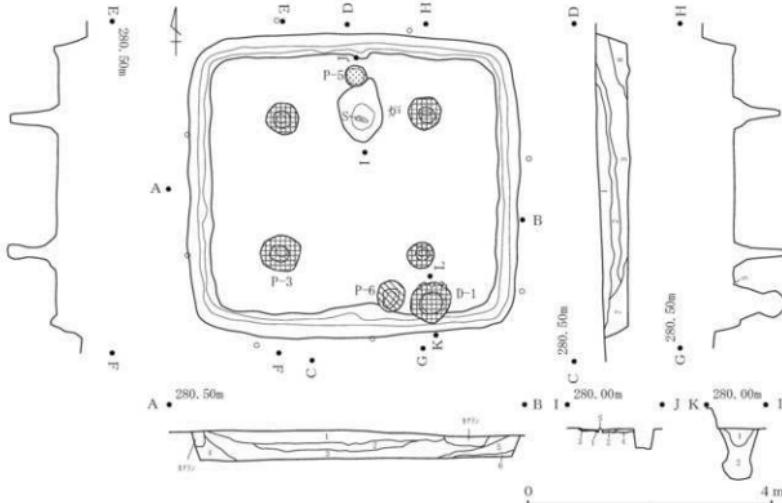
第119図 三本松H-6号住居址実測図



第120図 三本松H-7号住居址実測図(1)

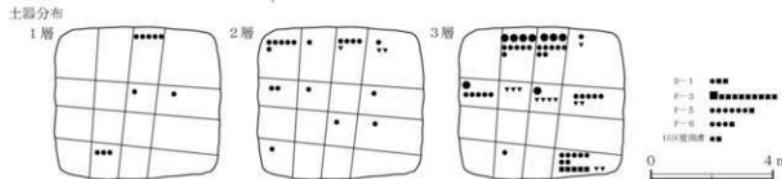


第121図 三本松H-7号住居址実測図(2)

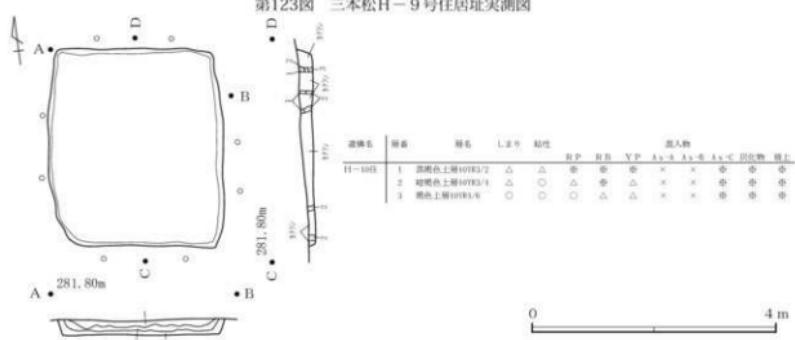
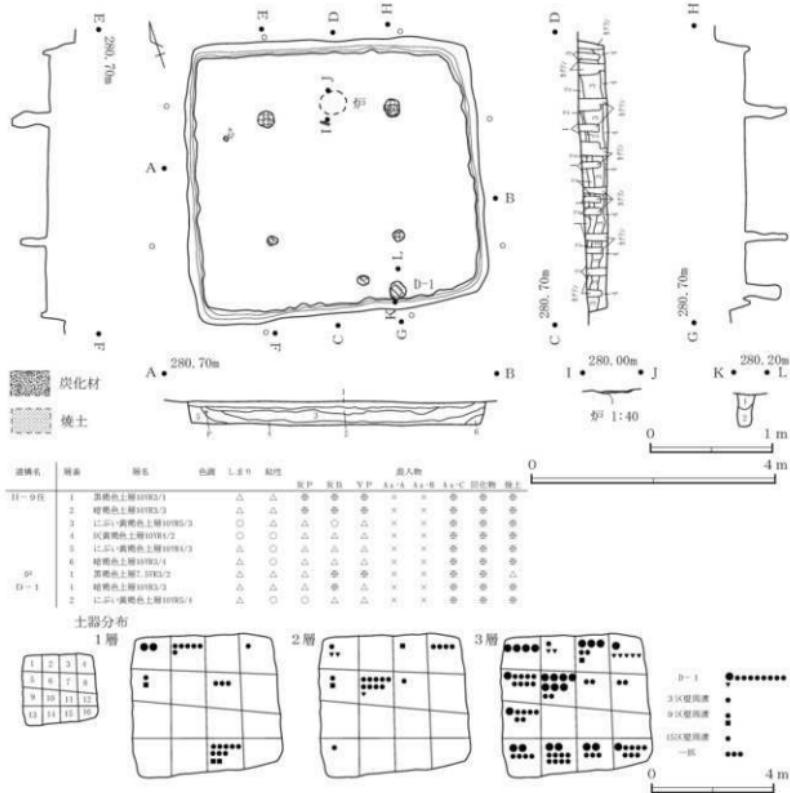


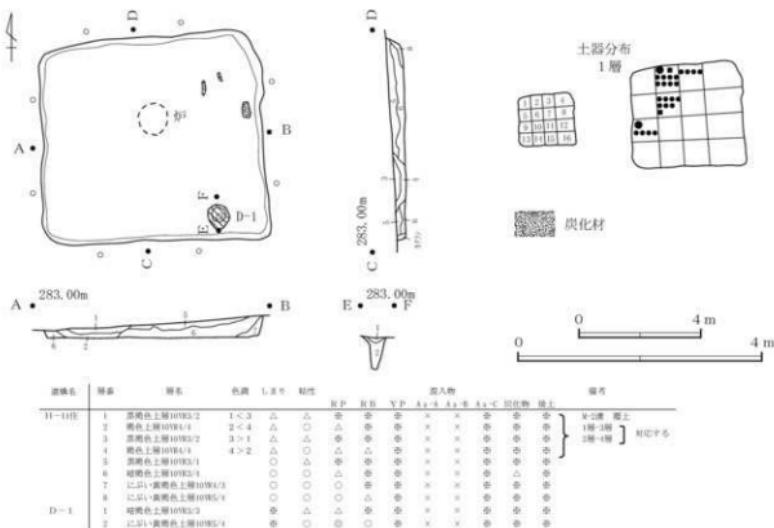
遺物名 | 順番 | 種名 | 色調 | L.S.性 | 特性 | R.P. | R.B. | Y.P. | $\Delta x - k$ | $\Delta x + k$ | $\Delta x - C$ | 同形物 | 植土

H-8-住	1	黒褐色土層10H3/1	2 > 4	△	△	Φ	Φ	x	x	x	Φ	Φ
	2	褐褐色土層10H3/3	2 < 4	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	3	褐褐色土層10H3/1	4 < 2	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	4	褐褐色土層10H3/2	4 < 2	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	5	褐褐色土層10H3/2	4 < 2	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	6	褐褐色土層10H3/3	4 < 2	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	7	灰褐色土層10H3/2	△	△	○	○	△	△	△	x	Φ	Φ
	8	褐褐色土層10H3/1	2 > 4	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	9	褐褐色土層10H3/3	2 > 4	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ
	10	褐褐色土層10H3/4	4 < 3	△	△	△	○	△	△	x	Φ	Φ
	11	灰褐色土層7.10H3/2	4 < 3	△	△	△	○	△	△	x	Φ	Φ
	12	灰褐色土層10H3/1	2 > 4	△	△	○	○	△	△	x	Φ	Φ

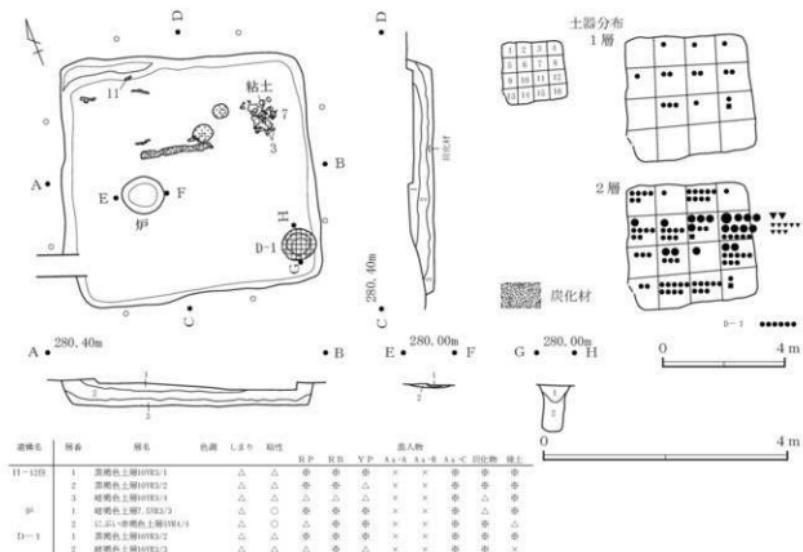


第122図 三本松H-8号住居址実測図

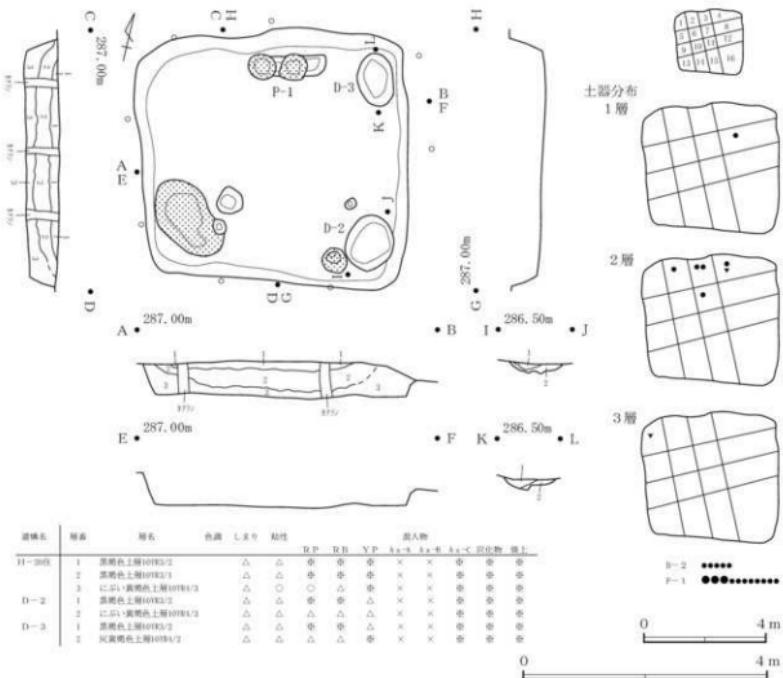




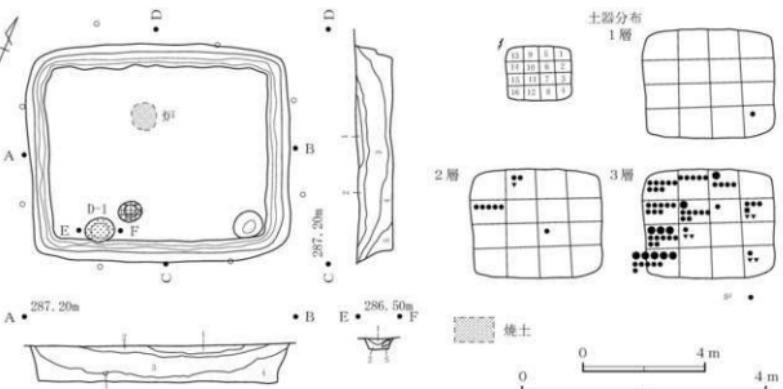
第125図 三本松H-11号住居実測図



第126図 三本松H-12号住居実測図



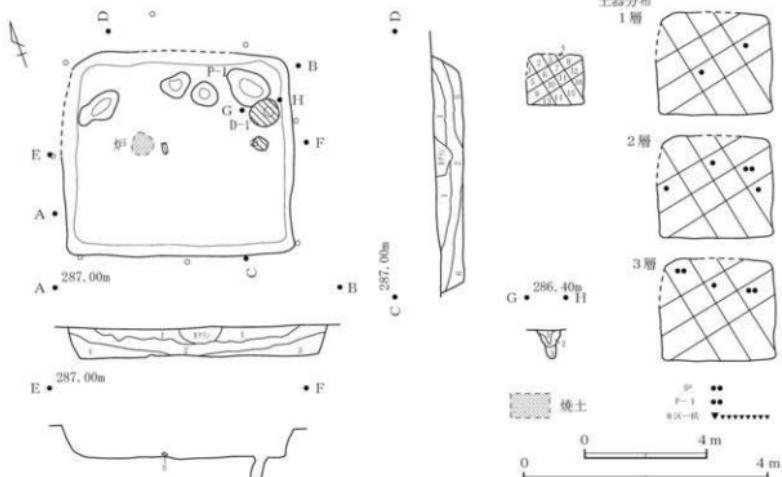
第127図 三本松H-20号住居址実測図



第128図 三本松H-21号住居址実測図(1)

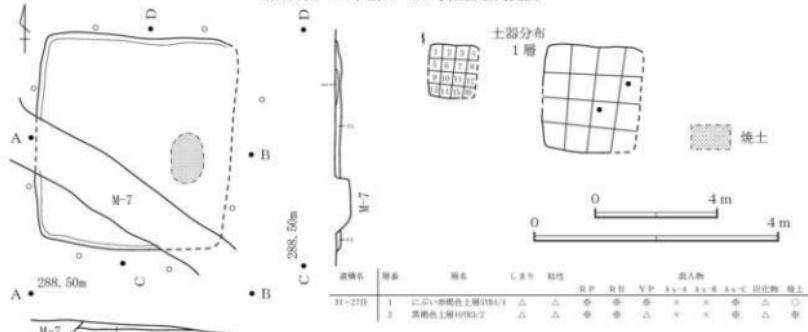
遺構名	番号	層名	色調	L.S.E	粘性	R.P	R.B	Y.P	土人物	田化物	地上
						△	△	△	A < B	A = B	A > C
H-21B	1	黒褐色土層10H3/6	△	△	△	○	△	△	×	×	●
	2	黒褐色土層10H3/1	△	△	△	●	●	●	×	●	●
	3	黒褐色土層10H2/1	△	△	△	●	●	●	×	●	●
	4	灰黃褐色土層10H1/2	△	△	△	●	●	●	×	●	●
D-1	1	灰黃褐色土層10H1/2	△	△	△	●	●	●	×	●	●
	2	灰黃褐色土層10H1/3	△	○	○	○	△	△	×	●	△

第129図 三本松H-21号住居址実測図(2)

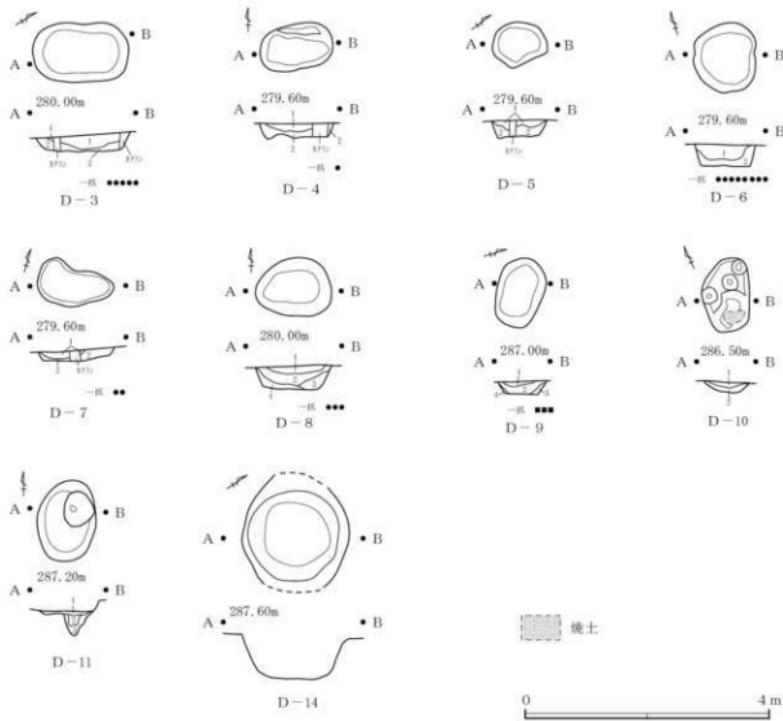


遺構名	番号	層名	色調	L.S.E	粘性	R.P	R.B	Y.P	土人物	田化物	地上
						△	△	△	A < B	A = B	A > C
H-22B	1	黒褐色土層10H3/1	△	△	△	●	●	●	×	●	●
	2	黒褐色土層10H3/3	△	△	△	●	●	●	×	●	●
	3	灰褐色土層10H3/2	△	△	△	△	△	△	×	●	●
	4	灰褐色土層10H2/2	△	△	△	△	●	●	×	●	●
	5	灰褐色土層10H2/3	△	△	△	△	●	●	×	●	●
D-1	1	灰褐色土層10H1/2	△	△	△	△	●	●	×	●	●
	2	灰褐色土層10H1/3	△	△	△	△	●	●	×	●	●
	3	灰褐色土層10H1/3	△	△	△	○	△	●	●	●	●

第130図 三本松H-22号住居址実測図



第131図 三本松H-27号住居址実測図



遺跡名	番号	縦名	横名	色調	しまり	粘性	素人測							
							R P	H B	Y P	1 + 2	1 + 3	1 + 4	1 + 5	1 + 6
D-3	1	黒褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	●	×	×	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3		△	△	△	●	●	●	×	●	●	●	●
D-4	1	黒褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	△	×	●	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3		△	△	△	●	●	△	×	●	●	●	●
D-5	1	暗褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	△	×	●	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3		○	△	△	●	●	△	×	●	●	●	●
D-6	1	暗褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	△	×	●	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3		○	△	△	●	●	△	×	●	●	●	●
D-7	1	暗褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	●	×	●	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3		○	△	△	●	●	●	×	●	●	●	●
D-8	1	暗褐色土層1003/2		△	△	△	●	●	△	×	●	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3	1 > 3	△	△	●	●	●	△	×	●	●	●	●
	3	暗褐色土層1003/2	3 < 1	△	△	●	●	●	△	×	●	●	●	●
D-9	1	暗褐色土層1003/1		△	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	黒褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-10	3	灰黃褐色土層1003/1		△	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	暗褐色土層1003/4		△	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●
	1	暗褐色土層1003/2		△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	暗褐色土層1003/3		△	△	●	●	●	△	●	●	●	●	●
D-11	3	灰黃褐色土層1003/2		△	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●

第132図 三本松古墳時代土坑実測図

縄文時代住跡地觀察表

住居名	位置	平面形態	規模(m)			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		柱穴	炉	壁溝	土器	石器		
三本松T-1住	A区4 F-158	楕円形	6.0	5.0	0.5	N-14 W	方形割引	不明	不明	○	○	諸機C	前庭住居か
上西原T-1住	S T-213	楕円形	3.8	3.2	0.4	N-31 E	不明	不明	不明	○	○	加賀利E III	遺物は中央に集中

凡例

遺物量 土器 ○: 1,000g以上 ◎: 1,000g未満

石器 ○: 30点以上 ◎: 30点未満

縄文時代土坑・埋設器等觀察表

土坑名	位置	規模(上端)			規模(下端)			深さ	平面形態	断面	遺物	時期	備考
		長軸	短軸	高さ	長軸	短軸	高さ						
三本松D-12	C区1 J-82	1.5	1.4	1.3	1.2	0.5	円形	C			縄文?		遺物無し
三本松D-13	C区1 K-82	1.0	0.9	0.7	0.5	0.7	円形	C			縄文?		遺物無し。M-9溝と重複。
三本松T-1	D区2 I-152	3.6	3.6	2.6	2.6	0.5	円形	C	※		前期中葉	M-6溝と重複。	
三本松1号埋設土器	C区1 Y-95	1.0	1.0	0.6	0.6	0.3	円形	B			加賀利E	正位にて埋設。	
上西原1号埋設土器	S U-211	1.8	1.8	1.6	1.6	0.8	円形	B	△		加賀利E	正位にて埋設。	

凡例

計測値の単位は(m) 「」記号は省略

平面形態 A: 底面が楕円形のもの B: 底面は凸面するが深いもの C: 底面は平坦で壁が傾斜する逆台形状のもの D: 底面は平坦で壁が直立する箱形のもの

遺物 土器 ※: 0 ~ 1,000g, △: 1,001 ~ 5000g, ○: 5,001 ~ 10,000g, ◎: 10,001g以上

石器・石製品 ※: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◎: 31点以上

古墳時代住居地觀察表

住居名	位置	平面形態			規模(m)			主軸方向	施設			遺物		時期	備考
		規模	長軸	短軸	規模	長軸	短軸		柱穴	主柱穴	炉	壁溝	土器	石器	
三本松H-1住	A区3 U-159	B	正方形	4.9	4.9	0.4	N-11 E	16区	4	6・7区	○	△	※	前期	焼失住居。
H-2住	A区3 R-157	B	正方形	4.6	4.6	0.6	N-5 W	13区	4	2区	○	※	※	中葉?	13区周辺に焼土。
H-3住	A区3 V-156	A	正方形	5.8	5.8	0.7	N-30 E	16区	4	×	○	※	※	前葉?	本遺跡内で最大。13 ~ 16区周辺に焼土。
H-4住	A区3 X-154	C	正方形	3.8	3.3	0.3	N-27 W	13・14区	4	6・7区	×	△	※	前期	
H-5住	A区3 Y-158	B	正方形	5.7	5.2	0.4	N-2 E	15・16区	4	7区	×	※	※	前葉?	
H-6住	A区4 F-157	C	正方形	3.6	3.0	0.2	N-14 W	16区	4	7区	×	※	※	前葉?	布留撲出土。
H-7住	A区4 K-157	C	正方形	4.1	3.6	0.2	N-1 E	13・14区	4	6区	×	△	※	前葉?	
H-8住	A区4 L-161	B	正方形	5.6	5.0	0.6	N-1 W	16区	4	2・3区	○	△	※	中葉?	竪穴の縁に円溝を配置。
H-9住	A区4 H-158	B	正方形	4.7	4.7	0.5	N-3 E	15区	4	2・3区	○	△	※	前葉?	
H-10住	A区4 D-161	D	正方形	3.2	2.9	0.3	N-4 E	×	×	×	×	×	×	前葉?	竪穴状遺構。
H-11住	A区3 V-162	C	正方形	3.5	3.5	0.3	N-1 W	16区	4	7区	×	※	※	前葉?	焼失住居か。M-2溝に切られれる。
H-12住	A区4 L-154	C	正方形	4.2	3.8	0.4	N-1 E	16区	4	10区	×	△	※	前葉?	焼失住居か。
H-20住	D区2 E-137	C	正方形	4.3	4.3	0.6	N-16 W	4	4	5区	×	×	※	前葉?	竪穴に上板・ピット焼出。M-10溝と重複。
H-21住	D区2 C-129	C	正方形	4.3	3.6	0.6	N-26 W	16区	4	10区	○	△	※	前葉?	住居内各所の断面が変形的。通常であれば竪穴六・13区、割合=6区に相当。
H-22住	D区2 C-137	C	正方形	3.6	3.4	0.5	N-17 E	12区	4	10区	×	※	※	前葉?	住居内西側を斜めに設定。
H-27住	C区1 M-83	C	正方形	3.5	3.3	0.2	N-3 E	4	4	12区?	×	※	※	前葉?	M-7溝に切られる。

凡例

「」記号は省略

平面形態 規模 長軸×短軸の値 A: 30以上, B: 20以上; 30未満, C: 20未満, D: 10未満

形態 長軸倍数の四方全周長と短軸倍数のそれとの差が、住居全周長の何%になるかによって分類した。

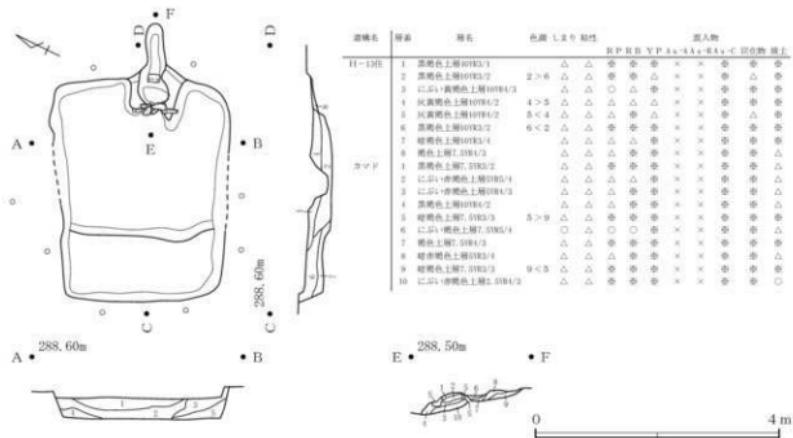
長方形: 25%以上, 正方形: 25%未満

壁溝 ○: 壁仕切り溝を作るもの, △: 壁溝のみ, ×: 壁溝なし

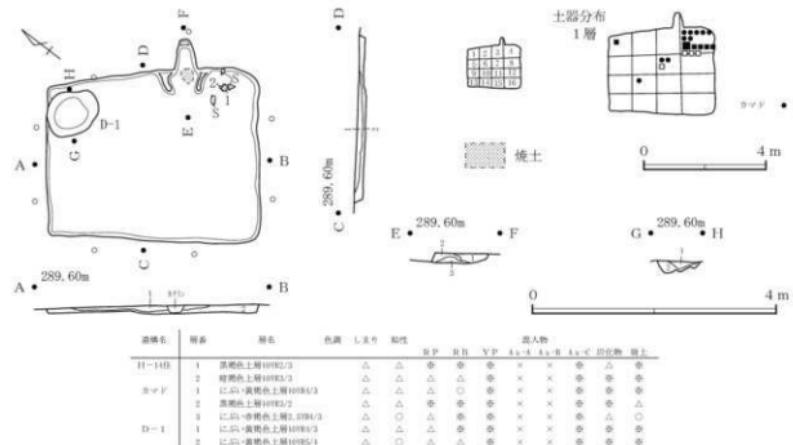
遺物 土器 ※: 1 ~ 1,000g, △: 1,001 ~ 5000g, ○: 5,001 ~ 10,000g, ◎: 10,001g以上

石器・石製品 ※: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◎: 31点以上

第28表 人見三本松・上ノ原・上西原遺跡遺構観察表(1)



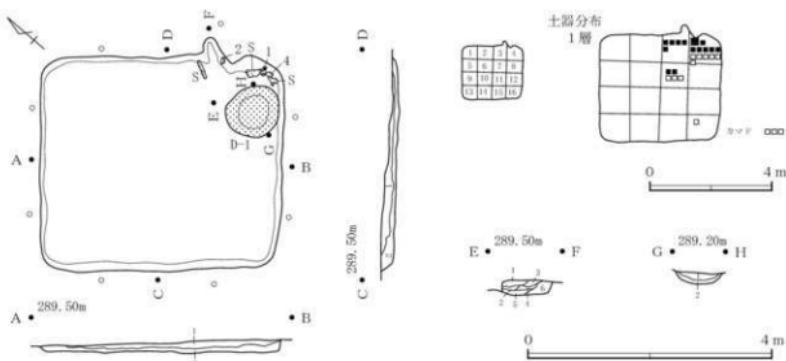
第133図 三本松H-13号住居址実測図



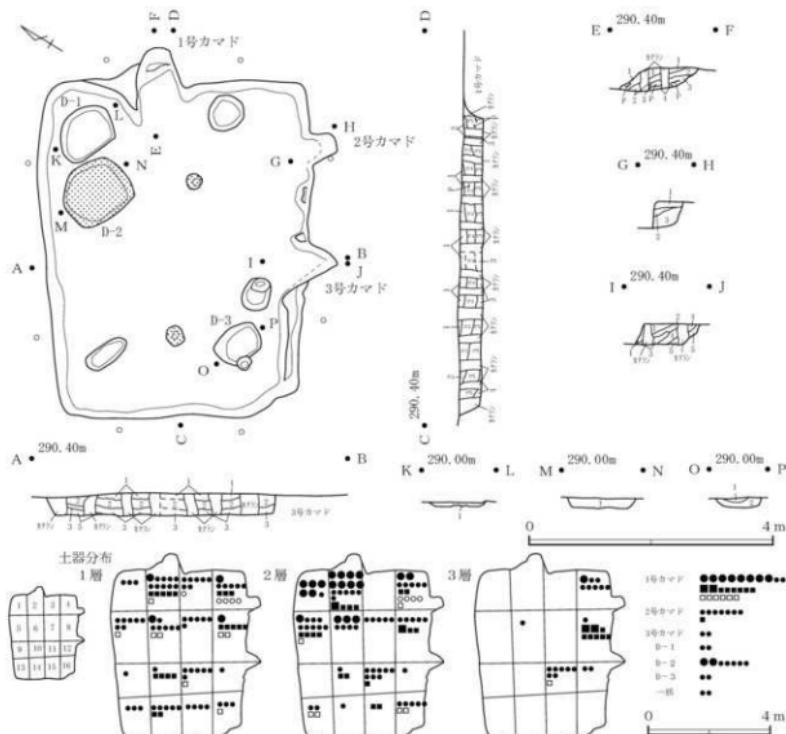
第134図 三本松H-14号住居址実測図

遺構名	番号	番名	色調	しまり	粒性	測入人物
H-14B	1	黒褐色土層10H5/2	△	△	●	R P R B Y P Ax-4 Ax-5 Ax-6 Ax-7
	2	黒褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	3	△-5 黄褐色土層10H5/3	△	△	△	● X X X ● ● ●
	4	黒褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	5	△-5 黑褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	6	△-5 黄褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	7	黒褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	8	△-5 黄褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	9	△-5 黑褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	10	△-5 黄褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	11	△-5 黑褐色土層10H5/2	△	△	△	● X X X ● ● ●
	12	△-5 黄褐色土層10H5/2	△	△	○	● X X X ● ● ●
	13	△-5 黑褐色土層10H5/2	△	△	○	● X X X ● ● ●
	14	△-5 黄褐色土層10H5/2	△	△	○	● X X X ● ● ●
	15	△-5 黑褐色土層10H5/2	△	△	○	● X X X ● ● ●
	16	△-5 黄褐色土層10H5/2	△	△	○	● X X X ● ● ●

第135図 三本松H-15号住居址実測図(1)



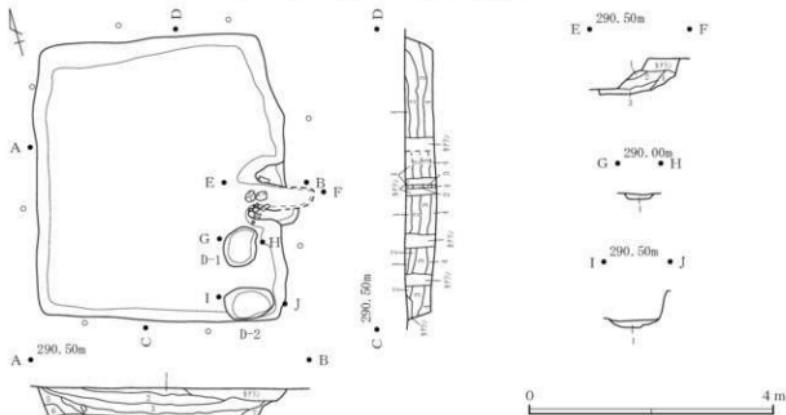
第136図 三本松H-15号住居址実測図(2)



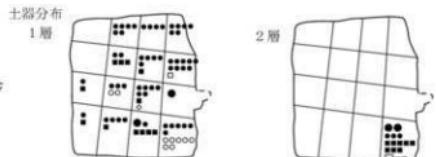
第137図 三本松H-16号住居址実測図(1)

遺構名	番号	層番	色調	しまり	粒性	出土物								地上
						R.P	R.B	V.P	A+K	A+B	A+C	四化物	地上	
H-16住	1	黒褐色土層10YR5/1	△	△	●	●	●	●	×	×	×	●	●	●
	2	黒褐色土層10YR5/2	△	△	●	●	●	●	×	×	×	●	●	●
	3	暗褐色土層10YR5/3	△	△	●	●	●	●	×	×	●	●	●	●
	4	○:灰・黄褐色土層10YR4/3	△	○	△	△	●	●	×	●	●	●	●	●
	5	○:灰・黄褐色土層10YR4/4	△	○	△	●	●	●	×	●	●	●	●	○
1号カマド	1	褐色土層10YR4/1	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	褐色土層10YR4/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	△
	3	○:灰・黄褐色土層10YR4/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2号カマド	1	褐色土層10YR4/2	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	褐色土層10YR4/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	○:灰・黄褐色土層10YR4/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3号カマド	1	褐色土層10YR4/2	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	褐色土層10YR4/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	○:灰・黄褐色土層10YR4/4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
D-1	1	褐色土層10YR5/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-2	1	褐色土層10YR5/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-3	1	黒褐色土層10YR5/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	褐褐色土層10YR5/4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

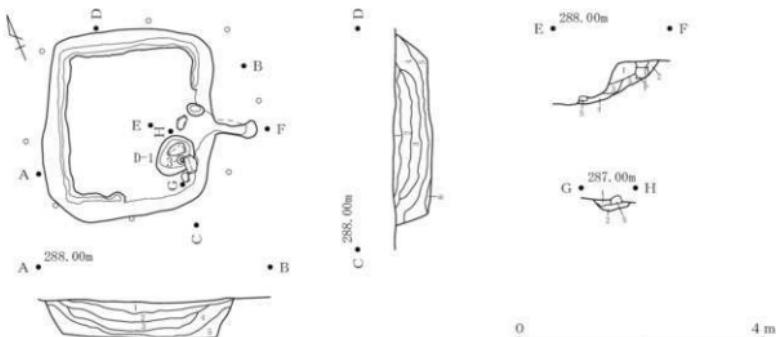
第138図 三本松H-16号住居址実測図(2)



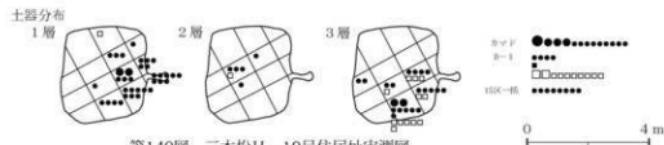
遺構名	番号	層番	色調	しまり	粒性	出土物								地上
						R.P	R.B	V.P	A+K	A+B	A+C	四化物	地上	
H-17B	1	暗褐色土層10YR5/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	黒褐色土層10YR5/1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	黒褐色土層10YR5/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	暗褐色土層10YR5/4	△	△	●	△	△	●	●	●	●	●	●	●
	5	○:灰・黄褐色土層10YR5/1	△	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	6	○:灰・黄褐色土層10YR5/3	△	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	7	褐色土層10YR5/2	△	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カマド	1	褐色土層10YR4/1	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	褐色土層10YR4/2	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	○:灰・黄褐色土層10YR4/1	○	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	○:灰・黄褐色土層10YR4/3	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-1	1	○:灰・黄褐色土層10YR4/9	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-2	1	黒褐色土層10YR5/1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●



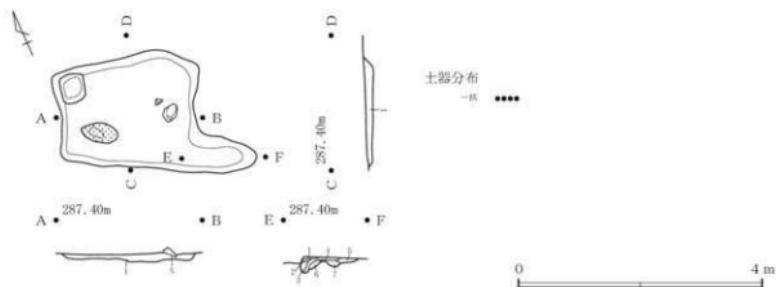
第139図 三本松H-17号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	Lまり	粒性	器入物							
						R.P	R.B	V.P	A3-A	A3-B	A3-C	溶化物	焼土
H-19住	1	黒褐色土層100K3/3	△	●	中	●	●	●	○	●	●	●	●
	2	黒褐色土層100K3/1	△	●	中	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	黒褐色土層100K2/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	黒褐色土層100K2/3	△	△	●	●	●	●	△	●	●	●	●
	5	黒褐色土層100K2/4	△	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	6	焼土上層100K3/3	△	○	●	△	●	●	●	●	●	●	●
玄戸口	1	黒褐色土層100K3/3	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	黒褐色土層100K3/4	○	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	15K-1 黒褐色土層100K3/4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	15K-2 黒褐色土層100K3/4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-1	1	15K-3 黒褐色土層100K3/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	15K-4 黒褐色土層100K3/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●

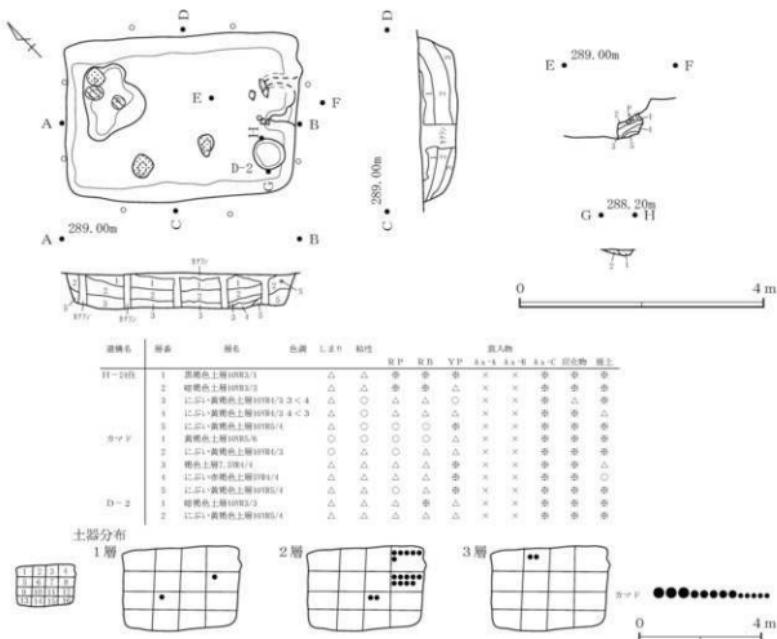


第140図 三本松H-19号住居址実測図

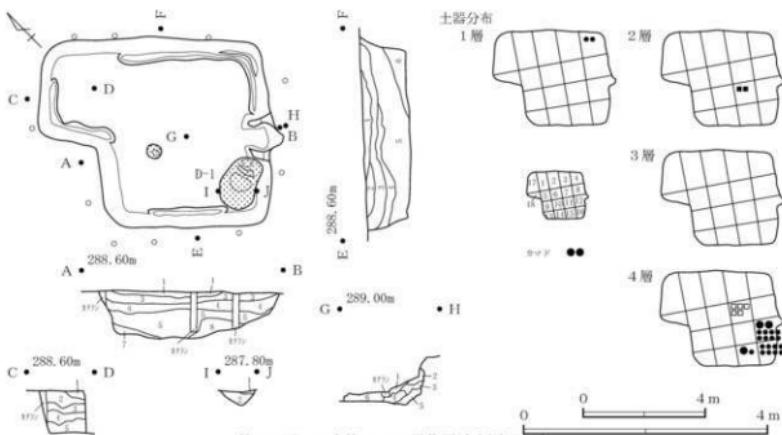


遺構名	層番	層名	色調	Lまり	粒性	器入物							
						R.P	R.B	V.P	A3-A	A3-B	A3-C	溶化物	焼土
H-23住	1	黒褐色土層100K3/2	△	△	△	●	●	●	×	●	●	●	●
玄戸口	2	黒褐色土層100K3/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	黒褐色土層100K3/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	暗赤褐色土層100K3/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	5	暗赤褐色土層100K3/3	△<7	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	6	焼土層100K3/3	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	7	焼土層100K3/3	T>7	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●

第141図 三本松H-23号住居址実測図



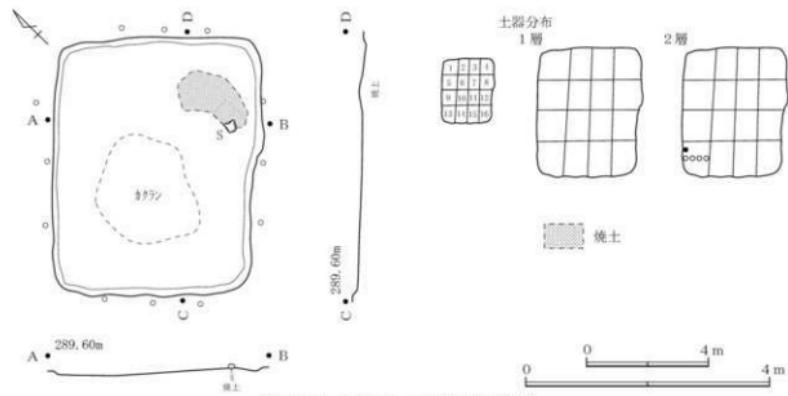
第142図 三本松H-24号住居址実測図



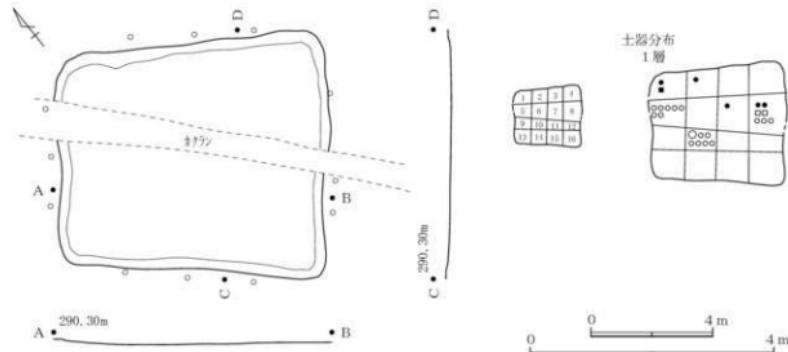
第143図 三本松H-25号住居址実測図(1)

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	測定人物									
						R	P	N	Y	P	Ay-3	Ay-8	Ay-9	田作物	植土
H-25住	1	黄褐色土層10F3/2	1 > 2	△	△	●	●	●	●	×	×	×	●	●	●
	2	○-○-黄褐色土層10F3/1-2 < 8	△	△	○	△	△	△	△	×	●	●	●	●	●
	3	黄褐色土層10F3/4	△	△	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●
	4	○-○-黄褐色土層10F3/3	△	△	△	△	△	△	△	×	●	●	●	●	●
	5	灰黃褐色土層10F3/2	△	△	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●
	6	褐褐色土層10F3/1	△	△	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●
	7	○-○-褐褐色土層10F3/0	7 < 1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	8	○-○-褐褐色土層10F3/4-2 < 2	△	△	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●
	1	褐褐色土層10F3/4-1 > 3	2 < 4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	褐褐色土層10F3/4-3 < 1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
御山七面	4	灰黃褐色土層10F3/2-4 < 2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	5	褐褐色土層10F3/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	1	灰黃褐色土層10F3/0	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	○-○-灰黃褐色土層10F3/2	2 < 4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	褐褐色土層10F3/4	3 < 1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	4	灰黃褐色土層10F3/2	4 < 2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	5	○-○-褐褐色土層10F3/2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	1	灰黃褐色土層10F3/0	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	○-○-灰黃褐色土層10F3/2	2 < 4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3	○-○-褐褐色土層10F3/4	3 < 1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カマド	4	灰黃褐色土層10F3/2	4 < 2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	5	○-○-褐褐色土層10F3/2	5 < 2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D-1	1	褐褐色土層10F3/2	6 < 2	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2	褐褐色土層10F3/4	6 < 4	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

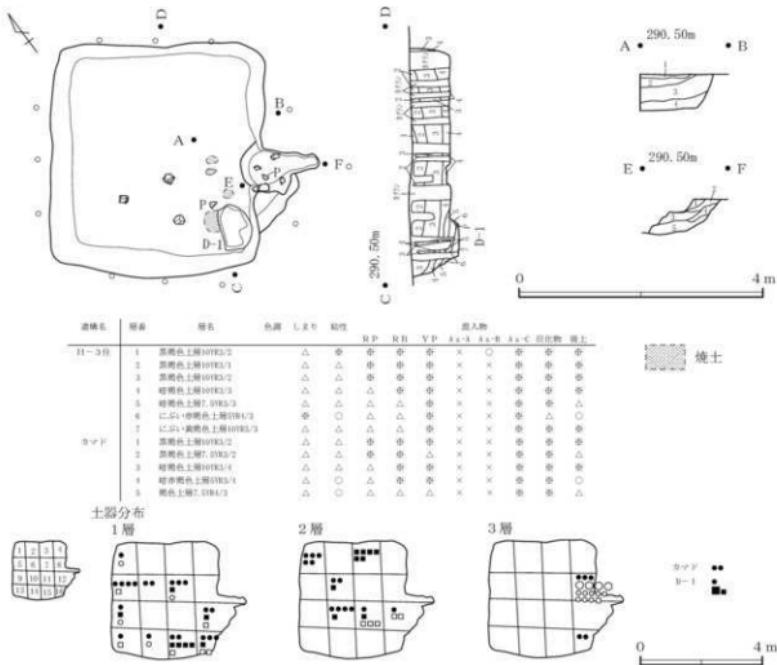
第144図 三本松H-25号住居址実測図(2)



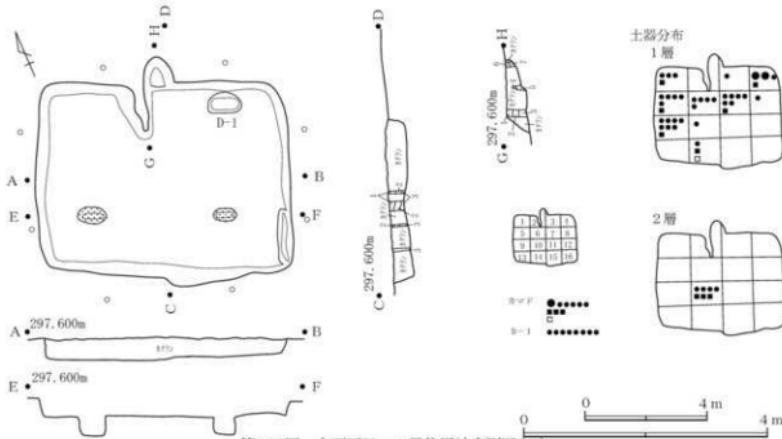
第145図 上ノ原H-1号住居址実測図



第146図 上ノ原H-2号住居址実測図



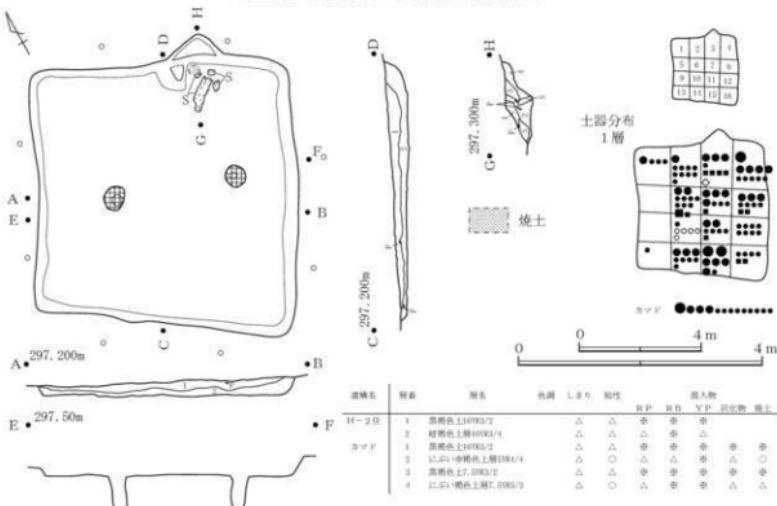
第147図 上ノ原H-3号住居址実測図



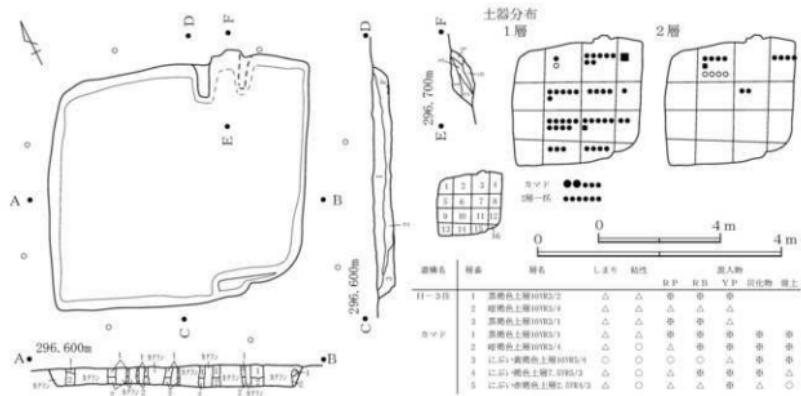
第148図 上西原H-1号住居址実測図(1)

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	R.P	R.B	V.P	鉄物	土
H-1住	1	黒褐色土層10YR3/2	△	△	●	●	●	●	●	●
	2	黄褐色土層10YR4/2	△	○	△	△	△	△	●	●
ガマド	3	暗褐色土層10YR3/3	△	△	●	●	●	●	●	●
	4	黒褐色土層10YR3/2	△	△	●	●	●	●	●	●
	5	黄褐色土層10YR5/4	○	△	△	△	△	△	●	●
	6	黒褐色土層10YR5/1	3>5	○	○	○	○	○	●	●
	7	黄褐色土層10YR5/2	3<3	△	○	△	△	△	●	●
	8	明褐色土層10YR5/6	△	○	○	○	○	○	●	●
	9	黒褐色土層10YR6/6	△	○	○	○	○	○	●	●

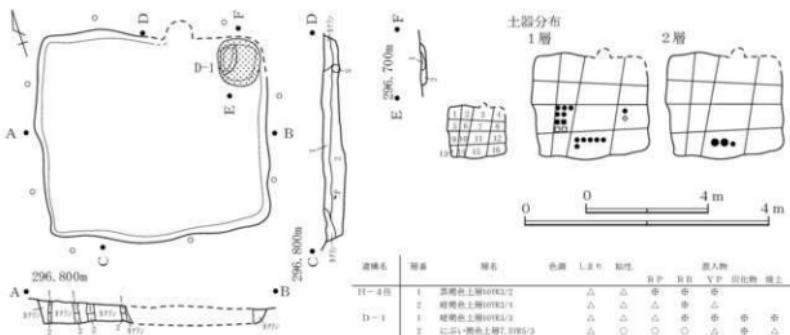
第149図 上西原H-1号住居址実測図(2)



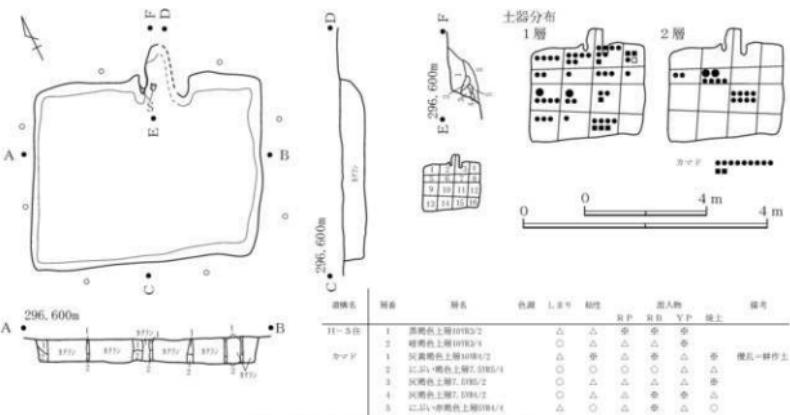
第150図 上西原H-2号住居址実測図



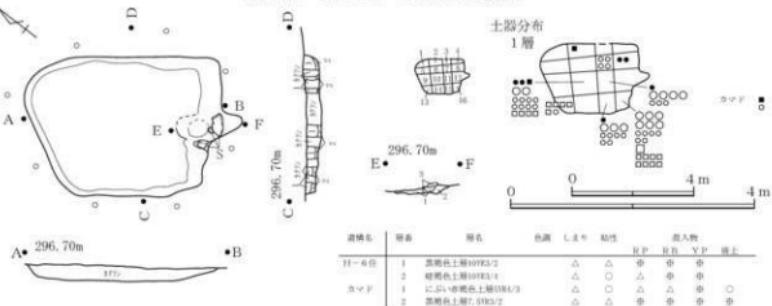
第151図 上西原H-3号住居址実測図



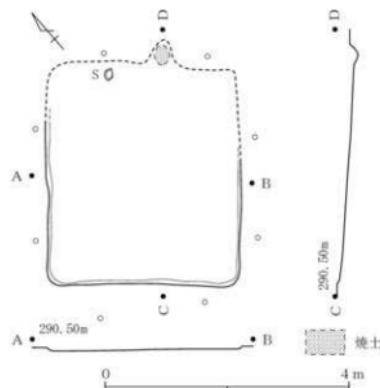
第152図 上西原H-4号住居址実測図



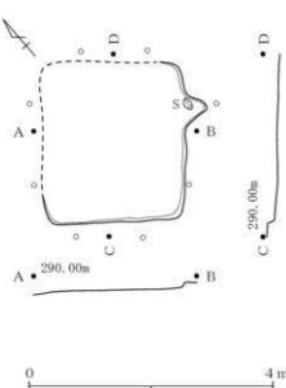
第153図 上西原H-5号住居址実測図



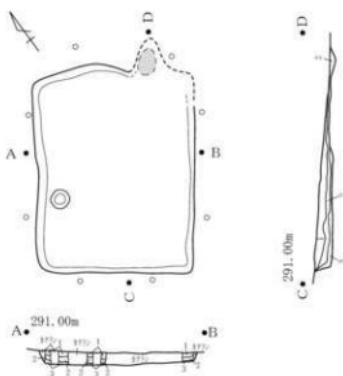
第154図 上西原H-6号住居址実測図



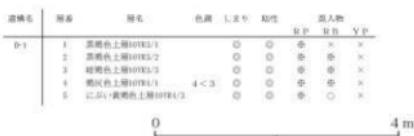
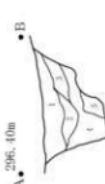
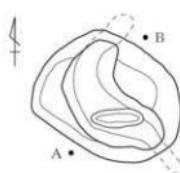
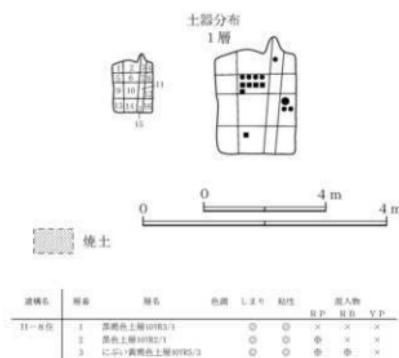
第155図 上西原H-7号住居址実測図



第156図 上西原H-9号住居址実測図



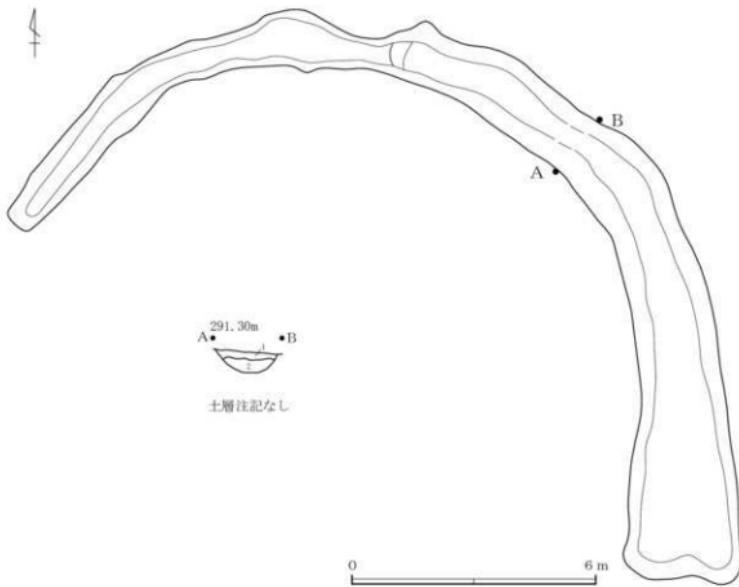
第157図 上西原H-8号住居址実測図



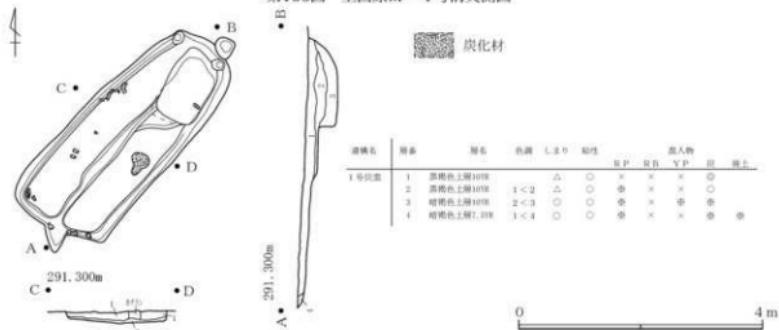
第158図 上西原D-1号土坑実測図



第159図 三本松M-4号溝実測図



第160図 上西原M-4号溝実測図



第161図 上西原1号炭窯実測図

古代住居址観察表

住居名	位置	平面形態			規模 (m)		主軸方向	施設			遺物		時期	備考	
		規模	面積	長軸	短軸	深さ		防風穴	土柱穴	カマド	壁溝	土師	石器		
三本松 H - 13 住	CIK 1 F - 79	C	正方形	3.7	3.0	0.4	N-64-E	×	×	3区	×			古代	床面は中央西寄りにて段差を有す。
H - 14 住	CIK 1 J - 68	C	正方形	3.5	2.9	0.2	N-52-E	×	×	3区	×	◆		古代	
H - 15 住	CIK 1 G - 66	C	正方形	4.0	3.5	0.3	N-50-E	4区	×	3区	×	◆		古代	
H - 16 住	CIK 1 L - 64	B	正方形	5.5	4.4	0.4	N-56-E	5区	×	2, 4, 8区	×	△		9世紀	本道跡内で最大。東寄りに1, 南側に2基のカマドを有す。
H - 17 住	CIK 1 Y - 101	D	正方形	4.7	4.1	0.6	N-106-E	×	×	12区	×	◆		9世紀	堆土上位にAs-B堆積。
H - 19 住	CIK 2 A - 131	D	正方形	2.2	1.9	0.2	N-110-E	15区	×	16区	○	◆		9世紀	在居内各区を斜めに設定。M-1溝を切る。
H - 23 住	DIK 2 Q - 53	C	長方形	4.0	2.7	0.6	N-134-E	12区	×	8区	×	◆	◆	8世紀	住居内各区の設定なし。
H - 24 住	FIK 2 Q - 51	C	L字形	3.8	3.1	0.7	N-136-E	16区	×	12区	○	◆		古代	西側に張出部を有す。
上ノ原 H - 1 住	2H - 264	C	正方形	4.2	3.4	0.1	N-45-E	×	×	3区	×	◆		古代	東寄り状遺構。北東コナーに填土。
H - 2 住	2Q - 259	C	正方形	4.5	4.1	0.1	N-36-E	×	×	3区	×	◆		古代	軒穴状遺構。プラン不明瞭。
H - 3 住	2P - 261	C	正方形	3.8	3.5	0.6	N-128-E	16区	×	8区	×	△	◆	9世紀	三本松 H-18 住付近。堆土上位にAs-B堆積。
上西原 H - 1 住	4J - 160	C	正方形	4.2	3.3	0.4	N-21-E	3 + 4区	×	2区	×	◆	◆	8世紀	中南寄り、2基のピットが東方に显示。
H - 2 住	4P - 165	C	正方形	4.5	4.2	0.4	N-28-E	×	×	3区	×	○	◆	8世紀	中北付近、2基のピットが東西に显示。
H - 3 住	4V - 170	C	正方形	4.0	4.0	0.4	N-25-E	×	×	3区	×	◆	◆	8世紀	
H - 4 住	4W - 175	C	正方形	3.8	3.4	0.4	N-15-E	4区	×	3区	×	◆		8世紀	
H - 5 住	5A - 179	C	正方形	3.8	3.0	0.4	N-25-E	×	×	2, 3区	×	△		8世紀	
H - 6 住	5F - 192	D	長方形	3.1	2.3	0.3	N-144-E	×	×	12区	×	△		10世紀	本道跡内で最も新しい。
H - 7 住	4R - 219	C	正方形	3.5	3.1	0.1	N-39-E	×	×	北東	×			古代	住居内各区の設定なし。
H - 8 住	4T - 220	D	正方形	3.3	2.6	0.3	N-35-E	×	×	3区	×	◆	◆	古代	
H - 9 住	4W - 229	D	正方形	2.6	2.4	0.1	N-132-E	×	×	南東	×			古代	住居内各区の設定なし。

凡例

「」記印は省略

平面形態 規模 長軸×短軸の値 A : 30以上, B : 20以上~30未満, C : 20未満, D : 10未満

形態 短軸値の四方全周長と短軸値でのそれとの差が、住居全周長の何%になるかによって分類した。

長方形: 25%以上, 正方形: 25%未満

現溝 ○: 間仕切り溝を有するもの, □: 壁溝のみ, ×: 壁溝なし

遺物 土器 ◆: 1 ~ 1,000g, △: 1,001 ~ 5,000g, ○: 5,001 ~ 10,000g, ◇: 10,001g以上

石器・石製品 ◆: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◇: 31点以上

古代上坑・炭窯観察表

土坑・炭窯名	位置	規模 (上端)		規模 (下端)		深さ	平面形態	断面	遺物		時期	備考
		長軸	短軸	長軸	短軸				土器	石器		
上西原 D-1	4P - 152	2.5	1.8	1.7	0.6	1.0	橢円形	C			古代	遺物無し
上西原 1号開窯	4O - 213	4.0	1.7	1.2	0.7	0.4	楕丸長方形				古代	M-2溝を切る。堆土上位に多量の焼成材などを含む。

凡例

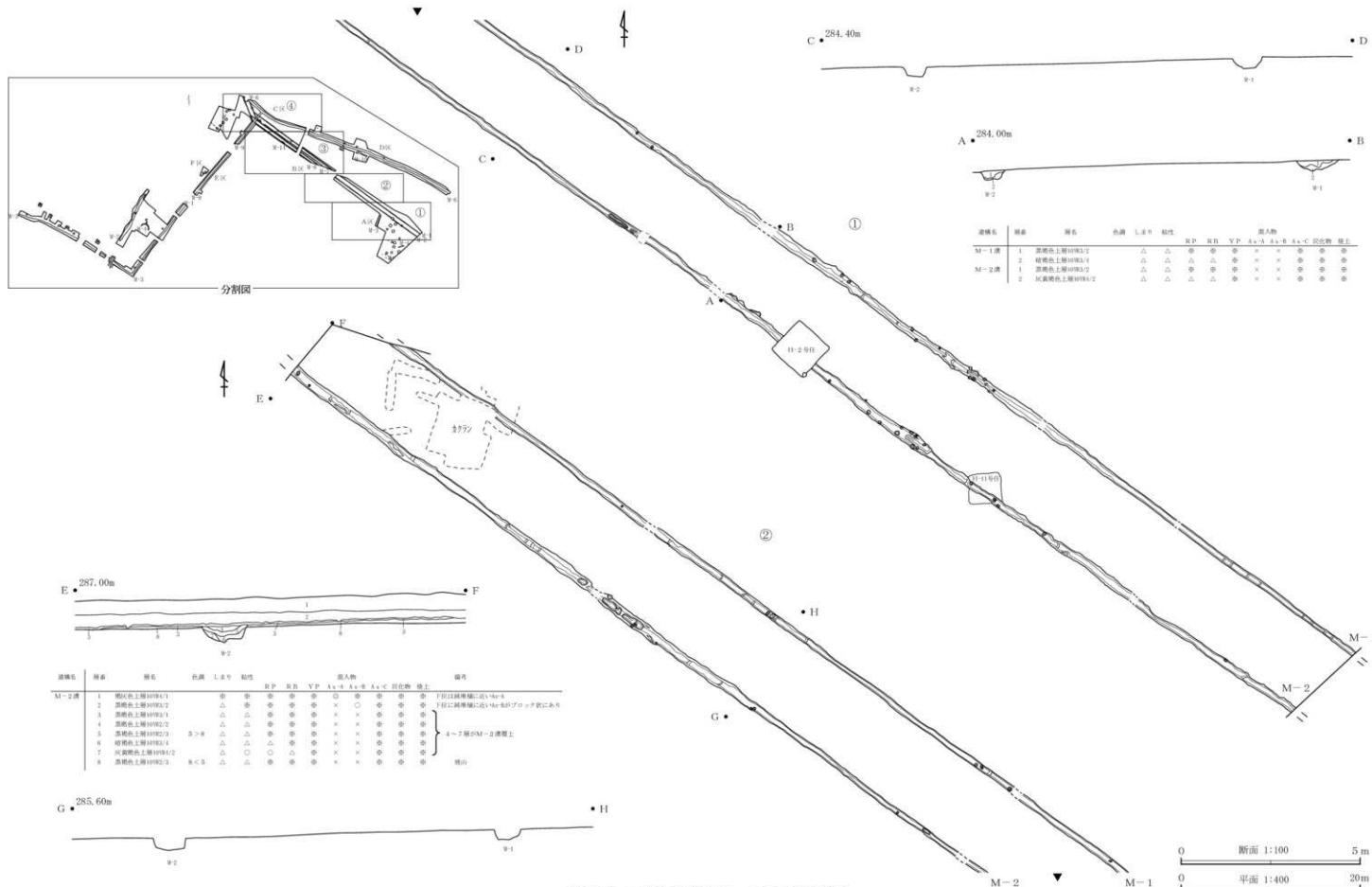
計測値の単位は (m)

平面形態 A : 底面が複形のもの B : 底面は凸曲がりを有するもの C : 底面は平坦で壁が傾斜する逆円形のもの D : 底面は平坦で壁が直立する矩形のもの

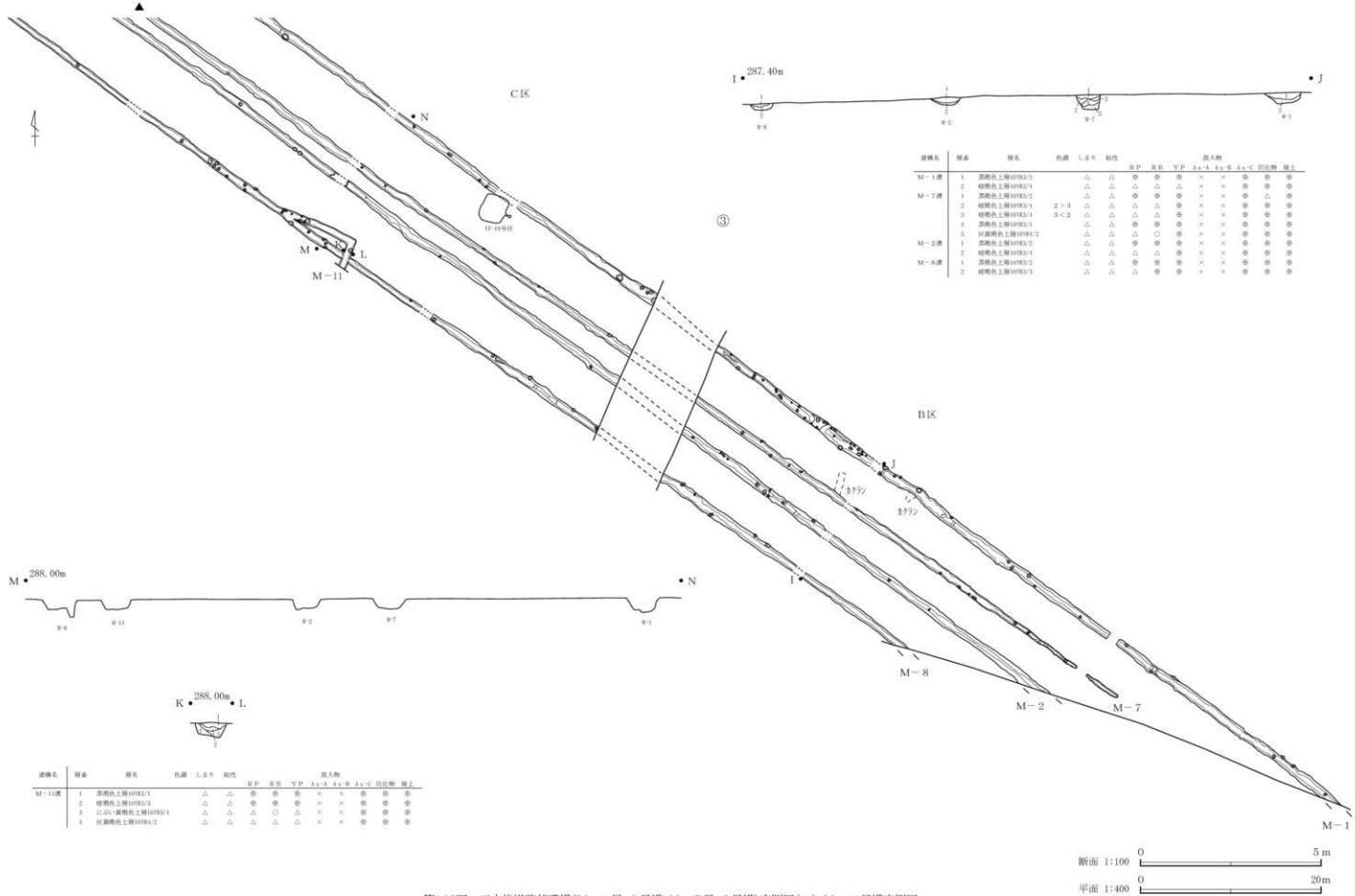
遺物 土器 ◆: 1 ~ 1,000g, △: 1,001 ~ 5,000g, ○: 5,001 ~ 10,000g, ◇: 10,001g以上

石器・石製品 ◆: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◇: 31点以上

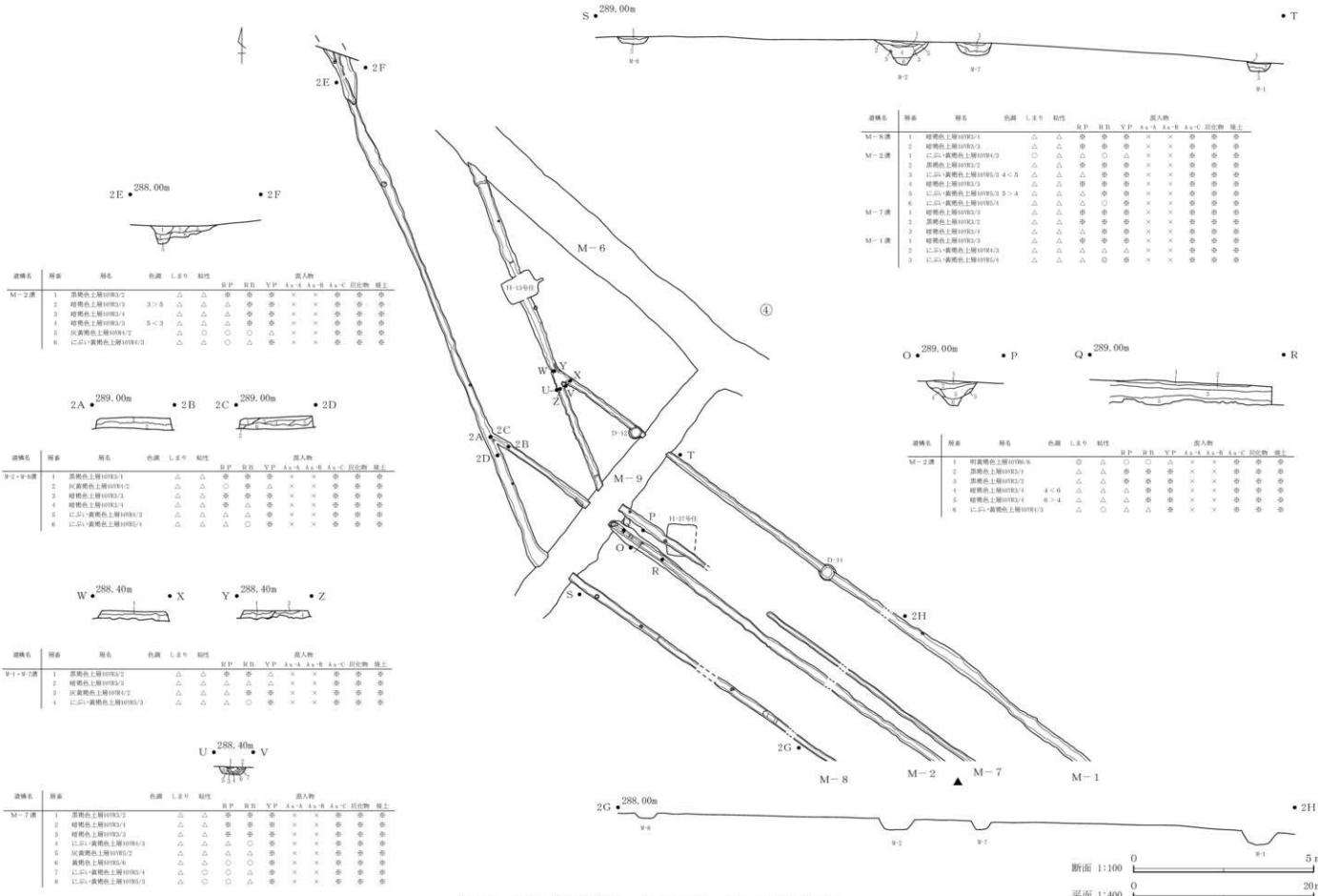
第 29 表 人見三本松・上ノ原・上西原遺跡構造観察表 (2)



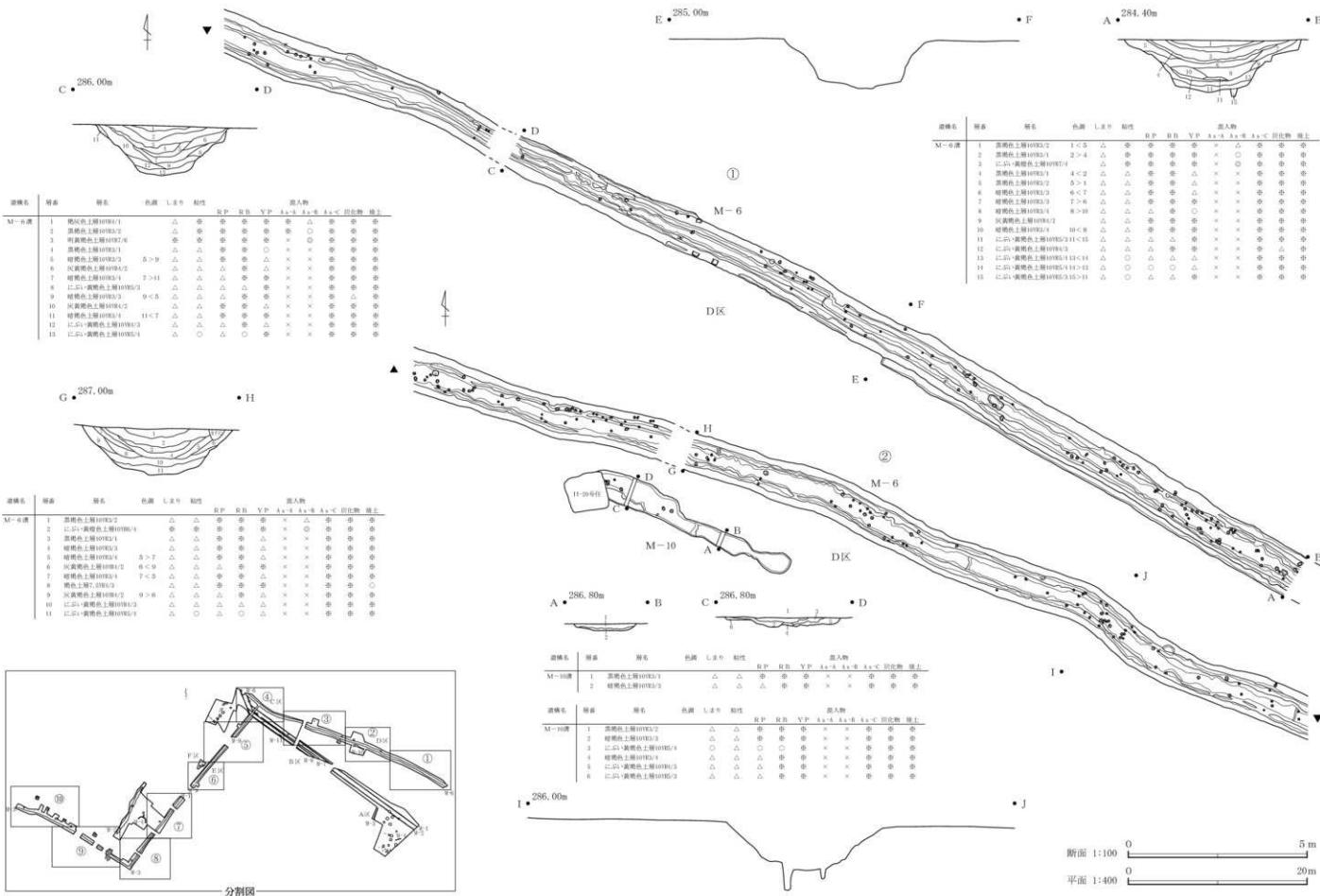
第162図 三本松道路状遺構(M-1号・2号溝)実測図



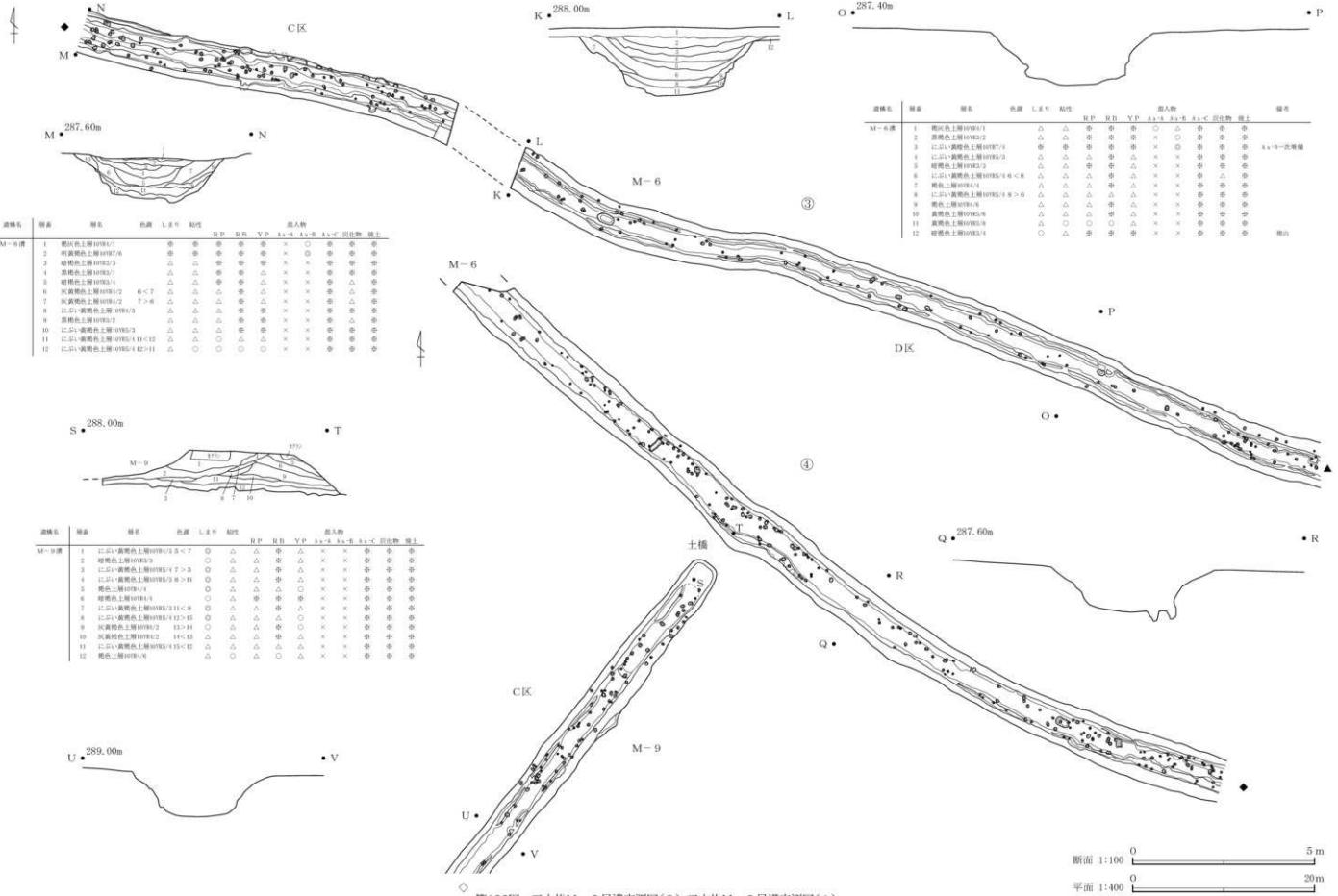
第163図 三本松道路状遺構(M-1号・2号溝,M-7号・8号溝)実測図(1)、M-11号溝実測図



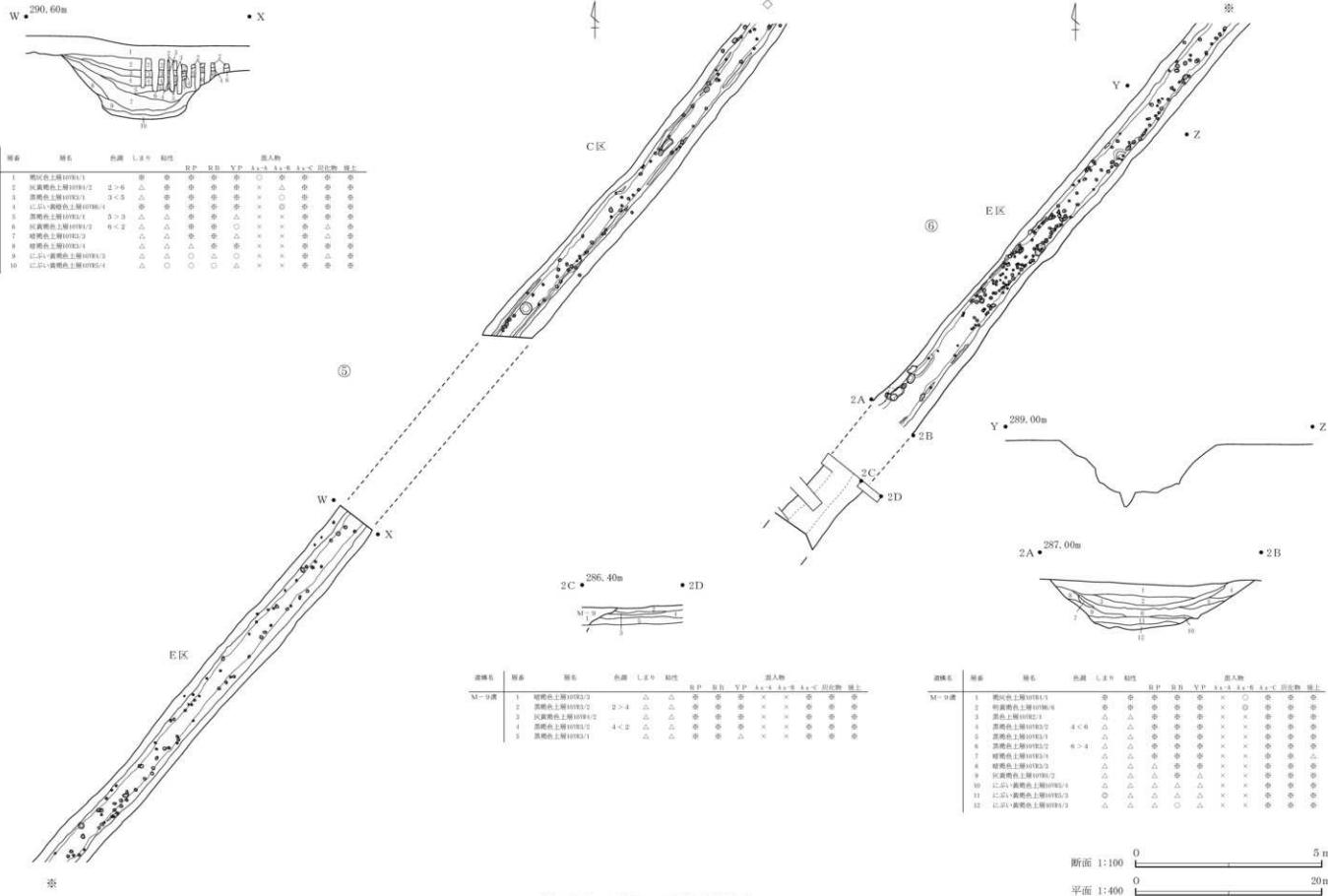
第164図 三本松道路状構(M-1号・2号溝、M-7号・8号溝)実測図(2)



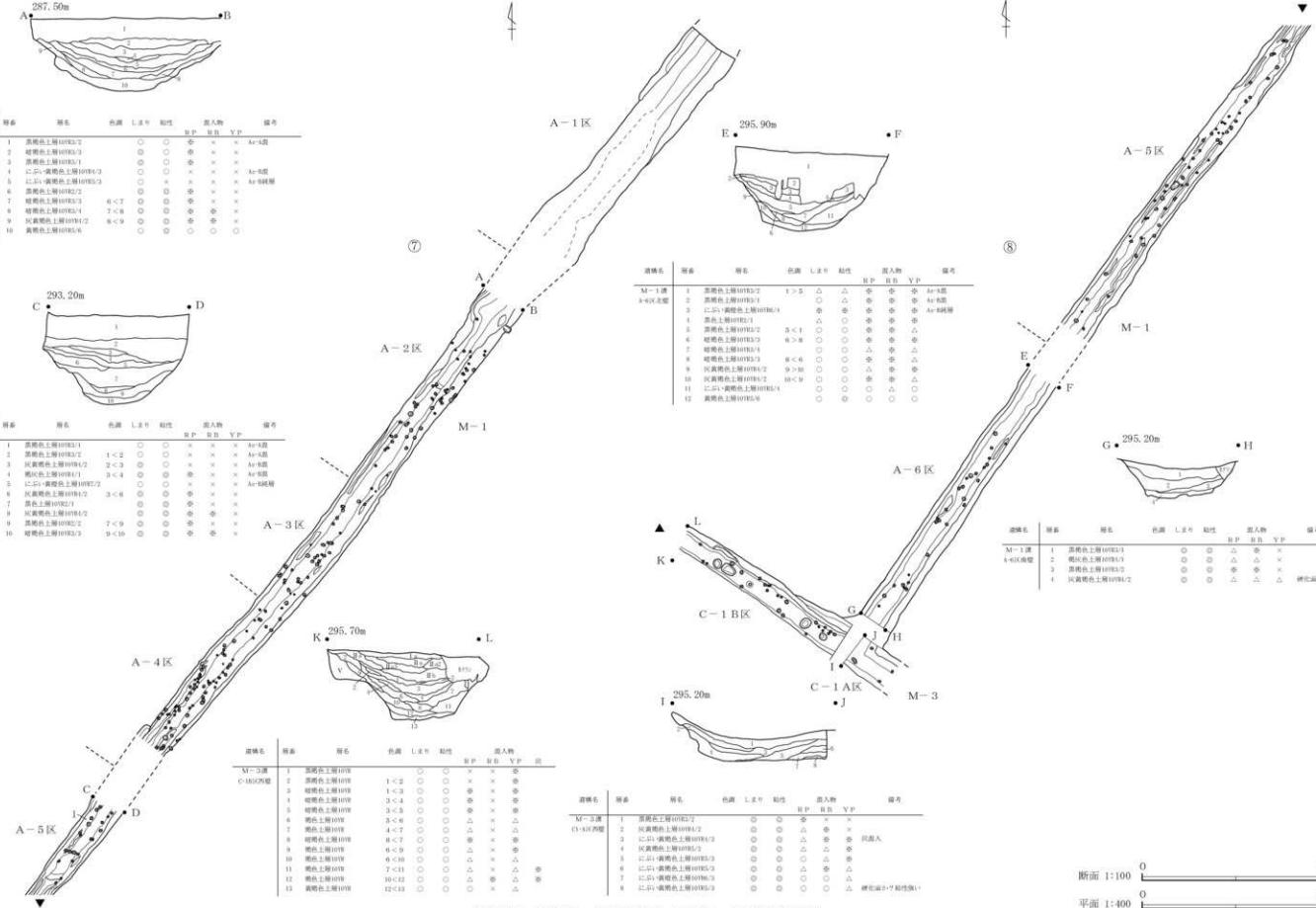
第165図 三本松M-6号溝実測図(1),M-10号溝実測図



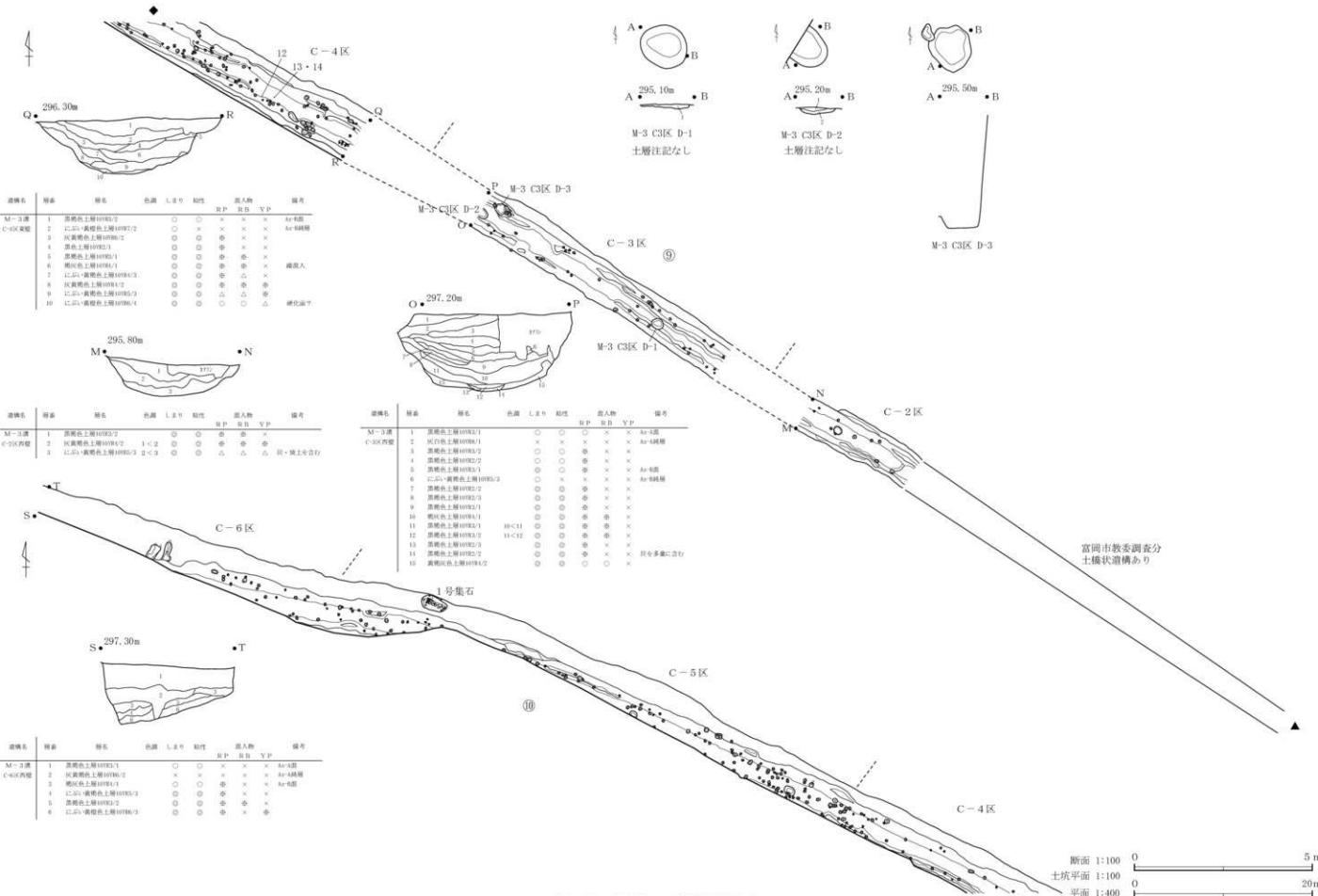
第166図 三本松M-6号溝実測図(2)、三本松M-9号溝実測図(1)



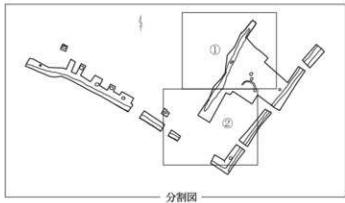
第167図 三本松M-9号溝実測図(2)



第168図 上西原M-1号溝実測図・上西原M-3号溝実測図(1)

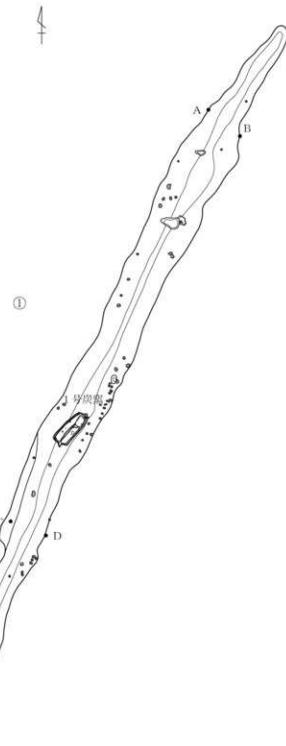


第169図 上西原M-3号溝実測図(2)



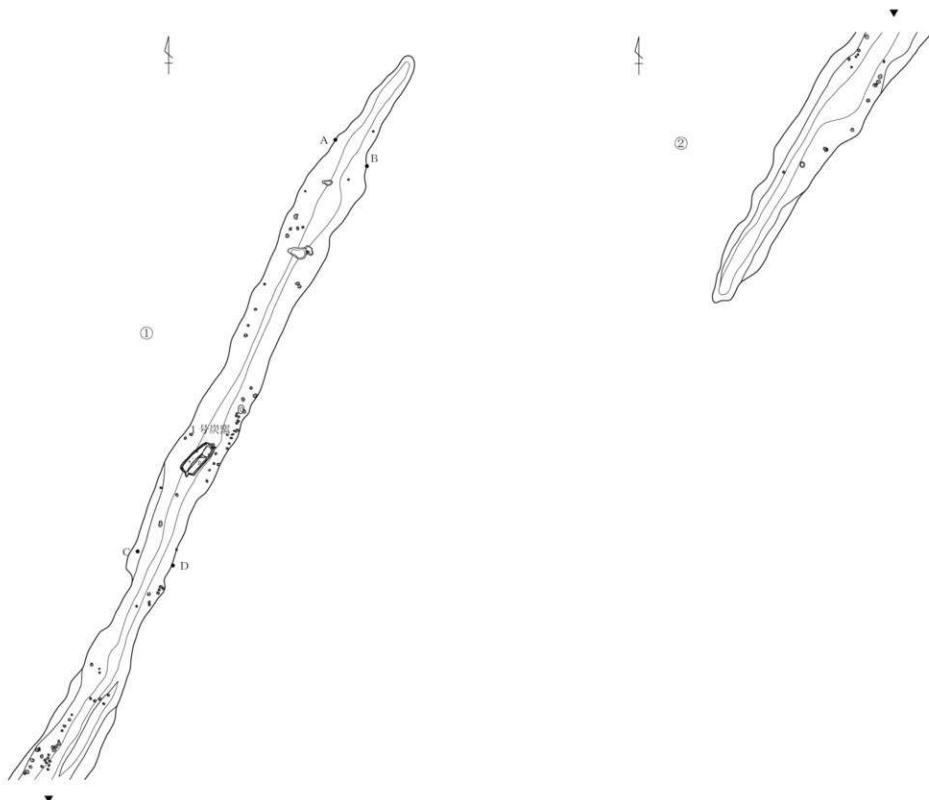
A 289.40m B

岩相名	層番	層名	色調	L.生り	粘性	固人物	固B	固C	Y.P.	備考
M-2層	1	黒褐色土層1003.7	○	○	●	×	×	+	+	Ar-6段層
中間(△-△)	2	12.25+黒褐色土層1007.2	○	○	●	×	×	+	+	Ar-6段層
	3	12.25+黒褐色土層1008.1	○	○	●	×	+	+	+	
	4	褐色土層1008.1	○	○	●	+	+	+	+	
	5	3)(黒褐色土層1008.7	○	○	●	+	+	+	+	



C 292.10m D

岩相名	層番	層名	色調	L.生り	粘性	固人物	固B	固C	Y.P.	備考
M-2層	1	黒褐色土層1003.7	○	○	●	+	+	+	+	Ar-6段
中間(△-△)	2	12.25+黒褐色土層1007.2	○	○	●	+	+	+	+	
	3	12.25+黒褐色土層1008.1	○	○	●	+	+	+	+	
	4	黒褐色土層1008.1	○	○	●	+	+	+	+	
	5	3)(黒褐色土層1008.7	○	○	●	+	+	+	+	



第170図 上西原M-2号溝実測図

断面 1:100 0 5m
平面 1:400 0 20m

(6) 中世・近世の遺構

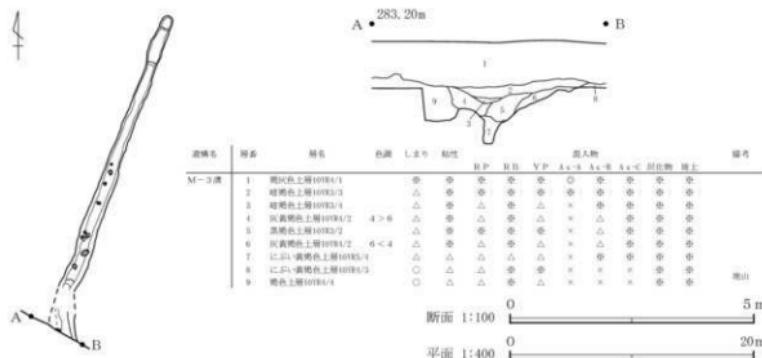
1. 溝跡

三本松A区M-2溝の南側で、約27mにわたり南北方向の溝（M-3溝）を検出した。溝の南側は調査区外まで延びているため、全形は不明である。全体的にはほぼ直線状を呈すが、調査区南端付近でやや東側へ方向を変えている可能性もある。約25m東側に古墳時代の集落が展開しており、これらに関連する区画溝とも考えたが、覆土下部に至るまでA s-Bが混入することから中世の所産と判断した。

2. 集石

上西原C区南端のM-3溝北側で集石遺構を検出した。M-3溝と重複し、本集石の方が新しい。平面橢円形の土坑中に人頭大の自然石を平坦面が上向きになるように並べ、一部の隙間を粘土で埋めている。出土遺物はないが、覆土より近世の所産と判断した。

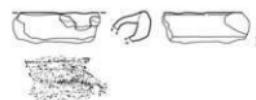
(7) 遺構・遺物の実測図



第171図 三本松M-3号溝実測図



第172図 上西原1号集石実測図



第173図 上西原遺構出土遺物実測図

古代溝観察表

遺構名	位置	断面形態	規模(m)			時期	遺物		備考
			全長 <残存>	幅	深さ		土器	石器等	
三本松M-4溝	三本松A区 4H-162他	浅いV形	=14.0-	1.0	0.1	古代			底部は部分的に硬化している。道路跡か。
上西原M-4溝	上西原 4U-220他	半円形	=25.0-	2.7	0.5	古代			性格不明。吉墳の荒瀬あるいは古代の平地式建物の痕跡とも考えられる。
三本松M-1・2溝 (1号道路状遺構)	三本松 A・B・C区	浅いV形	<550.0-	0.7~ 1.0	0.5	古代	※		約10mの距離を保ち併行する直線状の溝。走行方向はN 53°-W。
三本松M-7・8溝 (2号道路状遺構)	三本松B・C区	浅いV形	<180.0-	0.9~ 1.0	0.5	古代			約10mの距離を保ち併行する直線状の溝。走行方向はN 54°-W。1・2号道路状遺構はC区(西端)にて合流し、その後両走行方向はN 53°-W。
三本松M-6溝 (K区溝)	三本松C・D区	箱型または U字形	<500.0-	3.0~ 5.0	1.0~ 2.0	古代	※		覆土上位から中位にかけてAs-Bが引出し堆積し、中位から下位は炭化物を含む。台地北縁において検出され、地形に沿うように若干蛇行する傾向がある。
三本松M-9溝 (=上西原M-1溝) (南北X溝)	三本松C・E区 上西原A区	箱型または U字形	450.0	3.0~ 5.0	1.0~ 2.0	古代	△		溝の形状や覆土上の堆積状況は「台地北縁の三本松M-6溝」と同様である。本溝は台地北縁のM-6溝と南側の上西原M-3溝とをつなぐように並行して走る。M-6溝との連結部分付近に土器の堆積がある。なお、土器上面は堆積層の硬化面である。覆土中の遺物として土器類、遺物群の基部にはAs-Bを含むものも本溝の南端(=上西原M-1溝)側から出土している。
上西原M-3溝 (K区溝)	上西原C区	箱型または U字形	<290.0-	3.0~ 5.0	1.0~ 2.0	古代	△		溝の形状や覆土上の堆積状況は他のK区溝と同様である。台地北縁を東西に走る。本溝M-6溝と併合するものと考えられる。本溝は台地南縁付近を走行するが、地形に沿って蛇行する感があるM-6溝と比較して、直線走向が多い印象を受ける。調査区西端にて小支谷へ斜面を下がり、さらに西に延びている。
三本松M-10溝	三本松D区 2F-139他	浅いV形~ 不定形	23.0	2.0~ 4.0	0.3	古代	※		三本松M-6溝の南側で確認されたH-20往(古墳前期)と重複する。覆土上位にAs-Bはない。調査区域の sondage 等が出土している。
上西原M-2溝 (道路状遺構?)	上西原 4Q-212他	浅いV形~ 不定形	<120.0-	2.0~ 6.0	0.2~ 0.7	古代			上西原M-1溝に平行するように、約60~80 m西ににおいて確認された。覆土上位から中位にかけてAs-Bが引出し堆積する。底部には部分的に硬化面が存在する。本溝南側の延長線上の、M-3溝と交差する部分には土器が検索され、その両端付近にはやはり硬化面を有する浅い溝が確認されている。

凡例

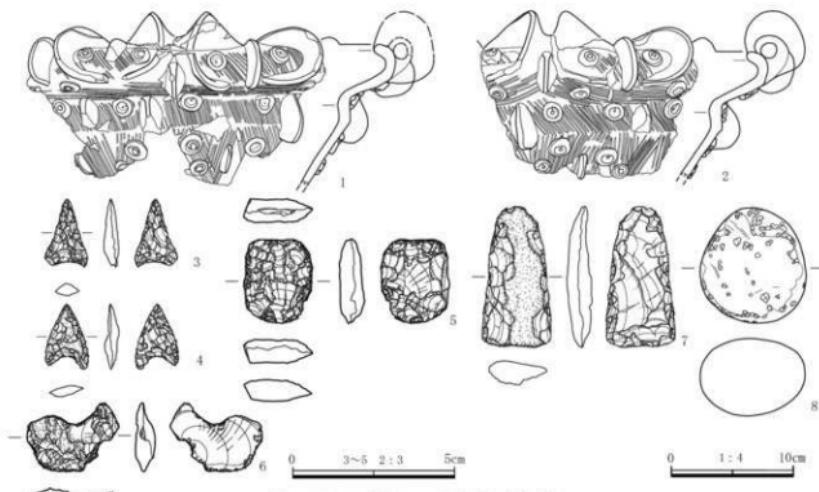
遺物 土器 ※: 1 ~ 1,000g, △: 1,001 ~ 5000g, ○: 5,001 ~ 10,000g, ◎: 10,001g 以上

石・礫製品 ※: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◎: 31点以上

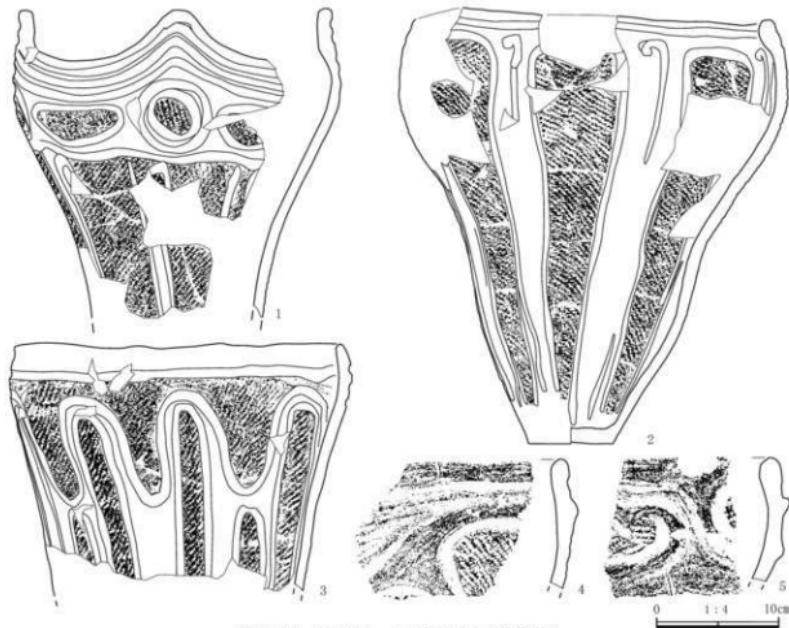
中近世遺構観察表

遺構名	位置	断面形態	規模(m)			時期	遺物		備考
			全長 <残存>	幅	深さ		土器	石器等	
三本松M-3溝	三本松A区 3S-149他	Vまたは U字形	<27.0-	0.5~ 3.0	0.8	中世			覆土にAs-Bを含む。調査区外で屈曲する。
上西原1号集石	上西原C区 4R-159他	浅いV形~ 不定形	3.0	1.6	—	近世?			性格不明。石と石の間を一部、白色粘土で充填する。

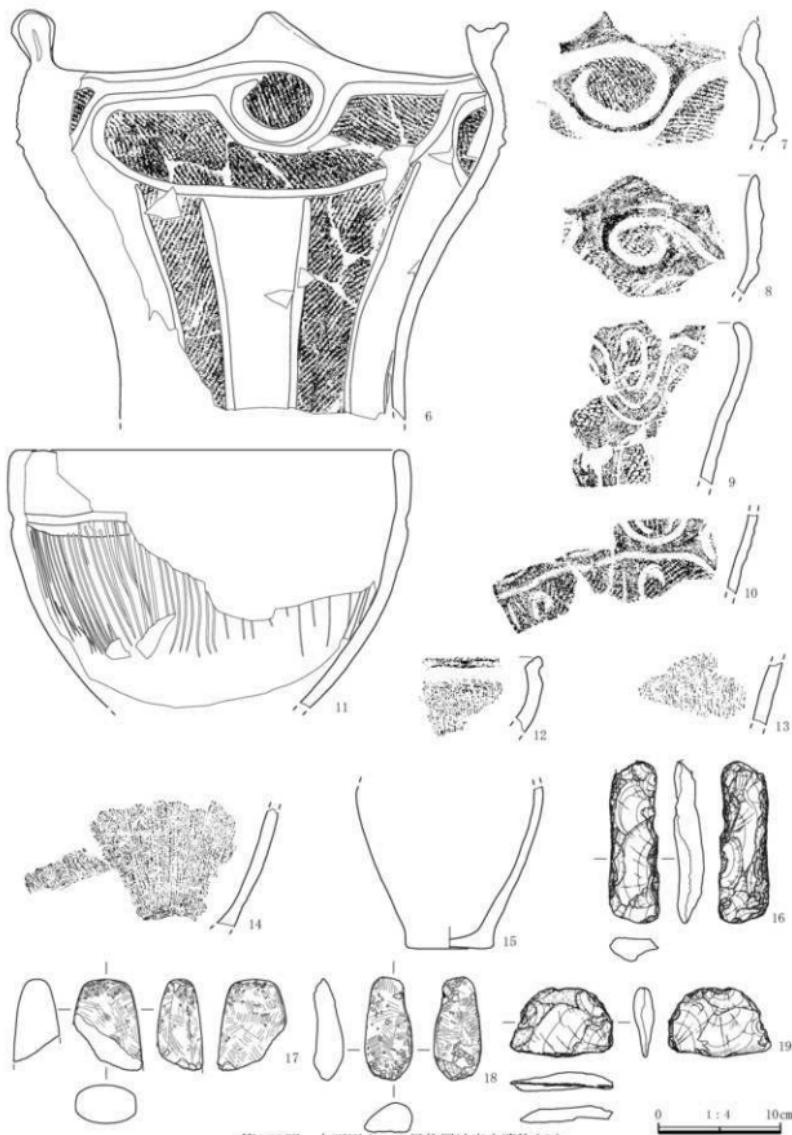
第30表 人見三本松・上ノ原・上西原遺跡遺構観察表(3)



第174図 三本松J-1号住居址出土遺物



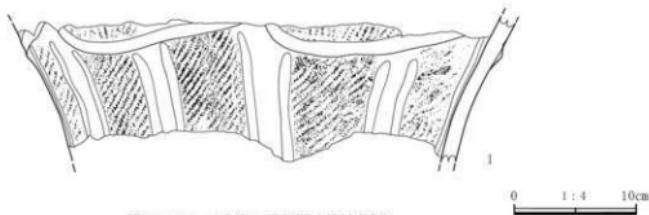
第175図 上西原J-1号住居址出土遺物(1)



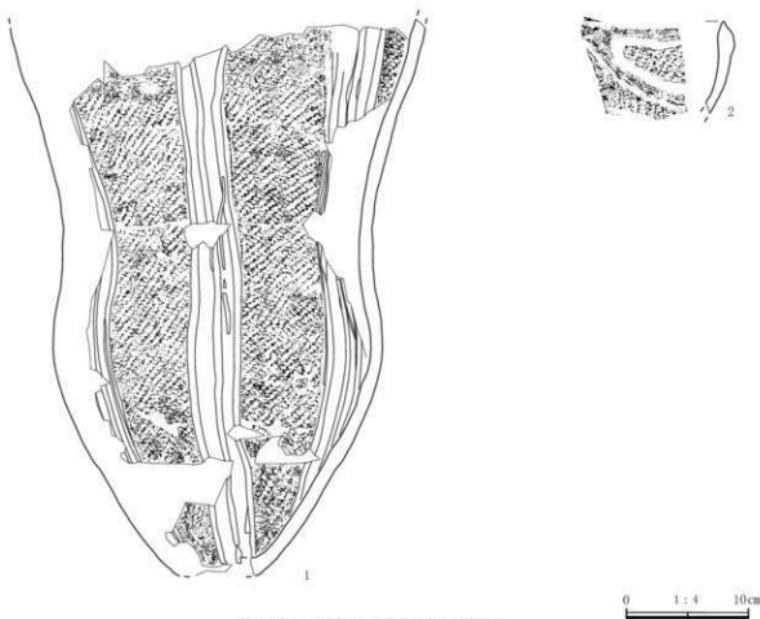
第176図 上西原J-1号住居址出土遺物(2)



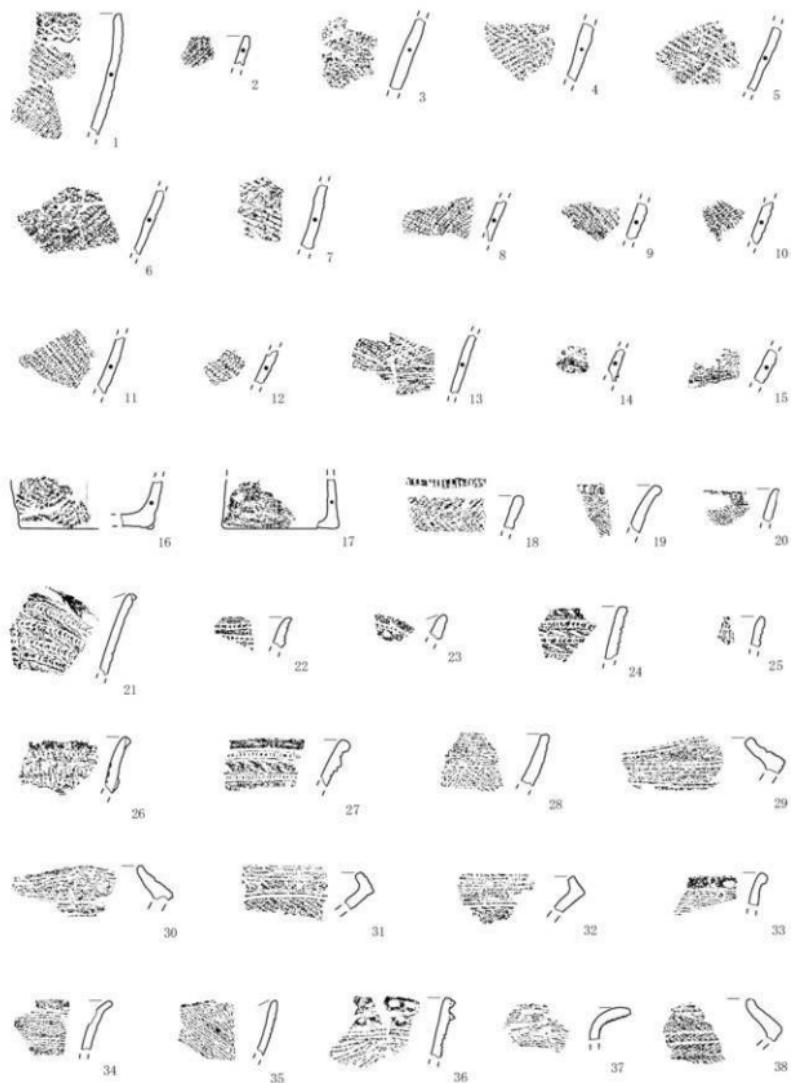
第177図 三本松T-1号竪穴状遺構出土遺物



第178図 三本松1号埋設土器実測図

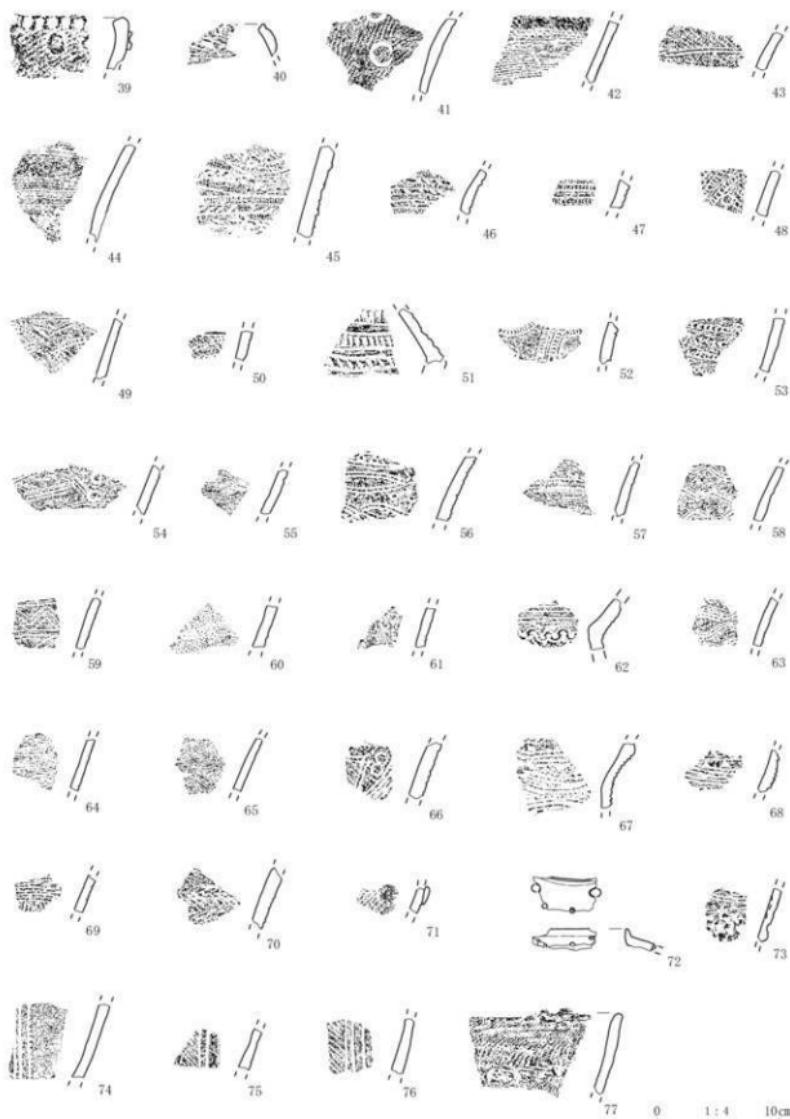


第179図 上西原1号埋設土器実測図

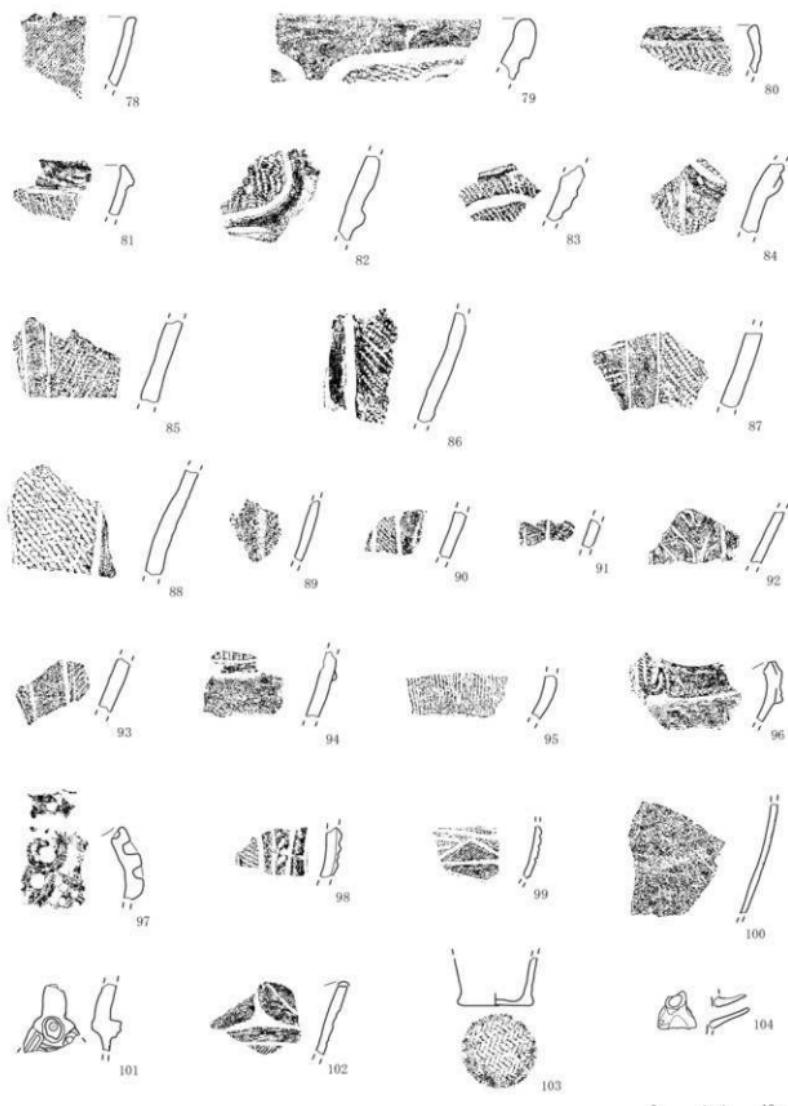


第180図 三本松遺構外出土遺物(1)

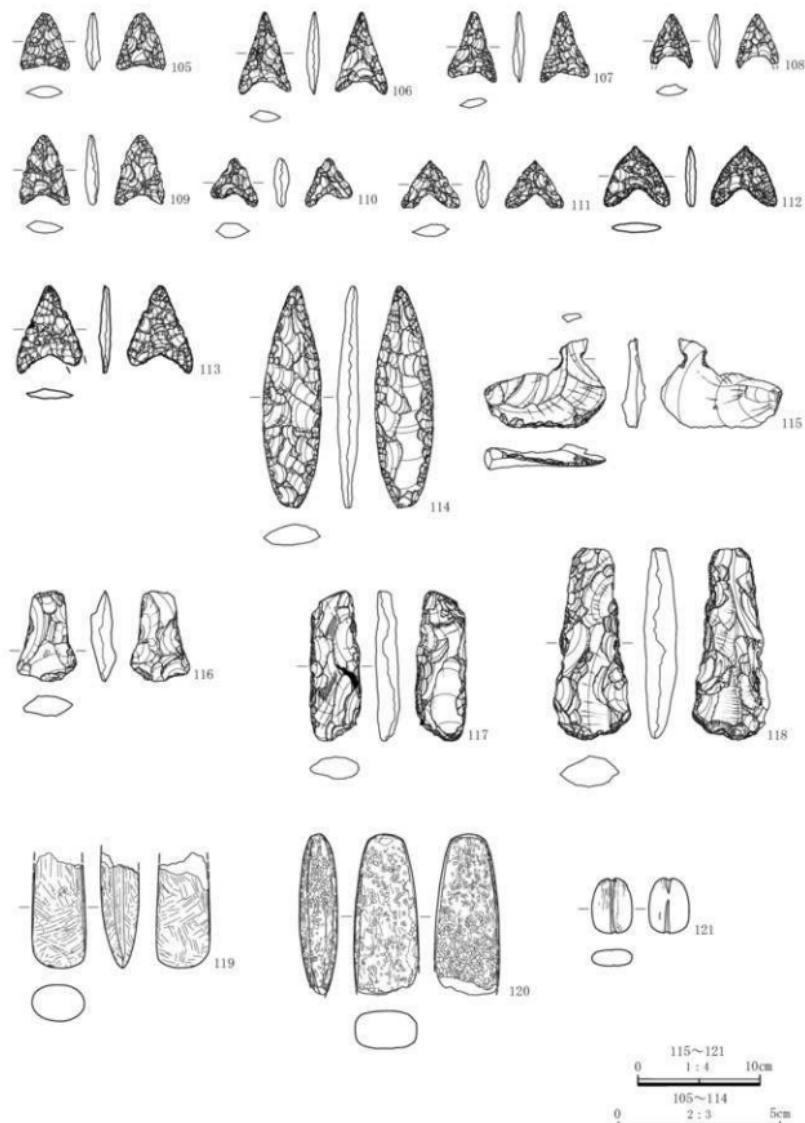
0 1:4 10cm



第181図 三本松遺構外出土遺物(2)



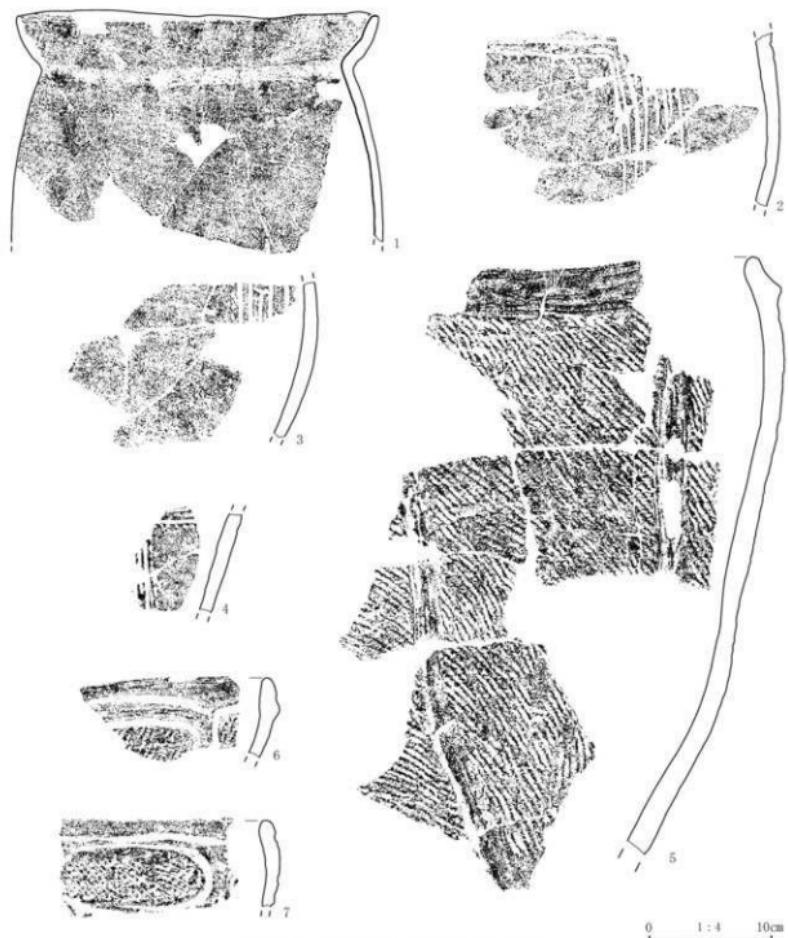
第182図 三本松遺構外出土遺物(3)



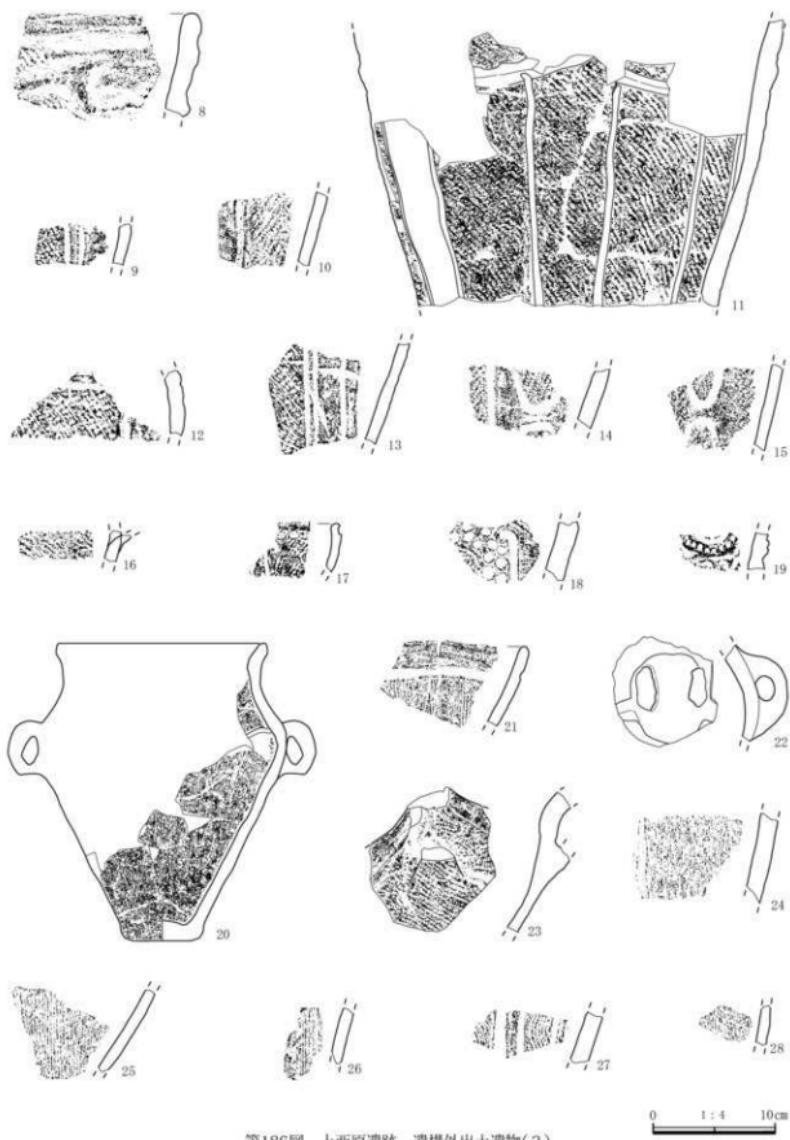
第183図 三本松遺跡 遺構外出土遺物(4)



第184図 上ノ原遺跡 遺構外出土遺物



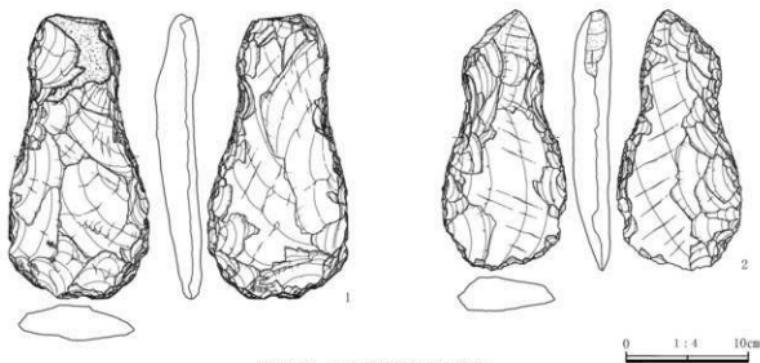
第185図 上西原遺跡 遺構外出土遺物(1)



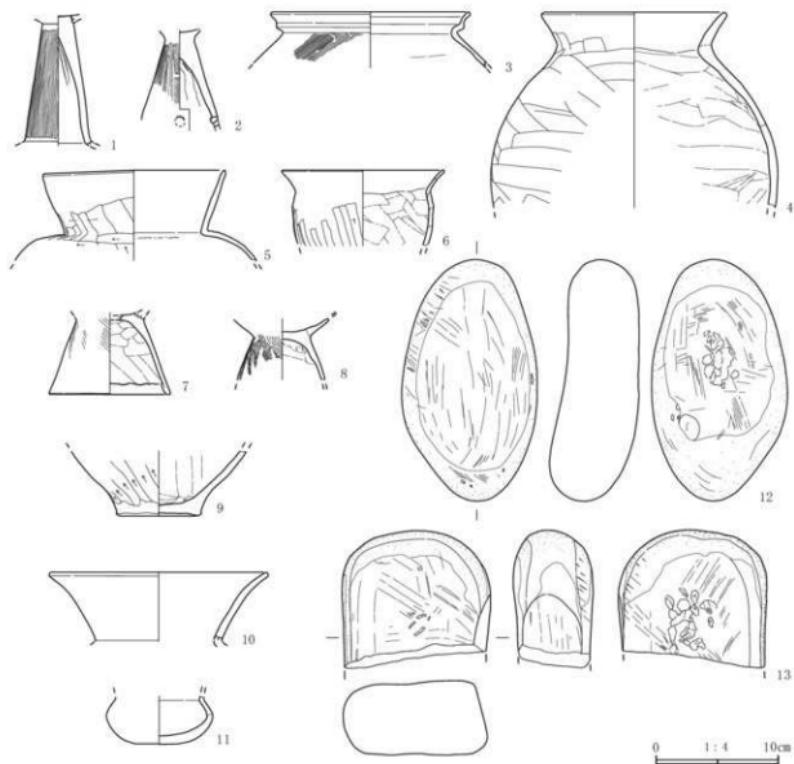
第186図 上西原遺跡 遺構外出土遺物(2)



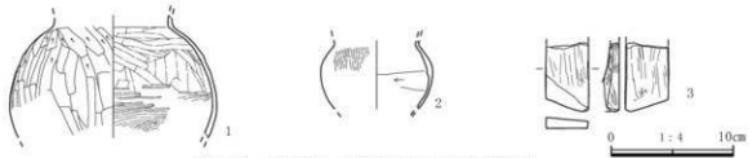
第187図 上西原遺跡 遺構外出土遺物(3)



第188図 三本松遺構外出土遺物



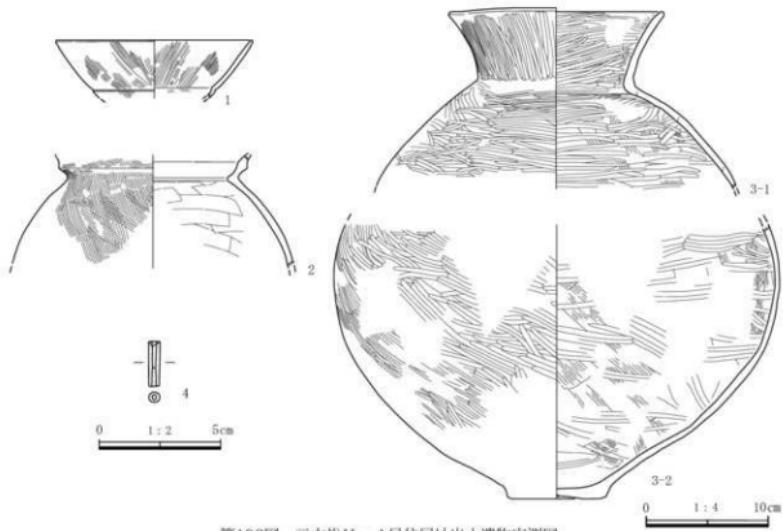
第189図 三本松H-1号住居址出土遺物実測図



第190図 三本松H-2号住居址出土遺物実測図



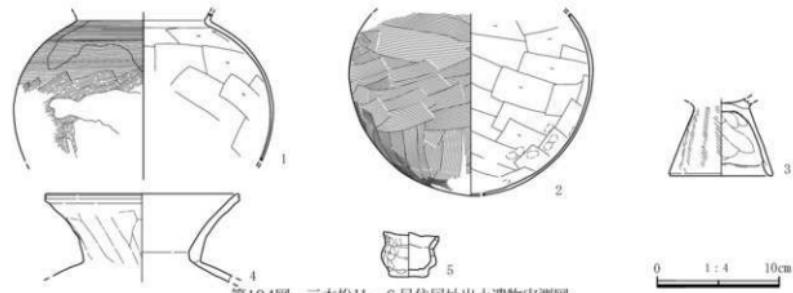
第191図 三本松H-3号住居址出土遺物実測図



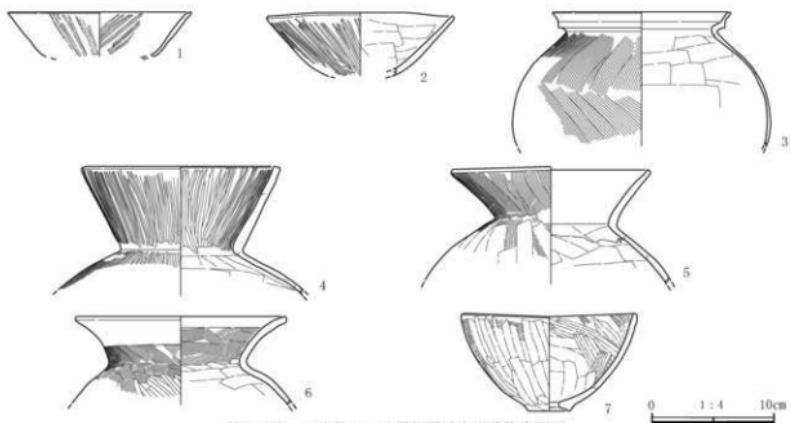
第192図 三本松H-4号住居址出土遺物実測図



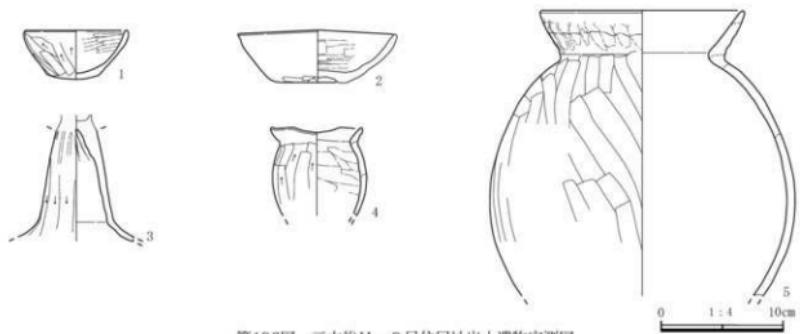
第193図 三本松H-5号住居址出土遺物実測図



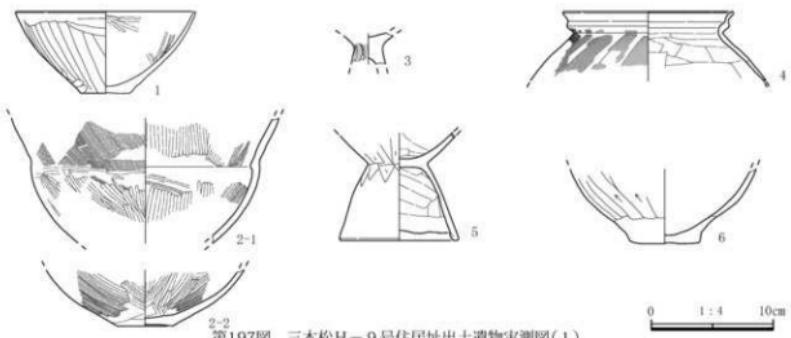
第194図 三本松H-6号住居址出土遺物実測図



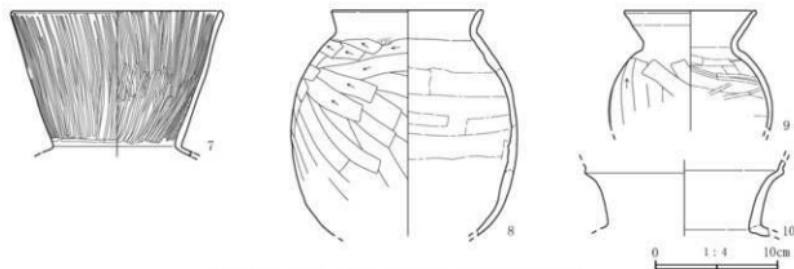
第195図 三本松H-7号住居址出土遺物実測図



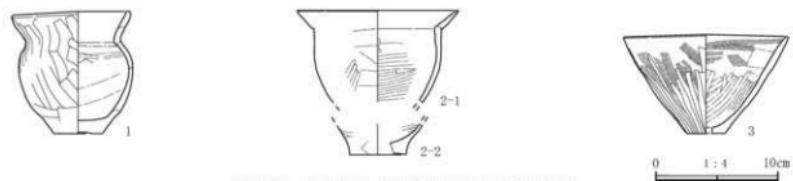
第196図 三本松H-8号住居址出土遺物実測図



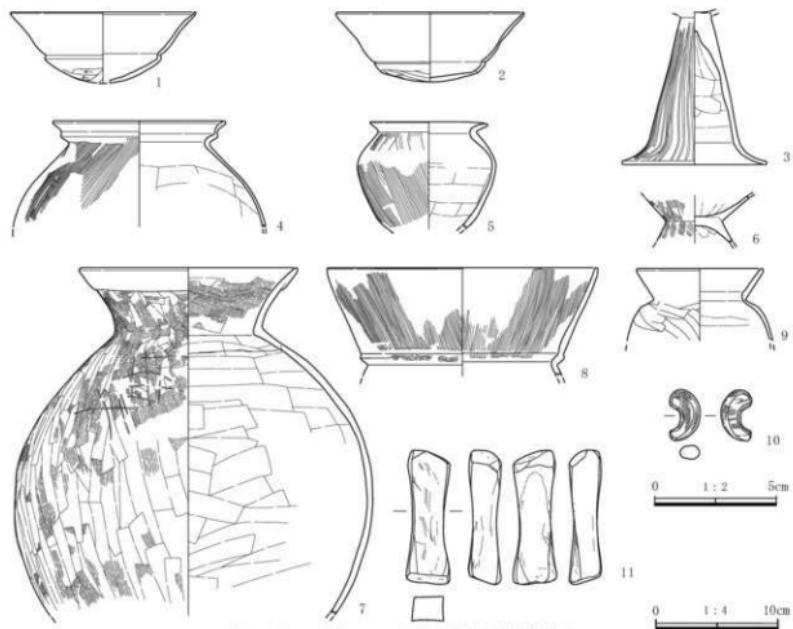
第197図 三本松H-9号住居址出土遺物実測図(1)



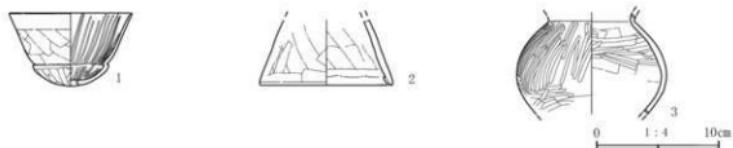
第198図 三本松H-9号住居址出土遺物実測図(2)



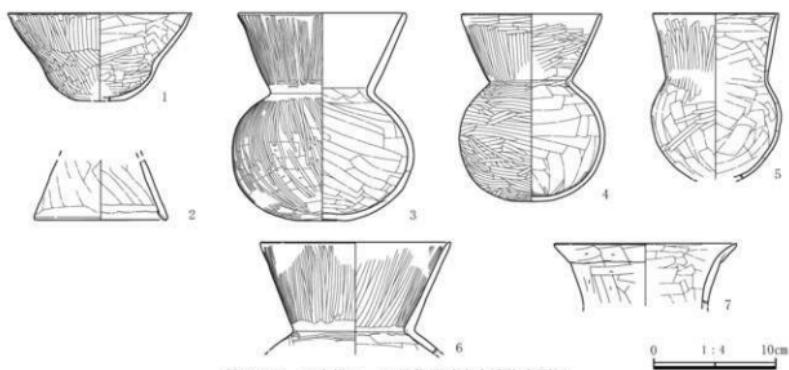
第199図 三本松H-11号住居址出土遺物実測図



第200図 三本松H-12号住居址出土遺物実測図



第201図 三本松H-20号住居址出土遺物実測図



第202図 三本松H-21号住居址出土遺物実測図



第203図 三本松H-22号住居址出土遺物実測図



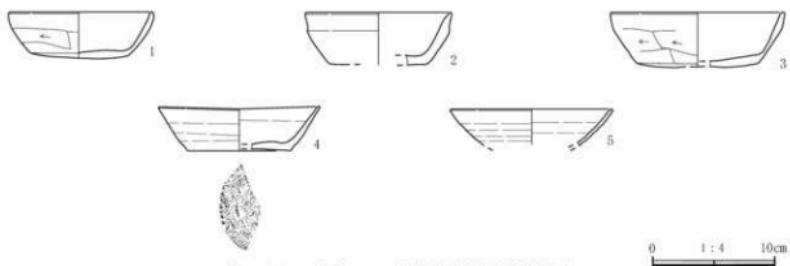
第204図 三本松D-9号土坑出土遺物実測図



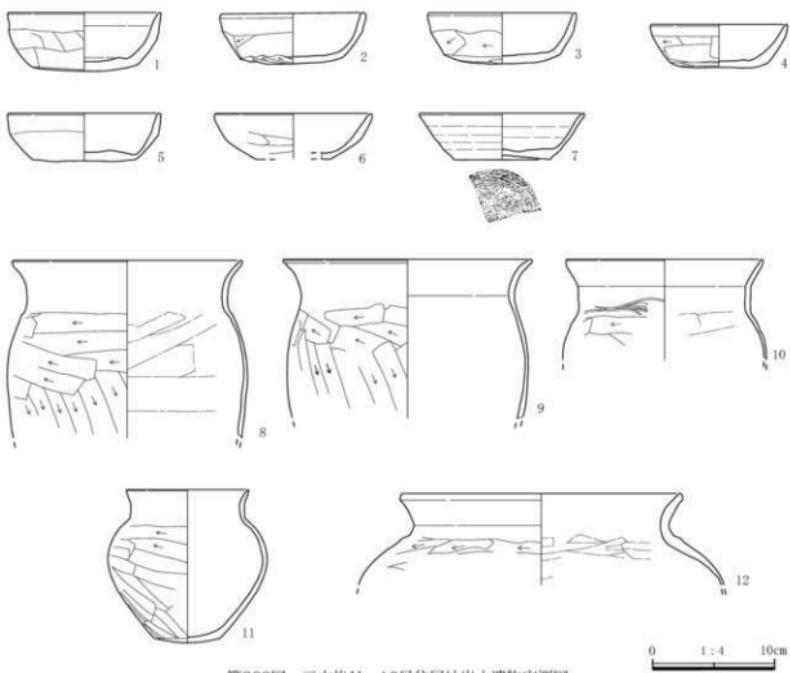
第205図 上西原遺構外出土遺物実測図



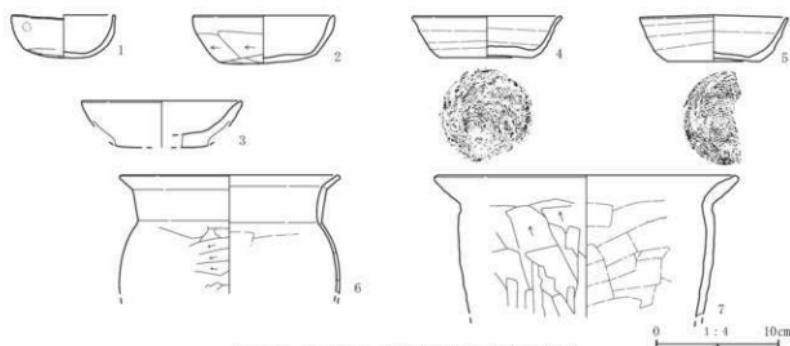
第206図 三本松H-14号住居址出土遺物実測図



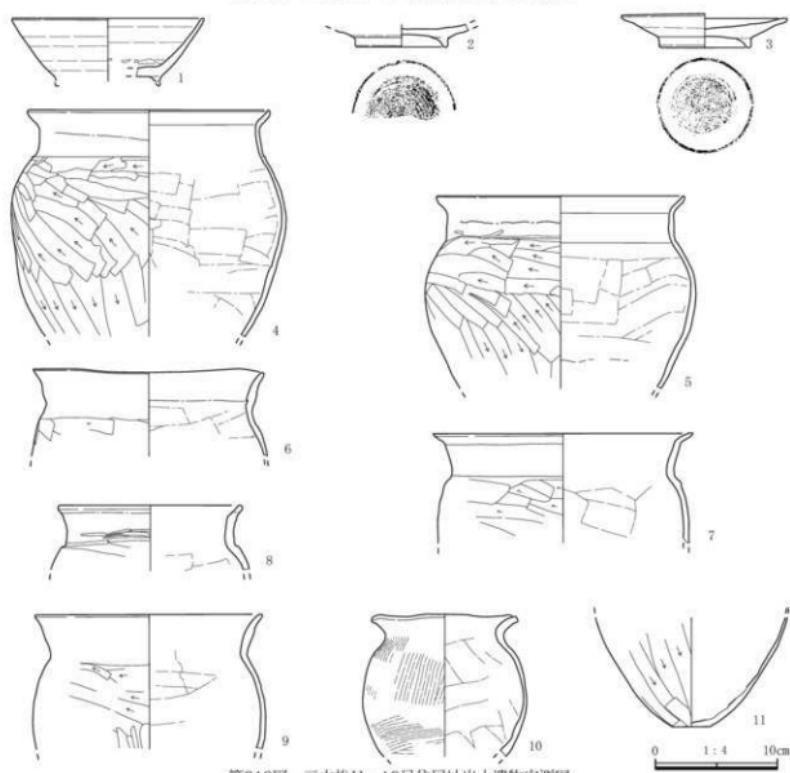
第207図 三本松H-15号住居址出土遺物実測図



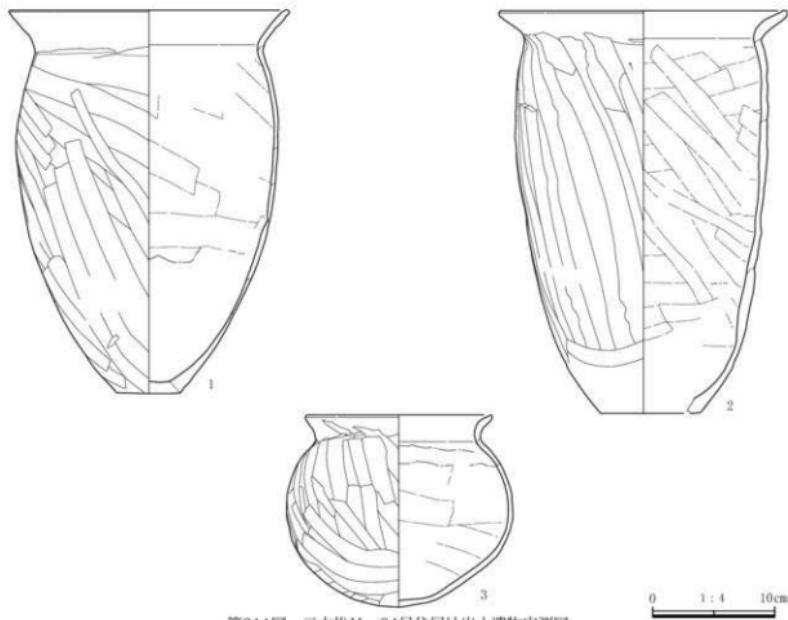
第208図 三本松H-16号住居址出土遺物実測図



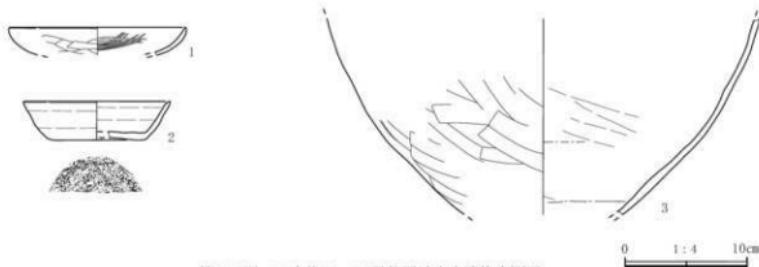
第209図 三本松H-17号住居址出土遺物実測図



第210図 三本松H-19号住居址出土遺物実測図



第211図 三本松H-24号住居址出土遺物実測図



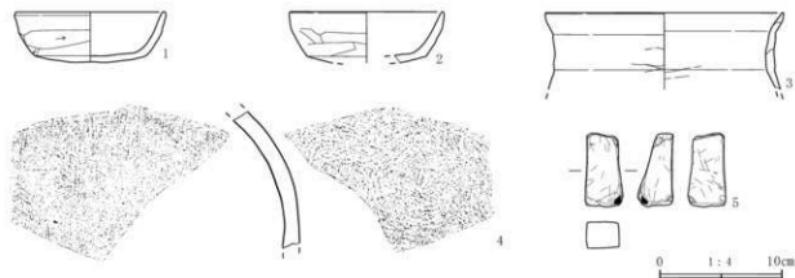
第212図 三本松H-25号住居址出土遺物実測図



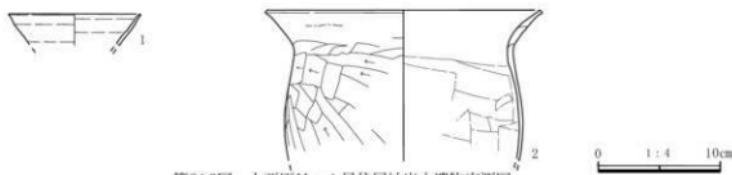
第213図 上ノ原H-1号住居址出土遺物実測図



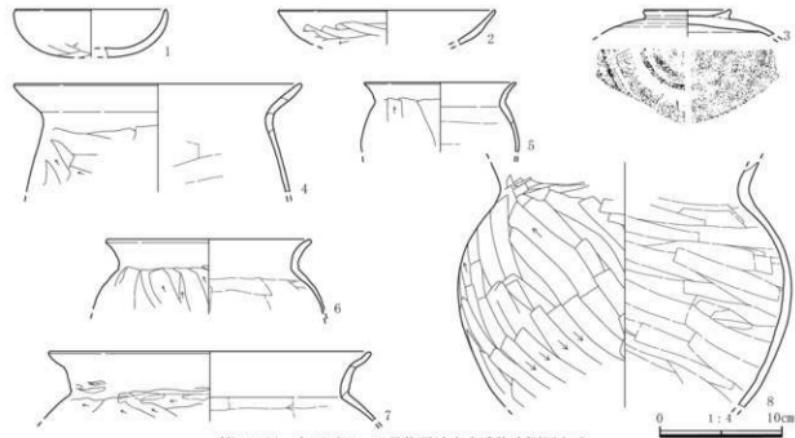
第214図 上ノ原H-2号住居址出土遺物実測図



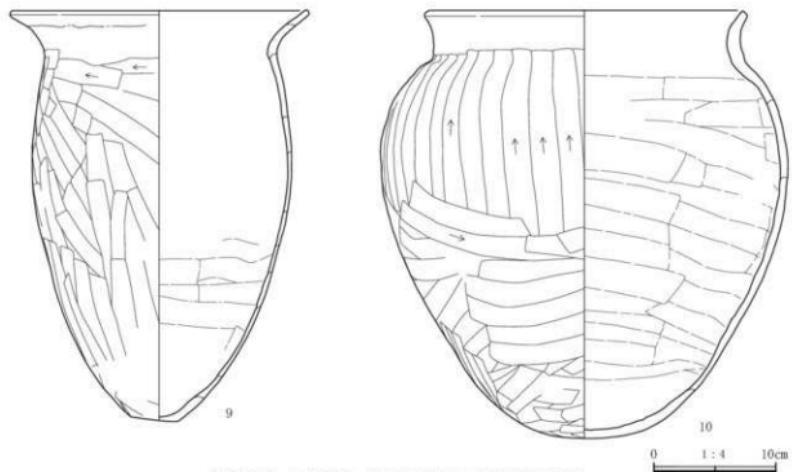
第215図 上ノ原H-3号住居址出土遺物実測図



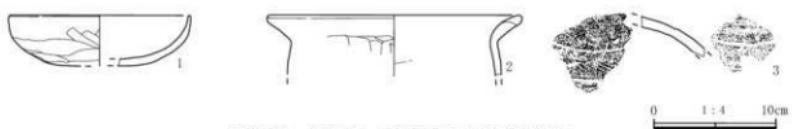
第216図 上西原H-1号住居址出土遺物実測図



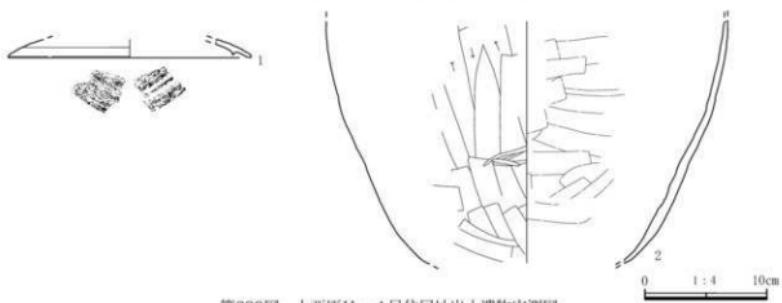
第217図 上西原H-2号住居址出土遺物実測図(1)



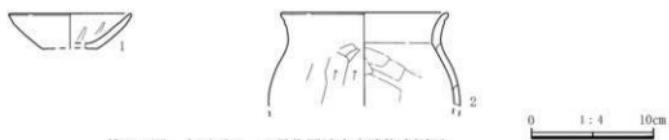
第218図 上西原H-2号住居址出土遺物実測図(2)



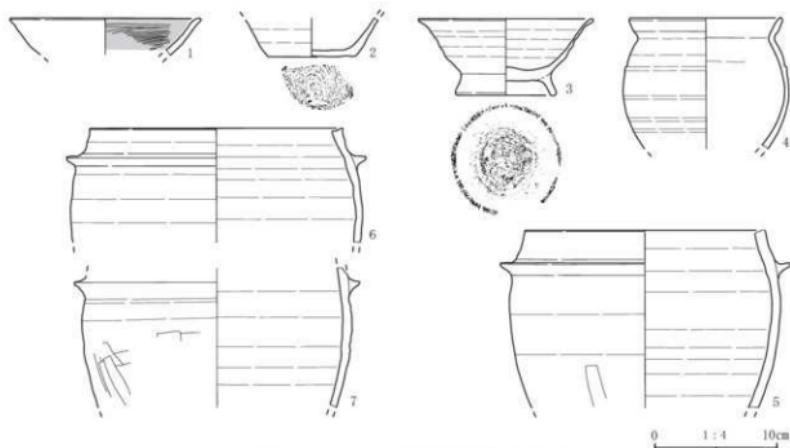
第219図 上西原H-3号住居址出土遺物実測図



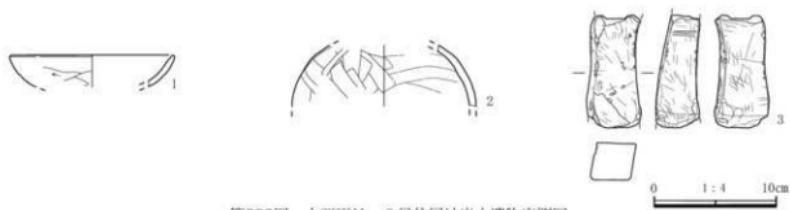
第220図 上西原H-4号住居址出土遺物実測図



第221図 上西原H-5号住居址出土遺物実測図



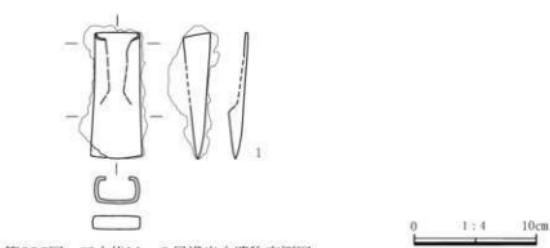
第222図 上西原H-6号住居址出土遺物実測図



第223図 上西原H-8号住居址出土遺物実測図



第224図 三本松M-1号溝出土遺物実測図



第225図 三本松M-6号溝出土遺物実測図



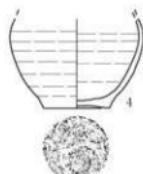
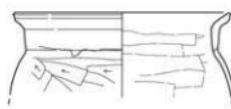
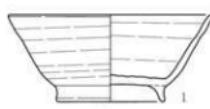
0 1 : 4 10cm

第226図 上西原M-1号溝A-3区出土遺物実測図



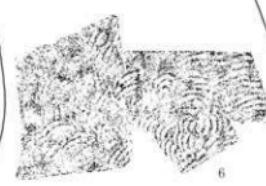
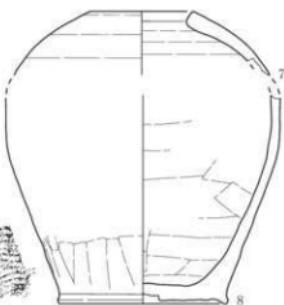
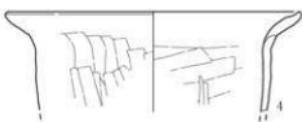
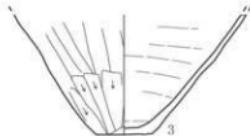
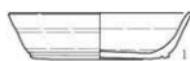
0 1 : 4 10cm

第227図 上西原M-1号溝A-5区出土遺物実測図



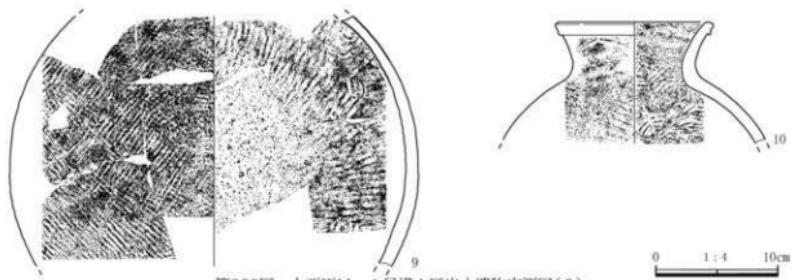
0 1 : 4 10cm

第228図 上西原M-1号溝A-6区出土遺物実測図

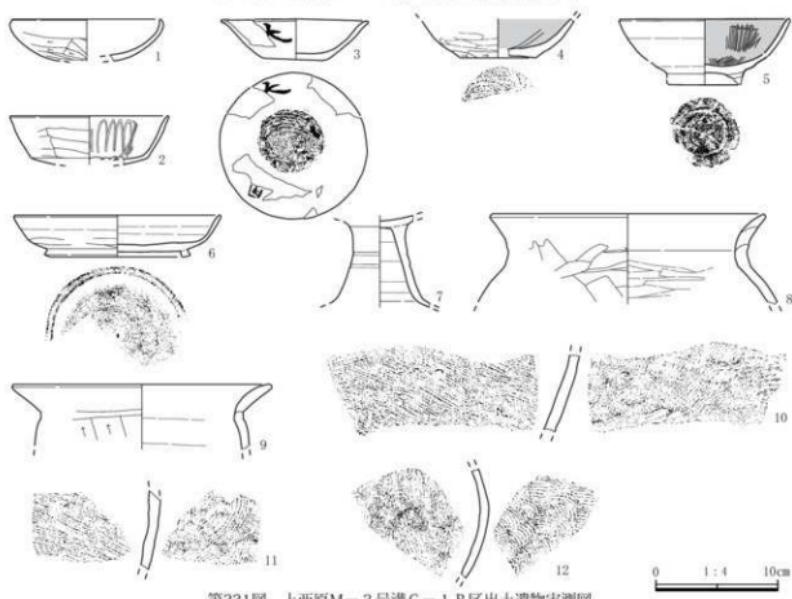


第229図 上西原M-1号溝A区出土遺物実測図(1)

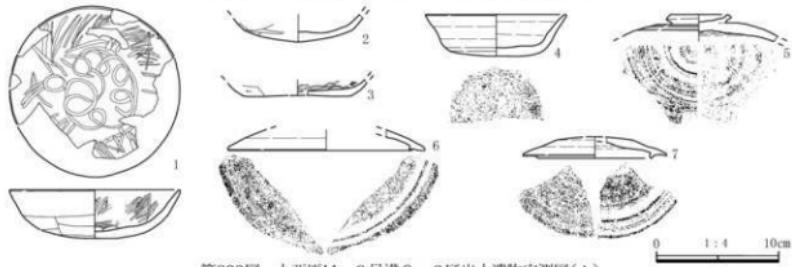
0 1 : 4 10cm



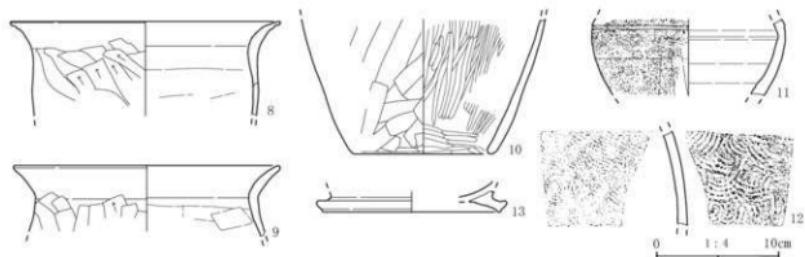
第230図 上西原M-1号溝A区出土遺物実測図(2)



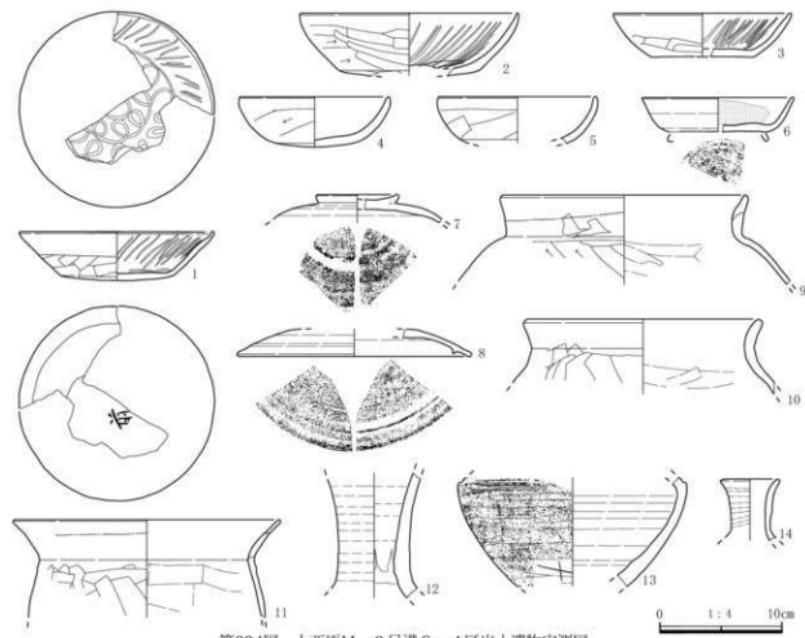
第231図 上西原M-3号溝C-1B区出土遺物実測図



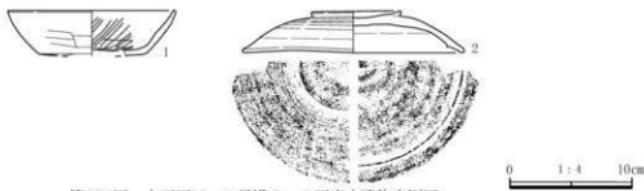
第232図 上西原M-3号溝C-3区出土遺物実測図(1)



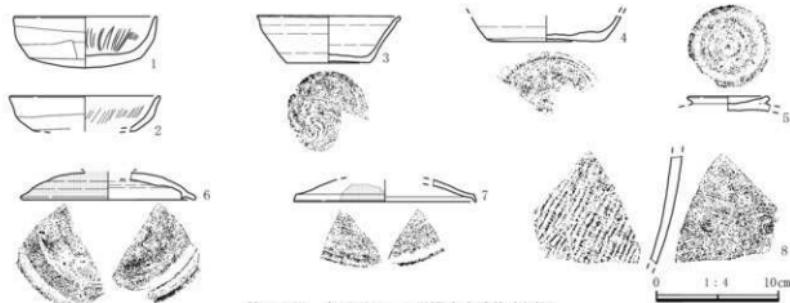
第233図 上西原M-3号溝C-3区出土遺物実測図(2)



第234図 上西原M-3号溝C-4区出土遺物実測図



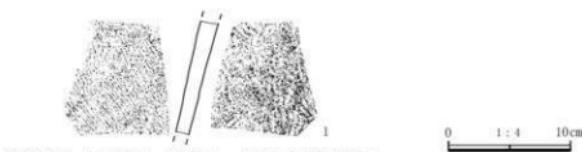
第235図 上西原M-3号溝C-5区出土遺物実測図



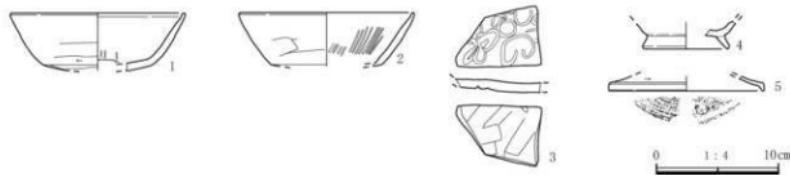
第236図 上西原M-3号溝出土遺物実測図



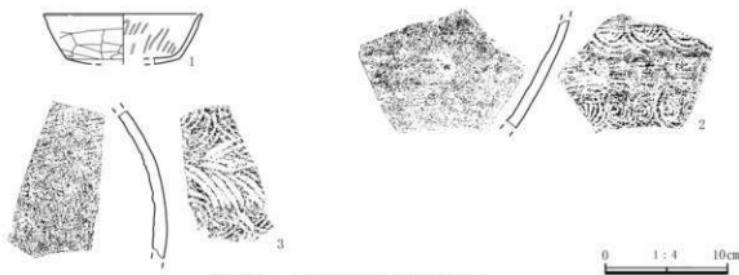
第237図 上西原M-2号溝A-1区出土遺物実測図



第238図 上西原M-2号溝A-2区出土遺物実測図



第239図 上西原M-2号溝A-3区出土遺物実測図



第240図 上西原遺構外出土遺物実測図

人見三本松道路J-1号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
1	縄文土器 深鉢	II 区 2 層 14 区 1 层 15 区 2 層	口径 (33.6) 底径 — 器高 —	①焼成 ②褐色～暗褐色 ③白色土・縦混入 ④口縁部～胴部上位 1/5	口縁部は丸く内側し、口縁部下位で棱を持つ。縦状に開く器形。半截竹管状工具による平行沈線文を地文とし、縦・斜位を組み合わせ施す。集合状縄文土器。口縫端部には、貝殻状・棒状の粘土を貼付し装飾性を強める。口縁部から全体部には、半截竹管状工具を回転押抜した円形貼付文を配置。	古段階
2	縄文土器 深鉢		口径 (33.6) 底径 — 器高 —	①普通 ②褐色～黒褐色 ③白色土・縦混入 ④口縁部～胴部上位 1/6	1 と同一個体。	古段階
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材	石材・その他	
3	石器 石鏃	9 区 1 层	長さ 2.08 幅 1.30 厚さ 0.45 重さ 0.7	石材 黒曜石。		
4	石器 石鏃	12 区 1 层	長さ 1.99 幅 1.32 厚さ 0.43 重さ 0.6	石材 黒曜石。		
5	石器 石鏃 未製品か	13 区 1 层	長さ 2.58 幅 2.12 厚さ 0.77 重さ 4.46	石材 黒曜石。スクレイバーあるいは楔形石器の可能性あり。		
6	石器 石匙	1 区 1 层	長さ 2.11 幅 2.83 厚さ 0.60 重さ 1.95	形態 横型。石材 黒曜石。完形。		
7	石器 打製石斧		長さ 11.6 幅 5.71 厚さ 2.07 重さ 113.0	石材 閃緑石。		
8	石製品 磨石		長さ 9.40 幅 8.70 厚さ 6.30 重さ 571.6	石材 岩山岩。		

第 31 表 人見三本松遺跡縄文時代住居址出土遺物観察表 (1)

人見上西原遺跡J-1号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
1	縄文土器 深鉢	15 区 1 层 15 区 2 层 16 区 1 层	口径 (25.8) 底径 — 器高 (25.3)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色土 角・閃石、縦混入 ④口縁部～胴部中位 1/4	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 3 条の平行沈線。沈線下位に横円印又は 2 重円の区画。区画内 R.L 縄文充填。胴部 R.L 縄文施文後、丸棒状工具による垂下沈線と歯状沈線で区画。	加曾利 E Ⅲ
2	縄文土器 深鉢	10 区 2 层 11 区 1 层 12 区 1 层	口径 29.2 底径 — 器高 34.8	①普通 ②褐色 ③白色土。角 閃石、縦混入 ④2/5	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。区画外削り消す。さらに区画外に歯状沈線による区画内歯状沈線充填。	加曾利 E Ⅲ
3	縄文土器 深鉢	12 区 1 层	口径 26.7	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色土、縦混入 ④口縁部～胴部上位 1/2	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。区画外削り消す。さらに一部の区画内は歯状沈線による区画内歯状沈線充填。その後帯と幅の広い沈線による区画。一部の区画内に R.L 縄文充填。	加曾利 E Ⅲ
4	縄文土器 深鉢	7 区 1 层	口径 — 底径 — 器高 (10.5)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色土 色混入 ④口縁部～胴部上位 破片	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。一部の区画内は歯状沈線による区画内歯状沈線充填。	加曾利 E Ⅲ
5	縄文土器 深鉢	7 区 1 层 10 区 2 层	口径 — 底径 — 器高 (10.1)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色土 混入 ④口縁部～胴部上位 破片	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。一部の区画内に R.L 縄文充填。	加曾利 E Ⅲ
6	縄文土器 深鉢	7 区 1 层	口径 — 底径 — 器高 (12.3)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色土、褐色土、微・石英混入 ④口縁部～胴部中位 1/8	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。一部の区画内は歯状沈線により区画。	加曾利 E Ⅲ
7	縄文土器 深鉢	10 区 2 层 12 区 1 层	口径 — 底径 — 器高 (10.0)	①普通 ②浅黄褐色 ③白色土 色混入 ④口縁部～胴部上位 破片	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。一部の区画内は歯状沈線による区画。	加曾利 E Ⅲ
8	縄文土器 深鉢	7 区 1 层	口径 — 底径 — 器高 (9.7)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色 色混入 ④口縁部～胴部上位 破片	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。一部の区画内は歯状沈線による区画。	加曾利 E Ⅲ
9	縄文土器 深鉢	10 区 2 层	口径 — 底径 — 器高 (13.2)	①やや不良 ②にぶい褐色 ③ 褐色土、白色土混入 ④口縁部 ～胴部破片	4 単位波状口縁。口辺部に丸棒状工具による 1 条の横位沈線。胴部 R.L 縄文施文後、「U」字状沈線により区画。一部の区画内は歯状沈線による区画。	加曾利 E Ⅲ

第 32 表 人見上西原遺跡縄文時代住居址出土遺物観察表 (1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
10	縄文土器 深鉢	15区1層	口径 - 底径 - 器高 (6.4) 厘米	①普通 ②に赤い橙色 ③褐色 粒、織、角閃石混入 ④胴部破片	丸棒状工具による浅い凹線により区画。一部の区画内にR.L.縄文施文。	加賀利EⅢ
11	縄文土器 深鉢	16区2層 15区1層 15区2層	口径 (31.7) 底径 - 器高 (21.1) 厘米	①普通 ②に赤い黄褐色 ③褐色 粒、織、黑色粒混入 ④口縁部下位1/5	胴部上位に2条の横段沈線を施す。その下位に横段沈線を施す。	加賀利E
12	縄文土器 深鉢	16区1層	口径 - 底径 - 器高 (6.1) 厘米	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒 白色織混入 ④口縁部～胴部上	口縁部下位に幅の広い横段沈線。胴部横段沈線文施文後、渦巻状又は弧状条線を連続して施す。	加賀利E
13	縄文土器 深鉢	11区1層	口径 - 底径 - 器高 (5.0)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒 白色織混入 ④胴部破片	12と同一個体か?	加賀利E
14	縄文土器 深鉢	10区2層 15区1層	口径 - 底径 - 器高 (9.6) 厘米	①普通 ②に赤い橙色 ③白色 粒、織、角閃石混入 ④胴部下位破片	底部茶褐色施文。	加賀利E
15	縄文土器 深鉢	15区1層	口径 - 底径 7.2 器高 (13.3) 3/8 厘米	①普通 ②褐色 ③白色粒、白 色織混入 ④胴部中位～底部	無文。外側の一部に縱位磨き。	中期後葉
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他		
16	石器 打製石斧	12区1層	長さ (13.2) 形態 短縦形。石材 真岩。基部欠損。			
17	石器 磨製石斧	7区1層	長さ (7.40) 幅 (5.60) 厚さ (3.7) 重さ 232.6	形態 定格式。石材 緑色岩類。中央へ刃部欠損。研磨による調整が施される。		
18	石製品 磨製石斧 未製品	12区1層	長さ 8.50 幅 3.90 厚さ 2.35 重さ 115.9	形態 小型。石材 緑色岩類。削離を素材とし剥離・敲打・研磨による調整が施される。		
19	石製品 スクレイパー	7区1層	長さ 5.68 幅 8.40 厚さ 1.66 重さ 99.74	石材 真岩。刃部は鋸角。裏面に摩耗痕あり。		

第33表 人見上西原遺跡縄文時代住居址出土遺物観察表(2)

人見三本松道路T-1号窓穴状遺構

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
1	縄文土器 深鉢	5区1層	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②に赤い橙色 ③褐色 粒、植物織織混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	波状口縁の波頭部付近。複数縄文 (?) 施文。	前期中葉

1号埋設土器

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
1	縄文土器 深鉢		口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②黄褐色 ③白色粒、 混入 ④口縁部下位1/2 ～胴部上位1/3	口縁部圓錐形の横円溝各区画文、区画内縄文交叉し織 紋後回線。胴部縄文R.L.縦位施文後回線垂下。無 文帶と交互に配置。	加賀利EⅡ ～Ⅲ

第34表 人見三本松遺跡縄文時代窓穴状遺構・埋設土器観察表(1)

人見上西原道路1号埋設土器

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
1	縄文土器 深鉢		口径 - 底径 - 器高 (45.3)	①普通 ②黄褐色 ③白色粒、 混入 ④胴部上位～底部1/3	口縁部圓錐形の横円溝各区画文、区画内縄文交叉し織 紋により区画。区画内磨り消し。	加賀利EⅢ
2	縄文土器 深鉢		口径 - 底径 - 器高 (7.5)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒 混入 ④口縁部～胴部上位破片	波状口縁波頭部付近。茎蒂と丸棒状工具による沈線に より区画。一部の区画内にR.L.縄文施文。	加賀利EⅢ

第35表 人見上西原遺跡縄文時代埋設土器観察表(1)

人見三本松遺跡遺構外

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
1	縄文土器 深鉢	IV-97	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 粒、植物繊維混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	単節R L繩文と單節L R繩文による羽状繩文(結束なし)施す。口縁部下位に半截竹管状工具によるコンパス文を施す。	前期中葉
2	縄文土器 深鉢	II-98	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、石英・植物繊維混入 ④口 縁部破片	單節R L繩文施す。	前期中葉
3	縄文土器 深鉢	UJ-160	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、植物繊維混入 ④胴部破片	縄文施しているが、摩滅のため不明瞭。	前期中葉
4	縄文土器 深鉢	HL-150a	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、植物繊維混入 ④胴部破片	R L繩文とL R繩文による羽状繩文か。(不明瞭)。	前期中葉
5	縄文土器 深鉢	IT-93	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、植物繊維混入 ④胴部破 片	無節繩文施す。	前期中葉
6	縄文土器 深鉢	II-89	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、植物繊維混入 ④胴部破片	単節R L繩文と単節L R繩文による羽状繩文(結束なし)施す。	前期中葉
7	縄文土器 深鉢	IF-80	口径 底径 器高	①やや不良 ②にぶい褐色 ③ 褐色粒、植物繊維混入 ④胴部破 片	単節繩文による羽状繩文か。(不明瞭)。	前期中葉
8	縄文土器 深鉢	JT-103	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、植物繊維混入 ④胴部破片	真条羽繩文(?) 施す。	前期中葉
9	縄文土器 深鉢	IV-97	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③植物 繊維混入 ④胴部破片	単節R L繩文施す。	前期中葉
10	縄文土器 深鉢	IT-102	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③植物 繊維混入 ④胴部破片	単節R L繩文施す。	前期中葉
11	縄文土器 深鉢	ZE-109	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、植物繊維混入 ④胴部破片	単節R L繩文施す。	前期中葉
12	縄文土器 深鉢	IV-97	口径 底径 器高	①普通 ②褐色 ③褐色粒、植 物繊維混入 ④胴部破片	単節R L繩文施す。	前期中葉
13	縄文土器 深鉢	IP-90	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒、植物繊維混入 ④胴部破 片	単節R L繩文施後、半截竹管状工具による平行沈線で、 横位・斜位に区画。	有尾
14	縄文土器 深鉢	IX-99	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい黄褐色 ③植 物繊維混入 ④胴部破片	半截竹管状工具による爪形文により区画。	有尾
15	縄文土器 深鉢	IQ-93	口径 底径 器高	①やや不良 ②にぶい褐色 ③ 褐色粒、植物繊維混入 ④胴部 破片	櫛衝状工具による波状沈線を施す。	前期中葉
16	縄文土器 深鉢	2C-100 (9.9) 底径 器高	口径 底径 器高	①やや不良 ②にぶい褐色 ③ 褐色粒、植物繊維混入 ④胴部 下位～底部破片	やや上昇底状の底部。摩滅のため不明瞭だが単節R L繩 文施す。	前期中葉
17	縄文土器 深鉢	IVF-149	口径 底径 器高	①やや不良 ②にぶい褐色 ③ 褐色粒、植物繊維混入 ④胴部 下位～底部破片	底部はやや上昇底状を呈する。	前期中葉
18	縄文土器 深鉢	IQ-97	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胴部上位破 片	口縁部に連続する短沈線(駆み状)。胴部単節R L繩文施 す。	諸穢
19	縄文土器 深鉢	HL-158	口径 底径 器高	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部上位破片	口縫部半截竹管状工具による連続柄突を施す。胴部単節 R L繩文施す。	諸穢
20	縄文土器 深鉢	UJ-66	口径 底径 器高	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部上位破片	口縫部半截竹管状工具による連続柄突。胴部単節R L繩 文施す。	諸穢
21	縄文土器 深鉢	IT-115	口径 底径 器高	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 粒、纏、雲母混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	波状口縫の波頂部付近。口縫部に隆起を巡らし、連続す る短沈線を施す。半截竹管状工具による爪形文により区 画。一部の区画に連続する短沈線を施す。22と同一個体 か?	諸穢

第36表 人見三本松遺跡遺構外出土繩文時代遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③輪辺 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
22	縄文土器 深鉢	IR-116	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部破片	半載竹管状工具による爪形文を施す。	諸穢 b
23	縄文土器 深鉢	IS-114	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 色粒混入 ④口縁部破片	継やかな波状口縁か、半載竹管状工具による爪形文を施す。	諸穢 b
24	縄文土器 深鉢	IV-115	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③白色 粒、雲母混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	半載竹管状工具による爪形文により区画。一部の区画に 連続する短沈線を施す。16と同一個体か?	諸穢 b
25	縄文土器 深鉢	IS-114	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒、片 岩混入 ④口縁部破片	半載竹管状工具による横位爪形文を施す。	諸穢 b
26	縄文土器 深鉢	3P-163	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 色粒混入 ④口縁部～胴部上位 破片	2条の横位隆帯を貼付。下位の隆帯には斜位の筋目を施す。隆帯に並行する爪形文を施す。内外面とも剥 落著しい。	諸穢
27	縄文土器 深鉢	4H-152	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒、角 閃石混入 ④口縁部～胴部上位 破片	2条の横位隆帯を施す。下位の隆帯には縫を割位に押圧す。 隆帯に並行する爪形文を施す。一部縫位(?)の爪 形文施す。	諸穢
28	縄文土器 深鉢	IV-101	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒、片 岩混入 ④口縁部～胴部上位破 片	単節R L繩文施後。半載竹管状工具による横位爪形文を施す。	諸穢 b
29	縄文土器 深鉢	4E-155	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 色粒、雲母混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	胴部上位が内屈する4単位波状口縁。波頂部下に施した 貼付文が剥落していると考えられる。半載竹管状工具に より、横位基調の平行沈線を施す。	諸穢 b
30	縄文土器 深鉢	4E-155	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 色粒、黒色粒、角閃石混入 ④ 口縁部～胴部上位破片	胴部上位が内屈する4単位波状口縁。単節R L繩文を確 らに施す。半載竹管状工具により横位基調の平行沈線文を施す。	諸穢 b
31	縄文土器 深鉢	4E-155	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 色粒、角閃石混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	胴部上位が内屈する。屈曲点上位には半載竹管状工具に より横位平行沈線文施す。屈曲点下位には単節R L繩文 施す。横位平行沈線文を施す。	諸穢 b
32	縄文土器 深鉢	4E-155	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 色粒、角閃石混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	胴部上位が内屈する。屈曲点上位には半載竹管状工具に より横位平行沈線文施す。屈曲点下位には単節R L繩文 を確らに施す。横位平行沈線文を施す。	諸穢 b
33	縄文土器 深鉢	IT-113	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒、褐 色混入 ④口縁部～胴部上位破片	口縁部に隆帯を施す。屈曲状工具による横位平行沈線・ 或状沈線を施す。竹管状工具による刺突を施す。	諸穢 b
34	縄文土器 深鉢	IR-114	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒、褐 色混入 ④口縁部～胴部上位破片	輪削状工具による横位平行沈線・波状沈線を施す。	諸穢 b
35	縄文土器 深鉢	9 区一括	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤褐色 ③褐色 色粒混入 ④口縁部～胴部上位 破片	単節R L繩文施後。半載竹管状工具による平行沈線に より縫位・斜位に区画。	諸穢 b
36	縄文土器 深鉢	IU-98	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒、石英混入 ④口縁 部破片	口縁部に2条の横位貼付文を施す。貼付文は貼付後、一 定間隔を置き下方向への押圧を加えた結果。縮衝状を呈す る。胴部には半載竹管状工具による横位・斜位平行沈線 文を施す。26と同一個体か?	諸穢 c
37	縄文土器 深鉢	4H-154	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒、石英混入 ④口縁 部破片	縫めの半載竹管状工具により、横位平行沈線文を施す。	諸穢 c
38	縄文土器 深鉢	IT-96	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	「く」の字形に内屈する口沿部。横位浮線文を施す。	諸穢 b
39	縄文土器 深鉢	4P-154	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒混入 ④口縁部～ 胴部上位破片	底部R L繩文施後、口縁部に連続刺突文を施す。ボタン 状貼付文を施し、中央部を棒状工具により押圧する。	諸穢
40	縄文土器 深鉢	4M-157	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒混入 ④口縁部上位 破片	半載竹管状工具により横位・斜位の平行沈線文を施す。 ボタン状貼付文を配し、半載竹管状工具又は板状工具に より押圧する。	諸穢 c
41	縄文土器 深鉢	4B-158	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒混入 ④胴部破片	単節R L繩文施後、大きめの円形刺突文を施す。	諸穢
42	縄文土器 深鉢	4J-162	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤褐色 ③褐色 粒、褐色粒混入 ④胴部破片	単節R L繩文施後、半載竹管状工具による横位平行沈 線文を施す。	諸穢 b

第37表 人見三本松遺跡構外出土縄文時代遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存 口径 底径 器高	成・難形技法の特徴	時期	
43	縄文土器 深鉢	垂-165	口径 底径 器高	- - -	①やや不良 ②灰黄褐色 ③褐色 色粒、角閃石混入 ④胴部破片	単節R L縄文施文後、半載竹管状工具により横位平行沈 線文を施す。	諸磯 b
44	縄文土器 深鉢	IF-86	口径 底径 器高	- - -	①やや不良 ②灰灰色 ③白色 色粒、褐色粒混入 ④胴部破片	縄文(單節R Lか) 施文後、彌術状工具による横位平行沈 線文で区画する。	諸磯 b
45	縄文土器 深鉢	IS-106	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色 色粒、褐色色、褐色混入 ④胴部破片	半載竹管状工具による横位直線状・弧状爪形文により区 画。一部の区画に連続短距離を施す。	諸磯 b
46	縄文土器 深鉢	IT-115	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 色粒混入 ④胴部破片	半載竹管状工具による横位基溝爪形文により区画。一部 の区画に連続短距離を施す。	諸磯 b
47	縄文土器 深鉢	IS-114	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 色粒、角閃石混入 ④胴部破片	半載竹管状工具による横位爪形文を施す。	諸磯 b
48	縄文土器 深鉢	2F-106	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④胴部破片	半載竹管状工具による爪形文で区画し、一部に竹管状工 具による円形刺突を施す。	諸磯 b
49	縄文土器 深鉢	4N-163	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色 色粒、褐色粒混入 ④胴部破片	半載竹管状工具による平行沈線・爪形文により木萬状入 組文を施す。一部に単節R L縄文を施す。	諸磯 b
50	縄文土器 深鉢	4E-154b	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 色粒若干、褐色粒混入 ④胴部破 片	半載竹管状工具による平行沈線・爪形文により区画。一 部に単節R L縄文を施す。	諸磯 b
51	縄文土器 深鉢	4F-155	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白 色粒混入 ④胴部破片	横位並行沈線で区画し、一部の区画に板状工具による淮 刺突を施す。	諸磯 b
52	縄文土器 深鉢	D区一括	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒、褐色色、角閃石混入 ④ 胴部破片	半載竹管状工具による爪形文により区画。	諸磯 b
53	縄文土器 深鉢	D区一括	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐 色粒混入 ④胴部破片	半載竹管状工具による爪形文により区画。	諸磯 b
54	縄文土器 深鉢	HU-117	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい赤褐色 ③褐 色粒、褐色混入 ④胴部破片	彌術状工具による平行沈線で区画し、竹管状工具による 円形刺突を施す。	諸磯 a
55	縄文土器 深鉢	IV-115	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②褐色色 ③白色粒、 褐色粒混入 ④胴部破片	彌術状工具による平行沈線で区画し、竹管状工具による 円形刺突を施す。	諸磯 a
56	縄文土器 深鉢	IS-116	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②浅黃褐色 ③白色粒、 褐色粒混入 ④胴部破片	縄文施文(単節R L?不明瞭) 後、半載竹管状工具によ る平行沈線により木萬状の区画。竹管状工具による2個 1対の円形刺突を施す。	諸磯 b
57	縄文土器 深鉢	10-88	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 色粒、片岩、石英混入 ④胴部破 片	彌術状工具による横位平行沈線文を施す。	諸磯 b
58	縄文土器 深鉢	IF-106	口径 底径 器高	- - -	①やや不良 ②にぶい褐色 ③ 褐色粒、角閃石混入 ④胴部破 片	彌術状工具による波状平行沈線を施す。	諸磯 b
59	縄文土器 深鉢	IT-115	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②褐色色 ③白色粒、褐 色粒、角閃石混入 ④胴部破片	彌術状工具により横位直線状、波状平行沈線を施す。	諸磯 b
60	縄文土器 深鉢	IP-86	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒、褐色粒混入 ④胴部破片	単節R L縄文施文後、彌術状工具による平行沈線で区画。	諸磯 b
61	縄文土器 深鉢	IS-116	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい赤褐色 ③褐 色粒混入 ④胴部破片	縄文施文(単節R L?) 後、半載竹管状工具による平行 沈線により区画。	諸磯 b
62	縄文土器 深鉢	IT-94	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②浅黃褐色 ③褐色粒 混入 ④胴部破片	単節R L縄文施文後、半載竹管状工具によるコンバス文・ 横位平行沈線文を施す。	諸磯 b
63	縄文土器 深鉢	4N-156	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④胴部破片	横位波状並行沈線を施す。	諸磯 b

第38表 人見三本松遺跡遺構外出土縄文時代遺物観察表(3)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③輪軸 ④残存	成・整形技法の特徴	時期
64	繩文土器 深鉢	3I-156	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③白色粒混入 ④胸部破片	横位並行沈線を施す。	諸職 b
65	繩文土器 深鉢	4A-160	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③白色粒混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具により斜位平行沈線文を施す。	諸職 b
66	繩文土器 深鉢	4J-152	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い黄褐色 ③白色粒、纏、石英、雲母混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による平行沈線文で区画する。一部に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸職 b
67	繩文土器 深鉢	1T-97	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③褐色粒、纏 混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による横位直線状・弧状平行沈線を施す。21と同一個体か?	諸職 c
68	繩文土器 深鉢	1T-95	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による横位基調平行沈線により区画。一部の区画に三角形印刻文を施す。	諸職 c
69	繩文土器 深鉢	1Q-99	口径 底径 器高	- ①普通 ②浅黃褐色 ③褐色粒 混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による横位・縱位平行沈線を施す。	諸職 c
70	繩文土器 深鉢	1Q-96	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	横位浮線文を施す。	諸職 b
71	繩文土器 深鉢	4L-150	口径 底径 器高	- ①普通 ②浅黃褐色 ③褐色粒 混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具により斜位平行沈線を施し、大きめのボタン状貼付文を配す。	諸職 c
72	繩文土器 浅鉢	4H-149	口径 底径 器高	- ①普通 ②褐色 ③白色粒混入 ④口縁部～体部形容屈曲点 付近破片	口縁部に近い所に大きめの孔を、跡形屈曲点に近い所に小さめの孔を巡らす。外面部な磨きを施す。	諸職 b
73	繩文土器 深鉢	4N-152	口径 底径 器高	- ①やや赤 ②に赤い黄褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具により、横位・斜位平行沈線文を施す。また同工具により器面に対し斜位に抉るよう刺突文を配す。	諸職 b併行 (浮島系)
74	繩文土器 深鉢	1G-79	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い褐色 ③褐色 粒、雲母混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による縱位平行沈線により区画。一部の沈線に連続する三角形印刻文を施す。	五箇ヶ谷
75	繩文土器 深鉢	1G-79	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い褐色 ③褐色 粒、雲母混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による縱位平行沈線により区画。一部の区画に同工具による平行沈線を棱杉状に施す。	五箇ヶ谷
76	繩文土器 深鉢	C 区一括	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	半裁竹管状工具による平行沈線を施すさせ区画。一部の区画内に同工具による斜位平行沈線を施す。	五箇ヶ谷
77	繩文土器 深鉢	2H-111	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤い褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胸部上位破片	口縁部に2個一対の反頭波状突起貼付。胸部単節LR繩文施文。	中期
78	繩文土器 深鉢	2H-110	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤い黄褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胸部上位 破片	口縁部に2個一対の反頭波状突起貼付。胸部単節LR繩文施文。	中期
79	繩文土器 深鉢	1V-92	口径 底径 器高	- ①良好 ②褐色 ③褐色粒、角 閃石、纏混入 ④口縁部破片	纏帯と丸棒状工具による幅の広い沈線で区画。一部の区画内に複数縞文を填。	加賀利E
80	繩文土器 深鉢	3D-138	口径 底径 器高	- ①普通 ②浅黃褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胸部上位破片	口縫部下位に幅の広い横位沈線文を施す。単節RL繩文を羽状に施す。	中期後葉
81	繩文土器 深鉢	1W-102	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤い褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部破片	纏帯により区画。区画内に半裁竹管状工具による斜行平行沈線を施す。	加賀利E
82	繩文土器 深鉢	1W-101	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤い黄褐色 ③白 色粒、褐色粒混入 ④胸部上位 破片	纏帯と丸棒状工具による沈線で区画。一部の区画内に単節RL繩文を施す。	加賀利E
83	繩文土器 深鉢	1X-103	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤い黄褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	単節RL繩文施文後、陰帯と沈線により区画する。	加賀利E
84	繩文土器 深鉢	1X-101	口径 底径 器高	- ①良好 ②に赤い黄褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	単節RL繩文による沈線で区画。区画内に単節RL繩文を施す。	加賀利E
85	繩文土器 深鉢	1W-101	口径 底径 器高	- ①普通 ②に赤い黄褐色 ③褐色 粒混入 ④胸部破片	丸棒状工具による縱位沈線で区画。一部の区画に単節R L繩文を施す。	加賀利E

第39表 人見三本松遺跡構外出土遺物縄文時代観察表(4)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。一部の区画に単層R L繩文を施す。	成・整形技法の特徴	時期	
86	繩文土器 深鉢	II-97	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。一部の区画に単層R L繩文を施す。	加曾利E	
87	繩文土器 深鉢	10-64	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。一部の区画に単層R L繩文を施す。	加曾利E	
88	繩文土器 深鉢	II-93	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。一部の区画に単層R L繩文を施す。	加曾利E	
89	繩文土器 深鉢	3D-138	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②浅黄色 ③褐色 丸棒状工具による縦位沈縛で区画し、一部の区画に単層R L繩文を施す。	加曾利E	
90	繩文土器 深鉢	3K-164	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 丸棒状工具による縦位沈縛で区画し、一部の区画に単層R L繩文を施す。	加曾利E	
91	繩文土器 深鉢	3K-165	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③白 丸棒状工具による縦位沈縛で区画し、一部の区画に単層R L繩文を施す。	加曾利E	
92	繩文土器 深鉢	II-100	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。区画内に縦位・斜 色粒混入 ④胸部破片 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。区画内に縦位・斜 色粒混入 ④胸部破片 丸棒状工具による縦位沈縛を施す。	加曾利E 併行	
93	繩文土器 深鉢	2E-109	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。一部の区画に斜位 色粒混入 ④胸部破片 丸棒状工具による縦位沈縛を施す(縫合状を呈する)。	加曾利E	
94	繩文土器 深鉢	2C-99	口径 底径 器高	- - -	①や不良 ②にぶい褐色 ③褐 丸棒状工具による縦位沈縛を施す。一部の区画に縦位 色粒混入, 角閃石混入 ④胸部破 片	加曾利E	
95	繩文土器 深鉢	II-97	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐 丸棒状工具による縦位沈縛を施す。 色粒混入 ④胸部破片	加曾利E 併行	
96	繩文土器 2号墳2区	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 丸棒状工具による縦位沈縛を施す。 色粒混入 ④口縁部～胸部上位破 片	4段位波状口縁が、波頂部に「し」の字状の貼付文を施文。 波頂部・貼付文に並行し、竹管状工具による円形刺突を施す。	称名寺	
97	繩文土器 深鉢	3K-164c	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 丸棒状工具による縦位沈縛を施す。 色粒混入 ④口縁部～胸部上 位破片	波状口縁の波頂部。「8」の字状の貼付文を施文。口縁部 及び胸部に棒状工具による刺突を施す。	堀之内1
98	繩文土器 深鉢	3V-165	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 丸棒状工具による縦位沈縛を施す。 色粒混入 ④胸部破片	縫合を有する縫合帯と丸棒状工具により縦位に区画する。 一部の区画内に単層R L繩文を充填。	堀之内1
99	繩文土器 7号墳4区	口径 底径 器高	- - -	①良好 ②黒褐色 ③褐色粒 石英混入 ④胸部破片	単層R L繩文施文後。横位・斜位沈縛により区画。	堀之内2	
100	繩文土器 深鉢	3N-153	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②褐色 ③白色粒 雲母少量混入 ④胸部破片	羽状沈縛文を施す。	加曾利B2 ~3
101	繩文土器 深鉢	3P-167	口径 底径 器高	- - -	①普通 ②褐色 ③白色粒 丸棒状工具による縦位沈縛で区画。 色粒混入 ④口縁部破片	波状口縁の波頂部。連「U」字形・横位基溝沈縛で区画。 波頂部直下に瘤状貼付文を施す。	後期後集
102	繩文土器 深鉢	3L-155	口径 底径 器高	- - -	①良好 ②浅黄色 ③白色粒 色粒混入 ④口縁部～胸部上位破片	双頭波状口縁の波頂部である。沈縛により区画し、一部 の区画に単層R L繩文を施す。	安行3a
103	繩文土器 深鉢	3Q-153	口径 底径 器高	6.2 - -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色 色粒, 織混入 ④胸部下位～底 部 1/10	底部網代板。	不明
104	繩文土器 深鉢	2A-98	口径 底径 器高	(3, 1) - -	①や不良 ②にぶい褐色 ③白色粒若干混入 ④注口部破片	外側 指揮で? 内側 梅状又は範状工具による撫で?	後期

第40表 人見三本松遺跡遺構外出土繩文時代遺物観察表(5)

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他	番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他
105	石器 石鏟	H-154d	長さ 1.74 幅 1.50 厚さ 0.43 重さ 0.8	石材 黒曜石。	114	石器 石槍	E区 Ⅲ上横	長さ 6.78 幅 1.78 厚さ 0.65 重さ 7.5	石材 珪質岩。
106	石器 石鏟	3C-142	長さ 2.52 幅 1.58 厚さ 0.37 重さ 0.9	石材 チャート。	115	石器 石匙	M-8号溝 3 区	長さ 7.38 幅 10.04 厚さ 1.89 重さ 76.4	石材 黒色頁岩。
107	石器 石鏟	2B-100	長さ 2.15 幅 1.48 厚さ 0.36 重さ 0.6	石材 黒曜石。	116	石器 打製石斧	E区 M-7号 溝 1区	長さ 7.40 幅 4.85 厚さ 2.04 重さ 54.1	形態 扇形。石材 頁岩。 風化が顕著。
108	石器 石鏟	2T-53	長さ 0.16 幅 1.28 厚さ 0.34 重さ 0.4	石材 黒色頁岩。	117	石器 打製石斧	2C-102	長さ 12.4 幅 4.60 厚さ 1.95 重さ 103.4	石材 黒色頁岩。磨耗痕あり。
109	石器 石鏟	2D-163	長さ 2.13 幅 1.50 厚さ 0.40 重さ 0.9	石材 黒曜石。	118	石器 打製石斧	M-8号溝 3 区	長さ 15.88 幅 6.18 厚さ 2.72 重さ 322.6	石材 頁岩。磨耗痕あり。
110	石器 石鏟	1D-102	長さ 1.49 幅 1.44 厚さ 0.45 重さ 0.7	石材 チャート。	119	石器 磨製石斧	中	長さ (9.4) 幅 4.40 厚さ 3.00 重さ 192.3	石材 緑色岩類。
111	石器 石鏟	1T-94	長さ 1.44 幅 1.77 厚さ 0.40 重さ 0.7	石材 チャート。	120	石器 磨製石斧	M-7号溝 2 区	長さ (13.2) 幅 5.30 厚さ 3.10 重さ 384.6	
112	石器 石鏟	C区一括	長さ 1.84 幅 2.01 厚さ 0.30 重さ 0.7	形態 回基無基。 石材 黒曜石。完形。	121	石製品 石鍬	2E-137	長さ 4.50 幅 3.30 厚さ 1.30 重さ 33.5	石材 黒色頁岩。
113	石器	D区表探	長さ 2.68 幅 (2.00) 厚さ 0.35 重さ 0.98	形態 回基無基。 石材 黒曜石。片脚欠損。					

第 41 表 人見三本松遺跡遺構外出土縄文時代遺物観察表(6)

人見上ノ原遺跡遺構外

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他
1	石器 打製石斧	H-3号住 10 区 2層	長さ (6.26) 幅 (5.94) 厚さ (2.43) 重さ 85.47	形態 矩形か。石材 頁岩。刃部欠損。
2	石器 スクレイバー	AS-225	長さ (5.21) 幅 (4.03) 厚さ (2.78) 重さ 56.72	石材 頁岩。刃部は鈍角。両面調整。打製石斧の欠損品の可能性あり。

第 42 表 人見上ノ原遺跡遺構外出土縄文時代遺物観察表(1)

人見上西原遺跡遺構外

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存 口径 29.6 底径 25.4 器高 (18.9) 部位 1/2	成・整形技術の特徴 無文。彫刻模様又は丸棒状工具による彫り撲でか。 横穴から縦位へ扭折する沈継による区画。沈継に平行し棒状工具による連続刺突。 3と同一個体?	時期 中期前葉
1	縄文土器 深鉢	S3 トレンチ M-3号溝 C-5区	口径 - 底径 - 器高 (14.1) 片	①普通 ②褐色 ③白色 ④母丹入 ⑤脚部破片		五頭ヶ台II
2	縄文土器 深鉢	M-3号溝 C-5区	口径 - 底径 - 器高 (12.7)	①普通 ②褐色 ③白色 ④母丹入 ⑤脚部破片	沈継の沈継による区画。沈継に平行し棒状工具による連続刺突。	五頭ヶ台II
3	縄文土器 深鉢	M-3号溝 C-5区	口径 - 底径 - 器高 (<8.0) 片	①普通 ②褐色 ③白色 ④母丹入 ⑤脚部破片	沈継の沈継による区画。沈継に平行し棒状工具による連続刺突。	五頭ヶ台II
4	縄文土器 深鉢	表探	口径 - 底径 - 器高 (<8.0) 片	①普通 ②褐色 ③白色 ④母丹入 ⑤脚部破片	横穴・縦位の沈継。沈継に並行し棒状工具による連続刺突。	五頭ヶ台II
5	縄文土器 深鉢	H-213 AS-211	口径 - 底径 - 器高 (<48.6) 部下位 1/8	①普通 ②黄褐色 ③白色 ④母丹入 ⑤脚部破片	無施釉又施文後、口辺部に横位の、脚部に縦位の縫合により区画。	加賀利EIV

第 43 表 人見上西原遺跡遺構外出土縄文時代遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存 口径 - 底径 - 器高 (6.5)	成・整形技法の特徴 縦帯と丸棒状工具による沈線により区画。一部の区画 内にR.L.繩文施文。	時期 加賀利E
6	繩文土器 深鉢	M-3号溝 底	口径 - 底径 - 器高 (6.5)	①普通 ②灰褐色 ③白色粒 ④縫混入 ⑤口縁部破片	丸棒状工具による沈線により区画。一部の区画内に附 加条3種(?)を施す。さらに棒状工具による刺突を 施す。	加賀利E
7	繩文土器 表採	口径 - 底径 - 器高 (7.0)	①普通 ②黄褐色 ③白色粒 ④縫混入 ⑤口縁部上位 底部破片	丸棒状工具による沈線と縦帯による区画。一部の区画内に附 加条3種(?)を施す。さらに棒状工具による刺突を 施す。	加賀利E	
8	繩文土器 深鉢	M-1号溝 A-4区周辺	口径 - 底径 - 器高 (8.4)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒 ④縫混入 ⑤口縁部上位破片	浅い幅の広い沈線と縦帯による区画。一部の区画にR. L.繩文充填。	加賀利E
9	繩文土器 深鉢	M-1号溝 A-4区周辺	口径 - 底径 - 器高 (3.4)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 ④縫混入 ⑤胴部破片	L.R.繩文施文。丸棒状工具による2本一组の縦位沈 線により区画。一部の区画内磨り消し。	加賀利E
10	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-3区	口径 - 底径 - 器高 (6.0)	①普通 ②灰褐色 ③白色粒、 縫、角閃石混入 ④胴部破片	R.L.繩文施文。丸棒状工具による縦位区画。一部の区 画磨り消し。	加賀利E
11	繩文土器 深鉢	A区一筋	口径 - 底径 - 器高 (5.3)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色 ④白色粒、縫混入 ⑤口縁部 底部1/6	口辺部横位基縦帯による区画。一部の区画内にR. L.繩文施文。胴部R.L.繩文施文後、丸棒状工具による沈 線を垂下させ区画。一部の区画内磨り消し。	加賀利E II ～III
12	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-4区	口径 - 底径 - 器高 (5.3)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒、 角閃石混入 ④胴部破片	丸棒状工具による沈線で区画。一部の区画内に附加条 3種(?)を充填。	加賀利E
13	繩文土器 深鉢	表採	口径 - 底径 - 器高 (8.2)	①普通 ②黄褐色 ③白色粒、 角閃石混入 ④胴部破片	附加条3種(?)を施す。丸棒状工具による縦位沈線 で区画。一部の区画内磨り消し。	加賀利E
14	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-3区	口径 - 底径 - 器高 (4.9)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 ④白色粒、角閃石混入 ⑤胴部破片	R.L.繩文施文。底辺・「U」字状・逆「U」字状沈線 により区画。	加賀利E III
15	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-3区	口径 - 底径 - 器高 (7.1)	①普通 ②浅黄褐色 ③褐色、 黑色粒若干混入 ④胴部破片	R.L.繩文施文。「U」字状・逆「U」字状沈線により区画。	加賀利E III
16	繩文土器 M-2号溝 A-3区	口径 - 底径 - 器高 (2.2)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒、 褐色粒混入 ④胴部破片	無施R.L.繩文施文。	加賀利E	
17	繩文土器 深鉢	AK-213	口径 - 底径 - 器高 (3.9)	①普通 ②にぶい黄色 ③白色粒混入 ④口縁部・胴部上位 破片	R.L.繩文施文後、口辺部に棒状工具による刺突。胴 部を縦位沈線により区画。一部の区画内磨り消し。	加賀利E III
18	繩文土器 深鉢	A区一筋	口径 - 底径 - 器高 (4.8)	①普通 ②褐灰褐色 ③白色粒、 白褐色、角閃石混入 ④胴部破 片	丸棒状工具による巻手状沈線底、一部の区画に無施 R.L.繩文と刺突を施す。	加賀利E III
19	繩文土器 深鉢	M-1号溝 A-3区	口径 - 底径 - 器高 (3.0)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒、 縫混入 ④胴部破片	弧状降帯を施す。降帯上に棒状工具による連続刺突 を施す。	中前期末～ 後期初頭
20	繩文土器 深鉢	W-212	口径 (17.0) 底径 6.8 器高 (24.4)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒、 縫混入 ④2/5	弧状把手一对? 脇部最大径付近に1条の横位沈線。沈 線の下位に縦位沈線。	加賀利E III
21	繩文土器 鉢?	M-3号溝 C-4区	口径 - 底径 - 器高 (6.5)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒、 角閃石混入 ④口縁部・胴部上位 破片	口辺部に1条の深い横位沈線。沈線の下位に縦位沈線。 25と同一個体?	加賀利E
22	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-4区	口径 - 底径 - 器高 (9.0)	①やや不良 ②にぶい褐色 ③褐色、 白色粒、角閃石混入 ④口縁部	弧状把手。一部に繩文?(摩滅のため不明瞭)。	加賀利E III
23	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-4区	口径 - 底径 - 器高 (11.8)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒、 褐色粒、角閃石混入 ④口縁部 上位破片	波状口縁の渡頭部附近。弧状把手が破損している。L. R.繩文施文後、口縁部撲。	加賀利E III
24	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-3区	口径 - 底径 - 器高 (7.3)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色 ④縫混入 ⑤胴部破片	丸棒状工具による縦位区画。区画内に縦位条綫。	加賀利E
25	繩文土器 鉢?	M-3号溝 C-4区(北側 一括)	口径 - 底径 - 器高 (6.7)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒、 縫混入 ④胴部破片	縦位条綫。	加賀利E
26	繩文土器 深鉢	M-3号溝 底	口径 - 底径 - 器高 (4.5)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色 ④縫混入 ⑤胴部破片	縦位条綫施文。	加賀利E
27	繩文土器 深鉢	M-3号溝 C-3区	口径 - 底径 - 器高 (4.2)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 ④白色粒、角閃石若干混入 ⑤胴部破片	2本一组の浅い縦位沈線による区画。区画内に並行す る蛇形沈線。	加賀利E

第44表 人見上西原遺跡遺構外出土繩文時代遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存 ⑤裏表裏文	成・整形技法の特徴	時期
28	繩文土器 深鉢	M-3号構 一括	口径 - 底径 - 器高(3.2)	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粘 土 ④脚部破片	裏表裏文。	加賀利E
29	繩文土器 深鉢	M-1号構 A-6区	口径 - 底径 - 器高(9.7)	①普通 ②にぼい黄褐色 ③白 色粘、角閃石混入 ④口縁部～ 脚部上の破片	並行する条線を溝巻状に施す。	中期後葉
30	繩文土器 深鉢	M-1号構 A区覆土	口径 - 底径 - 器高(5.4)	①普通 ②にぼい褐色 ③褐色 粘、角閃石混入 ④口縁部～脚 部上の破片	M-1号構下位に1条の横位溝線を施す。沈線の下位にR L繩文施文。	後期
31	繩文土器 深鉢	M-1号構 A-3区	口径 - 底径 - 器高(3.7)	①普通 ②褐色 ③白色粘土 混入 ④口縁部破片	深鉢の把手。棒状工具による刺突と沈線を施す。正面 にも円形刺突を施す。	加賀利B-I

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他
32	石器 石鑿	AT-219	長さ 1.94 幅 1.58 厚さ 0.36 重さ 0.86	形態 回基無基。石材 チャート。完形。
33	石器 石鑿	M-1号構 A-6区	長さ 2.13 幅 1.40 厚さ 0.25 重さ 0.57	形態 平基無基。石材 黒曜石。完形。先端部有肩。
34	石器 石椎	M-1号構 A-3区	長さ (4.08) 幅 2.08 厚さ 0.67 重さ 5.50	形態 木製形。石材 黒曜石。両端部欠損。
35	石器 石匙	一括	長さ 2.38 幅 4.04 厚さ 0.77 重さ 5.38	形態 横型。石材 チャート。完形。
36	石器 打製石斧	M-3号構 打製石斧 C-3区	長さ 11.17 幅 4.94 厚さ 1.71 重さ 80.52	形態 棱形。石材 貫石。完形。
37	石器 打製石斧	M-3号構 打製石斧 C-4区	長さ (7.93) 幅 (6.08) 厚さ (2.47) 重さ 178.9	形態 短筒形か。石材 結晶片岩。刃部欠損。製作時に欠損した可能性あり。
38	石器 打製石斧	M-2号構 打製石斧 A-3区	長さ 8.28 幅 4.77 厚さ 2.17 重さ 89.4	形態 棱形。石材 貫石。表面に摩耗痕あり。刃部再生あるいは欠損による剥離あり。
39	石器 磨製石斧 未製作	M-3号構 C-4区	長さ 8.60 幅 3.96 厚さ 1.30 重さ 63.16	形態 小型。石材 緑色岩類。板状剥片を素材とし周縁を直接打撃による両面調整が施される。 右側縁の一部に研磨痕あり。
40	石器 磨製石斧	M-3号構 C区	長さ (6.90) 幅 (4.40) 厚さ (2.90) 重さ 129.1	石材 緑色岩類。底部欠損。刃縫部に刃こぼれ。器面の一部には欠損後の裁打痕あり。
41	石器 石棒	M-3号構 C-1B区	長さ (6.50) 幅 (5.25) 厚さ (3.80) 重さ 141.5	形態 有頭。石材 結晶片岩。頭部の一部のみ残存。裁打・研磨による調整が施される。 縫辺には欠損後の小さな剥離痕あり。
42	石器 石棒	M-3号構 C-4区	長さ (17.0) 幅 (9.80) 厚さ (7.90) 重さ 1565.0	形態 無頭か。石材 結晶片岩。欠損品。柱状の素材に裁打・研磨による調整が施される。 上端部は研磨が顕著。欠損面には人為的な剥離痕あり。

第45表 人見上西原遺跡遺構外出土縄文時代遺物観察表(3)

人見三本松遺跡遺構外

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他
1	石器 石鋸	M-9号構 I区	長さ 23.58 幅 11.62 厚さ 3.96 重さ 868.2	石材 貫石。
2	石器 石鋸	M-9号構 I区	長さ 21.59 幅 10.32 厚さ 3.18 重さ 660.0	石材 貫石。

第46表 人見三本松遺跡遺構外出土弥生時代遺物観察表(1)

人見三本松道路H-1号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技術の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 高杯	5区2層	口径一 底径一 器高一	①普通	②褐色	③白色粒・黑色 粒若干混入	④脚部上位～下位 内部
				①普通	②褐色	③白色粒・黑色 粒若干混入	④脚部上位～中位 内部
2	土師器 高杯	16区2層	口径一 底径一 器高(7.7) 1/10	①普通	②褐色	③白色粒・黑色 粒若干混入	④脚部上位～下位 内部
3	土師器 S字口縁 台付甌	16区1層	口径(16.6) 底径一 器高一	①普通	②にぶい黄褐色	③白色 粒・黑色粒混入	④口縁部～脚部 上位 1/8
4	土師器 甌	2区1層 2区2層 5区2層	口径(14.8) 底径一 器高(6.0) 1/8	①普通	②黄褐色	③白色粒・褐色 粒・黑色粒混入	④口縁部～脚部中位 外部 口縁部～脚部横彫で、脚部窓削り。 内部 口縁部～脚部横彫で、脚部窓削り。
5	土師器 甌	12区1層 13区2層 16区1層 16区2層	口径 14.4 底径一 器高(7.4) 1/8	①普通	②にぶい褐色	③黒褐色 粒・褐色混入	④口縁部～脚部上位 外部 口切面横彫で、脚部～脚部上位窓削り。 内部 窓削れ？(不明瞭)。
6	土師器 小型甌	1区2層	口径(13.4) 底径一 器高(6.6) 1/6	①普通	②にぶい褐色	③白色 粒・褐色混入	④口縁部～脚部上位横彫で、脚部窓削り。 外部 口縁部～脚部上位横彫で、脚部窓削り。 内部 口切面横彫で、脚部窓削り。
7	土師器 S字口縁 台付甌	12区1層	口径一 底径(9.8) 器高一	①普通	②黄褐色	③白色粒・黑色 粒・褐色混入	④台部 1/4 外部 台部窓毛目後彫で。 内部 台部横彫で。
8	土師器 台付甌	13区2層	口径一 底径(7.2) 器高(5.0)	①普通	②にぶい赤褐色	③褐色	④脚部 底、縫、雲母微細混入 下部 台部破片
9	土師器 甌	1区1層	口径一 底径 6.8 器高(5.3) 1/10	①普通	②にぶい黄褐色	③褐色	④脚部 底、縫、角閃石混入 ⑤脚部下位 外部 脚部・底部窓削り。 内部 底部窓削り。
10	土師器 甌	16区1層 16区2層	口径(17.6) 底径一 器高一	①普通	②にぶい黄褐色	③白色 粒・黑色粒混入	④口縁部 1/4 外部 口縁部横彫で。 内部 口縁部横彫で。
11	土師器 小型甌	2区2層 1住一柄	口径一 底径一 器高(3.9)	①普通	②にぶい黄褐色	③褐色	④脚部～底部 内部 窓削れでは無調整？(不明瞭)。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他			
12	石製品 砥石	D1	長さ 19.8 幅 11.2 厚さ 6.00 重さ 2100	石材 磨灰鉢。			
13	石製品 砥石	D1	長さ 11.3 幅 11.9 厚さ 6.20 重さ 1400	石材 磨灰鉢。			

H-2号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技術の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 甌	5区3層	口径一 底径一 器高(10.0)	①普通	②にぶい褐色	③褐色 白色粒若干混入	④脚部～ 脚部中位 外部 窓削り。 内部 窓削で後下位のみ磨き。
2	土師器 小型甌	12区3層 16区3層	口径一 底径一 器高(5.6) 下位 1/8	①やや不良	②黄褐色	③白色 粒・褐色粒混入	④脚部～脚部 上半 窓削り。 下半 窓削り。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他			
3	石製品 砥石	8区3層	長さ(5.60) 幅 3.50 厚さ 9.90 重さ 36.6	石材 磨灰鉢。			

H-3号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	成・整形技術の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 壇	12区2層 16区2層	口径 15.3 底径 一 器高 5.6	①普通	②明褐色	③白色粒・ 黒色粒・角閃石混入	④7/8 外部 口縁部横彫で、脚部～底部窓削り。 内部 口縁部横彫で、脚部～底部窓削。
2	土師器 甌	1区2層	口径 10.1 底径 一 器高 6.1	①普通	②褐色	③白色粒・角 閃石・褐色混入	④3/5 外部 口縁部磨削、脚部上位彫で、下位～底部窓削り。 内部 口縁部磨削、脚部、底部窓削。

第47表 人見三本松遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
3	土製品	6区2層	長さ 4.9 幅 2.2 重さ 11.1	焼成前後の線彫り。	
4	石器 磨製石製品	8区2層	長さ 3.35 幅 4.34 厚さ 0.26 重さ 6.54	石材・粘板岩系? 薄型板状剥片の各面を研磨により調整、一部縁にはねが作出される。	石材・その他

H-4号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	15区1層 16区1層	口径(16.0) 底径— 器高—	①普通 ②明褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④口縁部～胴部上 位 1/8	外面 口縁部～胴部磨削。 内面 口縁部～胴部磨削。
2	土師器 甕	6区1層 15区1層	口径— 底径— 器高—	①普通 ②にい黄褐色 ③白色粒・ 褐色粒混入 ④頸部～胴部 上位 1/5	外面 頸部～胴部磨削目。 内面 頸部横削で、胴部磨削。
3-1	土師器 甕	13区1層	口径 17.4 底径— 器高—	①普通 ②褐色 ③白色粒・ 黄褐色・黒色粒混入 ④口縁部～胴部 上位	外面 口縁部磨目と磨削。 内面 口縁部～胴部磨削で後部磨削。 H-4住・3-2と同一個体と思われる。
3-2	土師器 甕	7区1層 11区1層 13区1層 14区1層 15区1層 16区1層 D-1	口径— 底径 7.2 器高—	①普通 ②褐色 ③白色粒・角 閃石・黒色粒混入 ④胴部中位～底 部 2/5	外面 胸部磨削き、底部磨削。 内面 胸部～底部磨削で後、磨削。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)		石材・その他
4	石製品 管玉	5区1層	長さ 1.90 直径 0.50 重さ 0.8	石材 滑石。両面穿孔。	

H-5号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 高环	3区1層 4区1層	口径 16.3 底径— 器高 <4.5	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐 色粒・黒色粒混入 ④环部上半 1/5	外面 横削で。 内面 剥離のため不明。
2	土師器 高环	D-1	口径 14.4 底径— 器高—	①普通 ②赤褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④环部	外面 口縁部～体部磨削。 内面 口縁部～体部磨削。
3	土師器 高环	16区2層	口径— 底径 10.6 器高 3/4	①普通 ②明褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④环底部～脚部	外側 体部～脚部磨削き、脚部横削で後部磨削。 内面 底部磨削き、脚部横削で、脚部横削。
4	土師器 S字口縁 台付甕	3区1層	口径(12.0) 底径— 器高—	①普通 ②外・暗褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④口縁部～胴部上位 1/4	外側 口縁部横削で、胴部磨毛目。 内面 口縁部横削で、脚部磨削。
5	土師器 S字口縁 台付甕	2区2層	口径— 底径 8.0 器高—	①普通 ②にい黄褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④口縁部～胴部下位 ～合部	外側 胸部下位磨毛目、台部磨毛目後削で。 内面 底部磨削で、台部磨削。
6	土師器 ミニチャウ 鉢	14区2層	口径 3.3 底径— 器高 2.9	①普通 ②にい黄褐色 ③褐色 粒混入 ④ほぼ完形	外側 磨削り。 内面 無調査。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)		石材・その他
7	石器 砾石	15区1層	長さ (6.35) 幅 (4.40) 厚さ (1.90) 重さ 62.0	石材 砂岩。灰損品。2面使用。底面は平滑。	

H-6号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 布留甕	15区1層 16区1層	口径— 底径— 器高—	①普通 ②にい黄褐色 ③白 色粒・雲母・黒色粒混入 ④頸部～ 脚部中位 1/4	外側 口縁部横削で、胴部刷毛目、脚部刷毛目。 内面 口縁部横削で、脚部磨削。
2	土師器 布留甕	11区1層 15区1層 16区1層	口径— 底径— 器高—	①普通 ②にい黄褐色 ③白 色粒・雲母・黒色粒混入 ④胴部上 位～底部 7/8	外側 胸部刷毛目。 内面 胸部磨削り、底部押圧痕。

第48表 人見三本松遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴
3	土師器 S字口縁 台付甕	II区1層 13区1層	口径(8.2) 底径(8.2) 器高(7.2)	①普通 ②にいひ褐色 ③白色 粒・褐色粒・角閃石混入 ④底 部～台部 1/2	外面 右部刷毛目後、磨き。 内部 底部擦拂で、台部擦拂で。
4	土師器 甕	16区1層 D-1	口径 16.0 底径 16.0 器高 7.2	①普通 ②褐色 ③褐色粒・纖 維入、④口縁部～胴部上位 1/8	外面 口縁部～頸部横拂で後擦拂で。胴部磨削り。 内部 口縁部～頸部横拂で、胴部擦拂で？
5	土師器 ミニチュア 甕	I区1層	口径 4.5 底径 3.2 器高 3.6	①普通 ②灰黄褐色 ③褐色粒 混入 ④完形	外面 基本的に無調整、一部粗面で。 内部 底部付近のみ擦拂で、その他は無調整。

H-7号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴
1	土師器 鉢	I区1層	口径(15.0) 底径(13.6) 器高(3.6)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④破片	外面 磨き。 内部 磨き。
2	土師器 高环	2区1層	口径(16.1) 底径(—) 器高(—)	①普通 ②にいひ褐色 ③白色 粒・角閃石・纖維入 ④口縁部 ～体部 2/5	外面 口縁部横拂で後擦拂き、体部擦拂で後磨削さ。 内部 口縁部～体部擦拂で。
3	土師器 S字口縁 台付甕	I区1層 D-1	口径 14.4 底径 14.4 器高 7.0	①普通 ②にいひ黃褐色 ③白色 粒・角閃石混入 ④口縁部 ～胴部中位 1/2	外面 口縁部横拂で、胴部刷毛目。 内部 口縁部横拂で、胴部擦拂で。
4	土師器 甕	13区1層	口径 15.4 底径 15.4 器高 7.8	①普通 ②明赤褐色～にいひ褐色 ③白色粒・海綿赤骨粒混入 ④口 縁部～胴部上位 7/8	外面 口縁部横拂で後擦拂き、頭部横拂で、胴部磨削さ。 内部 口縁部磨削で、胴部擦拂で。
5	土師器 甕	13区1層	口径 16.0 底径 16.0 器高 7.0	①普通 ②明赤褐色 ③白色粒 角閃石混入 ④口縁部～胴部上 位	外面 口縁部端横拂で、口縁部刷毛目、胴部刷毛目後擦拂で。 内部 口縁部横拂で、胴部擦拂で。
6	土師器 甕	13区1層	口径 17.1 底径 17.1 器高 7.0	①普通 ②にいひ黃褐色 ③白色 粒・角閃石混入 ④口縁部 ～胴部上位 9/10	外面 口縁部上位刷毛目後擦拂で、下位刷毛目、胴部刷毛目後磨 き。 内部 口縁部上位横拂で、下位刷毛目、胴部擦拂で。
7	土師器 有孔鉢	7区1層 15区1層	口径(14.4) 底径 3.4 器高 7.7	①普通 ②にいひ黃褐色 ③白 色粒・褐色粒混入 ④2/5	外面 刷毛目後、擦拂で。 内部 刷毛目後、擦拂で。

H-8号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴
1	土師器 鉢	16区3層 D-1	口径 8.3 底径 4.4 器高 4.4	①普通 ②褐色 ③黒色粒、雲 母微細混入 ④3/4	外面 右辺部横拂で後、一部に横拉磨き。体部～底部擦削り。 内部 擦拂で後、一部に横拉磨き。
2	土師器 壺	P-3	口径 13.1 底径 13.1 器高 4.3	①普通 ②褐色 ③褐色粒。黒 色粒混入 ④ほぼ完形	外面 口縁部横拂で、体部下位～底部擦削り。 内部 擦拂で又は磨き（摩減のため不明瞭）。
3	土師器 高环	6区3層	口径 一 底径 一 器高(10.3)	①普通 ②褐色 ③褐色粒。雲 母少量混入 ④脚部 1/5	外面 路削り後、一部に磨き。 内部 一部に擦拂で。
4	土師器 小型甕	3区2層 7区3層 8区3層 P-5	口径 7.4 底径 7.4 器高 <7.2> P-5	①普通 ②黃褐色 ③褐色粒混 入 ④口縁部～胴部下位 2/5	外面 右辺部横拂で、胴部擦削り。 内部 右辺部横拂で、胴部擦拂で。
5	土師器 甕	2区2層 2区3層 3区2層 3区3層 16区3層	口径 16.4 底径 16.4 器高 <23.4> 1/3	①普通 ②にいひ褐色 ③雲母 粒混入 ④口縁部～胴部下位 1/3	外面 口縁部～頸部横拂で、右側部痕顯者。胴部擦削り。 内部 口縁部～頸部横拂で、胴部擦拂で。

H-9号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技術の特徴
1	土師器 鉢	13区3層	口径(16.8) 底径 4.2 器高 6.7	①普通 ②にいひ黃褐色 ③褐 色粒混入 ④1/3	外面 右辺部横拂で、体部擦削り。 内部 擦拂で。
2-1	土師器 鉢	15区1層 D-1	口径 一 底径 一 器高(10.2)	①普通 ②にいひ赤褐色 ③白 色粒・褐色粒混入 ④体部上位 ～下位 1/10	外面 木口状工具による刷毛目後、下平磨さ。 内部 滲で後、磨き。 H-9号住 2-2と同一個体と思われる。
2-2	土師器 鉢	D-1	口径 一 底径 4.6 器高 4.6	①普通 ②にいひ赤褐色 ③白 色粒・褐色粒混入 ④体部下位 ～底部擦片	外面 路削り後、磨き。 内部 擦拂で後、磨き。

第49表 人見三本松遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表(3)

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存 口径 底径 器高	成・整形技法の特徴
3	土師器 高壺	4区3層	口径 - 底径 - 器高(2.5)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒混入 ④脚部最上位破片	外面 磨き。 内面 不明。
4	土師器 S字口縁 台付壺	15区3層	口径(13.8) 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 粒・角閃石混入 ④口縁部～胴 部上位 1/4	口縁部横撫で、脚部刷毛。 口縁部横撫で、脚部磨撫。
5	土師器 S字口縁 台付壺	14区3層	口径 - 底径 9.6 器高 -	①普通 ②褐色 ③白色粒・黒 色粒混入 ④底部～台部 4/5	脚部下位磨削り、台部磨撫。 底部磨撫で、台部磨撫。
6	土師器 壺	5区2層 6区3層	口径 - 底径 5.8 器高(6.1)	①普通 ②灰黄色 ③褐色 粒混入 ④脚部下位～底部	外面 磨削り。 内面 磨撫で？(不明瞭)。
7	土師器 壺	1区3層 2区1層 5区3層	口径 17.0 底径 - 器高 -	①普通 ②明褐色 ③白色粒・ 黑色粒混入 ④口縁部～頸部 7/8	口縁部磨削さ。 口縁部磨削さ。
8	土師器 壺	1区1層 5区3層 6区2層 6区3層	口径 12.4 底径 - 器高(18.5)	①普通 ②にぶい黃褐色 ③褐色 粒・黒色粒混入 ④口縁部～胴部 下位 3/5	口部横撫で、脚部木口状工具による刷毛目後、荒削り。 口部横撫で、脚部磨撫で。
9	土師器 小型壺	15区3層 16区3層	口径 - 底径 - 器高(9.8) 1/4	①普通 ②灰黄色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胴部中位	口部横撫で、脚部磨削り。 口部横撫で、脚部磨撫で。
10	土師器 壺	4区3層	口径 - 底径 - 器高(6.2)	①普通 ②灰黄色 ③褐色 粒混入 ④口部～頸部破片	外面 磨撫で。 内面 磨撫で。

H-11号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存 口径 底径 器高	成・整形技法の特徴
1	土師器 小型壺	2区1層	口径 9.7 底径 4.0 器高 10.0	①普通 ②にぶい黃褐色 ③褐色 粒混入 ④3/5	外面 口縁部横撫で、頸部上位～胴部磨削前。 内面 口部横撫で、脚部磨撫で。
2-1	土師器 小型壺	3区1層	口径(13.2) 底径 - 器高(7.5)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 粒・褐色粒混入 ④口縁部～胴 部下位 1/8	口部横撫で、脚部磨削後、一部に磨き。 口部横撫で、脚部上位磨撫で、中位～下位磨き。 H-11号住居2-2と同一個体と思われる。
2-2	土師器 小型壺	6区1層	口径 - 底径 4.6 器高(2.5)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 粒・褐色粒混入 ④胴部下位～ 底部 1/8	外面 脚部磨削後、一部に磨き。 内面 脚部磨削後、中位～下位磨き。
3	土師器 有孔鉢	9区1層	口径(13.8) 底径 3.0 器高 8.1	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒・黒色粒混入 ④1/2	口縁部横撫で、体部木口状工具による刷毛目後、荒削り。 木口状工具による刷毛目後、荒削り。

H-12号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存 口径 底径 器高	成・整形技法の特徴
1	土師器 鉢	14区2層	口径(15.2) 底径 - 器高(5.8)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/8	外面 口辺部横撫で、体部無調整、底部磨削前。 内面 口縁部～体部横撫で、底部一部に磨撫で？
2	土師器 鉢	11区2層 15区2層	口径(15.0) 底径 - 器高 5.7	①普通 ②褐色 ③褐色粒・黑 色粒混入 ④1/2	口縁部横撫で、体部無調整、底部磨削前。 口縁部～体部横撫で、底部無調整。
3	土師器 高壺	-	口径 - 底径 11.6 器高 -	①普通 ②褐色 ③白色粒・黒 色粒混入 ④脚部 3/4	脚部磨削後磨削さ。 脚部上位しづり日、下位磨撫で、脚部横撫で。
4	土師器 S字口縁 台付壺	10区2層 11区2層 12区2層 15区2層 D-1	口径(14.0) 近径 - 器高 -	①普通 ②にぶい黃褐色 ③白 色粒・黒色粒混入 ④口縁部～ 脚部上位 1/3	口縁部横撫で、脚部刷毛目。 口縁部横撫で、脚部磨撫で。
5	土師器 S字口縁 台付壺	6区2層	口径 9.6 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい褐色 ③白 色粒・黒色粒混入 ④口縁部～胴 部下位 2/3	口縁部は單口状、口縁部横撫で、脚部刷毛目。 口縁部横撫で、脚部磨撫で。
6	土師器 S字口縁 台付壺	10区1層 10区2層	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②暗褐色 ③白色粒・ 黑色粒混入 ④脚部下位～台部 上位 3/4	脚部下位刷毛目、台部刷毛目後撫で。 底部磨撫で、台部磨撫で。
7	土師器 壺	3区1層 4区2層 7区2層	口径(17.6) 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい黃褐色 ③白 色粒・黒色粒・角閃石混入 ④ 口縁部～胴部下位 5/6	複合口縁横撫で、口縁部下位～胴部磨撫で、脚部上位に後 成前磨擦あり。 内面 口縁部～脚部磨撫で。

第50表 人見三本松遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表(4)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴
8	土師器 壺	6区2層 8区2層 12区2層 15区2層 P-1	口径(21.8) 底径 - 器高 -	①普通 ②赤褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④口縁部～胴部上 段 1/6	外面 口縁部鋸磨き、胴部鋸磨き。 内面 口縁部鋸磨き、胴部鋸磨き。
9	土師器 小型壺	10区1層 10区2層	口径(10.4) 底径 - 器高(5.9)	①やや不良 ②にぶい褐色 ③外 部 褐色粒混入 ④口縁部～胴部中 段 1/5	外面 口辺部横削り、胴部鋸磨き。 内面 口辺部横削り、胴部鋸磨き。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)		石材・その他
10	石製品 勾玉	5区2層	長さ 2.10 幅 1.30 厚さ 0.60 重さ 2.1	石材 滑石。穿孔はないがアタリの印がある。	
11	石製品 砥石		長さ 11.0 幅 3.60 厚さ 2.00 重さ 149.4	石材 磨灰岩。	

H-20号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	P-2	口径(16.0) 底径 6.0	①普通 ②赤褐色 ③白色粒・ 黒色粒・褐色粒混入 ④1/3	外面 口縁部上位横削り、下位鋸磨で。 内面 口縁部横削り、底部鋸磨き。
2	土師器 台付甕	P-1	口径 - 底径(11.0) 器高(5.3)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒混入 ④台部破片	外面 鋸磨で。 内面 鋸磨で。
3	土師器 壺	P-1	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒・黒色粒混入 ④頸部～胴 部下位 5/6	外面 脊部鋸磨き。 内面 脊部鋸磨で後一部鋸磨き。

H-21号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	13区3層	口径(15.0) 底径 7.2	①普通 ②にぶい黄褐色～灰褐色 ③白色粒・黒色粒混入 ④1/3	外面 口縁部横削り後鋸磨き、胴部～底部鋸磨き。 内面 口縁部～底部鋸磨で。
2	土師器 台付甕	2区3層	口径 - 底径(11.0) 器高(4.9)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒混入 ④台部破片	外面 鋸磨で。 内面 鋸磨で。
3	土師器 壺	15区3層 16区3層	口径 13.0 底径 3.4 器高 17.0	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒・褐色粒・黑色粒混入 ④7/8	外面 口縁部横削り後鋸磨き、胴部鋸磨前後鋸磨き、底部鋸磨 り。 内面 口縁部横削り、胴部～底部鋸磨で。
4	土師器 壺	15区3層 16区3層	口径 11.3 底径 - 器高 15.4	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒・褐色粒混入 ④4/5	外面 口縁部～底部鋸磨き。 内面 口縁部横削り後鋸磨き、胴部鋸磨で、底部鋸磨で後鋸磨 き。
5	土師器 壺	5区3層 16区3層	口径 10.1 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい黄褐色～灰褐色 ③白色粒・角閃石・石英混入 ④口縁部～胴部下位 2/5	外面 口縁部横削り後鋸磨き、胴部鋸磨で後一部鋸磨き。 内面 口縁部～胴部鋸磨で。
6	土師器 壺	9区2層 10区3層 14区2層 14区3層	口径 14.0 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい褐色～灰褐色 ③白色粒・褐色粒混入 ④口縫部 ～胴部上位 4/5	外面 口縫部横削り後鋸磨き、胴部鋸磨き。 内面 口縫部横削り後鋸磨き、胴部鋸磨で。
7	土師器 壺	11区3層 14区3層	口径(14.8) 底径 - 器高 -	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白 色粒・角閃石混入 ④口縫部～ 頸部 1/6	外面 複合口縫横削り、口縫部鋸磨り。 内面 口縫部鋸磨で。

H-22号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 高杯	8区	口径 - 底径 - 器高 -	①普通 ②明褐色 ③白色粒・ 黒色粒混入 ④底部～胴部上位	外面 脚部鋸磨で後鋸磨き。 内面 脚部上位鋸で、下位鋸磨で、裾部鋸磨で。

第51表 人見三本松遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表（5）

D-9号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 器台		口径 - 底径 - 器高(4.7)	①普通 ②褐色 ③白色粒混入 ④器部破片	②褐色 ③砂綿 ④M字形	外面 壓平。 内部 壓平。	外面 壓平。 内部 壓平。

第52表 人見三本松遺跡古墳時代土坑出土遺物観察表(1)

追横外

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	埴輪 円筒埴輪	M-1号溝 A-4区床下	口径 - 底径 - 器高(17.8)	①良好 ②褐色 ③白色粒混入 ④M字形	②褐色 ③砂綿 ④円形	外面 壓15~16本。内部 右傾。指撫で。 3条4段以上か。外面最上段は突端貼付・整形を行った後、二次組ハケを施す。	外面 壓15~16本。内部 右傾。指撫で。
2	埴輪 円筒埴輪	M-1号溝 A-4区床下	口径 - 底径 - 器高(8.5)	①良好 ②褐色 ③白色粒混入 ④円形	②褐色 ③砂綿 ④円形	外面 壓15~16本。内部 右傾。指撫で。 1と同一個体か。	外面 壓15~16本。内部 右傾。指撫で。

第53表 人見三本松遺跡古墳時代遺構外出土遺物観察表(1)

H-14号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 壺		口径(12.0) 底径 - 器高 4.1	①やや不良 ②褐色 ③白色粒若干 ④2/3	②褐色 ③褐色粒混入 ④白色粒混入	外面 口縁部~体部横撫で。底部削り。 内部 横撫で又は撫で。全体的に粗雑な作り。摩滅のため調整不明瞭。	外面 口縁部~体部横撫で。底部削り。
2	須恵器 壺		口径(13.0) 底径 - 器高(3.3)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/8	②褐色 ③褐色粒混入 ④黑色粒混入	外面 軸輪成形。 内部 軸輪成形。	外面 軸輪成形。

H-15号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 壺		口径(12.0) 底径 - 器高 3.8	①普通 ②褐色 ③白色粒若干 ④3/5	②褐色 ③褐色粒混入 ④白色粒混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口縁部~体部横撫で、底部無調整?	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。
2	土師器 壺		口径(12.0) 底径 - 器高(4.3)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/4	②褐色 ③褐色粒混入 ④白色粒混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り? (摩滅のため不明瞭)。 内部 横撫で又は撫で。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り?
3	土師器 壺	3区1層	口径(14.4) 底径 - 器高 4.5	①やや不良 ②明赤褐色 ③白色粒 ④褐色粒混入 ⑤1/5	②明赤褐色 ③白色粒 ④褐色粒混入 ⑤白色粒混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口縁部横撫で、体部~底部削り? (不明瞭)。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。
4	須恵器 壺		口径(13.2) 底径(8.4) 器高 3.4	①良好 / 還元 ②灰褐色 ③黑色粒 ④褐色粒混入 ⑤1/4	②灰褐色 ③黑色粒 ④褐色粒混入 ⑤白色粒混入	外面 軸輪成形、底部回転系切り。 内部 軸輪成形。	外面 軸輪成形。
5	須恵器 壺	カマド	口径(13.4) 底径 - 器高(2.9)	①良好 / 還元 ②灰色 ③褐色 ④褐色粒混入 ⑤白色粒 ⑥部下位 1/8	②灰色 ③褐色 ④褐色粒混入 ⑤白色粒 ⑥部下位	外面 軸輪成形。 内部 軸輪成形。	外面 軸輪成形。

H-16号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 壺	8区3層	口径 12.4 底径 - 器高 4.8	①普通 ②褐色 ③褐色粒・褐色 混入 ④ほぼ完形	②褐色 ③褐色粒 ④褐色 混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口辺部横撫で、底部無調整。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。
2	土師器 壺	1号カマド	口径 12.0 底径 - 器高 4.2	①普通 ②淡黃褐色 ③褐色 ④褐色 混入 ⑤ほぼ完形	②淡黃褐色 ③褐色 ④褐色 混入 ⑤褐色 混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口縁部横撫で、体部無調整。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。
3	土師器 壺	2区2層	口径 12.2 底径 - 器高 4.1	①普通 ②褐色 ③白色粒・褐色 混入 ④褐色 混入 ⑤2/3	②褐色 ③白色粒・褐色 混入 ④褐色 混入 ⑤褐色 混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口縁部横撫で、体部無調整。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。
4	土師器 壺	8区2層	口径 11.2 底径 - 器高 3.5	①普通 ②褐色 ③褐色 ④褐色 混入 ⑤1/2	②褐色 ③褐色 ④褐色 混入 ⑤白色粒 混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口縁部横撫で、体部無調整。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。
5	土師器 壺	2区1層	口径 12.4 底径 - 器高 3.9	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④褐色 混入 ⑤2/5	②褐色 ③褐色粒混入 ④褐色 混入 ⑤褐色 混入	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。 内部 口縁部横撫で、体部~底部削り。	外面 口辺部横撫で、体部~底部削り。

第54表 人見三本松遺跡古代住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
6	土師器 壺	5区2層	口径(13.8) 底径 3.7 器高 3.8	①普通 ②褐色 ③褐色・片 底径 一 器高 3.7	外面部 口辺部横擴で、底部削り。 横擴で?
7	須恵器 壺	1号カマド	口径(13.8) 底径(8.0) 器高(14.5)	①良好 / 褐元 ②灰白色 ③褐色 色粒混入 ④1/4	外面部 輪轂成形。底部回転糸切り。 内面部 輪轂成形。
8	土師器 甕	1号カマド	口径(20.6) 底径 一 器高(13.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 口縁部～胸部中位 1/8	外面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。 内面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。
9	土師器 甕	2区1層 2区2層	口径(20.4) 底径 一 器高(13.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 口縁部～胸部上位破片	外面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。 内面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。
10	土師器 甕	2区2層	口径(16.2) 底径 一 器高(8.2)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 口縁部～胸部上位破片	外面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。 内面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。
11	土師器 小型甕	4区2層 4区3層	口径(10.0) 底径 5.0 器高 12.6	①普通 ②にがい褐色 ③白色 白・褐色粒・繩混入 ④1/2	外面部 口縁部～頸部横擴で、胸部～底部削り。 内面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。
12	土師器 甕	2区2層 6区2層 7区2層	口径(23.0) 底径 一 器高(7.5)	①普通 ②にがい褐色 ③白色 白・褐色粒・繩混入 ④口縁部 ～胸部上位 1/10	外面部 口辺部横擴で、胸部削り。 内面部 口辺部横擴で、胸部削り。

H-17号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	16区2層	口径 8.4 底径 一 器高 3.5	①普通 ②褐色 ③褐色・雲 母少量混入 ④ほぼ完形	外面部 口縁部横擴で、底部～底部削り。指痕直痕顯著。 内面部 横擴で。
2	土師器 壺	15区1層 D-1	口径 11.6 底径 一 器高 3.9	①普通 ②褐色 ③褐色・繩 混入 ④3/4	外面部 口辺部横擴で、底部～底部削り。 内面部 口縁部横擴で、底部削り。
3	土師器 壺	6区1層 カマド	口径(13.0) 底径 一 器高 3.8	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/5	外面部 口辺部横擴で、底部剥離のため不明。底部削り。 内面部 口辺部横擴で、底部不明(不明瞭)。
4	須恵器 壺	16区2層	口径 12.3 底径 7.8 器高 3.4	①良好 ②灰色 ③黒色粒・繩 混入 ④ほぼ完形	外面部 輪轂成形、底部回転糸切り。 内面部 輪轂成形。
5	須恵器 壺	D-2	口径(12.2) 底径 7.5 器高 3.8	①良好 ②灰色 ③黒色粒・繩 混入 ④2/5	外面部 輪轂成形、底部回転糸切り。 内面部 輪轂成形。
6	土師器 甕	12区1層 カマド	口径(17.6) 底径 一 器高(9.7)	①普通 ②赤褐色 ③黒色粒。 雲母少量混入 ④口縁部～胸部 上位破片	外面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。 内面部 口縁部～頸部横擴で、胸部削り。
7	土師器 甕	16区2層	口径(25.0) 底径 一 器高(11.6)	①普通 ②にがい褐色 ③褐色 白・繩、雲母少量混入 ④口縁部 ～胸部上位破片	外面部 口辺部横擴で、胸部削り。 内面部 口辺部横擴で、胸部削り。

H-19号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 甕	10区3層 14区3層 15区3層	口径(15.8) 底径 一 器高(5.2) 1/4	①普通 / 雲褐色 ②灰褐色 ③ 褐色粒、黒色粒若干混入 ④ 内面部 輪轂成形、高台貼り付け。底部調整不明。	外面部 輪轂成形、高台貼り付け。
2	須恵器 甕	D-1	口径 一 底径(3.8) 器高(1.9)	①良好 / 褐元 ②灰色 ③褐色 粒、黒色粒若干混入 ④体部下 位 ～底部 1/8	外面部 輪轂成形、底部回転糸切り? (不明瞭)、高台貼り付け。 内面部 輪轂成形。
3	須恵器 甕	10区3層	口径 13.6 底径 7.2 器高 2.8	①良好 / 褐元 ②明褐色 白色粒若干、黒色粒混入 ④ 口縁部完形	外面部 輪轂成形、底部回転糸切り、高台貼り付け。 内面部 輪轂成形。 内面部底部に「×」状の擦り?あり。
4	土師器 甕	カマド埋甕	口径 20.0 底径 一 器高(18.6)	①普通 ②にがい褐色 ③褐色 白・繩、黒色粒若干混入 ④口縁部 ～胸部下位 2/3	外面部 口辺部横擴で、胸部削り。 内面部 口辺部横擴で、胸部削り。
5	土師器 甕	7区1層 11区1層 14区1層 カマド埋道	口径(20.4) 底径 一 器高(15.8) 2/5	①普通 ②にがい褐色 ③褐色 白・繩、黒色粒若干混入 ④口縁部 ～胸部中位 2/5	外面部 口辺部横擴で、胸部削り。 内面部 口辺部横擴で、胸部削り。

第55表 人見三本松遺跡古代住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
6	土師器 甕	7区1層 11区1層 12区1層 15区 16区1層 ガマド埋造	口径 19.0 底径 - 器高 (7.2) 口径 (21.4) 底径 - 器高 (9.0) 口径 - 底径 - 器高 (5.4) 片 口径 (18.6) 底径 - 器高 <11.1> 口径 - 底径 - 器高 (11.6) D-1	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部上位 1/8 ①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部上位 1/10 ①普通 ②にいし 桜色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胴部上位破 片 ①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部中位破片 ①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部下位 1/6 ①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④胴部中位～底部破片 D-1	外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で。 外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。 外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で。 外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。 外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。 外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。
7	土師器 甕	14区3層 ガマド	口径 (21.4) 底径 - 器高 (9.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部上位 1/10	外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。
8	土師器 甕	14区3層	口径 (14.9) 底径 - 器高 (5.4) 片	①普通 ②にいし 桜色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～胴部上位破 片	外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。
9	土師器 甕	11区1層 15区1層 16区1層 ガマド埋造	口径 (18.6) 底径 - 器高 <11.1>	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部中位破片	外面 口辺部横擴で、胴部窪削り。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。
10	土師器 小型甕	10区3層 14区3層 15区1層 D-1	口径 - 底径 - 器高 (11.6)	①やや不良 ②にいし 黄褐色 ③褐色粒・黒色粒混入 ④口縁 部～胴部下位 1/6	外面 口辺部横擴で、胴部木口状工具による刷毛目。 内面 口辺部横擴で、胴部窪削。
11	土師器 甕	11区1層 ガマド ガマド埋造	口径 - 底径 (3.2) 器高 (9.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④胴部中位～底部破片	外面 窪削り。 内面 窪削で？（不明瞭）。

H-24号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 甕	4区2層 ガマド	口径 23.0 底径 5.2 器高 31.5	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④4/5	外面 口縁部～頸部横擴で、胴部～底部窪削り。 内面 口縁部～頸部横擴で、胴部窪削。
2	土師器 甕	口径 23.4 底径 8.2 器高 33.0	①普通 ②褐色 ③褐色粒・雲母 粒・礫混入 ④口縁部～胴部最 下位 2/3	外面 口縁部～頸部横擴で、胴部窪削り。 内面 口縁部～頸部横擴で、胴部窪削。	
3	土師器 甕	口径 15.1 底径 - 器高 15.7	①普通 ②にいし 桜色 ③雲母・外 壁混入 ④3/4	外面 口縁部～頸部横擴で、胴部窪削り。 内面 口縁部～頸部横擴で、胴部窪削。	

H-25号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 甕	11区2層	口径 (14.4) 底径 <2.3>	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縁部～胴部破片	外面 口辺部横擴で、体部窪削り。 内面 口縁部横擴で、体部窪削。
2	須恵器 壺	7区4層	口径 (12.0) 底径 (8.0) 器高 3.2 1/3	①普通 / 駆遷元 ②灰白色 ③ 褐色粒・黒色粒若干混入 ④	外面 軸轍成形、底部窪切り。 内面 軸轍成形。
3	土師器 甕	12区4層 15区4層 ガマド	口径 - 底径 - 器高 <16.1> 中位～下位 1/8	①普通 / にいし 桜色 ③褐色 粒・礫・雲母少量混入 ④胴部 内面 窪削で。	外面 窪削り。 内面 窪削。

第56表 人見三本松遺跡古代住居址出土遺物観察表(3)

人見上ノ原道路駅-1号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 甕	13区2層	口径 - 底径 - 器高 <3.8> 片	①良好 / 駆遷元 ②灰白色 ③白色 粒・黒色粒若干混入 ④胴部破 片	外面 平行叩き。 内面 青海波文？

H-2号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 甕	8区1層	口径 - 底径 (8.4) 器高 (2.4)	①良好 / 駆遷元 ②灰白色 ③白色 粒・黒色粒若干混入 ④胴部破 片	外面 軸轍成形、底部回転系切り。 内面 軸轍成形。
2	須恵器 甕	10区1層	口径 - 底径 - 器高 (3.6)	①普通 / 駆遷元 ②灰白色 ③黑色 粒若干混入 ④胴部破片	外面 窩削り。 内面 窩削で？
3	須恵器 甕	5区1層	口径 - 底径 - 器高 (3.3)	①普通 / 駆遷元 ②灰白色 ③黑色 粒若干混入 ④胴部上位破片	外面 平行叩き？（不明瞭）。 内面 青海波文？（不明瞭）。

第57表 人見上ノ原遺跡古代住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
4	須恵器 甕	16区1層	口径 - 底径 - 器高(8.7)	①良好 / 遷元 ②褐色灰 ③白 色粒若干混入 ④胸部破片	外面 平行印。 内面 青海波文、自然釉付着。

H-3号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	D-1	口径(12.2) 底径 - 器高 4.1	①普通 ②褐色 ③褐色灰若干 混入 ④1/2	外面 口辺部横擴で、底部～底部削り。 内面 口辺部横擴で、底部～底部削りで？
2	土師器 壺	3区2層	口径(12.7) 底径 - 器高(4.2)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 灰 ④褐色粒混入 ⑤1/4	外面 口辺部横擴で、底部～底部削り。 内面 横擴で。
3	土師器 甕	1区2層	口径(19.6) 底径 - 器高(6.3)	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白 色若干 ④褐色粒混入 ⑤口縁 部～胸部上位破片	外面 口縫部～頭部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部～頭部横擴で、胸部削撫で。
4	須恵器 甕	8区3層	口径 - 底径 - 器高(9.7)	①良好 / 遷元 ②灰色 ③白色 粒若干。黑色粒混入 ④胸部破 片	外面 平行印？ 内面 青海波文。
番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他	
5	石器 砾石	15区1層	長さ 6.0 幅 3.10 厚さ 2.90 重さ 68.76	石材 流紋岩。6面使用。表面面や両側面は平滑。 上下端部は次掻後の擦痕あり。	

第58表 人見上ノ原遺跡古代住居址出土遺物観察表(3)

人見上西原遺跡H-1号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 壺	カマド	口径(10.6) 底径 - 器高(2.6)	①普通 ②褐色灰 ③白色若干 混入 ④口縁部～体部下位破片	外面 粘壁成形。 内面 粘壁成形。
2	土師器 甕	4区1層 カマド D-1	口径(22.8) 底径 - 器高<12.0 中位 1/6	①普通 ②褐色 ③褐色灰、白 色若干若干混入 ④口縫部～胸部	外面 口縫部～頭部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部～頭部横擴で、胸部削撫で。

H-2号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	6区1層	口径 12.4 底径 - 器高 (3.9)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④3/5	外面 口辺部横擴で、底部～底部削り。 内面 横擴で。
2	土師器 甕	3区1層	口径(17.8) 底径 - 器高(2.8)	①普通 ②にぶい褐色 ③白色 若干若干。褐色粒混入 ④口縫部 ～体部中位 1/10	外面 口辺部横擴で、体部削り。 内面 削撫で。
3	須恵器 甕	3区1層	口径 - 底径 7.0 器高 (2.2)	①良好 / 遷元 ②褐色灰 ③白色 若干若干。黑色粒混入 ④1/8	外面 粘壁成形、拂み貼り付け。 内面 粘壁成形。
4	土師器 甕	3区1層 4区1層 カマド	口径(23.6) 底径 - 器高 (8.8)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④口縫部～胸部上位 1/10	外面 口縫部～頭部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部～頭部横擴で、胸部削撫で。
5	土師器 甕	4区1層	口径(12.4) 底径 - 器高 (5.7) 1/10	①普通 ②褐色 ③褐色灰・白 色若干若干混入 ④口縫部～胸部上位	外面 口縫部～頭部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部～頭部横擴で、胸部削撫で。
6	土師器 甕	カマド	口径(16.8) 底径 - 器高 (6.1) 部上位 1/10	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 若干若干。黑色粒混入 ④口縫部～胸 部上位	外面 口縫部～頭部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部～頭部横擴で、胸部削撫で。
7	土師器 甕	4区1層	口径(26.4) 底径 - 器高 (5.7) 1/10	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 若干若干。黑色粒混入 ④口縫部～胸 部上位	外面 口縫部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部横擴で、胸部削撫で。
8	土師器 甕	4区1層	口径 - 底径 - 器高 (20.0) 下位 1/5	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 若干若干。黑色粒混入 ④頸部～胸 部	外面 頸部横擴で、胸部削り。 内面 頸部横擴で、胸部削撫で。
9	土師器 甕	1区1層 2区1層 6区1層 7区1層 11区1層 カマド	口径 24.2 底径 3.9 器高 33.7	①普通 ②褐色 ③褐色灰、黑 色若干若干混入 ④7/10	外面 口縫部～頭部横擴で、胸部削り。 内面 口縫部～頭部横擴で、胸部～底部削撫でまたは無調整。

第59表 人見上西原遺跡古代住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
10	土師器 甕	4区1層 7区1層 15区1層	口径 26.0 底径 一 器高 34.9	①普通 ②褐色 ③褐色粒。白 色粒混入 ④4/5	外面 口縁部～頸部横撫で、胴部～底部窪削り。 内面 口縁部～頸部横撫で、胴部窪撫で。

H-3 号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 甕	4区1層	口径(15.0) 底径 一 器高 4.2	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/4	外面 口辺部横撫で、体部～底部窪削り。 内面 口辺部横撫で、体部～底部窪撫で？(不明確)。
2	土師器 甕	2層一括	口径(21.0) 底径 器高<(5.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、纏 混入 ④口縁部～胴部上位破片	外面 口縁部～頸部横撫で、胴部窪削り。 内面 口縁部～頸部横撫で、胴部窪撫で。
3	須恵器 長颈甕	2区2層	口径 一 底径 一 器高 <3.3	①良好／還元 ②灰色 ③白色 粒、黒色粒若干混入 ④胴部上 位破片	外面 2条の長い弧状沈線。沈綫間に櫛衝状工具による刺突。 内面 撥で。

H-4 号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 蓋	12区1層	口径(20.0) 横み径 器高 <1.5	①普通／還元 ②灰白色 ③褐色 粒混入 ④端部破片	外面 輪轂成形。 内面 輪轂成形。
2	土師器 甕	15区2層	口径 一 底径 一 器高<(19.8)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、白色粒若干混入 ④胴部破 片	外面 窪削り。 内面 窪撫で。

H-5 号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 甕	15区1層	口径(10.2) 底径 一 器高 (2.9)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～底部破片	外面 口縁部横撫で、体部窪削り後、縦位窪撫で？ 内面 横撫で後放射状磨き。
2	土師器 甕	15区2層	口径 一 底径 一 器高 <(7.7)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒、黑色粒若干混入 ④胴部破 片	外面 口縁部～頸部横撫で、胴部窪削り。 内面 口縁部～頸部横撫で、胴部窪撫で。

H-6 号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 甕	10区1層	口径(10.2) 底径 一 器高 <(3.0)	①普通 ②にぶい黄褐色 ③褐色 粒、纏混入 ④口縁部～体部 破片	外面 横撫で。 内面 黒色処理、磨き。
2	須恵器 甕	13区1層	口径 一 底径 (7.2) 器高 (3.2)	①やや不良／酸化 ②にぶい黄 褐色 ③褐色粒混入 ④体部～ 底部 1/5	外面 輪轂成形、底部回転系切り。 内面 輪轂成形。
3	須恵器 高台付甕	16区1層	口径(14.4) 底径 8.2 器高 6.3	①やや不良／酸化 ②にぶい黄 褐色 ③白色粒若干、褐色粒混 入 ④1/2	外面 輪轂成形、高台貼り付け。 内面 輪轂成形。
4	須恵器 甕	11区1層	口径(12.6) 底径 一 器高 <(10.8)	①やや不良／酸化 ②にぶい褐 色 ③黒色粒、褐色粒混入 ④ 口縁部～胴部下位 1/4	外面 輪轂成形。 内面 輪轂成形、胴部下半窪撫で。
5	須恵器 羽釜	16区1層	口径 19.8 底径 一 器高 <(14.6)	①やや不良／酸化 ②にぶい黄 褐色 ③白色粒混入 ④口縁部～ 胴部中位 1/5	外面 輪轂成形、跨貼り付け、胴部中位の一部に窪削り。 内面 輪轂成形。
6	須恵器 羽釜	10区1層	口径(20.0) 底径 一 器高 <(9.4)	①普通／羽還元 ②灰白色 ③褐 色粒混入 ④口縁部～胴部上 位破片	外面 輪轂成形、跨貼り付け。 内面 輪轂成形。
7	須恵器 羽釜	16区1層 15区1層	口径 一 底径 一 器高 <(11.5)	①不良／酸化 ②にぶい黄褐色 ③褐色粒、纏混入 ④口辺部～ 胴部破片	外面 輪轂成形、跨貼り付け。 内面 輪轂成形。

H-8 号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 甕	14区1層	口径(13.6) 底径 一 器高 <(2.6)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 粒混入 ④口縁部～体部下位破 片	外面 口辺部横撫で、体部窪削り。 内面 横撫で。
2	土師器 甕?	6区1層	口径 一 底径 一 器高 <(5.0)	①普通 ②にぶい赤褐色 ③褐 色粒、纏混入 ④胴部 1/10	外面 窪削り。 内面 窪撫で。

第60表 人見上西原遺跡古代住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	石材・その他
3	石器 瓦石	12区1層	長さ(9.25) 幅(4.50) 厚さ(3.60) 重さ(185.3)	石材 磁灰岩。上部欠損。5面使用。表裏面や両側面は平滑。 下端部は欠損後の擦痕あり。

第61表 人見上西原遺跡古代住居址出土遺物観察表(3)

人見三本松遺跡M-1号溝

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	A区	口径一 底径一 器高(2.2)	①良好 ②褐色 ③黑色粒混入 外面 口縁部横擴で、底部麓削り。 ④口縁部～体部破片 内面 扩で。

M-6号溝

番号	器種	出土位置	法量(cm・g)	備考
1	鉢類品 袋状鉢斧	2区東端	長さ10.3 幅3.9 厚さ1.1 重さ257.1	

第62表 人見三本松遺跡古代溝出土遺物観察表(1)

人見上西原遺跡M-1号溝A-3区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺		口径(14.8) 底径一 器高4.8	①普通 ②褐色 ③褐色粒。自 然粒若干混入 ④1/3 外面 口切部横擴で、底部～底部麓削り。 内面 口切部横擴で、底部横擴で後放射状縞文。底部削で。

M-1号溝A-5区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴
1	土師器 高壺		口径10.0 底径6.9 器高4.5	①普通 ②褐色 ③褐色粒。自 然粒若干、混入 ④9/10 外面 口切部横擴で、底部上位～脚部上半麓削り、脚部下半横擴 で。 内面 壺部上半横擴で、下半不明(剥離激しい)。脚部上半麓削 で。下半横擴で。

M-1号溝A-6区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴
1	須恵器 高台付瓶		口径(16.8) 底径(8.8) 器高7.1	①普通 / 須恵器 ②灰白色 ③褐色 黒色粒若干混入 ④1/4 外面 軸轆成形、底部回転系切り、高台貼り付け。 内面 軸轆成形。
2	土師器 甕		口径(17.8) 底径一 器高(6.9)	①普通 ②にふい褐色 ③褐色 灰・褐・雲母若干混入 ④口縁 甕～脚部破片 外面 口縁部～頸部横擴で、脚部麓削り。 内面 口縁部～頸部横擴で、脚部削で。
3	土師器 甕		口径一 底径4.1 器高(8.5)	①普通 ②にふい褐色 ③褐色 白粉混入 ④脚部下位～底部1/10 外面 麓削り。 内面 麓削。
4	須恵器 甕		口径一 底径5.5 器高(7.5)	①普通 / 酸化 ②にふい黄褐色 褐色粒、混入 ④脚部中位 外面 軸轆成形、底部回転系切り。 内面 軸轆成形。
5	須恵器 甕		口径一 底径一 器高(5.7)	①良好 / 須恵器 ②灰褐色 ③褐色 灰若干混入 ④頸部下位～脚部 上位破片 外面 脚部横擴で、脚部青海波文。 内面 頸部横擴で、脚部青海波文。

M-1号溝A区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴
1	須恵器 甕		口径(15.0) 底径11.0 器高3.8	①良好 / 須恵器 ②灰褐色 ③褐色 灰・白粉若干混入 ④1/4 外面 軸轆成形、底部回転系切り。 内面 軸轆成形。
2	須恵器 甕		口径(14.2) 底径(7.0) 器高5.5 3/5	①不良 / 須恵器 ②にふい 黄褐色 ③白色粒、混入 ④ 外面 軸轆成形、底部回転系切り、高台貼り付け。 内面 軸轆成形。 全体的に粗雑な作り。
3	土師器 甕		口径一 底径4.5 器高(9.8)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、混 入 ④脚部中位～底部1/8 外面 麓削り。 内面 麓削。

第63表 人見上西原遺跡古代M-1号溝A区出土遺物観察表(1)

番号	器種	出土位置	法量 (cm・g)	石材・その他			
4	土師器 壺?	口径 (24.2) 底径 - 器高 (8.2)	①普通 ②にぶい褐色 ③褐色 ④褐色粒混入 ⑤口縁部 ~胴部上位破片	外面 口辺部横撫で、胴部圓撫で。	内面 口辺部横撫で、胴部圓撫で、一部削り？		
5	土師器 台付壺?	口径 - 底径 - 器高 (11.3)	①やや不良 ②褐色 ③褐色粒 ④褐色粒混入 ⑤胴部下位 下位 1/8	外面 頸部~胴部上位圓撫のため不明。胴部中位~下位削り。	内面 頸部横撫で、胴部圓撫で。		
6	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 (12.9)	①良好 ②還元 ③灰色 ④褐色 ⑤褐色粒混入 ⑥胴部破片	外面 平行叩き。 内面 青海波文。			
7	須恵器 壺	口径 (8.4) 底径 - 器高 (5.2)	①やや不良 ②弱酸化 ③にぶい 黃褐色 ④褐色粒混入 ⑤口縁 部~胴部上位 1/10	外面 輪轂成形、口縁部圓削り。 内面 輪轂成形。 Bと同一個体？			
8	須恵器 壺	口径 - 底径 14.0 器高 (17.1)	①やや不良 ②弱酸化 ③明褐色 ④褐色粒混入 ⑤胴部中位 ~底部 1/4	外面 輪轂成形？(剥離液で不明瞭)。胴部下位圓撫で。 内面 圓撫で。			
9	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 (20.5)	①良好 ②還元 ③灰色 ④褐色 ⑤黑色粒混入 ⑥胴部 1/10	外面 平行叩き。 内面 青海波文、一部に自然釉付着。			
10	須恵器 壺	口径 (13.0) 底径 - 器高 (9.9)	①良好 ②還元 ③灰色 ④白色 ⑤白色粒混入 ⑥胴部上位破片	外面 口縁部~頸部横撫で。胴部平行叩き、一部に自然釉付着。 内面 口縁部~頸部横撫で。胴部青海波文、一部に自然釉付着。			

第64表 人見上西原遺跡古代M-1号溝A区出土遺物観察表(2)

M-3号溝C-1B区

番号	器種	出土位置	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴		
1	土師器 壺	口径 (12.2) 底径 - 器高 (3.4)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/6	外面 口辺部横撫で、体部~底部圓削り。 内面 口辺部横撫で、体部~底部圓削り？			
2	土師器 壺	口径 (13.0) 底径 (9.6) 器高 (4.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/10	外面 口辺部横撫で、体部~底部圓削り。 内面 口縁部~体部圓削状暗文、底部螺旋状暗文？			
3	須恵器 壺	口径 12.2 底径 5.2 器高 3.4	①普通 / 酸化 ②明褐色 赤褐色、白色、黒色粒混入 ③3/4	外面 輪轂成形、底部回転系切り無調整。 内面 輪轂成形。 外側部に墨書き2ヶ所(大ヶ、用ヶ)			
4	須恵器 壺	口径 (6.2) 底径 (6.2) 器高 (3.2) 1/8	①普通 / 弱酸化 ②にぶい褐色 ③白色粒混入 ④体部~底部 ⑤1/8	外面 輪轂成形。体部下位圓削りで又は削り。底部回転系切り。 内面 輪轂成形、黒色処理。棘らな放状暗窓。			
5	須恵器 壺	口径 (14.0) 底径 - 器高 (4.9)	①普通 / 酸化 ②にぶい褐色 ③褐色粒、白色粒、黒色粒混入 ④1/3	外面 輪轂成形、底部回転系切り、高台貼り付け。 内面 口縁部~底部難削き、黒色処理。			
6	須恵器 高台付壺	口径 (17.0) 底径 (12.0) 器高 3.4	①良好 / 還元 ②灰色 ③白色 粒、黒色粒若干混入 ④2/5 ⑤上位破片	外面 輪轂成形、体部下位圓削り、底部難起こし高台貼り付け。 内面 輪轂成形、底部圓撫で？			
7	須恵器 高壺	口径 - 底径 (7.5) 器高 (1.4)	①良好 / 還元 ②灰色 ③白色 粒、黒色粒若干混入 ④脚部 ⑤1/4	外面 横撫で、中位に2条の浅い平行沈線。 内面 横撫で。			
8	土師器 壺	口径 (22.6) 底径 - 器高 (7.4)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、纏 露若干混入 ④口縁部~胴部 ⑤上位破片	外面 口辺部横撫で、頭部~胴部圓削り。 内面 口縁部~頭部横撫で、胴部圓削り。			
9	土師器 壺	口径 (21.4) 底径 - 器高 (5.3)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、纏 露若干混入 ④口縁部~胴部上位破片	外面 口縁部~頭部横撫で、胴部圓削り。 内面 口縁部~頭部横撫で。			
10	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 (6.2)	①良好 / 還元 ②灰色 ③白色 粒若干混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 青海波文。			
11	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 (6.4)	①良好 / 還元 ②白色 粒若干混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 青海波文。			
12	須恵器 壺	口径 - 底径 - 器高 (8.9)	①普通 / 弱還元 ②灰白色 ③ 黒色粒若干混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 青海波文。			

第65表 人見上西原遺跡古代M-3号溝C区出土遺物観察表(1)

M-3号溝C-3区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	口径(14.0) 底径 - 器高 4.0	①普通 ②褐色 ③赤褐色、 黑色、小礫混入 ④3/4	外面 口縁部横擴で、胴部～底部窪削り。 内面 口縁部横擴で、胴部窪削で、口縁部～胴部粗獣な磨き、底部 撫で、粗獣な螺旋状暗文。	
2	土師器 坏	口径 - 底径 - 器高 (2.2)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④体部下位～底部 1/4	外面 窪削り。 内面 体部横擴で、底部窪削で。	
3	土師器 坏	口径 - 底径 (8.8) 器高 (1.4)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④体部下位～底部破片	外面 窪削り。 内面 体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	
4	須恵器 坏	口径 11.6 底径 - 器高 3.4	①良好 / 褐元 ②灰色 ③黒色 ④粒混入 ①/2	外面 焼成形、体部下位～底部窪削り。 内面 焼成形。	
5	須恵器 蓋	口径 - 縦み径 5.3 器高 (2.3)	①普通 ②灰色 ③白色粒若干 ④混入 ④甲部上蓋～中位 1/3	外面 軸輪成形、甲部窪削り、撫み貼り付け。 内面 軸輪成形。	
6	須恵器 蓋	口径 (16.2) 縦み径 - 器高 (1.7)	①普通 / 褐元 ②灰白色 ③黒 色粒混入 ④甲部下位破片	外面 軸輪成形。 内面 軸輪成形。	
7	須恵器 蓋	口径 (11.8) 縦み径 - 器高 (1.7)	①良好 / 褐元 ②灰白色 ③白色 ④粒混入 ④甲部下位 1/10	外面 軸輪成形。 内面 軸輪成形。	
8	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 (7.7)	①普通 ②明赤褐色 ③褐色粒、 褐色混入 ④口縁部～胴部上位 1/10	外面 口切部横擴で、胴部窪削り。 内面 口切部横擴で、胴部窪削で。	
9	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 (5.8)	①普通 ②灰褐色 ③褐色 ④粒混入 ④胴部上位破片	外面 口切部横擴で、胴部窪削り。 内面 口切部横擴で、胴部窪削で。	
10	土師器 甕	口径 - 底径 (11.8) 器高 (11.0)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④胴部中位～下位 1/10	外面 窪削り。 内面 磨き。	
11	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 (6.2)	①普通 / 褐元 ②褐色 ③白色粒混入 ④胴部破片	外面 軸輪成形、器形折曲点に浅い横泣洗継。洗継上位に波状 文、一部に自然軸付着。 内面 軸輪成形。	
12	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 (7.7)	①普通 / 褐元 ②灰白色 ③黑 色粒混入 ④胴部破片	外面 平行磨き。 内面 青海波文。	
13	須恵器 長颈甕	口径 - 底径 (14.5) 器高 (1.7)	①良好 / 褐元 ②灰白色 ③黑 色粒若干混入 ④底部破片	外面 底部上位底共。 内面 刺繍のため不明。	

M-3号溝C-4区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	口径 (16.0) 底径 (9.3) 器高 4.0	①良好 ②褐色 ③白色粒、黑 色粒。チャート混入 ④1/3	外面 口縁部横擴で、胴部～底部窪削り。 内面 口縁部～胴部横擴で、斜め磨き、底部撫で、螺旋状暗文。 外底部に墨書き(前カ)	
2	土師器 坏	口径 (18.0) 底径 - 器高 (5.1)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/6	外面 口切部横擴で。体部～底部窪削り。 内面 横撫で後体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	
3	土師器 坏	口径 (14.6) 底径 - 器高 3.6	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/4	外面 口切部横擴で、体部～底部窪削り。 内面 体部横擴で後放射状暗文、底部螺旋状暗文。	
4	土師器 坏	口径 (12.5) 底径 - 器高 (4.1)	①やや不良 ②褐色 ③褐色粒 ④混入 ④2/5	外面 口切部横擴で。体部～底部窪削り。 内面 口切部横擴で。体部～底部の一部窪削で？	
5	土師器 坏	口径 (12.9) 底径 - 器高 (3.8)	①普通 ②明赤褐色 ③褐色 白色粒若干混入 ④1/5	外面 口切部横擴で、体部～底部窪削り。 内面 口縁部～体部横擴で。	
6	須恵器 坏	口径 (12.5) 底径 (8.0) 器高 (2.8)	①良好 / 褐元 ②灰色 ③白色 ④白色粒若干混入 ④1/5	外面 軸輪成形、底部窪起こし？高台貼り付け(剥落して遺存せ ず)、一部に自然軸付着。 内面 軸輪成形、一部に自然軸付着。	
7	須恵器 蓋	口径 - 縦み径 (6.0) 器高 (2.3)	①普通 / 褐元 ②灰白色 ③白色 ④白色粒若干混入 ④甲部上位破片	外面 軸輪成形、撫み貼り付け。 内面 軸輪成形。	
8	須恵器 蓋	口径 (19.2) 縦み径 - 器高 (2.3)	①普通 / 褐元 ②灰白色 ③白色 ④白色粒若干混入 ④甲部下位 1/10	外面 軸輪成形。 内面 軸輪成形。	

第66表 人見上西原遺跡古代M-3号溝C区出土遺物観察表(2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
9	土師器 甕	口径(20.4) 底径(7.3) 器高(7.3)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、混入 ④口縁部～胴部上位破片	外面 口縁部～頸部横彫で、一部に工具(施)痕、胴部亂削り。 内面 口縁部～頸部横彫で、胴部亂削り。			
10	土師器 甕	口径(19.6) 底径 - 器高(6.1)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、白 色粒若干混入 ④口縁部～胴部 上位破片	外面 口縁部～頸部横彫で、胴部亂削り。 内面 口縁部～頸部横彫で、胴部亂削り。			
11	土師器 甕	口径(22.0) 底径 - 器高(8.0)	①普通 ②赤褐色 ③褐色粒、白 色粒若干混入 ④口縁部～胴 部上位破片	外面 口縁部～頸部横彫で、胴部亂削り。 内面 口縁部～頸部横彫で、胴部亂削り。			
12	須恵器 長頸甕	口径 - 底径 - 器高(10.2)	①普通 ②還元 ③灰色 ④白色 粒若干混入 ⑤頸部破片	外面 複数成形。 内面 複数成形、頸部下位乱彫で?			
13	須恵器 長頸甕	口径 - 底径 - 器高(8.9)	①普通 ②還元 ③灰色 ④黑色 粒若干混入 ⑤胴部 1/10	外面 複数成形後に亂彫で又は亂削り。器形折曲部に3条の横旋 沈線。その上位に櫛衝状工具による連続刺突。胴部下位に 刻書「丁」。			
14	須恵器 甕	口径 4.9 底径 - 器高(5.0)	①良好 ②還元 ③褐色 ④白色 粒若干混入 ④口縁部～胴部 上位 1/10	外面 複数成形、一部に自然輪行着。 内面 複数成形? (自然輪付着のため不明瞭)。			

M-3号溝C-5区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 壺	口径(13.8) 底径(8.6) 器高(3.7)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/10	外面 口辺部横彫で、体部～底部亂削り。 内面 横彫で後体部放射状堆文、底部螺旋状堆文。			
2	須恵器 蓋	口径 18.2 横み径 7.3 器高 3.4	①普通 ②還元 ③灰色 ④白色 粒若干混入 ④1/2	外面 複数成形。甲部上半亂削り。摘み貼り付け。 内面 複数成形。			

第67表 人見上西原遺跡古代M-3号溝C区出土遺物観察表(3)

M-3号溝

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	土師器 壺	口径(11.0) 底径 - 器高 4.2	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/3	外面 口辺部横彫で、体部～底部亂削り。 内面 体部放射状堆文。			
2	土師器 壺	口径(12.4) 底径(2.9) 器高 -	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/5	外面 口辺部横彫で、体部～底部亂削り。 内面 体部放射状堆文。			
3	須恵器 壺	口径 11.8 底径 6.8 器高 3.9	①普通 ②還元 ③灰色 ④褐色 色粒若干混入 ④1/2	外面 複数成形、底部回転系切り。 内面 複数成形。			
4	須恵器 壺	口径 - 底径(9.1) 器高(2.1)	①普通 ②還元 ③灰色 ④褐色 色粒若干混入 ④体部中 位～底部	外面 複数成形、底部亂削こし? 内面 複数成形。			
5	須恵器 蓋	口径 - 横み径 6.7 器高(1.2)	①良好 ②還元 ③灰色 ④褐色 色粒、白色粒・黒色粒若干混入 ④底部	外面 摘み貼り付け、一部に自然輪付着。 内面 複数成形。			
6	須恵器 蓋	口径(14.4) 横み径 - 器高(2.2)	①良好 ②還元 ③灰色 ④褐色 色粒、白色粒若干混入 ④甲部 1/5	外面 複数成形、自然輪付着。 内面 複数成形。			
7	須恵器 蓋	口径(15.0) 横み径 - 器高(1.8)	①良好 ②還元 ③褐色 ④褐色 色粒、白色粒若干混入 ④甲部 破片	外面 複数成形、一部に自然輪付着。 内面 複数成形。			
8	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高(8.8)	①良好 ②還元 ③褐色 ④白色 色粒混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 青海波文。			

第68表 人見上西原遺跡古代M-3号溝出土遺物観察表(1)

M-2号溝A-1区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	成・整形技法の特徴			
				①焼成	②色調	③胎土	④残存
1	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高(5.6)	①普通 ②還元 ③灰色 ④白色 粒混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 叩き(不明瞭)。			

第69表 人見上西原遺跡古代M-2号溝A区出土遺物観察表(1)

M-2号溝A-2区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高<9.3>	口径(14.4) 底径(9.0) 器高(4.7)	①普通 / 邊元 ②灰色 ③白色 粒若干混入 ④胴部破片	外面 平行叩き。 内面 青海波文? (自然軸付着のため不明瞭)。

M-2号溝A-3区

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	口径(14.4) 底径(9.0) 器高(4.7)	口径(14.4) 底径(9.0) 器高(4.7)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、黒 色粒若干混入 ④1/10	外面 口切部横擴で、底部～底部窪削り。 内面 口縁部～体部横擴で後放射状暗文? (不明瞭)。底部螺旋 状暗文?
2	土師器 壺	口径(14.4) 底径(9.0) 器高(4.7)	口径(14.4) 底径(9.0) 器高(4.7)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、黒 色粒若干混入 ④1/10	外面 口切部横擴で、体部～底部窪削り。 内面 口縁部～体部横擴で後放射状暗文? (不明瞭)。底部螺旋 状暗文?
3	土師器 壺	口径 - 底径 - 器高(11.1)	口径(14.4) 底径(9.0) 器高(4.7)	①普通 ②褐色 ③褐色粒、黒 色粒若干混入 ④底部 1/10	外面 窪削り。 内面 螺旋状暗文。
4	須恵器 壺	口径(12.8) 底径(7.2) 器高(2.3)	口径(12.8) 底径(7.2) 器高(2.3)	①普通 / 邊元 ②灰色 ③白色 粒・黒色粒若干混入 ④体部下 部～底部破片	外面 軸轆成形、高台貼り付け。
5	須恵器 蓋	口径(12.8) 縦み柱 - 器高(1.2)	口径(12.8) 縦み柱 - 器高(1.2)	①普通 / 邊元 ②灰色 ③黑色 粒若干混入 ④甲部破片	外面 軸轆成形? 回転窪削り。 内面 軸轆成形?

第70表 人見上西原遺跡古代M-2号溝A区出土遺物観察表(2)

遺構外

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 壺	表採	口径(13.0) 底径 - 器高(4.7)	①普通 ②褐色 ③褐色粒混入 ④1/8	外面 口切部横擴で、底部～底部窪削り。 内面 口縁部～体部横擴で後放射状暗文。
2	須恵器 甕	表採	口径 - 底径 - 器高(8.8)	①良好 / 邊元 ②褐色灰色 ③黒 色粒若干混入 ④胴部破片	外面 平行叩き? (不明瞭)。一部に自然軸付着。 内面 叩き (青海波文) 後、一部に窪撫で。
3	須恵器 甕	表採	口径 - 底径 - 器高(12.0)	①普通 / 邊元 ②灰色 ③白色 粒若干。縦混入 ④胴部破片	外面 叩き (不明瞭)。 内面 青海波文。

第71表 人見上西原遺跡古代遺構外出土遺物観察表(1)

遺構外

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	培塿	M-1号溝 A-6区	口径 - 底径 - 器高<2.5>	①普通 / 酔化 ②褐色 ③褐色 粒・雲母少量混入 ④口縁部～ 底部破片	外面 口縁部～体部回転横擴で。

第72表 人見上西原遺跡中近世遺構外出土遺物観察表(1)

西横野中部地区遺跡群

人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡・
人見三本松遺跡・人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡
(本文編・第1分冊)

～群営農地整備事業松義中部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

発行日 平成29年3月24日
編集・発行 安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245
印 刷 上毎印刷工業株式会社
群馬県前橋市天川大島町305-1